病院军報

第 33 巻

-2023-



手筒花火

愛知県●豊橋市民病院

「病院军報」

表紙題字 名誉院長 故森 泰樹



院長 浦 野 文 博

令和5年5月、新型コロナウイルス感染症は、感染症法の位置づけが5類へと移行しました。これにより、感染症法に基づく就業や日常制限はなくなり、この感染症に対する対策や方針は病院に委ねられるようになりました。令和5年度も院内発生は起こりましたが、感染症管理センターをはじめ、各部署の職員の努力により、大きな診療制限を行うことなく乗り切ることができたことを全職員に感謝します。

その結果を経営面に目を向けると、新入院患者数は令和元年度の20,726人をピークに、コロナ 禍では大きく減少しましたが、令和4年度には21,503人と回復しました。コロナ専用病棟を維持しながらも新入院患者を増やすことができたのは、平均在院日数が令和元年度に比べて1.2日短縮できたからにほかなりません。また、経常収支の黒字維持のみでなく、医業収支の黒字も達成しました。さらに、コロナ禍に落ち込んでいた紹介率、逆紹介率も令和元年度を上回る結果となりました。

当院はこれまで地域医療支援病院として、急性期基幹病院として、東三河の医療を支え、その発展に尽力してきました。そして、これからもこの責務を全うするため、当院自らも精進しなければなりません。この1年間の軌跡が、今後の進歩の礎になること期待します。

最後に、膨大な業績をまとめられた医療情報課の皆さんに深く感謝します。

豊橋市民病院の理念

信頼に応える技術と、人に優しい思いやりのある心を持ち、 地域に開かれた安らぎのある病院を目指します。

豊橋市民病院の基本方針

- 1. 地域に開かれた信頼のある病院、患者に優しい思いやりのある医療を 目指します。
- 2. 地域の基幹病院としてふさわしい高度な医療を提供するとともに、特殊医療、救急医療等を積極的に受け持ちます。
- 3. 基幹病院としての役割を担いながら、他の医療機関との間の有機的な 連携のもとに当院の行うべき医療活動を推進します。
- 4. 医学及び医療技術の研鑽に努めるとともに、医学・医療の進歩に寄与します。
- 5. 研修医、医学部学生、看護学生、コメディカル、救急救命士などの教育を積極的に行います。
- 6. 地域住民の保健知識の普及に努め、健康増進活動に参加します。
- 7. 公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます。
- 8. 安全医療の推進に努めます。

患者の権利と責任

豊橋市民病院は、十分に説明され、理解し納得した上での同意を基本姿勢として、患者さんと信頼関係で結ばれた医療を目指しています。ここに患者さんの権利と責任について明らかにし、病院と患者さんが協力して理想的な医療を行うために以下のことを確認します。

1. 最善の医療を受ける権利

患者さんは、生命の尊重と人間愛に基づいた最善の医療を受ける権利を有 します。

2. 知る権利

患者さんは、病名、症状、予後、検査と治療の内容と危険性、薬の効果と 副作用などについて十分に理解できるまで説明を受けることができます。 医師は、薬の治験など、研究途上にある医療行為を行う場合には事前に患者 さんに説明をする義務があります。 患者さんは、治療に要する見込みの費 用や、要した費用の明細について説明を受けることができます。ただし、必 要に応じて主治医の判断によりご家族、代理の方に説明することがあります。

3. 自己決定の権利

患者さんは、緊急時などの場合を除き、十分な情報と医療従事者の助言を得た上で、ご自分の意志により、検査、治療などの医療行為に同意、選択或いは拒否する権利を有し、その場合に医学的にどの様な結果になるかを知らされる権利を有します。また、患者さんは担当医などの医療従事者を選択すること、紹介状を請求して別の病院にかわること及び患者さんの求める他の医師の意見を聞くことができます。

4. プライバシーが保護される権利

患者さんは、個人の情報を直接医療にかかわる医療従事者以外の第三者に 開示されない権利を有します。また、私的なことに干渉されない権利を有し ます。

5. 参加と共同の責任

これらの権利を守るため、患者さんは医療従事者と力を合わせて医療に参加、協力する責任があります。

目 次

Ι	沿革	1
II	現況······	3
	1. 施設の概要	3
	2. 承認事項・診療科の状況	4
	3. 病床の状況	4
	4. 機構図	5
	5. 職員数	6
	6. 病棟別病床数	6
	7. 施設案内	7
	8. 指定医療機関及び専門医研修施設等	8
\coprod		13
		13
		14
		15
		15
		16
		16
		16
		17
		17
		18
		18
TT 7		
IV		19
		19
	· · · - · · · ·	19
• •		20
V		21
		21
		22
		23
		25
		27
		28
		29
		30
		31
		35
		36
		37
		39
	··	41
		44
		45
	脳神経外科	46
		48
	小児科(新生児部門)	49

	産婦人科
	産婦人科(生殖医療)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
	女性内視鏡外科 56
	耳鼻いんこう科 57
	眼科
	皮膚科
	泌尿器科
	放射線科
	こころのケア科
	麻酔科 (ペインクリニック)
	リハビリテーション科
	病理診断科
	協床検査科····································
	医療安全管理室
	診療記録管理室····· 82
	臨床研究管理室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	感染症管理センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	シミュレーション研修センター 88
	卒後臨床研修センター 89
	専門医研修センター 90
	救急外来センター91
	救急入院センター 9:
	集中治療センター 95
	総合周産期母子医療センター (母体・胎児部門) 96
	総合周産期母子医療センター (新生児部門) 97
	総合生殖医療センター98
	リハビリテーションセンター 99
	血液浄化センター100
	予防医療センター····································
	輸血・細胞治療センター
	ゲノム診療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・106
	外来治療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	手術センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
	口唇口蓋裂センター
	思者総合支援センター····································
	入退院支援センター
	一次脳卒中センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	診療技術局
	が原文権局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	中央臨床検査室・・・・・・・121
	リハビリテーション技術室
	臨床工学室
	栄養管理室・・・・・・・・・・145
	薬局
	看護局
	事務局
VI	研究・業績
VII	院内委員会の活動記録

I 沿 革

I 沿 革

明治21(1888)年	6月	私立豊橋慈善病院として開業
明治35(1902)年	6月	社団法人豊橋病院と改組
昭和7(1932)年	6月	社団法人豊橋病院を買収して、市立豊橋病院を開院
昭和21(1946)年	7月	豊橋市立豊橋市民病院と改称
昭和26(1951)年	7月	豊橋市民病院改称(医療法による総合病院に指定)
昭和46(1971)年	3月	人工腎臓センター新設
昭和57(1982)年	3月	救命救急センター完成(地下1階、地上6階)
нцинот (1302)	3月	リハビリテーションセンター完成(地下1階、地上3階)
平成5(1993)年	4月	「臨床研修病院」の指定
平成8 (1996) 年	5月	豊橋市民病院桜ケ岡分院を統合し、青竹町地内に移転
1 /94 0 (1000) 1	5月	健診センター新設
	6月	病診連携室新設
	11月	「地域災害医療センター」の指定(災害拠点病院の指定)
平成 9 (1997)年	12月	(財)日本医療機能評価機構より「病院機能評価」の認定を受ける
	4月	輸血センター新設
1,9010 (1000) 1	7月	「地域周産期母子医療センター」の認定を受ける
平成11(1999)年	4月	「第2種感染症指定医療機関」の指定
1 /9411 (1000) 1	4月	不妊センター新設
平成12(2000)年	8月	許可病床数 910 床に変更
平成13 (2001) 年	4月	人工腎臓センターを血液浄化センターに変更
平成14 (2002) 年	4月	「へき地医療拠点病院」の指定
1,9411 (2002) 1	4月	未熟児センターを新生児医療センターに変更
	8月	治験管理センターを設置
平成15(2003)年	2月	(財) 日本医療機能評価機構より2回目の「病院機能評価(一般病院)」の
7/9410 (2000) 7	2 / 3	認定を受ける
	4月	感染症管理センターを設置
	8月	「地域がん診療拠点病院」の指定を受ける
平成16(2004)年	4月	健診センターを予防医療センターに変更
平成17 (2005) 年	4月	機構改革により医療安全管理室の設置
	6月	「DPC (診断群分類による包括医療制度)調査協力病院」の認定を受ける
平成18(2006)年	4月	院内保育所開設
	5月	外来治療センターを設置
	6月	「DPC 対象病院」に認定され DPC 制度による診療報酬請求の開始
		文書作成支援システム開始(各科外来)
平成19(2007)年	12月	(財) 日本医療機能評価機構より3回目の「病院機能評価(審査体制区分
		4)」の認定を受ける
平成20 (2008) 年	2月	「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受ける(2回目)
平成21(2009)年	2月	「豊橋市民病院改革プラン」を策定
平成22(2010)年	4月	患者総合支援センター開設
	5月	病院総合情報システム(電子カルテシステム)稼働
	7月	「7対1看護基準」の取得
平成23(2011)年	2月	「豊橋市民病院改革プラン(改訂版)」を策定

	12月	「NPO 法人卒後臨床研修評価機構」の認定を受ける〔認定期間 2011.12.1 ~ 2013.11.30〕
平成24(2012)年	4月	許可病床数836床に変更(一般病床811床・結核病床15床・感染症病床10床)
.,,,	12月	(財) 日本医療機能評価機構より4回目の「病院機能評価(審査体制区分6)」の認定を受ける
平成25 (2013) 年	10月	手術支援ロボットシステム「ダヴィンチ」を導入
	11月	救命救急センターを、救急外来センター、救急入院センター及び集中治療
		センターに変更
	12月	地域連携登録医制度の導入
	12月	「NPO 法人卒後臨床研修評価機構」の更新認定〔認定期間 2013.12.1 ~
		2017.11.30)
平成26(2014)年		「第2次豊橋市民病院改革プラン」を策定
	4月	許可病床数820床に変更(一般病床800床・結核病床10床・感染症病床10床)
	4月	総合周産期母子医療センター及びバースセンターを設置
	9月	「地域医療支援病院」の名称承認を受ける
T. P.O. (2015) F	10月	輸血センターを輸血・細胞治療センターに変更
平成27(2015)年		「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受ける(3回目)
亚产00 (001c) 左	5月	入院支援センターを設置
平成28(2016)年		許可病床数800床に変更(一般病床780床・結核病床10床・感染症病床10床)
	4月 10月	「DPC 医療機関群Ⅱ群」の指定を受ける 高度放射線棟開設
平成29(2017)年		高度放射線探用設 診療記録管理室、臨床研究管理室及びシミュレーション研修センター開設
十成29(2017)中	4万 4月	を 後 臨床研修センターを 初期 臨床研修センター 及び 後期 臨床研修センター
	4 刀	一大阪画が明らして、その対画が明らして、人の反対画が明らして、
	12月	(公財)日本医療機能評価機構より5回目の「病院機能評価(一般病院2)」
	1-/3	の認定を受ける
	12月	「NPO 法人卒後臨床研修評価機構」の更新認定〔認定期間 2017.12.1~
		2021.11.30)
平成30 (2018) 年	3月	厚生労働省より「がんゲノム医療連携病院」の指定を受ける
	4月	ゲノム診療センター開設
	4月	初期臨床研修センターを卒後臨床研修センター、後期臨床研修センター
		を専門医研修センターに変更
	4月	入院支援センターを入退院支援センターに変更
平成31 (2019) 年	2月	手術センター棟開設
	3月	臨床検査室がISOの国際規格「ISO15189」の認定を取得
	3月	「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受ける(4回目)
	4月	経営企画室を設置
令和 2 (2020) 年		一次脳卒中センター開設
令和 3 (2021)年		「第3次豊橋市民病院改革プラン」を策定
	12月	「NPO 法人卒後臨床研修評価機構」の更新認定〔認定期間 2021.12.1 ~ 2025.11.30〕
令和4(2022)年	11月	臨床検査室が ISO の国際規格「ISO15189」の認定を取得(2回目)
	12月	(公財) 日本医療機能評価機構より6回目の「病院機能評価(一般病院2)」
		の認定を受ける
令和 5 (2023) 年		「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受ける(5回目)
令和6(2024)年	3月	「豊橋市民病院経営強化プラン」を策定

Ⅱ 現 況

Ⅱ 現 況

2024年3月31日

1. 施設の概要

所在地 豊橋市青竹町字八間西 50 番地

施設規模 敷地面積 (企業会計財産) 92,204.52㎡

建物延面積 63,130.92㎡

建物 地上9階 鉄骨・鉄筋コンクリート造

診療部門 13,526.74㎡ 病棟部門 21,376.79㎡

(感染症病床422.78㎡を含む)

救命救急センター 2,620.90㎡

(集中治療室 1.451.72㎡を含む)

新生児医療センター $619.83\,\text{m}^2$ リハビリテーションセンター $818.97\,\mathrm{m}^2$ 血液浄化センター $418.03\,\mathrm{m}^2$ 予防医療センター $199.15\,\mathrm{m}$ 外来治療センター $259.30\,\mathrm{m}^2$ 患者総合支援センター $235.15\,\text{m}^{2}$ 入退院支援センター $95.01\,\text{m}^2$ 高度放射線棟 $4,129.09\,\text{m}^2$ サービス部門 $10,946.79\,\text{m}^2$ 管理部門 $5,542.59\,\text{m}^2$ 特別高圧変電所 $813.08\,\text{m}^{^2}$ 手術センター棟 $1.529.50\,\text{m}^2$

2. 承認事項・診療科の状況

(1) 承認事項

開業開始年月日	法適用年月日	法適用区分	救急告示の有無
昭和7年6月1日	昭和39年4月1日	当然財務	有(30 床) (平成29年 7 月18日)

(2) 診療科

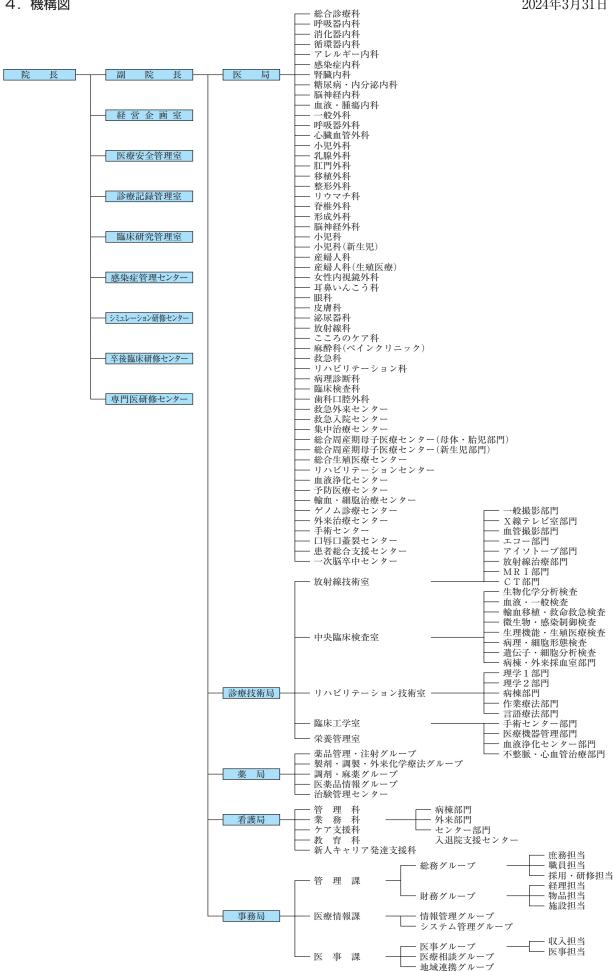
内科	呼 吸 器 内 科	消 化 器 内 科	循 環 器 内 科
アレルギー科	感 染 症 内 科	腎 臓 内 科	糖尿病・内分泌内科
脳 神 経 内 科	血 液・腫 瘍 内 科	外科	呼 吸 器 外 科
心臟血管外科	小 児 外 科	形 成 外 科	肛 門 外 科
移 植 外 科	整 形 外 科	リウマチ科	脳 神 経 外 科
小 児 科	小 児 科 (新 生 児)	産 婦 人 科	産婦人科(生殖医療)
女性内視鏡外科	耳鼻いんこう科	眼科	皮 膚 科
泌 尿 器 科	放 射 線 科	精 神 科	麻 酔 科
救 急 科	リハビリテーション科	病 理 診 断 科	歯科口腔外科

3. 病床の状況

許可病床数	一般	精神	結核	感染症	合 計
可 奶 /外 — — — — —	780床		10床	10床	800床

特定入院料算定病床	救急入院	ICU	MFICU	NICU	小児 (NMC)	小児 (東2)
10,00 (0011)10000001	24床	6床	6床	12床	23床	43床

4. 機構図 2024年3月31日



5. 職員数

2024年3月31日

区	分		人数(人)
医 師 職	医	師	192
	研 修	医	39
	薬 剤	師	58
	臨床検査	支 師	63
	臨床工学!	支士	28
	診療放射線	技師	53
	歯科衛生	主士	8
医療技術職	理学療法	生 士	28
	作業療法	生 士	15
	言語聴覚	1 士	7
	視能訓練	東 士	4
	管理栄養	き士	15
	公認心理	11 師	3

区	分	人数(人)
	看 護 師	861
看護保健職	准看護師	26
	保 健 師	2
	管 理 課	26
	医療情報課	12
一般行政職	医 事 課	26
	医療安全管理室	1
	経営企画室	3
技能労務職	介護福祉士	14
1人形力伤帆	事務労務職助手	1
2 ~ N.	看護補助者	76
その他会計年度	ドクタークラーク	26
その他 会計職 任用	外来クラーク	25
/14 /194 34	その他(事務等)	88
	計	1,700

6. 病棟別病床数

2024年3月31日

区	分	許可(稼働)病床	病 床 内 訳(床)
東病棟	2階	43 床	小児科 31 小児外科 4 耳鼻いんこう科 (小児) 8
"	3階	50 床	循環器内科 25 呼吸器外科 8 心臓血管外科 9 腎臓内科 8
東病棟	4 階	50 床	バースセンター 20 婦人科 6 MFICU6 産科 18
西病棟	4 階	JU //K	バース C 2 / 20 婦人付 0 MITICUO 産付 18
東病棟	5 階	46 床	一般外科 35 脳神経内科 7 移植外科 2 形成外科 2
"	6 階	52 床	消化器内科 49 総合診療科 3
"	7階	49 床	呼吸器内科 34 耳鼻いんこう科 15
"	8階	51 床	整形外科・リウマチ科 51
"	9階	47 床	糖尿病・内分泌内科 12
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	9 PE	47 //	産婦人科 10(うち生殖医療 2) 眼科 10 脳神経内科 15
西病棟	2 階	44 床	脳神経外科 29 脳神経内科 15
"	3階	30 床	集中治療 6 救急入院 24
"	5 階	46 床	一般外科 33 皮膚科 13
"	6 階	50 床	消化器内科 45 腎臓内科 5
"	7 階	52 床	呼吸器内科 44 歯科口腔外科 8
"	8階	46 床	泌尿器科 35 整形外科 11
"	9階	49 床	血液・腫瘍内科 49
南病棟	1 階	40 床	脳神経内科 27 整形外科・リウマチ科 13
"	2 階	20 床	結核 10 感染症 10
新生児医療		35 床	NICU 12 GCU 23
計	•	800 床	

診療科別病床数

呼吸器内科	78 床	心臟血管外科 9床	耳鼻いんこう科	23 床
消化器内科	94	呼吸器外科 8	眼科	10
循環器内科	25	小 児 外 科 4	皮 膚 科	13
腎 臓 内 科	13	移植外科2	泌 尿 器 科	35
糖尿病·内分泌内科	12	整形外科・リウマチ科 75	歯科口腔外科	8
脳 神 経 内 科	64	形 成 外 科 2	集 中 治療	6
血液・腫瘍内科	49	脳 神 経 外 科 29	救 命 救 急	24
総合診療科	3	小 児 科 66	感 染 症 病 棟	10
一 般 外 科	68	産 婦 人 科 60	結 核 病 棟	10
			計	800

7. 施設案内 2024年3月31日

名 称	各階	主な施設
	2階	総合診療科 呼吸器内科・アレルギー内科 消化器内科 循環器内科 腎臓内科 脳神経内科 血液・腫瘍内科 整形外科 脊椎外科 リウマチ科 形成外科 産婦人科 (生殖医療)・総合生殖医療センター 放射線科 一般外科 小児外科 呼吸器外科 移植外科 心臓血管外科 肛門外科 麻酔科 (ペインクリニック) 脳神経外科 泌尿器科 救急外来センター 救急外来・入院受付外来治療センター 患者総合支援センター がん相談支援センター 入退院支援センター 看護外来 エックス線撮影室 CT室 X線テレビ室 MRI室内視鏡室 エコー・乳腺検査室 薬局 医事課 総合案内所 防災センター 喫茶室
診療棟		こころのケア科 皮膚科 糖尿病・内分泌内科 耳鼻いんこう科 産婦人科 女性内視鏡外科 小児科 病理診断科 臨床検査科 歯科口腔外科・口唇口蓋 裂センター 眼科 血液浄化センター 回復室 予防医療センター 中央臨床検査室 輸血・細胞治療センター 薬局 臨床工学室 中央滅菌材料室 中央倉庫 中央監視室 レストラン コンビニ
		新生児医療センター 手術センター 院長室 副院長室 医局長室 看護局長室 事務局長室 経営企画室 医療安全管理室 診療記録管理室 臨床研究管理室 医局 看護局 管理課 医療情報課 医学情報室 情報研修室 講堂 応接室 会議室 当直室 仮眠室 電話交換室 職員食堂
	1 階	院内保育所
管 理 棟	2階	専攻医室 レセプト点検室
	3階	研修医室
手術セン	1階	委託業者等更衣室 清掃業者控室等 職員組合
ター棟	2階	大型機材室 自己採血室 幹細胞処理室 感染症管理センター 外来治療センター
	3階	ハイブリッド手術室 内視鏡手術室
	1階	栄養管理室 厨房
	2階	小児科 小児外科 耳鼻いんこう科 (小児)
	3階	呼吸器外科 心臓血管外科 循環器内科 腎臓内科
	4階	産婦人科 バースセンター
東病棟	5階	一般外科 脳神経内科 移植外科 形成外科
	6階 7階	総合診療科 消化器内科 呼吸器内科 耳鼻いんこう科
	8階	野吸命内性 中界いんこう性 整形外科 リウマチ科
	9階	整形が付 リリマテ科
	1階	関係が、内分泌内科 産婦人科 眼科 産婦人科 (生殖医療) 脳神経内科 リハビリテーションセンター 解剖室 霊安室
	2階	脳神経外科 脳神経内科 一次脳卒中センター
	3階	集中治療センター(ICU) 救急入院センター
	4階	産婦人科 母体胎児集中治療室
西病棟	5階	一般外科 皮膚科
713 1214	6階	消化器内科 腎臓内科
	7階	呼吸器内科 歯科口腔外科
	8階	整形外科 泌尿器科
	9階	血液・腫瘍内科
井 作 丼	1階	整形外科 脳神経内科 リウマチ科
南病棟	2階	結核病床 感染症病床
古 由 坋	1階	放射線治療室 CTシミュレーター室 腔内照射室 アイソトープ検査室 PET-CT検査室 ガンマカメラ室 SPECT-CT室
高度放射線棟	2階	シミュレーション研修センター 治験管理センター 医薬品情報室 モニタリング室 ME機材庫 屋上庭園
	3 階	備蓄倉庫 看護学生用学習室

8. 指定医療機関及び専門医研修施設等

(1) 機関指定

- · 保険医療機関
- · 労災保険指定病院
- · 更生医療指定病院
- · 育成医療指定病院
- · 母体保護法指定医
- ·被爆者一般疾病医療機関
- · 児童福祉施設(助産施設)
- ・がんゲノム医療連携病院
- · 単独型臨床研修施設(歯科)
- · 災害拠点病院
- · 第二種感染症指定医療機関
- ・へき地医療拠点病院
- · DMAT 指定医療機関
- · 地域医療支援病院
- · 指定小児慢性特定疾病医療機関

- ・救急病院
- · 生活保護法等指定医療機関
- · 養育医療指定病院
- ・結核指定医療機関
- ·身体障害者福祉法指定医
- 公害医療機関
- · 基幹型臨床研修病院
- ・エイズ治療拠点病院
- ・日本病院会・優良短期人間ドック施設
- ・救命救急センター
- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・総合周産期母子医療センター
- ·特定不妊治療指定医療機関
- ·特定医療(指定難病)指定医療機関
- ・小児がん連携病院

(2) 施設基準届出事項

○基本診療料

- ·一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)、 ADL 維持向上等体制加算
- · 結核病棟入院基本料 (7 対 1 入院基本料)
- · 急性期充実体制加算
- · 救急医療管理加算
- · 超急性期脳卒中加算
- · 診療録管理体制加算 1
- · 医師事務作業補助体制加算 1
- · 急性期看護補助体制加算
- · 看護職員夜間配置加算
- ·療養環境加算
- · 重症者等療養環境特別加算
- ·無菌治療室管理加算1
- ・緩和ケア診療加算
- ・栄養サポートチーム加算
- 加算1
- ・感染対策向上加算 1、指導強化加算
- ・患者サポート体制充実加算
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・ハイリスク分娩管理加算

○特揭診療料関係

- ・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げ ・がん患者指導管理料ロ る遠隔モニタリング加算
- · 糖尿病合併症管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・がん患者指導管理料イ

- ・呼吸ケアチーム加算
- · 後発医薬品使用体制加算 2
- · 病棟薬剤業務実施加算1
- · 病棟薬剤業務実施加算2
- ・データ提出加算2(イ 200 床以上)
- · 入退院支援加算 1、入院時支援加算
- · 入退院支援加算3
- ・認知症ケア加算
- ・せん妄ハイリスク患者ケア加算
- · 精神疾患診療体制加算
- ·排尿自立支援加算
- · 地域医療体制確保加算
- · 救命救急入院料 1
- ·特定集中治療室管理料4
- ·新生児特定集中治療室管理料1
- · 医療安全対策加算 1、医療安全対策地域連携 ・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児 集中治療室管理料)
 - · 小児入院医療管理料 2
 - · 地域歯科診療支援病院歯科初診料
 - · 歯科外来診療環境体制加算 2
 - · 歯科診療特別対応連携加算
 - ・がん患者指導管理料ハ
 - ・がん患者指導管理料ニ
 - ・外来緩和ケア管理料
 - ·移植後患者指導管理料(臓器移植後)

- · 移植後患者指導管理料(造血管細胞移植後)
- · 糖尿病透析予防指導管理料
- ・乳腺炎重症化予防ケア指導料
- ·婦人科特定疾患治療管理料
- ・院内トリアージ実施料
- · 外来放射線照射診療料
- ・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相 談支援加算
- ·開放型病院共同指導料
- ・がん治療連携計画策定料
- · 外来排尿自立指導料
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・ハイリスク妊産婦連携指導料1
- ·薬剤管理指導料
- · 医療機器安全管理料 1
- · 医療機器安全管理料 2
- ・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住 者訪問看護・指導料の注 2
- · 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
- · 在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
- ・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合) 及び皮下連続式グルコース測定
- ・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
- · 遺伝学的検査
- · 骨髓微小残存病変量測定
- ・BRCA 1/2遺伝子検査
- ・がんゲノムプロファイリング検査
- · 先天性代謝異常症検査
- ・抗 HLA 抗体(スクリーニング検査)及び抗 HLA 抗体(抗体特異性同定検査)
- ・HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出(簡易ジェ ノタイプ判定)
- ・検体検査管理加算(I)
- ・検体検査管理加算(IV)
- · 国際標準検査管理加算
- ・遺伝カウンセリング加算
- ・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡 検査加算
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテ スト
- ・ヘッドアップティルト試験
- · 長期継続頭蓋内脳波検査
- · 神経学的検査
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- ・ポジトロン断層撮影

- ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
- ・CT 撮影及び MRI 撮影
- · 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- · 外来化学療法加算 1
- ·無菌製剤処理料
- ·心大血管疾患リハビリテーション料(I)
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
- 運動器リハビリテーション料(I)
- ・呼吸器リハビリテーション料 (I)
- ・摂食機能療法の注3に掲げる摂食嚥下支援加算
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・リンパ浮腫複合的治療料
- ・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
- ・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
- ・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
 - · 硬膜外自家血注入
 - · 人工腎臟
- ・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
- ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- · 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ・センチネルリンパ節加算
- ・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
 - ・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非 生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
- ・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨 移植術に限る。)
- ・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
- ·椎間板内酵素注入療法
- ・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
- ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置 交換術(過活動膀胱)
- ・緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))
- ・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿 入術)
- ・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術 を含む。)
 - ・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
 - ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切 除後)
 - ・経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)
 - · 経皮的中隔心筋焼灼術
 - ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換 術

- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交 換術(リードレスペースメーカー)
- ・大動脈バルーンパンピング法(IABP 法)
- ・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
- ・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を 用いる場合)
- ・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援 機器を用いる場合)
- ・腹腔鏡下胃縮小術 (スリーブ状切除によるもの)
- ・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を 用いる場合)
- ・胆管悪性腫瘍手術 (膵頭十二指腸切除及び肝 切除 (葉以上) を伴うものに限る)
- · 体外衝擊波胆石破砕術
- · 腹腔鏡下肝切除術
- · 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
- · 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
- ·早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- · 体外衝擊波腎 · 尿管結石破砕術
- ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
- ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援 機器を用いるもの)
- · 同種死体腎移植術
- ·生体腎移植術
- ·膀胱水圧拡張術
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支 援機器を用いる場合)
- ·腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
- · 人工尿道括約筋植込 · 置換術
- ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
- ·腹腔鏡下仙骨腔固定術
- ・腹腔鏡下仙骨膣固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・腹腔鏡下腟式子宮全摘術(内視鏡手術用支援 機器を用いる場合)
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対 して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
- ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺 葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用 いる場合)

- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲 げる手術の休日加算1
 - ・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲 げる手術の時間外加算1
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲 げる手術の深夜加算1
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲 げる手術(胃瘻造設術等)
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲 げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対す る子宮附属器腫瘍摘出術)
- ·輸血管理料 I
- · 輸血適正使用加算
- · 貯血式自己血輸血管理体制加算
- ・コーディネート体制充実加算
- ・同種クリオプレシピテート作製術
- ·人工肛門·人工膀胱造設術前処置加算
- · 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・麻酔管理料(I)
- ·麻酔管理料(Ⅱ)
- · 歯科麻酔管理料
- · 放射線治療専任加算
- · 外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- · 1回線量増加加算
- ・強度変調放射線治療 (IMRT)
- · 画像誘導放射線治療 (IGRT)
- · 定位放射線治療
- · 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- · 病理診断管理加算 1
- · 悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・歯科疾患管理料の注 11 に掲げる総合医療管理 加算及び歯科治療時医療管理料
- · 医療機器安全管理料 (歯科)
- · 精密触覚機能検査
- ・歯科口腔リハビリテーション料2
- · 手術用顕微鏡加算
- ・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
- · 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- ・歯根端切除手術の注3
- ·口腔病理診断管理加算 1
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料
- ・口腔粘膜処置
- ・レーザー機器加算
- · 一般不妊治療管理料
- · 生殖補助医療管理料 1
- ·二次性骨折予防継続管理料1

- · 下肢創傷処置管理料
- · 連携充実加算
- ・染色体検査の注2に規定する基準
- ·看護職員処遇改善評価料 58
- ·膀胱頸部形成術 (膀胱頸部吊上術以上)
- ・陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
- · 埋没陰茎手術
- · 精巣内精子採取術

- ・前立腺針生検法(MRI 撮影及び超音波検査)
- · 経気管支凍結生検法
- · 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術 (内視鏡手術用支
- · 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術支援機 器)
- ·腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術支援機器)

(3) 専門医研修施設等

- 科・外科・小児科・産婦人科)
- · 日本呼吸器学会専門医制度認定施設
- · 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認
- ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研 修施設
- · 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- · 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・日本消化器がん検診学会認定指導施設
- · 日本肝臓学会認定指導施設
- · 日本胆道学会認定指導医制度指導施設
- · 日本膵臓学会認定指導施設
- · 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修
- 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施
- · 日本腎臓学会認定教育施設
- · 日本透析医学会専門医制度認定施設
- · 日本糖尿病学会認定教育施設 I
- · 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定 教育施設
- · 日本神経学会専門医制度教育施設
- · 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設
- ・日本脳卒中学会一次脳卒中センター(PSC) コア施設
- ・日本脳卒中学会一次脳卒中センター
- · 日本認知症学会専門医制度教育施設
- · 日本血液学会認定血液研修認定施設
- · 日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携施設)
- ・日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設
- · 非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設
- · 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設
- · 非血縁者間骨髄採取認定施設
- · 日本外科学会専門医制度修練施設
- · 日本消化器外科学会専門医修練施設
- · 日本食道学会食道外科専門医認定施設
- ·胸部外科教育施設協議会修練施設
- · 呼吸器外科専門医制度専門研修基幹施設

- ·日本専門医機構専門医制度認定基幹施設(内 ·三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定修 練施設
 - ・胸部ステントグラフト実施施設
 - ・腹部ステントグラフト実施施設
 - 下肢静脈瘤血管内治療実施,管理委員会認定実 施施設
 - · 日本乳癌学会認定施設
 - ·日本内分泌外科学会専門医制度関連施設
 - ・日本乳房オンコプラスティックサージャリー学 会インプラント実施施設 (一次一期再建)
 - ・日本乳房オンコプラスティックサージャリー学 会エキスパンダー実施施設(一次再建)
 - · 日本超音波医学会専門医研修施設
 - · 日本小児外科学会認定名古屋大学小児外科教育 関連施設 B
 - · 日本集中治療医学会認定集中治療専門医研修施
 - ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
 - 日本整形外科学会専門医研修施設
 - · 日本手外科学会認定研修施設
 - ・日本リウマチ学会教育施設
 - · 日本脳神経外傷学会専門医制度研修施設
 - · 日本頭痛協会認定施設
 - ·日本周産期·新生児医学会周産期(新生児)専 門医基幹研修施設
 - ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・ 胎児) 基幹認定施設
 - ·日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
 - ·日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
 - · 日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設
 - · 日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設
 - ·日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
 - ·日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
 - ・NIPT を実施する医療機関(基幹施設)
 - ·日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
 - · 日本眼科学会専門医制度研修施設
 - · 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
 - · 日本泌尿器科学会専門医基幹教育施設
 - · 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
 - · 日本放射線腫瘍学会認定施設

- ・日本インターベンショナルラジオロジー学会 ・日本緩和医療学会認定研修施設 専門医修練施設
- · 日本核医学会専門医教育病院
- · 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- · 日本病理学会研修認定施設 B
- · 日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本口腔外科学会専門医制度認定研修施設
- · 日本口腔科学会認定医制度研修施設

- · 名古屋大学医学部附属病院東海圈救急科専門研 修プログラム連携施設
- ・名古屋掖済会病院救急科専門研修プログラム連 携施設
- · 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
- ・日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム (NST) 専門療法士認定教育施設

(4) 研修施設等(名称・認定団体)

①放射線技術室

マンモグラフィ検診施設認定

日本消化器がん検診学会認定指導施設

日本診療放射線技師会臨床研修実習指導施設

②中央臨床検査室

日本臨床検査標準協議会精度保障施設

日本臨床細胞学会認定施設

認定臨床微生物検査技師制度研修施設

認定輸血検査技師制度指定施設

骨髓検査技師認定制度研修施設

日本病理学会研修認定施設

臨床輸血看護師制度指定研修施設

日本輸血・細胞治療学会 I&A 認証施設

③薬局

がん専門薬剤師研修施設(連携施設)

薬学生実務実習受入施設

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会

日本消化器がん検診学会

日本診療放射線技師会

日本臨床検査標準協議会

日本臨床細胞学会

日本臨床微生物学会

日本輸血細胞治療学会

日本検査血液学会

日本病理学会

日本輸血・細胞治療学会

日本輸血・細胞治療学会

日本医療薬学会 薬学教育協議会

Ⅲ患者動向

Ⅲ 患者動向

1. 入院科別患者数

			令和 5	年度			令和4	年度			令和 3	年度	
区	分	延患者数 (人)	1日平均(人)	構成比 (%)	新患者数 (人)	延患者数 (人)	1日平均(人)	構成比 (%)	新患者数 (人)	延患者数 (人)	1日平均(人)	構成比 (%)	新患者数 (人)
内	科	114,492	313	46.8	8,454	111,278	305	48.0	7,992	108,588	298	47.3	8,042
総合診療	科	1,262	3	1.1	100	1,254	3	1.1	72	1,621	4	1.5	115
呼吸器内	1科	28,682	78	25.1	2,057	28,803	79	25.9	1,922	31,302	86	28.8	2,073
消化器内	1科	27,103	74	23.7	2,731	25,895	71	23.3	2,583	25,376	70	23.4	2,484
循環器内	月科	11,082	30	9.7	981	10,959	30	9.8	1,075	10,179	28	9.4	1,052
アレルギート	勺科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
感染症内	月科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
腎 臓 内	科	7,939	22	6.9	494	5,806	16	5.2	388	5,353	15	4.9	332
糖尿病·内分泌	内科	3,340	9	2.9	215	3,049	8	2.7	197	2,680	7	2.5	214
脳神経内	1科	17,086	47	14.9	906	20,370	56	18.3	948	15,321	42	14.1	916
血液・腫瘍に	内科	17,998	49	15.7	970	15,142	41	13.6	807	16,756	46	15.4	856
外	科	25,602	70	10.5	2,184	25,737	70	11.1	2,218	25,810	71	11.2	2,187
呼吸器外	. 科	1,878	5	0.8	283	1,899	5	0.8	256	1,783	5	0.8	262
心臟血管夕	卜科	2,026	6	0.8	137	1,678	5	0.7	145	2,241	6	1.0	155
移 植 外	科	616	2	0.3	71	653	2	0.3	64	550	2	0.2	59
整 形 外	科	22,103	60	9.0	1,163	17,961	49	7.7	956	20,848	57	9.1	1,009
形 成 外	科	37	0	0.0	8	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
脳神経外	. 科	14,920	41	6.1	785	14,674	40	6.3	822	15,094	41	6.6	829
小 児	科	16,101	44	6.6	2,180	14,882	41	6.4	1,772	14,843	41	6.5	1,699
産 婦 人	科	17,447	48	7.1	2,319	17,337	47	7.5	2,322	16,012	44	7.0	2,216
耳鼻いんこ	う科	9,416	26	3.8	906	7,638	21	3.3	751	8,481	23	3.7	736
眼	科	4,754	13	1.9	935	3,067	8	1.3	660	1,682	5	0.7	341
皮 膚	科	3,791	10	1.5	330	3,628	10	1.6	289	2,667	7	1.2	195
泌 尿 器	科	9,463	26	3.9	1,175	9,136	25	3.9	1,020	8,897	24	3.9	986
放 射 線	科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
麻 酔	科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
リハビリテーショ	ン科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
こころのケブ	ア科	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
歯科口腔タ	卜科	2,074	6	0.8	573	2,255	6	1.0	496	2,300	6	1.0	448
(うち) 結	核	1,099	3	_	15	1,588	4	_	25	1,605	4	_	28
(うち) 感勢	è症	57	0	_	_	8,949	25	_	_	5,013	14	_	_
計 ①		244,720	669	100	21,503	231,823	635	100	19,763	229,796	630	100	19,164
前年度	2	231,823	635	_	19,763	229,796	630	_	19,164	231,804	635	_	18,518
比較 (①-	2)	12,897	34	_	1,740	2,027	5	ı	599	△2,008	$\triangle 5$	_	646

2. 外来科別患者数

			令和 5	年度			令和 4	1年度			令和 3	年度	
区	分	延患者数 (人)	1日平均(人)	構成比 (%)	新患者数 (人)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)	新患者数 (人)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)	新患者数 (人)
内	科	174,158	717	37.5	13,888	176,254	725	37.7	13,331	173,397	717	37.4	13,679
総合診	診療 科	5,656	23	3.2	1,292	4,932	20	2.8	1,222	5,624	23	3.2	1,495
呼吸器		32,958	136	18.9	2,514	33,618	138	19.1	2,314	32,146	133	18.5	1,999
消化器	器 内 科	55,526	229	31.9	5,147	57,631	237	32.7	4,959	55,751	230	32.2	5,213
循環器	器 内 科	19,293	79	11.1	1,286	20,345	84	11.5	1,302	19,769	82	11.4	1,400
アレルギ	一内科	3	0	0.0	0	5	0	0.0	0	0	0	0.0	0
感染症	臣内科	151	1	0.1	2	99	0	0.1	2	69	0	0.0	1
腎 臓	内 科	10,550	43	6.1	467	10,021	41	5.7	394	9,934	41	5.7	417
糖尿病·内	分泌内科	20,222	83	11.6	1,123	20,294	84	11.5	1,099	19,822	82	11.4	1,051
脳神組	圣内科	12,200	50	7.0	1,461	12,413	51	7.0	1,478	12,366	51	7.1	1,534
血液・腫	傷内科	17,599	72	10.1	596	16,896	70	9.6	561	17,916	74	10.3	569
外	科	40,514	167	8.7	3,134	39,786	164	8.5	3,144	38,401	159	8.3	2,187
呼吸器	外科	3,393	14	0.7	312	3,437	14	0.7	336	3,454	14	0.7	340
心臓血管	管外科	3,127	13	0.7	140	3,189	13	0.7	148	3,215	13	0.7	137
移植	外 科	1,487	6	0.3	47	1,410	6	0.3	54	1,343	6	0.3	48
整形	外 科	36,315	149	7.8	3,745	35,589	147	7.6	3,698	37,123	153	8.0	3,820
形 成	外 科	1,582	7	0.3	298	1,353	6	0.3	190	1,110	5	0.2	332
脳神経	外科	12,715	52	2.7	1,650	13,848	57	3.0	1,838	14,678	61	3.2	2,008
小 児	科	27,269	112	5.9	2,553	27,832	115	6.0	2,946	26,960	111	5.8	2,510
産 婦	人 科	35,270	145	7.6	2,595	39,305	162	8.4	2,732	38,825	160	8.4	2,658
耳鼻いん	こう科	26,470	109	5.7	3,099	25,611	105	5.5	2,846	25,550	106	5.5	3,001
眼	科	18,144	75	3.9	1,633	17,874	74	3.8	1,427	15,164	63	3.3	1,300
皮 膚	科	23,430	96	5.0	2,287	22,032	91	4.7	2,365	21,966	91	4.7	2,536
泌 尿	器科	24,621	101	5.3	1,834	23,240	96	5.0	1,601	24,234	100	5.2	1,779
放 射	線科	14,579	60	3.1	1,158	14,931	61	3.2	1,019	15,666	65	3.4	965
こころの	ケア科	603	2	0.1	6	681	3	0.1	28	756	3	0.2	47
麻 酔	科	407	2	0.1	159	439	2	0.1	254	373	2	0.1	246
リハビリテー	ーション科	3,649	15	0.8	27	3,606	15	0.8	22	4,253	18	0.9	9
歯科口肺	腔外科	16,654	69	3.6	2,630	17,007	70	3.6	2,785	17,208	71	3.7	2,821
計	1	464,387	1,911	100	41,195	467,424	1,924	100	40,764	463,676	1,916	100	40,423
前 年	度 ②	467,424	1,924	_	40,764	463,676	1,916	_	40,423	441,527	1,817	-	36,327
比較(①)-2)	△ 3,037	△ 13		0	3,748	8	_	341	22,149	99	ı	4,096

3. 病棟別患者数

	IJ,		ハ		令和 5	5年度	令和 4	4年度	令和 :	令和3年度		
	区		分		延患者数(人)	1日平均(人)	延患者数(人)	1日平均(人)	延患者数(人)	1日平均(人)		
東	病	棟	2	階	10,768	30	9,577	26	11,013	30		
西	病	棟	2	階	15,657	43	15,523	43	15,572	43		
東	病	棟	3	階	17,207	47	16,970	46	17,685	48		
西	病	棟	3	階	3,178	9	3,220	9	3,379	9		
東	病	棟	4	階	8,065	22	8,491	23	8,372	23		
西	病	棟	4	階	6,956	19	7,067	19	7,158	20		
東	病	棟	5	階	16,556	45	15,393	42	16,687	46		
西	病	棟	5	階	16,553	45	16,098	44	16,394	45		
東	病	棟	6	階	17,433	48	17,793	49	16,346	45		
西	病	棟	6	階	16,925	46	12,367	34	1,469	4		
東	病	棟	7	階	17,383	48	13,074	36	17,648	48		
西	病	棟	7	階	17,717	49	16,308	45	17,963	49		
東	病	棟	8	階	17,170	47	16,044	44	17,165	47		
西	病	棟	8	階	15,595	43	14,568	40	15,532	43		
東	病	棟	9	階	17,195	47	16,330	45	15,811	43		
西	病	棟	9	階	16,632	46	15,344	42	17,066	47		
新生	 上児医	医療も	コンク	ター	7,985	22	8,560	23	7,918	22		
南	病	棟	1	階	4,646	13	0	0	0	0		
南	病	棟	2	階	1,099	3	9,096	25	6,618	18		
		計			244,720	672	231,823	635	229,796	630		

※感染症病床に入院した患者は南病棟 2 階に合算(令和 3 · 4 年度、令和 5 年度($4/1 \sim 5/7$))

4. 救急外来センター来院方法別受診状況

步陸士进	1. 图区区	令和	5年度	令和.	4年度	令和	3年度
来院方法	入外区分	患者数(人)	合計に占める比率(%)	患者数(人)	合計に占める比率(%)	患者数(人)	合計に占める比率(%)
	外来	3,547	13.7	4,084	16.1	3,812	16.4
救 急 車	入院	4,196	16.2	4,366	17.2	3,933	16.9
	計	7,743	29.9	8,450	33.2	7,745	33.4
20.1.1	外来	21	0.1	10	0.0	14	0.1
ドクターへリ・ 防災へリ	入院	27	0.1	30	0.1	28	0.1
)	計	48	0.2	40	0.2	42	0.2
	外来	14,614	56.4	14,255	56.0	12,620	54.4
ウォークイン	入院	3,489	13.5	2,697	10.6	2,807	12.1
	計	18,103	69.9	16,952	66.6	15,427	66.5
	外来	18,182	70.2	18,349	72.1	16,446	70.8
合 計	入院	7,712	29.8	7,093	27.9	6,768	29.2
	計	25,894	100.0	25,442	100.0	23,214	100.0

5. 救急外来センター受診後の動向

		,	令和5年度	<u>.</u>	,	令和4年度	2	令和3年度		
受認	参後	患者数 (人)	うち、救急搬入数 (人)	比 率 (%)	患者数 (人)	うち、救急搬入数 (人)	比 率 (%)	患者数 (人)	うち、救急搬入数 (人)	比 率 (%)
帰	宅	18,140	3,533	19.5	18,304	4,054	22.1	16,399	3,784	23.1
入	院	7,486	4,003	53.5	6,853	4,161	60.7	6,570	3,772	57.4
転	院	42	35	83.3	45	40	88.9	47	42	89.4
死	亡	226	220	97.3	240	235	97.9	198	189	95.5
	計	25,894	7,791	30.1	25,442	8,490	33.4	23,214	7,787	33.5

[※]救急搬入とは、救急車、ドクターヘリ、防災ヘリのこと

6. 救命救急センター患者数

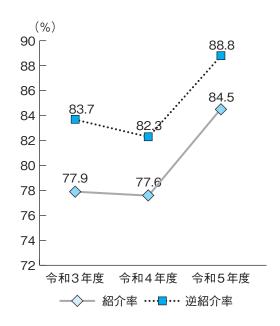
区	分	病床数 (床)	実患者数 (人)	延患者数 (人)	平均在院日数 (日)	1日当たり患者数 (人)
内	科	11	402	985	2.5	3
外	科	11	442	751	1.7	2
心臓血管・	呼吸器外科	3	212	342	1.6	1
脳神糸	圣外科	5	509	784	1.5	2
₹ 0	り他	_	224	542	2.4	1
言	†	30	1,789	3,404	1.9	9
内訳:集中流	台療センター	6	685	1,583	2.3	4

7. 地域別患者割合 (%)

		分		入 院		外来			
区		<i>)</i>]	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	
豊	橋	市	75.2	73.4	73.2	74.1	73.4	73.0	
豊	Ш	市	8.4	9.6	10.1	9.8	10.4	10.8	
蒲	郡	市	1.9	2.1	2.1	2.1	2.2	2.4	
田	原	市	8.3	8.1	7.7	8.2	7.9	7.8	
新	城	市	2.1	2.6	2.8	2.3	2.4	2.4	
20	Ath	県内	1.5	1.6	1.8	1.5	1.6	1.6	
その他	/TE	県外	2.6	2.6	2.3	2.0	2.1	2.0	
計			100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

8. 紹介・逆紹介患者数及び率





9. 手術件数

	ਹ		分		令和 :	5年度	令和4年度		令和3年度	
	区	Ź			件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
外	- +	般	外	科	1,475	92.7	1,592	101.3	1,572	110.7
	心臓血	管·F	乎吸器	外科	364	116.7	312	89.9	347	136.1
科	小	児	外	科	93	100.0	93	80.2	116	112.6
整	形	Ź	外	科	1,390	109.9	1,265	90.9	1,391	93.1
IJ	ウ	マ	チ	科	14	93.3	15	125.0	12	42.9
形	成	Ź	外	科	42	600.0	7	116.7	6	120.0
脳	神	経	外	科	297	91.1	326	87.9	371	92.5
産	婦	,	人	科	1,457	94.5	1,542	103.8	1,485	107.8
耳	鼻い	ん	こう	科	554	123.4	449	112.3	400	84.7
皮		膚		科	88	131.3	67	126.4	53	54.6
泌	尿	1	器	科	534	110.3	484	98.4	492	82.1
眼				科	1,060	140.6	754	177.8	424	96.8
歯	科 口	腔	外	科	534	115.3	463	116.9	396	101.8
そ		0)		他	157	108.3	145	134.3	108	53.2
		計			8,059	107.3	7,514	104.8	7,173	98.5

9-2. 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

	□	分		令和 :	5年度	令和4年度		令和3年度	
	区			件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
	一般	外	科	655	95.5	686	110.3	622	116.0
外	(うち:タ	゙ヷ゙ィン	チ)	61	208.0	25	138.9	18	81.8
	心臟血管・	呼吸器	外科	226	117.1	193	91.0	212	151.4
科	(うち:タ	゙ヷ゙ィン	チ)	46	410.0	10	71.4	14	127.3
	小 児	外	科	46	90.2	51	98.1	52	96.3
整	形	外	科	79	98.8	80	150.9	53	51.5
IJ	ウマ	チ	科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
産	婦	人	科	523	103.4	506	99.0	511	107.6
(うち	: 先進医療	、自費診	療)	0	0.0	10	500.0	2	100.0
(う	ち:ダヴ	インチ	-)	258	102.8	213	94.2	226	135.3
泌	尿	器	科	136	134.7	101	95.3	106	82.8
(う	ち:ダヴ	インチ	-)	95	133.8	65	110.2	59	73.8
そ	の		他	3	150.0	2	22,2	9	150.0
	計			1,668	103.0	1,619	103.5	1,565	108.5

10. 分娩件数

	ᅜ	⇔		令和 5	5年度	令和 4	4年度	令和 3	3年度
	区	2),		件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
産	婦	人	科	893	105.8	844	110.8	762	105.1

Ⅳ 疾病統計

Ⅳ 疾病統計

1. 入院患者の疾病分類別(大分類)患者数

(人)

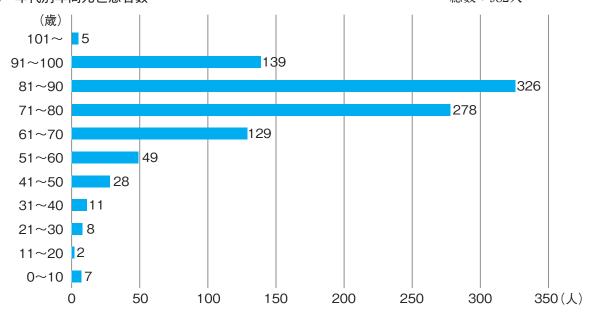
ICD10 (2013大分類)	分 類 名	2023年	2022年	2021年
A00-B99	感染症及び寄生虫症	535	421	424
C00-C97	悪性新生物<腫瘍>	5,375	4,926	5,170
D00-D48	新生物<腫瘍>	770	737	734
D50-D89	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	164	163	185
E00-E90	内分泌、栄養及び代謝疾患	438	495	511
F00-F99	精神及び行動の障害	47	26	51
G00-G99	神経系の疾患	537	459	502
H00-H59	眼及び付属器の疾患	846	571	258
H60-H95	耳及び乳様突起の疾患	84	66	70
I00-I99	循環器系の疾患	2,178	2,169	2,129
J00-J99	呼吸器系の疾患	2,020	1,455	1,491
K00-K93	消化器系の疾患	2,965	2,706	2,712
L00-L99	皮膚及び皮下組織の疾患	222	178	173
M00-M99	筋骨格系及び結合組織の疾患	645	465	534
N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	1,358	1,080	1,132
O00-O99	妊娠、分娩及び産じょく<褥>	1,096	1,054	934
P00-P96	周産期に発生した病態	474	464	432
Q00-Q99	先天奇形, 変形及び染色体異常	147	173	202
R00-R99	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	310	320	355
S00-T98	損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,349	1,337	1,274
U00-U99	特殊目的用コード	285	301	296
V01-Y98	傷病及び死亡の外因	0	1	0
Z00-Z99	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	24	20	13
	合 計	21,869	19,587	19,582

[※]退院時サマリの診断名より集計しています

2. 死亡症例

(1) 年代別年間死亡患者数

総数:982人



(2) 24時間以内の死亡患者数・・・・・・318人

(3) 死因分類別死亡数

(人)

ICD10 (2013大分類)	死因分類表	死亡数
A00-B99	感染症及び寄生虫症	34
C00-D48	新生物<腫瘍>	283
C00-C97	悪性新生物<腫瘍>	(269)
D00-D48	その他の新生物<腫瘍>	(14)
D50-D89	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	7
E00-E90	内分泌、栄養及び代謝疾患	7
F00-F99	精神及び行動の障害	0
G00-G99	神経系の疾患	18
H00-H59	眼及び付属器の疾患	0
H60-H95	耳及び乳様突起の疾患	0
I00-I99	循環器系の疾患	188
J00-J99	呼吸器系の疾患	169
K00-K93	消化器系の疾患	57
L00-L99	皮膚及び皮下組織の疾患	1
M00-M99	筋骨格系及び結合組織の疾患	10
N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	23
O00-O99	妊娠、分娩及び産じょく<褥>	0
P00-P96	周産期に発生した病態	2
Q00-Q99	先天奇形、変形及び染色体異常	1
R00-R99	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	106
U00-U99	特殊目的用コード	25
V01-Y98	傷病及び死亡の外因	50
_	不詳	1
	合 計	982

[※]死亡診断書・検案書から原死因をコーディングして集計しています

3. 悪性新生物新患者数

(件)

部位	新患者数	部 位	新患者数	
頭頚部(咽頭・喉頭を除く)	42	多発性骨髄腫	32	
咽頭・喉頭	60	他の造血器腫瘍	44	
食道	65	皮膚(黒色腫を含む)	119	
胃	210	乳房	227	
小腸	5	子宮頸部	132	
結腸	263	子宮体部	89	
直腸	148	卵巣	51	
肝臓	59	女性生殖器	10	
胆嚢	14	前立腺	191	
肝外胆管	23	男性生殖器	12	
膵臓	111	段	62	
肺	362	尿路(腎・膀胱を除く)	26	
胸腺・胸膜	15	膀胱	103	
骨・軟部腫瘍	2	脳腫瘍	81	
白血病	65	甲状腺	48	
悪性リンパ腫	141	その他	28	
	計 2,84			

※がん診療連携拠点病院 院内がん登録全国集計報告件数

V 診療業務概要・ 活動報告

~解説~

①概要について

1年間の活動内容等を掲載しています。

②活動報告について

- ・患者状況は、2023年1月1日~2023年12月31日の患者数を掲載しています。
- ・その他活動の記録は、診療科は2023年1月1日~2023年12月31日の実績を、 室・センター・局は2023年4月1日~2024年3月31日の実績を掲載しています。

Ⅴ 診療業務概要・活動報告

総合診療科

1. 概要

こんにち「総合診療」は、医療・ケア従事者が認識するにとどまらず、テレビ番組やサブカルチャー作品でも取り上げられるなど市民権を着々と獲得してきている。2018年に始まった新専門医制度では総合診療専門医が設立された。全国各地で総合診療科は増え、名古屋大学医学部附属病院はもちろんのこと、近隣の豊川・新城・岡崎の各市民病院も以前から総合診療科を標榜していた。2022年4月、当院も従来の「総合内科」から「総合診療科」に名称変更を行った。

伴信太郎・名大総合診療科元教授によれば、総合診療医とは「あらゆる健康問題の窓口となる医師」であり、その専門性としては「1. 健康問題への包括的対応能力」「2. 病態診断の専門家(diagnostician)能力」「3. medically unexplained symptoms(MUS)への対応能力」の3つが肝要であるとされる。

これらの基本的枠組みを踏まえながら、加えて東三河地域のニーズにも即した総合診療の実践を模索していきたい。

(部長 稲垣 大輔)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数5,490人年間外来新患者数1,241人年間入院患者数1,294人年間入院新患者数96人

呼吸器内科・アレルギー内科

1. 概要

2023年は計6名の常勤医と3名の非常勤医により診療を行った。

科としては、地域医療に貢献すべく、堅実な診療を継続した1年であった。しかし、1名の常勤医の減員もあり、多忙な1年でもあった。

東三河において、呼吸器内科の常勤医のいる病院は当院以外に、豊川市民病院、蒲郡市民病院、成田記念病院しかない。豊橋市は35万人を超える人口をかかえているのにもかかわらず、常勤医のいる呼吸器内科は当院以外に成田記念病院のみであり、その成田記念病院も1名のみである。呼吸器診療としては、逼迫した危機的状況にあると考えていい地域である。また、田原市は人口6万人程度の都市であるが、呼吸器内科が病棟として専門的に機能している病院はなく、当院に常に紹介をいただいている状況である。COVID-19に悩まされることは少し減りつつあるが、地域の呼吸器内科診療に関しては、過疎化が進んでいる印象である。バックアップいただいている名古屋大学の呼吸器内科の現状も当院へ人員の派遣が常に難しい。さらには、若い先生方の気質などから忙しいとされる当院への派遣を喜ばれず、さらに、名古屋から遠いこの地域への赴任を受け入れてもらえない状況となっている。残念ながら呼吸器内科医不足から、2024年度にさらに人員に窮することがあきらかになっており、地域に対して、診療制限をさせてもらい、迷惑をかけることが想定される。

コロナの問題が減ってきていることは幸いであり、今後、さらに当科にて指導、教育に力をいれ、少しでも若い先生方に希望してきていただける科へと成長していきたいと考えている。

(部長 牧野 靖)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 33,346人 年間外来新患者数 2,517人 年間入院患者数 29,690人 年間入院新患者数 2,053人

消化器内科

1. 概要

院長・浦野文博を筆頭とする6名のスタッフと専攻医5名、後期研修医にて診療に従事した。 山田雅弘、山本英子、服部峻が消化管、浦野、内藤岳人が肝臓、松原浩、鈴木博貴が胆道・膵臓を担当し、

- 消化器癌の X 線・内視鏡・US 診断
- 食道・胃・大腸腫瘍に対する、ESD をはじめとする内視鏡的治療
- IBD に対する内科的治療
- 潰瘍性大腸炎に対する地域連携パスの確立
- 胆道・膵疾患に対する EUS (-FNA)、造影 US・EUS、ERCP (-IDUS) の診断成績
- ERCP 後膵炎の予防
- 閉塞性黄疸に対する ERCP (経乳頭的内視鏡) 下と、EUS (超音波内視鏡) 下治療
- 膵癌早期診断豊橋プロジェクト
- ウイルス性肝炎の治療と長期経過
- 肝癌の画像診断と内科的治療 -TACE、RFA、薬物療法

などを主な研究テーマとしている。

一方、全消化器領域に対応すべく日常診療を行っており、嚥下困難患者に対する内視鏡的胃瘻造設術 の依頼にも随時対応している。

この他、食道胃静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、大腸憩室などからの急性消化管出血に対する EIS、EVL やクリッピング止血、内因性肝出血や壊死性膵炎に対する IVR、急性胆道炎に対する ERCP、PTBD、PTGBD、EUS 下ドレナージ、そして劇症肝炎や重症急性膵炎など重症消化器疾患に対する集中治療を積極的に行い、地域の救命救急医療に貢献している。

(第一部長 松原 浩)

2. 活動報告

(1) 患者状況

 年間外来患者数
 56,127人
 年間外来新患者数
 5,076人

 年間入院患者数
 26,517人
 年間入院新患者数
 2,730人

(2) 2023 (令和5) 年の主な行事・出来事

- 1月 半田市立半田病院より小池剛が赴任した。
- 3月 山田が当院勤務15年目の勤労認定を受けた。足立賢吾、新田紘一郎が内科専門研修プログラムで刈谷豊田総合病院へ異動。
- 4月 内科専門研修プログラムで刈谷豊田総合病院から佐藤宏樹、JA安城更生病院から牧野 成彦が赴任。社本賢昭が総合診療科から入局。
- 5月 第51回MCR フォーラム (当院講堂) で名古屋大学消化器内科教授・川嶋啓揮先生が 「膵癌診療と臨床研究」について講演。
- 6月 名古屋大学消化器内科同門会総会(名古屋マリオットアソシアホテル)。
- 8月 潰瘍性大腸炎地域連携パス開始。
- 9月 院長・浦野文博を委員長として名古屋大学学友会東三河支部総会を開催(ホテルアソシア豊橋)。名古屋大学消化器内科教授・川嶋啓揮先生が「名大消化器内科の臨床と研究」、名古屋大学医学部長(微生物・免疫学教授)・木村宏先生が「名古屋大学医学部が目指す処」を講演。
- 11月 東三河消化器フォーラム(ハイブリッド)を名古屋大学、名古屋市立大学、豊川市民病院、豊橋市民病院が合同で開催。名古屋大学からは消化器内科教授・川嶋啓揮先生が「名大のERCP 関連手技の現状」を講演。

C 001 //-

(3) 2023 (令和5) 年の主な検査治療実績

田山坦冷水

胃内視鏡検査		6,201件
大腸内視鏡検査		4,051件
小腸内視鏡検査	バルン内視鏡	25件
	カプセル内視鏡	60件
消化管超音波内視鏡検査	上部 上部	108件
	下部	4件
	うち穿刺生検	5件
内視鏡的粘膜下層切開录	削離術 食道/胃	115件
	大腸	78件
胆膵超音波内視鏡検査		387件
	うち穿刺生検	134件
内視鏡的逆行性胆管膵管	音造影	734件
腹部血管造影検査		41件
	うち動脈塞栓術	38件
動注化学療法		3件
リザーバー留置による動	协注化学療法	0件
ラジオ波焼灼術		35件
デンバーシャント		0件

循環器内科

1. 概要

2023年は、心血管カテーテル検査を723例(うち緊急検査208例)に施行した。経皮的冠動脈インターベンションは230例(成功率97.9%)で、そのうち、血管内超音波を214例に施行した。また、ステント留置術は206例に施行した。再狭窄防止のための薬剤溶出性バルーンは12例に使用した。観血的虚血評価のため、圧ワイヤー検査を57例に施行した。また、血行動態の悪い症例には、大動脈内パンピングを24例に施行した。心原性ショック例・心停止例(来院時心肺停止も含む)には、経皮的心肺補助装置を装着した(7例)。一方、不整脈診断のための心臓電気生理学的検査を76例に、カテーテルアブレーションを73例(心房細動に対するもの46例)に施行した。さらに多列検出器CTによる冠動脈CT検査を233例に施行した。

2023年4月に近藤浩幹が名古屋大学循環器内科大学院に入学し帰局。木曜日の外来に代務医師として、名古屋大学循環器内科から近藤喜代太が派遣された。

救急外来常駐医師が不在となってから、ICLS や BLS に加えて冨田、深谷が救急外来のマネージメントなど循環器内科以外の業務時間が増加し、マンパワー不足が深刻な問題となっている。

(第一部長 成瀬 賢伸)

2. 活動報告

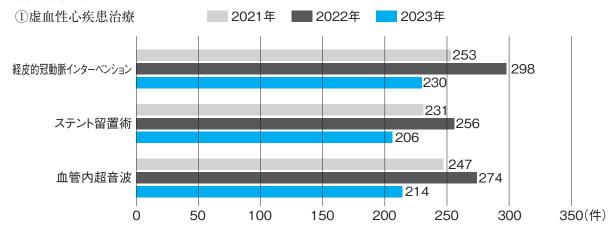
(1) 患者状況

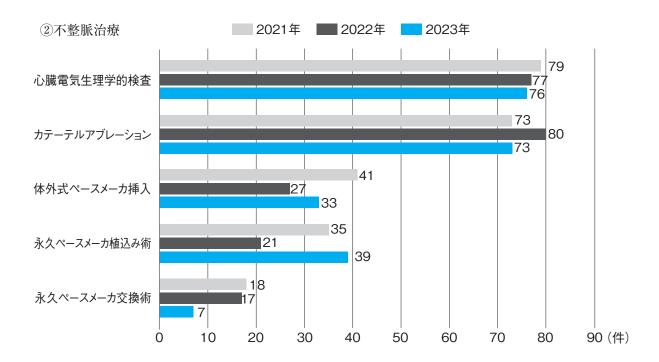
年間外来患者数19,510人年間外来新患者数1,292人年間入院患者数10,949人年間入院新患者数1,010人

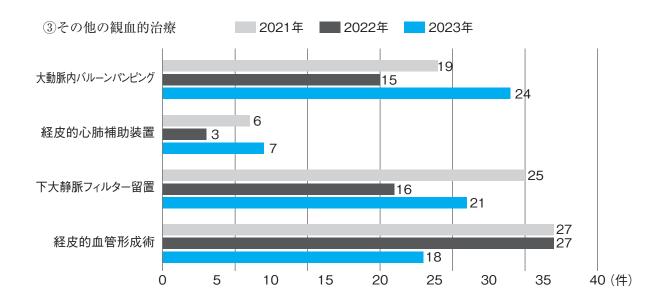
(2) 科指定4疾患

	疾 患 名	件数(件)		疾 患 名	件数(件)
1	心不全	931	4	肺血栓塞栓症	65
2	狭心症	528		計	1,653
3	急性心筋梗塞	129			

(3) 治療実績







腎臓内科

1. 概要

当科の主な診療領域は、腎炎やネフローゼ症候群の診断・治療、慢性腎臓病の指導・管理・治療、血液浄化を含む腎代替療法の提供である。

腎炎やネフローゼ症候群の診断には、名古屋大学腎臓内科の支援のもと、積極的に腎生検を行っている。2023 年は 44 件の腎生検を行い、診断・治療につなげている。慢性腎臓病に対しては管理栄養士による栄養指導を含めた生活の指導や腎不全による合併症の管理・治療を行っている。末期腎不全に対する腎代替療法としては血液透析・腹膜透析・腎移植を選択できる体制にある。通院の維持血液透析については受け入れができず、近隣の病院にお願いをしている。腎移植については移植外科と連携して対応を行っている。

また東三河地区の基幹病院として、急性腎不全に対する血液透析、各種血漿交換や免疫吸着など病態に合わせた血液浄化を行っている。これら血液浄化には看護師や臨床工学技士の協力は必要不可欠であり、病態に応じて適宜意見を交換しながら治療を行っている。

(副部長 渡邊 智治)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 10,359人 年間外来新患者数 440人 年間入院患者数 7,903人 年間入院新患者数 487人

(2) 科指定5疾患

	疾 患 名	件数(件)		疾 患 名	件数(件)
1	慢性腎不全	422	4	IgA 腎症	13
2	ネフローゼ症候群	28	5	急速進行性糸球体腎炎	7
3	急性腎不全	26		計	496

糖尿病・内分泌内科

1. 概要

当科では内分泌代謝疾患全般のうち内科領域を診療対象としている。2023 年度からは体制が一新され、常勤医師 4 名 (萩本、榊原、井出、白川)、非常勤医師 1 名 (岡嵜) にて診療を担当した。

糖尿病を含む代謝領域においてはインスリンポンプ導入症例が緩やかに増加傾向、持続血糖測定器導入数は診療報酬改定に伴い、明らかな増加傾向にあった。糖尿病看護認定看護師、糖尿病療養指導士等をメンバーに含む糖尿病サポートチームの協力のもと、引き続きフットケアや透析予防等の糖尿病教育・支援に当たった。全国糖尿病週間に合わせて新たな患者・医療関係者間の交流会を企画・実行し、盛況に終わった。

内分泌領域においては、免疫チェックポイント阻害剤やその他分子標的薬を契機とした薬剤性内分泌 障害の頻度が増加しているため、外来負荷試験が迅速かつ円滑に行えるよう環境を整備した。また、これまでと同様に、各診療科と協力して数多くの内分泌疾患の診断・治療を行った。

(部長 萩本 繁)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 20,157人 年間外来新患者数 1,167人 年間入院患者数 3,144人 年間入院新患者数 209人

脳神経内科

1. 概要

2023年のスタッフは、常勤医 5 名体制をほぼ維持できた。平良医師が内科専門医の 5 年目異動研修にて1年間、安城更生病院に異動することになったが、関連医局である名古屋大学神経内科の医局人事により、竹中宏幸先生の赴任(2023年4月~)が得られた。岩井、横井、野崎、山本の 4 人に加え、年内は 5 名体制であった。2024年1月には山本医師が他の関連病院に異動となり、1 名減となったが、外来では代務医師の増援を得られ、入院では総合内科専攻医のローテートもあり、何とか診療体制を維持できた。総入院患者数は、975人(他科からの転入含む)であった。のべ年間入院患者数は 19,026人であった。2023年の主なトピックは、以下の如くである。

- ① 脳梗塞や一過性脳虚血発作・脳出血等、脳血管障害は高齢化傾向あり、90歳前後もしばしばみられる。施設入所者の救急要請・入院も目立つ
- ② 高齢者のてんかん関連、意識障害関連の入院も目立つ
- ③ 慢性炎症性脱髄性多発神経炎の患者さん、γグロブリン維持療法反復入院は多かったが、薬剤 供給不安定となり、ハイゼントラ®への移行が一部患者さんで進んだ
- ④ 家族背景や社会的背景の難しい患者さんはやはり多く、安定後の療養先について患者や家族に早期説明をしたり、患者総合支援センターのお世話になったりしている
- ⑤ 主な入院病棟については、西病棟2階・東病棟5階・東病棟9階と三病棟体制を継続。ただし、 患者数が多い時期にはやはり十病棟程度に分散してしまった

外来の年間受診者総数は12,396人で前年の12,509人と比べて100人程度減、また初診患者数は1,455人と前年の1,531人と比べて70人程度減であった。当院脳神経内科・脳神経外科から相次いで開業された先生方も患者さん対応していただいているという印象である。月曜日は榊原健二先生、木曜日は前田憲多郎先生であったが両日ともに伊藤洋人先生(11月から月曜日は小原一輝先生)に交代、また火曜日は引き続き竹ノ内晃之先生と頼もしい非常勤医の応援を得て外来対応をしている。2024年1月から山本先生の外来は蛭薙智紀先生が非常勤医として対応する予定となった。MCR体制はあるが、紹介状持参での予約外患者もまだ目立ち、可能な範囲で対応している。

(第一部長 岩井 克成)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数12,396人年間外来新患者数1,455人年間入院患者数19,026人年間入院新患者数945人

(2) 神経難病6疾患

疾 患 名	件数(件)
パーキンソン病・パーキンソン症候群	183
多系統萎縮症	6
脊髄小脳変性症	11
筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	17
重症筋無力症	28
多発性硬化症	17

血液・腫瘍内科

1. 概要

東三河地域の中核施設として、血液悪性疾患に対する化学療法、自家および同種造血幹細胞移植、血液良性疾患に対する免疫療法や補充療法、血栓・止血疾患に対する治療など、血液疾患の治療の大部分に対応している。今年も東三河全域や静岡県西部などから、多くの患者さんが来院され、7名のスタッフで診療を行った。

疾患のほとんどは造血器腫瘍であるが、その進歩は目覚ましく、新しい治療はスタッフ全員で議論しながら積極的に取り入れている。今年は、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するエプコリタマブ、特発性血小板減少性紫斑病に対するホスタマチニブ、血栓性血小板減少性紫斑病に対するカプラシズマブなどを新たに使用した。エプコリタマブに関してはサイトカイン放出症候群や免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群など特有の有害事象があり、その対応について構築した。また、難治性疾患を中心に臨床試験や治験に多く参加し、患者さんの利益となるよう心掛けた。

造血幹細胞移植や強力化学療法などにおいては、治療の合併症が比較的起きやすいが、他領域専門職種とのチーム医療を行うことで、生活の質を下げずに速やかに外来治療に移行できるよう、今年も取り組んだ。2週間に1回の移植カンファレンスを多職種で行い、移植治療の質向上を図った。

(部長 倉橋 信悟)

総数:96件

2. 活動報告

(1) 患者状況

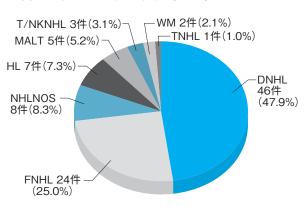
 年間外来患者数
 17,747人
 年間外来新患者数
 613人

 年間入院患者数
 18,095人
 年間入院新患者数
 977人

(2) 造血幹細胞移植

	種 類		件 数 (件)
自家移植			18
同種移植	血縁者間	同胞	5 (骨髄:3 末梢血:2)
		半合致	0
	非血縁者間	骨髄バンク	4 (骨髄:4 末梢血:0)
		臍帯血バンク	8

(3) 悪性リンパ腫の組織分類 (ICD-10 C81-C88)



略語	疾 患 名
DNHL	びまん性非ホジキンリンパ腫
FNHL	ろ胞性 [結節性] 非ホジキンリンパ腫
NHLNOS	非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型
HL	ホジキン病
MALT	MALTリンパ腫
T/NKNHL	T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型
WM	ワルデンシュトレームマクログロブリン血症
TNHL	末梢性及び皮膚T細胞リンパ腫

一般外科・小児外科

1. 概要

2023年はコロナ禍の影響というより働き方改革の一環で、科の全体カンファレンスの日程を変更したり、無理な予定手術について枠の制限を設けて組み替えたりなどを行った結果、わずかに良性疾患、早期がんなどの不要不急の手術の減少が認められた。もちろん、緊急手術、悪性腫瘍手術など延期できない手術は予定通り行った。手術総数は昨年の1,652件とほぼ同程度の1,645件であった。コロナ前の2019年の1,797件と比較するとまだ回復には至っていない。

全体を総覧すると、15歳以下の小児手術は127件(昨年117件)と若干の増加があった。一方全緊急手術は減少して242件(昨年339件)(242/1,645、14.7%)であった。緊急手術での鏡視下手術は111件で昨年の136件より減少した。なお、Withコロナでの入院ないし手術も若干例経験した。これらの患者は、入院患者2,324人中7件(7/2,324、0.3%)(昨年44件、2%)と昨年より著明に減少した。患者内訳としては、手術施行が虫垂炎の1例のみで、手術延期が1例、残りは保存治療であった。

全体の報告に戻るが、当科の対応する手術症例の対象疾患は、当院の性格上、虫垂炎(80件)(昨年115件)やヘルニア(231件)(昨年180件)といった日常的な疾患から甲状腺(7件)(昨年11件)、消化器手術(966件)(昨年884件)、乳腺(167件)(昨年188件)まで幅広い。全体として去年の実績よりは減少していた。原因は働き方改革などによる影響で生じた一時的な人員不足などが影響した可能性があったと思われる。

腹腔鏡下手術は、全全身麻酔件数中741件 (741/1,360、54.5%) (昨年659件、46.4%) と総数、割合とも増加となった。胃悪性腫瘍手術における胃癌手術(単開腹、バイパス除く)68件 (68/79件、86%) (昨年35件、44.8%、一昨年39.4%)で数、割合とも増加し、大腸悪性腫瘍手術における大腸癌手術(腸瘻、バイパス手術除く)では199件 (199/222、89.6%)(昨年126件、61.5%、一昨年59.2%)と、こちらも数、割合とも増加した。腹腔鏡下肝部分切除14件 (14/24、58.3%)(昨年8件、38.1%、一昨年53%)で総数、割合とも増加した。また腹腔鏡下膵体尾部切除は6件(6/13、46.2%)(昨年6件、50%、一昨年27%)と総数、割合とも変動なし。虫垂や成人鼠経ヘルニアの腹腔鏡下手術は、虫垂炎手術で80件、100%腹腔鏡で施行され(昨年109件、94.8%、一昨年123件95.3%)と総数が減少し割合が増加していた。腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術58件(58/205、28.3%)(昨年58件、36.5%、一昨年51件35.2%、一昨年40件22.8%)と総数は不変だが割合が減少した。臍ヘルニアや腹壁瘢痕ヘルニア、閉鎖孔ヘルニアといったその他のヘルニアに対しても積極的に腹腔鏡を用い、計11件(11/231、47.6%)(昨年4件、19%、一昨年7件29.2%)に行った。

2014年11月より直腸癌に対するロボット支援下手術を開始したが、コロナ禍で減少し、2019年16件、2020年14件、2021年4件と減少を続けたが2020年に結腸の保険収載があり、2023年は19件と盛り返した。また2015年4月から早期胃癌に対して行っているロボット支援下手術も、同様にコロナ禍で2019年の17件に対し2020年は12件と減少したが2021年には16件と持ち直し、2022年は12件と特に原因はなく再び減少し、2023年には術者の増加による影響で25件と倍増した。乳癌手術もコロナ禍の影響を受けていたが、その反動もあって昨年は177件と急激に増加したが今年は152件と減少した。(一昨年134件、2020年91件、2019年131件)。肝切除は32件(昨年39件、一昨年35件)であった。膵頭十二指腸切除は20件(昨年27件、一昨年17件)行われた。食道悪性腫瘍は昨年の37件よりさらに増加し39件となり12月にはロボット支援下手術も開始された。上部消化管潰瘍穿孔手術は13件(昨年24件)行い、うち3件(去年5件)は腹腔鏡下に行った。非手術的保存療法はわずかに4件(昨年2件)だった。腸閉塞入院は143件(昨年163件)でうち25件(17.5%)(昨年45件)に手術

が施行された。

小児外科手術は名古屋大学小児外科と連携して治療に当たっており 127 件と昨年の 117 件から増加し、このうち新生児手術はなかった。

一般外科全体の入院総数は 2,324 人で、昨年の 2,356 人とほぼ変わらなかった。平均入院期間は 11.4 日で昨年の 9.6 日より増加した。

(第一部長 平松 和洋)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数40,538人年間外来新患者数3,120人年間入院患者数25,496人年間入院新患者数2,237人

(2) 2023年1月~12月入院概要(全2,324人、平均入院期間11.4日) 未退院4人

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院期間(日)
	緊急手術	18	14.2
	予定手術	7	15.0
イレウス (143)	保存療法(補液のみ)	34	8.2
(140)	NG	1	8.0
	保存療法(胃管など)	83	11.5
	IVR	3	19.6
外傷	緊急手術	7	19.2
(23)	保存療法	12	8.0
	予定手術	1	4.0
血管系緊急	IVR	6	9.5
(塞栓・解離など)	緊急手術	1	3.0
(13)	保存治療	6	6.1
人份点法库	IVR	2	14.5
合併症治療 (感染性)(14)	緊急手術	5	40.8
	保存療法	7	20.4
	IVR	1	7.0
合併症治療	緊急手術	1	5.0
(その他)	内視鏡治療	34	5.5
(45)	保存治療	8	11.0
	予定手術	1	19.0
抗がん剤有害事象	保存治療	48	9.8
(49)	予定手術	1	9.0
	IVR	3	10.3
	緊急手術	2	40.0
その他(74)	経肛門イレウス管	1	21.0
(74)	手術中止	1	1.0
	保存治療	32	11.3
	予定手術	35	4.5
この他/亜州	緊急手術	1	9.0
l その他/悪性 (11)	保存治療	3	27.3
(11)	予定手術	7	27.8

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院期間(日)
四777時 (無格(0)	保存治療	1	12.0
甲状腺/悪性(3)	予定手術	2	5.0
甲状腺/良性(5)	予定手術	5	5.0
	緊急手術	5	4.8
 非新生児(92)	手術中止	2	1.5
非利生允(94) 	保存療法	2	4.5
	予定手術	83	2.6
	緊急手術	26	24.8
腹膜炎	内視鏡治療	1	21.0
(46)	保存治療	18 (1)	11.4
	予定手術	1	24.0
	緊急手術	10	23.9
ヘルニア	手術中止	1	33.0
(250)	保存治療	4	5.3
	予定手術	235	3.4
痔核·痔瘻(3)	緊急手術	3	15.0
	IVR	2	22.0
虫垂	緊急手術	63	7.1
(142)	保存治療	48	8.1
	予定手術	29	4.8
	緊急手術	7	13.0
胃十二指腸/	手術中止	1 (1)	6.0
良性(29)	保存治療	4	38.7
	手術予定	17	10.8
	緩和治療	4	16.0
田上一北明 /	手術中止	2	41.5
│ 胃十二指腸/ 悪性(129)	保存治療	43	15.9
,3,111 (130)	放射線治療	2	12.0
	予定手術	78	19.0

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院期間(日)
	IVR	3	9.6
	化学療法	1	5.0
	緩和治療	2	27.5
	緊急手術	38	5.5
肝胆膵脾	検査目的	1	3.0
(356)	手術中止	6	4.1
	内視鏡治療	2	9.5
	保存治療	26	12.6
	放射線治療	1	8.0
	予定手術	276 (1)	9.6
	IVR	1	7.0
	化学療法	10	7.9
	緩和治療	8	21.6
小腸·大腸/悪性	緊急手術	11	18.3
(346)	手術中止	2	4.5
	保存治療	85 (1)	15.1
	放射線治療	5	39.6
	予定手術	224	15.9
. H L.H /	緊急手術	7	19.0
小腸·大腸/良性 (78)	保存治療	18	8.0
(10)	予定手術	53	21.0
小腸・大腸/ イレウス(1)	予定手術	1	28.0

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院期間(日)
	化学療法	79	13.7
A 2% / 77 18	緩和治療	1	18.0
食道/悪性 (143)	保存治療	15	15.0
(110)	放射線治療	8	10.2
	予定手術	40	44.2
V 772 \ 72 PH	内視鏡治療	1	6.0
食道/良性 (3)	保存治療	1	25.0
(0)	予定手術	1	9.0
乳腺/その他(7)	予定手術	7	2.7
	化学療法	1	5.0
	緩和治療	1	3.0
乳腺/悪性	手術中止	1	4.0
(205)	保存治療	40	14.5
	放射線治療	5	19.0
	予定手術	157	7.0
CVポート関連	緊急手術	5	24.0
(71)	予定手術	66	3.3
生役分集上フェル	IVR	1	25.0
術後後遺症その他 (43)	内視鏡治療	1	4.0
(43)	保存治療	41	16.8

〔 〕はCovid-19並存(計4例)

(3) 一般外科·小児外科手術数(2023年) 1,645例

①一般外科	(a) 定型乳切······ 2
全身麻酔	(b)非定型乳切(Bt+Ax) ······28
脊髄麻酔 4	(c)Bt ± SLNB88
局部麻酔 281	(d)乳房温存手術 ± SLNB ······32
うち緊急242(111)	${}^{(e)}\!Tm\cdots\cdots0$
(ア)甲状腺・・・・・・ 7	(f)単乳切・他2
a 良性疾患	(ウ)食 道42
(a)部分切除······ 0	a 良性疾患
(b)葉切、亜全摘、全摘 4	b 悪性疾患39
b悪性疾患	(a)胸部食道切除······37
(a)部分切除、亜全摘、他 2	(b)その他····· 2
(b)全摘······ 1	(エ)胃・十二指腸
(c)その他······ 0	a 良性疾患28
(イ)乳 腺	(a)局所切除······4(3)
a 良性疾患15	(b)胃切除、胃全摘······ 0
摘出15	(c)体網充填······ 13(3)
腺管区域切除 0	(d)スリーブ状胃切除11(11)
b 悪性疾患 152	b 悪性疾患79

(a)幽門側胃切除48(31)	(i)胆管切除······ 0
(b)胃全摘······ 17(4)	(j)膵嚢胞手術······ 0
(c)噴門側胃切除······3(3)	(k)膵頭十二指腸切除 (PD) ······ 0
(d)胃腸吻合····· 3	(1)亜全胃温存PD ······20
(e)楔状切除/十二指腸切除4(4)	(m)膵体尾部切除 13(6)
(f) PD 0	(n)膵全摘·············1
(g)試験開腹/その他······4(1)	(o)膵部分切除······ 0
(オ)小腸・大腸	(p)膵管空腸吻合 0
a 良性疾患94	(q)脾摘······2(1)
(a)小腸切除 14(2)	(r)胃腸吻合······ 0
(b)腸瘻造設······ 4	(s)単開腹 / その他 1
(c)腸瘻閉鎖43	(夕)内分泌・・・・・・・・・・1
(d)腸吻合 3	(a)副甲状腺····· 0
(e)結腸直腸切除······8(3)	(b)副腎······· 1
(f)大腸亜全摘······ 2	(ケ)ヘルニア・・・・・・・ 231
(g)癒着剥離······ 18(1)	(a)鼡径大腿······ 205(58)
(h)経肛門/経仙骨······ 0	(b)腹壁・臍・閉鎖孔など26(11)
(i)単開腹/その他····· 2	(コ)痔核痔瘻・・・・・・・・・・4
b 悪性疾患 222	(世)局麻手術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
(a)腸瘻造設 15(4)	(a)摘出、生検27
(b)腸吻合······ 1	(b)CVポート 119
(c)小腸切除6(4)	(c)その他······ 0
(d)結腸切除 134(88)	(シ)外傷/医原性7(1)
(e)直腸切除(高位、低位) ·······48(42)	(ス)腹膜炎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(f)直腸切断14(14)	(セ)腹腔内癌再発・・・・・・・7(1)
(g)経肛門/仙骨的切除······1	(ソ)その他・・・・・・・51
(h)骨盤内臓全摘······2	(a)非悪性····································
(i)大腸亜全摘······ 0	(b)悪性······ 10(1)
(j)単開腹/その他····· 1	②小児外科(全例全身麻酔) 127
(カ)虫垂炎(虫垂 / 回盲部切除)80(80)	(ア)新生児手術・・・・・・・・・・0
(キ)肝/胆/膵/脾	(イ)鼠径ヘルニア・・・・・・ 59(3)
(a)肝部分切除······24(14)	(ウ)虫垂切除19(18)
(b)肝区域/葉切除······8(1)	(工)精巣固定15
(c)胆囊床切除····· 2	(オ)臍形成・・・・・・・・・・・・・・・・・14
(d)開腹胆嚢摘出術·····6	(カ)幽門筋切開0
(e)腹腔鏡下胆嚢摘出術······ 234	(キ)その他・・・・・・・・・・20(1)
(f)開腹胆管切開術······ 1	(夕)局麻手術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・0
(g)胆嚢摘出 + 郭清······ 0	()内はその内の鏡視下手術件数、ロボット支援下手術
(h)胆管消化管吻合······ 0	

呼吸器外科

1. 概要

当科は、東三河地区の急性期病院として、肺癌、縦郭腫瘍、気胸、胸部外傷を中心に外科診療を行っている。呼吸器とあるが、心臓、大血管を除く、胸部一般外科を扱っている。

主に手術を中心とする治療を行うが、体への負担が少ない低侵襲手術を積極的に実施している。肺癌の標準術式は肺葉切除だが、ごく早期の肺癌もしくは低肺機能の患者には、より切除範囲が小さく呼吸機能を温存できる肺区域切除や部分切除を行う。また、手術アプローチも従来行われてきた10cm以上の開胸術式から3~4cmの切開のみで行う胸腔鏡下手術までを行っている。さらにロボットを使用したより緻密な術式も採用している。より安全に、より低侵襲で、入院期間の短い手術を目指している。

毎週定期的に開催するカンファレンスでは、呼吸器内科や放射線科とともに症例検討を行い、患者さんに適切な治療を複数の医師で検討している。

(部長 平松 義規)

2. 活動報告

(1) 患者状況

 年間外来患者数
 3,484人
 年間外来新患者数
 319人

 年間入院患者数
 1,952人
 年間入院新患者数
 275人

心臓血管外科

1. 概要

先天性心疾患: NMC において 1kg に満たない小さな子たちに救命的な手術を行っている。以前より一貫して将来を見越した胸筋温存による手術を行っている。それ以外の症例については他院へお連れして手術を行っている。

成人心疾患:日々のカンファレンスなどを充実させることで、安定した治療成績を達成できている。 今後も継続していく所存です。

血管外科:胸部大動脈瘤・腹部大動脈瘤に対してステント治療を行っている。80代90代といったご 高齢の方も、短い入院期間で元気に退院されている。実施医の育成を進め、チームの充実を図りたい。 下肢静脈瘤に対して血管内焼灼手術についても安定した成績を確保している。より安全で早期回復を目 指した手術を行うよう、スタッフともども進めていく所存である。

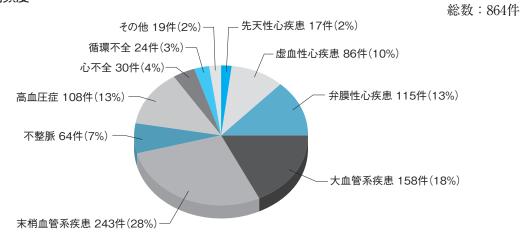
(第一部長 中山 雅人)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数3,148人年間外来新患者数151人年間入院患者数2,086人年間入院新患者数153人

(2) 疾患別頻度



移植外科

1. 概要

2010年4月より移植外科を標榜している。2012年10月からは東三河地域において唯一の腎移植認定施設となり、当地域の献腎移植登録患者の待機期間中のフォローアップは当院のみで行っている。腎移植手術、腎移植後の全身管理、退院後の外来フォローだけでなく、腎不全患者に多い副甲状腺機能亢進症に対する手術も単科で行っているのが特徴である(続発性に対する手術件数は2019年以降、全国で二番目に多い施設となっている)。日本国内だけでなく、ブラジルで移植され東三河地域に居住する患者さんの外来フォローも行っている。また、日本でもトップクラスの実績を誇る日本赤十字社愛知医療センター・名古屋第二病院や愛知医科大学と連携して診療を行っている。当科の使命は当地域における移植患者さんを長期にフォローアップしてゆくことである。

(部長 長坂 隆治)

2. 活動報告

(1) 患者状況

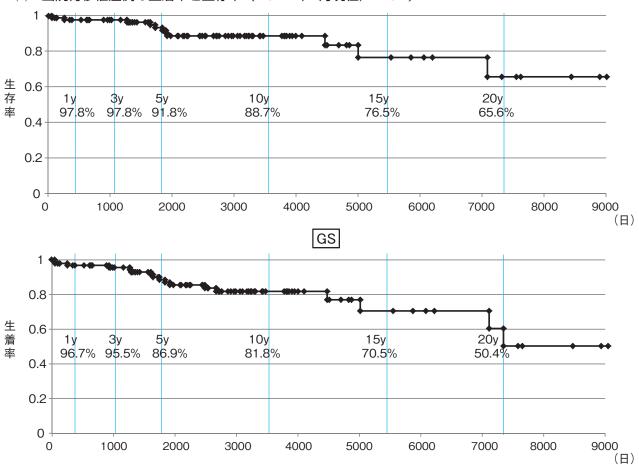
 年間外来患者数
 1,447人
 年間外来新患者数
 45人

 年間入院患者数
 631人
 年間入院新患者数
 71人

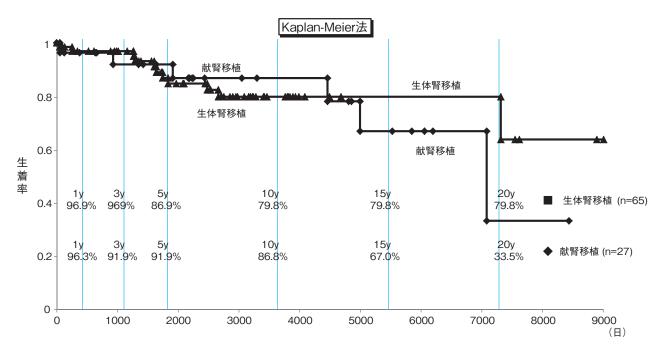
(2) 外来患者の状況

	外来種別	患者数 (人)		外来種別	患者数(人)
1	腎移植後	105	5	副甲状腺手術後	72
2	肝移植後	8	C	生体移植ドナー術後 (肝臓、腎臓、膵臓)	71
3	膵移植後	1	ь	(当院外患者を含む)	/1
4	献腎移植登録外来	106	(2024年3月31日現在)		

(3) 当院腎移植症例の生着率と生存率 (2024年4月現在, N=92)



(4) 当院腎移植症例の生着率(生体腎移植 vs 献腎移植) (2024年3月現在, N=92)



整形外科

1. 概要

2023年12月31日時点での構成は常勤医(山内、藤田、三矢聡、竹本、三矢未、桑原)と専攻医3名(伊藤、福岡、下田)である。専門外来は股関節(山内、竹本)、膝・肩関節(藤田)、上肢、骨盤外傷(三矢聡)、上肢(三矢未、桑原)が担当している。小児整形症例は毎週火曜日に古橋範雄先生に診療をお願いしている。腫瘍関連症例は全員で診療を行い、毎月1回名古屋大学整形外科腫瘍グループに骨軟部腫瘍外来をお願いしている。

東三河整形外科医会に参加し、研修及び近隣の医療機関の医師との交流に努めている。また毎月名古屋大学整形外科主催の WEB カンファレンスに参加している。

(第一部長 山内 健一)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数24,670人年間外来新患者数3,491人年間入院患者数20,320人年間入院新患者数1,064人

(2) 骨折頻度

	部位	件数(件)		部位	件数(件)
1	大腿骨	63	5	肩及び上腕	35
2	手関節及び手	45	6	足(足関節を除く)	8
3	前腕	42	7	その他	66
4	下腿(足首を含む)	37		計	296

(3) 手術実績

①手術症例件数

1,074件

②麻酔別症例件数(重複あり)

名 称	件 数 (件)
全身麻酔	210
腰椎麻酔	431
伝達麻酔	463
局所麻酔	357
その他	85
計	1,546

③分野別症例件数 (重複あり)

(ア)関節外科

a 人工関節

名 称	件数(件)
人工股関節	107
人工骨頭股関節	54
人工膝関節	20
人工肩関節	1
人工肘関節	0
人工足関節	1
計	183

b関節形成術

名 称	件数(件)
股関節	2
膝関節	0
肩関節	3
足関節	4
計	9

c 関節鏡視下手術

名 称	件数(件)
手関節	29
膝関節	22
肩関節	1
足関節	0
計	52

a+b+c 244件

(イ)手の外科

名 称	件数(件)
肘・前腕	108
手指	147
手関節	57
マイクロサージャリー	21
足趾、多合指(趾)	6
計	339

(ウ)骨軟部外傷

名 称	件数(件)
骨盤	12
大腿骨近位部	127
大腿	12
膝	31
下腿	67
足関節-足	36
鎖骨-上腕	54
抜釘	124
計	463

(エ)切断術 (手指を除く)	27件
(オ)骨髄炎・感染症	32件
(カ)腫瘍	19件
(キ)その他	69件
計	1.193件

リウマチ科

1. 概要

当科は内科的治療を基本としているが、整形外科より発展したため外科的治療も行っている。当科の診療の4本柱について記す。2023年は平野、斉藤祐樹、斎藤雄馬で診療を行ってきた。2人のリウマチ科常勤医を中心に、整形外科若手医師、当院研修医の助けも借りて診療を行った。

- ① 関節リウマチ (RA) の薬物治療: MTX を中心とした古典的抗リウマチ薬を早期から使用し、効果不十分例には生物学的製剤や JAK 阻害剤を導入し関節破壊の防止に努めている。新薬の治験も行っている。
- ② 各種リウマチ性疾患(強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、SAPHO 症候群、 分類不能の脊椎関節炎、RS3PE 症候群、炎症性腸疾患関連関節炎、好酸球性筋膜炎、血友病性 関節症): 比較的珍しい疾患群であるが対応している。疾患ごとの適切な治療を行っている。
- ③ 骨粗鬆症の診療:古典的薬剤(ビスホスホネート剤)に加え、新規薬剤(テリパラチド、デノスマブ、ロモソズマブ)が出現し、パラダイムシフトが起こっている。骨折診療の潮流は治療から予防に向かっている。
- ④ RAの外科的治療:長期罹病 RA 患者には外科的治療が必要であり、薬物治療とのコンビネーションこそが最高の結果をもたらす。人工関節置換術、関節固定術、関節形成術を行っている。

(部長 平野 裕司)

2. 活動報告

(1) 患者状況

 年間外来患者数
 11,150人
 年間外来新患者数
 197人

 年間入院患者数
 414人
 年間入院新患者数
 19人

(2) 実績

関節リウマチ患者背景		
症例数(例)		1,007
新患者数(各年))(人)	71
	男(人)	241
性別	女(人)	766
	女性率(%)	76.1
平均年齢(歳	Ē)	68.5
平均罹病期間	(年)	14.8
	2年以下	11.5
罹病期間分類(%)	3年~9年	29.2
	10年以上	59.4
	I	27.8
Stage(%)	П	14.6
	Ш	24.9
	IV	32.7
	1	48.4
Class (0/)	2	42.1
Class(%)	3	6.7
	4	2.9
RF陽性率(%)		77.8
ACPA陽性率(%)		75.4

関節リウマチ薬物治療	
MTX 投与者(例)	540
MTX 投与率(%)	53.6
投与例の平均 MTX 投与量(mg/w)	6.9
GST 投与者(例)	14
GST 投与率(%)	1.4
SASP 投与者(例)	207
SASP 投与率(%)	20.6
TAC 投与者(例)	105
TAC 投与率(%)	10.4
IGU 投与者(例)	168
IGU 投与率(%)	16.7
BUC 投与者(例)	6
BUC 投与率(%)	0.6
PSL 投与率(%)	9.3
投与例の平均 PSL 投与量(mg/day)	4.2
生物学的製剤経験者(例)	485
生物学的製剤経験率(%)	48.2

関節リウマチ臨床成績		
平均 CRP(mg/dl)		0.57
平均 DAS28(E	CSR)	2.97
	High	5.0
DAS28(ESR)	Moderate	30.7
疾患活動性分類(%)	Low	26.4
	Remission	37.9
平均 SDAI	平均 SDAI	
	High	1.0
SDAI 疾患活動性分類	Moderate	8.8
(%)	Low	25.9
	Remission	64.3
Boolean4(%)		60.3
平均 mHAQ		0.277
mHAQ<0.5(%)		75.5

手術件数	
人工膝関節全置換術(件)	7
人工膝関節単顆置換術(件)	1
人工股関節置換術(件)	0
足趾形成術(件)	3
RA 手関節手術(件)	0
足関節固定術(件)	0
その他(件)	1
合計手術件数(件)	12

nn bb		<u>.</u>
関節リウマチ患者の骨粗鬆症治療		
 骨粗鬆症治療の施行(例)	あり	459
	なし	548
骨粗鬆症治療(の施行率(%)	45.6
	エディロール	278
 ビタミンD製剤(例)	αカルシドール	46
ピクミノロ殺剤(例)	ロカルトロール	0
	デノタス	45
	アクトネル	44
	ボノテオ	138
ビスホスホネート製剤(例)	ボナロンゼリー	3
	ボンビバ	1
	リクラスト	43
CEDM (#il)	エビスタ	12
SERM(例)	ビビアント	4
	フォルテオ(投与中)	0
カケロ 制 対 (な) (フォルテオ(延べ数)	81
PTH製剤(例)	テリパラチドBS	0
	テリパラチドBS(延べ数)	3
拉DANIZI拉佐(61)	プラリア (投与中)	165
抗 RANKL抗体(例)	プラリア (延べ数)	222
持つ別 わつむ 特代(例)	イベニティ(投与中)	9
抗スクレロスチン抗体(例) 	イベニティ(延べ数)	53
その他(例)	グラケー	1

	関節リウマチ患者の通院中断	
	死亡(例)	11
連	絡無く通院中断(例)	14
	通院困難(例)	21
他医紹介	関節リウマチ以外の病気の転院に伴って(例)	6
他医稻年	遠方への転居(例)	4
	患者希望で紹介(転居通院困難以外)(例)	11
関節リウマチから他疾患に診断変更(例)		0
寛解などで終了(例)		3
その他・分類不能(例)		1
計		71

※通院中の患者数

関節リウマチ以外の患者の骨粗鬆症診療	
閉経後骨粗鬆症(例)	76
ステロイド性骨粗鬆症(例)	101
性腺機能不全による骨粗鬆症(例)	13
妊娠後骨粗鬆症(例)	1
男性骨粗鬆症(例)	12
内分泌性骨粗鬆症(例)	1
廃用性骨粗鬆症(例)	6
分類不能の骨粗鬆症(例)	2
計	212

関節リウマチ類縁疾患	累計	通院中
強直性脊椎炎	17	11
乾癬性関節炎	76	45
リウマチ性多発筋痛症	169	58
SAPHO 症候群	38	17
RS3PE 症候群	39	11
炎症性腸疾患関連関節炎	9	3
脊椎関節炎	15	10
免疫チェックポイント阻害剤による関節炎	6	3
血友病性関節症	10	9

脊椎外科

1. 概要

脊椎外科は2005年4月1日より院内標榜科として新設された。2023年は、脊椎外科医は吉原永武(部長専門医指導医)、井上太郎(副部長専門医指導医)の2人であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行い、年間200件程の手術治療を行っている。

主な疾患は、頚椎症性脊髄症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、靭帯骨化症、変性側弯症、椎間板ヘルニアであるが、当院が3次救急病院であるため、脊椎外傷の治療も精力的に行っている。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら治療を行い、必要に応じて紹介も行っている。2014年から手術室に術中ナビゲーション CT 装置(O-arm CT ナビ)を導入し、より安全性を向上させている。また、高齢化に伴い増加している骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折後の偽関節に対してはセメント治療(BKP)も行い、腰椎椎間板ヘルニアに対しては。手術治療のみでなく、神経根ブロックなどの保存治療も積極的に行い、切らずに治せる椎間板酵素注入療法も行っている。

(部長 吉原 永武)

2. 活動報告

(1) 主な対象疾患

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頚椎症性頚髄症 腰椎辷り症・分離症 頚椎椎間板 ヘルニア 後縦靱帯骨化症・黄色靱帯骨化症・黄色靱帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍 脊椎感染症 脊椎外傷 その他

(2) 手術実績

術式	件数(件)
腰椎椎弓形成術	79
脊椎固定術	62
頚椎椎弓形成術	50
椎間板ヘルニア摘出	22
胸椎椎弓切除	18
胸腰椎後方固定	15
頚椎後方固定術	14
胸椎除圧固定	8
頚椎椎間孔拡大術	8
胸腰椎前方固定	4
頚椎前方除圧固定	4
脊椎脊髄腫瘍	2
頚椎靱帯形成術	1
その他	27
計	314

形成外科

1. 概要

形成外科は体表の変形や欠損について、機能的により正常に、形態的により美しくなるよう改善を目指す診療科である。形成外科で扱う疾患は多岐にわたるが、当院では皮膚・皮下の良性腫瘍や母斑などの皮膚外科領域、眼瞼下垂症・睫毛内反症・眉毛下垂症などの眼の形成外科領域、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイドなどのきずあとの形成外科領域を特に多く扱っている。また外来にQスイッチルビーレーザーおよび炭酸ガスレーザーを設置しており、レーザー照射療法にも対応している。

眼瞼下垂症では主に眼瞼挙筋を修復する方法と眉毛下の皮膚を減量する方法を症例に応じて選択している。睫毛内反症は仕上がりがより自然な下眼瞼下制筋前転法の手術も行っている。顔面神経麻痺などによる眉毛下垂症では、必要に応じて腱膜性眼瞼下垂の手術を先に行うことで、眉毛挙上手術の皮膚切除量を減らす方法も行っている。また露出部の目立つ異所性蒙古斑等に対して、Qスイッチルビーレーザーでの治療を行っている。このレーザーは外傷性刺青などにも効果がある。治療前に麻酔の貼り薬を使用することでレーザー照射時の刺激がやわらぐようにしている。その他、副耳・耳垂裂・耳瘻孔などの耳の疾患や、合指症・多指症・多合指症などの手足の疾患、腋臭症・臍突出症・陥入爪などといった全身のさまざまな体表の疾患についても診療している。

(部長 山本 将之)

2. 活動報告

(1) 患者状況

 年間外来患者数
 1,506人
 年間外来新患者数
 279人

 年間入院患者数
 25人
 年間入院新患者数
 7人

脳神経外科

1. 概要

当科では新生児から超高齢者まで脳神経外科疾患のほぼ全ての領域(脳血管障害、脳腫瘍、外傷、先天性疾患、感染など)を対象としている。スタッフは現在8名(うち1名は地域医療支援のため他院に常時派遣のため実働7名)である。治療においては、高侵襲な手術から血管内治療や神経内視鏡手術などの低侵襲かつ最先端の治療を導入して可能な限り当院にて治療が完結できるよう努めている。手術件数のうち血管内治療は年々増加の一途をたどり、特に急性期の血栓回収療法の増加が顕著である。

脳卒中においては2019年に施行された「脳卒中・循環器病対策基本法(略)」に基づき、脳神経内科と連携・協力して脳卒中ユニットを設置し、2020年度には一次脳卒中センターの認定を、2022年度からはより高次のPSCコア施設の認定を受けている。需要が高まる血栓回収療法を中心に緊急かつ高度な医療の提供に努めている。

また地域医療では「穂の国脳卒中地域連携パス」を通じて、急性期から回復期および維持期医療への円滑な地域連携を図っている。今後も東三河地域の関連施設間で検討・改訂を行い、さらに良好な連携関係の構築に努めたい。

人口構造が大きく変化していく時代の中で、スタッフ一同、迅速・安全・確実な診療を心掛け、地域の皆様に信頼され広く親しまれる病院を目指して努力する所存である。

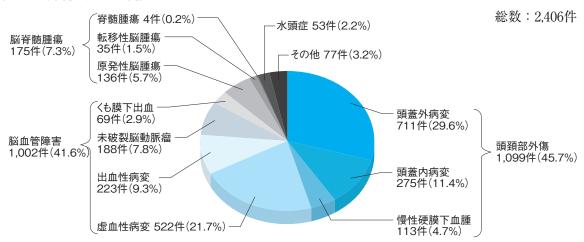
(第一部長 若林 健一)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 13,020人 年間外来新患者数 1,703人 年間入院患者数 14,879人 年間入院新患者数 806人

(2) 疾患群別に見た症例数



(3) 血管内手術件数

術式	件数(件)
経皮的血管形成術	57
急性期再開通療法	59
脳動脈瘤塞栓術	48
硬膜静脈瘻塞栓術	10
脳動静脈奇形塞栓術	1
その他の血管内手術	29
計	204

小児科

1. 概要

当院小児科は東三河地域の小児科医療三次病院として昼夜を問わず活動している。小児科内のサブスペシャリティとしてはアレルギー疾患、神経疾患、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患、血液腫瘍疾患をカバーし、高度特殊医療を除けば各分野ともに専門施設と比べても引けを取らない医療レベルを提供できている。また、患児に最善の医療を提供するよう、各分野で対応困難な症例については専門施設との連携をとって対応している。最近ではあいち小児保健医療総合センターを中心とした愛知県小児重症患者相談システムも充実したため、ドクターヘリやドクターカー等を利用して広域の搬送を行うことが増えた。治療のため一度は東三河を離れた患児たちは、高度の医療を受け、状態が改善した後再び当院に戻って治療を継続してゆく。

2023年は新型コロナウイルス感染症の流行は継続したが、指定感染症2類相当から5類へと変更になった。そのため受診控え・健診控えは減った。変更後通常生活に戻ったため、5月から7月はRSウイルス感染症、夏の溶連菌・ヘルパンギーナ、秋からのインフルエンザなど半年でかなり多彩な感染症の流行があった。この間第9波・10波のコロナ感染症流行もあったが、小児に関してはオミクロン株およびその系統のため重症化はほとんどなかった。2024年の春を迎えて子供たちへの感染症の洗礼は一巡して落ち着きつつある。

(第一部長 村松 幹司)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数27,617人年間外来新患者数2,618人年間入院患者数15,977人年間入院新患者数2,122人

(2) 入院患者疾患別頻度

小児科 (新生児部門)

1. 概要

豊橋市民病院新生児医療センターは、東三河地区における総合周産期母子医療センターに指定されている。2023年の入院数は460例であった。入院患者のうち117例は院外出生例で、小児科医師や看護師が救急車に同乗して搬送しており、診察依頼があった新生児に対し24時間体制で集中治療を提供している。2021年4月からは日勤帯のみではあるがドクターカーを導入、2023年より搬送用人工呼吸器を導入し、より迅速・安全な搬送体制を構築中である。また本年は近隣の産科クリニックと当院小児科・産婦人科合同でWebによる症例検討会を2度開催し、新生児の予後改善を目指すとともに病診連携の強化に努めた。入院患者とその家族に対しては、医療面はもちろん、患児発達支援や、両親の心のサポートを医師、看護師、助産師、理学療法士、公認心理師、医療ソーシャルワーカー等多職種で協同して提供している。加えて当センターは周産期(新生児)専門医の基幹研修施設に指定されており、現在3名が新生児専門医取得に向け研修中である。

(第一部長 村松 幹司)

(文責 第二部長 杉浦 崇浩)

2. 活動報告

(1) 活動報告 (人)

NMC 入院数	460	極低出生体重児数	31
院外出生児入院数	117	超低出生体重児	15
死亡者数	1		

産婦人科

1. 概要

2022年より里帰り分娩の受け入れ再開し若干分娩数が増加、2023年も同水準を維持した。当院への 里帰り希望する妊婦はハイリスク症例も多く、2021年までに比して2022年、2023年は多胎及び1000 g未満、1500g未満の極低出生体重児、極低出生体重児の出生数はほぼ倍増した。

婦人科手術についてはロボット支援下手術の症例数が昨年よりさらに増加した。婦人科悪性腫瘍においては子宮頸癌、体癌に新たに免疫チェックポイント阻害剤が保険適応となり多数の症例に治療を行った。また癌遺伝子パネル検査も積極的に行っている。卵巣癌を契機に診断される遺伝性乳癌卵巣癌患者については、血縁者の遺伝カウンセリング体制や癌未発症者の予防的卵巣卵管切除術を行える体制も整備した。

多数の手術を行う中、悪性手術が優先されるが、子宮筋腫、子宮内膜症などの良性疾患においては挙 児希望のある患者には、早期に不妊治療に移行できるよう、待機期間が長くならないよう配慮している。 また以前より当院では総合生殖医療センターと連携し生殖~周産期へと一貫した治療を目指してい たが、プレコンセプションケア・カウンセリングの概念も広がり、近隣のクリニックからのカウンセリ ングの依頼も応需している。

(第一部長 岡田 真由美)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 36,832人 年間外来新患者数 2,631人 年間入院患者数 17,294人 年間入院新患者数 2,329人

(2) 実績

手術総件数 (2023.1-12) (件)

産科
帝王切開術432
うち前置胎盤を伴う帝王切開術 19
分娩後子宮全摘術3
会陰部裂傷縫合・腟壁血腫除去術 11
子宮頸管縫縮術5
羊水穿刺7
胎盤用手剥離1
開腹術 (良性)
単純子宮全摘出術(腟上部含む) 32
筋腫核出術
子宮付属器手術 19
その他
開腹術 (悪性)
子宮悪性腫瘍手術39
うち広汎子宮全摘術 17
子宮付属器悪性腫瘍手術 40
その他(試験開腹術含む)4
経腟的・外陰部手術
経腟的子宮全摘術13
経腟的子宮筋腫核出術3
円錐切除術 (蒸散含む) … 76
子宮内膜全面掻把術 15
子宮内容除去術(流産 + 人工妊娠中絶) 37
うち子宮内容除去術 (流産手術) 22
うち子宮内容除去術(人工妊娠中絶術)…15
胞状奇胎娩出術4
その他
内視鏡手術
子宮鏡手術
腹腔鏡(補助)下子宮悪性腫瘍手術 15
うち子宮頸癌 11
うち子宮体癌3
うち卵巣癌1
うち広汎子宮全摘術7
うち拡大子宮全摘術2
腹腔鏡(補助)下子宮全摘術(良性)… 52
腹腔鏡(補助)下子宮筋腫核出術 10
腹腔鏡(補助)下子宮付属器手術133

産婦人科悪性腫瘍治療症例数(2023.1-12)(件)

◎子宮頸癌····· 計40例	◎卵巣癌手術(境界悪性腫瘍を含む)… 計28/	例
① 初回手術 22	I A期 ······	.5
I A1期 ·······1	I B期 ······	1
I A2期 ······2	I C1期 ······	11
I B1期 ······4	I C3期 ······	2
I B2期 ······2	ⅢA1期 ······	·1
I B3期 ······6	ⅢB期 ······	·1
ⅡA1期 ·······1	ⅢC期 ······	•4
II A2期 ······2	IVB期 ······	.3
ⅢC1期 ·······3		
ⅢC2期 ·······1	化学療法	
② CCRT(同時化学放射線療法 放射線科	子宮頸癌 505コース	
と共同治療) 15	子宮体癌 349	
II A1期 ······2	卵巣癌 457	
II A2期 ·······1	腹膜癌 24	
ⅡB期 ······1	卵管癌 16	
Ⅲ A期 ·······1	肉腫 51	
ⅢB期 ······1	その他 36	
ⅢC1期 ······3	計 1,438コース (延べ)	
Ⅲ C2期 ······3		
IV A期 ······1		
IVB期 ······2		
③ 放射線療法 (主に放射線科で治療)3		
IV A期 ······2		
NB期 ······1		
◎子宮体癌(子宮肉腫含む) … 計77例		
① 初回手術 75		
1A期 37		
1B期 21		
Ⅲ A期 ·······4		
ⅢB期 ·······1		
ⅢC1期 ······3		
ⅢC2期 ······6		
IVB期 ······3		
② 放射線療法 (主に放射線科で治療)2		
1B期 ······1		
Ⅱ期1		

分娩統計(2023.1-12)(件) 正常……357 コロナ陽性正常分娩………5 選択帝王切開……206 コロナ陽性選択帝王切開………4 緊急帝王切開………172 コロナ陽性緊急帝王切開…………1 超緊急帝王切開………6 鉗子………1 吸引------ 31 死産骨盤位経腟分娩………1 自宅分娩…………1 未受診正常……4 未受診超緊急帝王切開……………1 未受診自宅分娩…………1 双胎選択帝王切開……… 23 双胎緊急帝王切開………………… 14 品胎選択帝王切開………1 品胎一児 IUFD 緊急帝王切開 ………1 計………830 中期中絶………9 中期流産………9 中期中絶 D&C ······1 中期中絶帝王切開………1 双胎中期中絶……………1

母体搬送…………199

産婦人科 (生殖医療)

1. 概要

2023 年は前年に引き続き COVID-19 が猛威を振るい、概ね 10 名に 1 名が採卵術や胚移植術を直前にして感染等により中止、そして 2~3 か月程度の延期を余儀なくされた。院内の感染対策により生殖医療中の患者さん相互の院内感染は防ぐことができている。前年 4 月からの先進医療を併用した保険適用拡大は当院では滞りなく実施できている。先進医療については、国内屈指の 4,000 例超の実績を重ねてきた「タイムラプス撮像法による胚培養法」と、同じく早期より多数例を取り組んできた「超高倍率精子観察法」といった「見える化」に重点を置いている。加えて、着床不全や流産は女性のみに原因があるという考え方が我が国ではずっと主流であったが、当院では男性の加齢、肥満、喫煙歴の関与が無視できないくらい重要であることに、難治性不妊症を多く扱う中で早くから着目していた。このたび、世界保健機関(WHO)が有効と認めたハロースパーム法という「見える化」して患者さんにも分かりやすい精子 DNA 断片化検査法(自費診療)を採用した。従来、不妊が男性に起因することが約半分といわれてきたが、精子の有力な質的検査が初めて加わり、プレコンセプション(妊娠前)の段階から男性も取り組むべき課題を医療の中でも示すことを当科では積極的に行っている。

(部長 安藤 寿夫)

2. 活動報告

(1) 生殖補助医療(全年齢)

(例)

2023年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	11	10	7	3	1	9	6
2月	19	13	8	8	4	5	2
3月	8	8	3	5	1	8	4
4月	4	3	2	2	1	4	1
5月	7	6	5	3	2	9	2
6月	10	10	6	4	0	4	0
7月	7	4	2	3	3	10	0
8月	11	10	8	4	1	7	1
9月	8	7	5	3	0	6	2
10月	14	11	6	10	4	8	1
11月	6	5	5	4	0	4	1
12月	8	7	5	4	0	8	0
計	113	94	62	53	17	82	20
妊娠率					32.1%		22.4%

単胚移植率 100%。一卵性二胎 1 例。

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との 単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

当院データには、地域の難治性症例や高年齢症例がより多く含まれています。

(2) 不妊症妊娠例 (カッコ内は多胎妊娠例) (例)

区分	件数
体外受精 – 新鮮胚移植	17 (0)
融解胚移植	22 (1 💥)
排卵誘発	0 (0)
人工授精	1 (0)
習慣流産	1 (0)
タイミング法・その他	11 (0)
計(重複例を除く)	51 (1)

※単胚移植後の一卵性双胎

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との 単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

当院データには、地域の難治性症例や高年齢症例がより多く含まれています。

女性内視鏡外科

1. 概要

産婦人科における手術治療のうち、主に腹腔鏡下手術やロボット支援下手術に関わる診療を担当している。従来の開腹術と比べ、早期退院、社会復帰が可能であり患者にとって負担が少ない手術法である。2023年には、約250件の腹腔鏡下手術を行い、ロボット支援下手術は250件施行した。良性疾患だけでなく、悪性腫瘍疾患に対しても積極的に本術式を導入し、子宮体癌や子宮頸癌に対する低侵襲手術を行った。

2020年度からは、骨盤臓器脱に対してロボット支援下仙骨腟固定術が保険適応となり、従来からの腹腔鏡下手術と比較して、より精密な手術が可能となった。また、日本で4か所目のロボット支援下手術認定証発行施設であり、全国から多くの医師が手術見学のため来院している。当院は、東三河唯一の産婦人科内視鏡技術認定医研修施設であり、多くの若手医師が技術認定医を目指して日々修練している。技術認定医の資格を得るには数多くの腹腔鏡下手術の件数やビデオ審査があるが、当院から多くの合格者を輩出している。

現在、腹腔鏡下手術やロボット支援下手術の指導者として全国多岐にわたり、講演や手術技術指導を 行っており、今後もさらなる低侵襲化手術の普及に努める。

(部長 梅村 康太)

耳鼻いんこう科

1. 概要

中耳炎、めまい、難聴、顔面神経麻痺に対して投薬治療を行い、改善を認めない場合は当院にて外科 的治療を行っている。また、耳鳴り専門外来を設置し、専門的な治療を行っている。

アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症に対して、患者の病態や希望にあった治療(手術療法や 投薬治療)を行った。慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群に対して、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術 を行った。また鼻出血、急性扁桃炎、喉頭蓋炎等の救急疾患については、重症度に合わせて入院治療を 行った。咽頭・喉頭・甲状腺・唾液腺等の良性腫瘍に対しては、適応を定めて手術療法を行った。悪性 腫瘍に対しては、それぞれの患者の状況に合わせて、根治と機能温存のバランスを取り、手術療法、化 学療法、放射線療法の3者を組み合わせて治療を行った。再建を必要とする様な症例も積極的に当院で 行った。

(部長 小澤 泰次郎)

2. 活動報告

(1) 患者状況

 年間外来患者数
 26,013人
 年間外来新患者数
 3,037人

 年間入院患者数
 9,090人
 年間入院新患者数
 882人

(2) 入院患者の状況

①主な救急疾患 (入院加療を要した)

疾患名	件数(件)
急性扁桃炎・扁桃周囲の腫瘍	95
急性喉頭蓋炎・喉頭炎	20
顔面神経麻痺	15
めまい	14
突発性難聴	12
鼻出血	4
計	160

②主な手術療法 (手術室使用)

術式	件数(件)
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術	155
内視鏡下副鼻腔手術	76
甲状腺腫瘍手術	74
リンパ節摘出術	61
気管切開術	47
頸部郭清術	36
鼓膜チューブ留置術	31
喉頭微細手術	26
耳下腺腫瘍手術	19
咽頭悪性腫瘍手術	14
顎下腺摘出術	6
喉頭全摘術	6
計	551

眼科

1. 概要

白内障手術においては、乱視矯正のためのトーリック眼内レンズ、保険適応眼内レンズのうち、単焦点以外にも、低加入度数分節型、高次非球面単焦点レンズの使用が適応のある方にすすんだ。今後、選定療養であるが、単焦点拡張型、3 焦点、連続焦点型の使用も見込まれる。他職種スタッフの協力もあり、日帰り白内障手術、当日入院白内障手術もすすんだ。

緑内障手術、硝子体手術においても大学病院の協力等もあり、低侵襲手術等がすすんだ。

加齢黄斑変性、未熟児網膜症等の治療に使用する眼科用血管内皮増殖因子阻害剤の種類も増え、治療の選択肢が増加した。

今後、無散瞳、非接触で広角撮影可能な眼底カメラの使用等により、待ち時間短縮、散瞳検査難の方のための検査にも役立つと考えられる。

大学病院等の専門病院、近隣の医療機関ともさらに連携を深め、より良い医療を提供していきたい。 (副部長 榊原 由美子)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数18,198人年間外来新患者数1,529人年間入院患者数4,268人年間入院新患者数841人

(2) 入院時の疾患内訳

疾患名	人数(人)	疾患名	人数(人)
白内障	484	眼内炎	4
網膜剥離	84	眼内レンズ脱臼	4
黄斑前膜	65	視神経症	4
硝子体出血・混濁	56	外傷・眼球破裂	3
緑内障	35	硝子体脱出	2
黄斑円孔	28	内反症	2
糖尿病網膜症	28	ぶどう膜炎	2
增殖硝子体網膜症	10	黄斑硝子体牽引症候群	1
斜視	5	角膜潰瘍・角膜炎	1
無水晶体眼	5	眼筋炎	1
黄斑下出血	4	眼瞼腫瘤	1
角膜穿孔 4		眼内異物	1
		計	834

(3) 手術・検査数

①外来手術数

術式	件数(件)
硝子体注射・テノン嚢下注射	525
網膜光凝固術(PHC)	138
レーザー後発白内障切開術(YAG)	62
レーザー虹彩切開術(LI)	17
涙点プラグ挿入	13
霰粒腫摘出術	4
レーザー線維柱帯形成術(LTP/SLT)	2
計	761

②外来特殊検査件数

検査名	件数(件)
光干渉断層撮影 (OCT)	8,546
動的量的視野検査	707
静的量的視野検査	466
蛍光眼底撮影	200
眼鏡処方	161
計	10,080

③手術センター手術数

術式	件数(件)
白内障手術	778
硝子体茎顕微鏡下離断術	267
縫着レンズ挿入	36
流出路再建術	19
增殖性硝子体網膜症手術	14
濾過胞再建術	13
硝子体切除術	12
網膜復位術	12
前房、虹彩内異物除去術	9
翼状片手術	9
斜視手術	8
角膜・強膜縫合術	5
霰粒腫摘出術	5
硝子体置換術	5
緑内障治療用インプラント挿入術	4
結膜肉芽腫摘除術	3
結膜囊形成手術	3
黄斑下手術	2
虹彩整復・瞳孔形成術	2
角膜・強膜異物除去術	2
内反症手術	2
眼瞼腫瘤切除術	1
眼瞼下垂症手術	1
虹彩切除術	1
計	1,213

皮膚科

1. 概要

2023 年の皮膚科は山田、藤城、須貝、野田、近藤、神谷の6名体制であった。入院診療は蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症が依然として多かった。また、悪性腫瘍も多く、手術や化学療法を行った。さらに、水疱性類天疱瘡などの自己免疫性水疱症も多く、ステロイドの投与や γ グロブリン大量療法を行った。外来診療ではアトピー性皮膚炎の治療にヤヌスキナーゼ阻害剤や生物学的製剤が使用されるようになってきて、重症例のアトピー性皮膚炎が内服や皮下注射で非常に良くコントロールできるようになってきた。

(部長 山田 元人)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 23,191人 年間外来新患者数 2,362人 年間入院患者数 3,730人 年間入院新患者数 333人

(2) 悪性新生物

	疾 患 名	件数(件)		疾 患 名	件数(件)
1	有棘細胞癌	42	4	乳房外パジェット病	5
2	基底細胞癌	41	5	その他	46
3	悪性黒色腫	15		計	149

(3) 良性腫瘍、熱傷、自己免疫疾患

	疾 患 名	件数(件)		疾 患 名	件数(件)
1	良性腫瘍	745	6	皮膚筋炎	11
2	熱傷	102	7	シェーグレン症候群	7
3	水疱症	47	8	全身性エリテマトーデス	4
4	血管炎	41	9	混合性結合組織病	1
5	全身性強皮症	13		計	971

泌尿器科

1. 概要

近年の東三河地区の医療機関における泌尿器科の診療拡大と COVID-19 感染症の影響によって落ち着いていた診療状況も COVID-19 感染症状況の鎮静化に伴い徐々に以前の状況に戻りつつある。泌尿器悪性腫瘍に対する低侵襲手術はロボット下支援手術、腹腔鏡下手術を中心に相変わらず月単位の手術待機をお願いする状況である。

泌尿器科においてロボット支援下手術はがん治療において標準治療になり、腹腔鏡下手術、開腹手術と並んで当科における日常的な手術の一つとなっている。また分子標的薬や免疫チェックポイント阻害 剤等の新規薬剤を含むがん薬物療法の症例も増加の一途をたどり、泌尿器科悪性腫瘍の分野においてよりよい医療を提供する努力を引き続き続けている。加えて尿路結石や排尿障害など泌尿器科特有の疾患の治療に対しても積極的に取り組んでいる。

(部長 寺島 康浩)

2. 活動報告

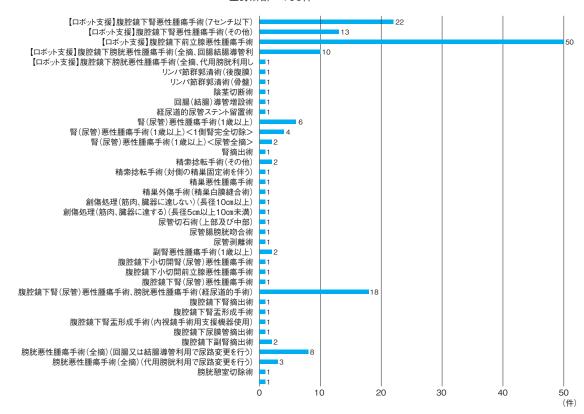
(1) 患者状況

 年間外来患者数
 24,239人
 年間外来新患者数
 1,785人

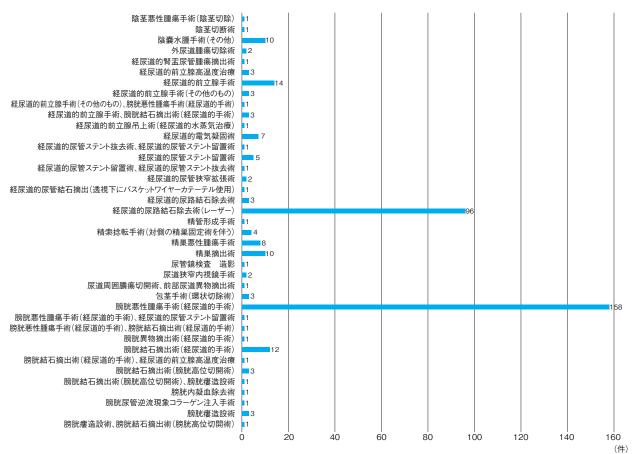
 年間入院患者数
 9,475人
 年間入院新患者数
 1,130人

(2) 麻酔から見た術式

全身麻酔 166件



脊椎麻酔 370件



放射線科

1. 概要

2023年1月は高田、伊藤(淳二)、山田、島本、伊藤(準)、佐藤の6人であった。2023年3月に山田、佐藤が異動し、4月から宮内、小木曾が赴任した。9月に伊藤(準)が異動し、10月に佐々木が赴任した。2023年12月の時点では、高田、伊藤(淳二)、宮内、島本、小木曾、佐々木の6人で診療している。画像診断は高田、島本、小木曾、佐々木の4人、放射線治療は伊藤(淳二)、宮内の2人が担当している。

2023年の業務実績は、読影が 40,424件 (CT 28,590件、MRI 10,006件、アイソトープ 654件、PET-CT 1,174件)であった。その他、血管造影・IVR 181件 (心臓血管外科、循環器内科共同の大動脈ステントグラフト内挿術 24件含む)、甲状腺機能亢進症に対するヨード内用療法 3件、去勢抵抗性前立腺癌の骨転移に対する塩化ラジウム治療 3件、放射線治療の新患 473件であった。

5月より日勤帯の救急外来の検査の読影を開始した。8月より RFA を開始した。血管造影室 2番の血管造影装置の更新のための機種の選定を行った。放射線治療部門では、肝細胞癌・肝転移に対する定位照射において、消化器内科と連携し金マーカーを留置し、呼吸追尾照射を開始した。

(部長 高田 章)

2. 活動報告

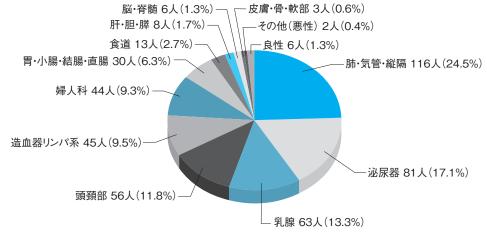
(1) 患者状況

 年間外来患者数
 14,724人
 年間外来新患者数
 1,164人

 年間入院患者数
 0人
 年間入院新患者数
 0人

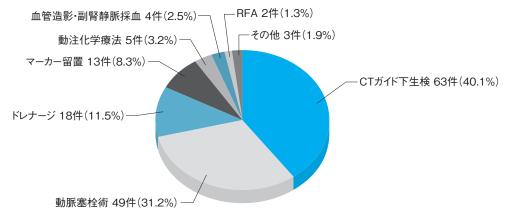
(2) 放射線治療 原発巣別新規患者数

総数:473人



(3) 血管造影·IVR 手技別件数

総数:157件



こころのケア科

1. 概要

当院こころのケア科は、現在外来診療は行っておらず、診療対象は入院患者となっている。

業務の主な内容は、1) 入院中の患者に対する精神科的副科業務 2) 緩和ケアチームの一員として、精神的ケアが必要な緩和ケア患者へのメンタル面でのサポート 3) 認知症チームの一員としての活動、の三点である。例年最も多いのが、せん妄への対応であるが、不眠・抑うつ・不安などの精神症状に対しても依頼があれば対応している。

精神科入院病棟は当院にはないが、自殺企図によって身体科での集中的な治療が必要になり当院入院となった患者には可能な範囲での入院中の診察、投薬、退院後の通院先の紹介等の対応も行っている。 また、もともと精神疾患のある方が、身体疾患治療のため当院入院となる場合も、その間の診察・処方調整・かかりつけ医への報告などの対応を行っている。

緩和ケアチームの業務としては、週1回のカンファレンスと回診、それ以外でも依頼があれば随時対応する。当院で年2回開催される緩和ケア講習会にも、コミュニケーション領域の講師として参加している。

認知症チームとしては週1回の回診に同行し、処方や対応の助言を行っている。認知症患者対応マニュアルもチームとして作成した。

豊橋市手話通訳者の頚肩腕症候群検診が 2022 年より当院で開始されたが、そこではメンタル領域での評価に協力している。

2023年の当科の大きな変化といえば、念願が叶い、公認心理師が専属の常勤職員として当科に配属されたことである。現在、心理師が医師とともに病棟をまわっており、これにより、患者の精神的苦痛にいっそう寄り添ったケアが可能になると考えている。

こころのケア科の活動には、院内院外を問わず各部門部署との連携が必須であり、今後も連絡を密にしていきたいと考えている。

(部長 古水 克明)

2. 活動報告

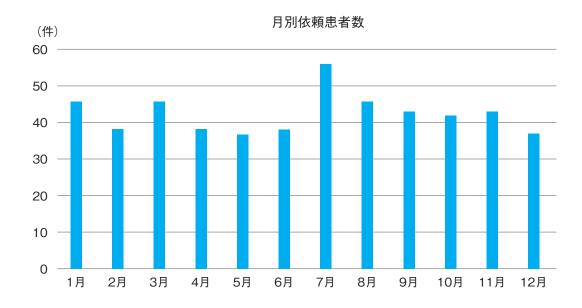
(1) 活動報告

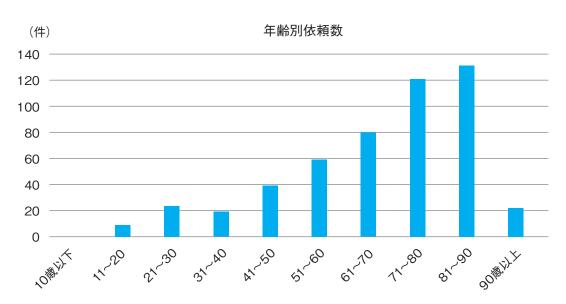
2023年に対応した副科診察依頼(初診)は総計510件で、ほぼ横ばいである。依頼元の科は、院内のほぼすべての科にわたっている。

依頼の男女比は、やや男性が多く、男性 287 人、女性 223 人となっている。

年齢別では60代から入院患者が急増し、70代、80代がそれぞれ100人以上である。90歳以上の依頼も22件あった。依頼の内容はせん妄対応が大部分であり、高齢入院患者のせん妄リスクは高い。入院患者の高年齢化が進む中、病院としてせん妄の予防・対応力を上げていくことが、ますます望まれている。

精神科診断としては、上述のように、せん妄(及びせん妄の症状としての不穏)が最も多い。そのほかに本年に対応した病名としては、統合失調症などの精神病圏、うつ病・双極性障害など気分障害圏、適応障害・パニック障害・不安障害など神経症圏、認知症・器質性精神障害など、多岐にわたっている。また地域の中核急性期病院として当院の性質上、自殺企図で運ばれてくる患者にも多く対応している。





(2) 当科関連企画

●令和5年度 第1回 認知症研修会 2023年6月29日開催 『認知症患者が眠れない・落ち着かない時の対応と薬物療法について』 講師 こころのケア科部長 古水克明

●Health up Seminar 健康講座 (安全衛生委員会主催)
 2023年9月14日開催
 メンタルヘルスに関する講話 こころのケア科部長 古水克明
 『セルフケアについて』
 リラクゼーション体験 講師 こころのケア科公認心理師 宇井ひかる

●著作(寄稿)

『「こころ」や「精神」を医学する「精神医学」とは何か?』 「精神科医キャリアとプロフェッショナリズム」の項 明智龍男編 中外医学社 2023年7月刊

麻酔科(ペインクリニック)

1. 概要

4月に他院からの短時間勤務者の異動が1名あり、人員数は1名増えた。前年に2名減った影響は幾分緩和された。標榜医を持ちフルタイム勤務できる麻酔科医は8名で変化なかった。

年間の総手術件数は 8,039 件であり、感染症による手術自粛の影響は減ってきた。全身麻酔件数は 3,996 件であった。麻酔科管理症例は 3,390 件であり、そのうち麻酔科管理の全身麻酔は 3,046 件であった。麻酔科管理症例数は増加し、しかも高齢化に伴うハイリスク症例が増え続けており、麻酔難易度は 大きく上がった。麻酔科管理の緊急症例は 505 件だった。特に超緊急手術には FullPPE での対応が必要であり、担当麻酔科医の負担は非常に大きかった。また一件当たりの手術時間は増え続け、さらに延長手術が多すぎて手術室運営を大きく阻害している。従来から行っていた看護大学への講義や呼吸器ケアと研修センター業務や緩和ケアに加え、手話を必要とする患者の健診への協力や発熱外来の負担が増えた。今後麻酔以外の業務をできるだけ縮小し麻酔に注力する予定である。11 月で発熱外来が終了し負担が減ったのは僥倖である

2024年4月には他院への異動が1名あるが、当院研修医からの入局者が1名あるため人員数に変動はない予定である。

(第一部長 寺本 友三)

リハビリテーション科

1. 概要

リハビリテーション科の診療は、リハビリテーションセンターと院内各病棟で行っている。

外来診療は、市内の病院・医院では行っていない心大血管障害や小児の運動・言語発達遅滞及び神経 難病が主な対象疾患である。また、当院入院中のリハビリを外来で継続する場合もある。

入院診療では、脳血管疾患リハビリ、運動器リハビリ、心大血管疾患リハビリ、呼吸器リハビリ、廃 用症候群リハビリ、がん患者リハビリ、摂食機能療法を行っている。また新型コロナウイルス感染症 に対しても急性期からのリハビリ対応を実施してきた。以上のような各疾患別のリハビリに加え、ICU の入室患者に対する、多職種と協力して行う早期からのリハビリテーション介入や、病棟専従の療法士 による、一般病棟入院患者の日常生活活動の維持・向上を目的としたリハビリ指導も行っており、これ らの業務は今後拡張する予定でいる。

当院の診療は急性期リハビリが中心であり、地域連携パスを通じて回復期リハビリ病棟を持つ病院に 転院できるシステムが整えられている。

(部長 山内 健一)

2. 活動報告

(1) 患者状況

 年間外来患者数
 3,623人
 年間外来新患者数
 32人

 年間入院患者数
 0人
 年間入院新患者数
 0人

病理診断科

1. 概要

病理診断科は生検や手術検体の病理組織診断、術中迅速診断、細胞診検査、病理解剖を行っている。 また病理診断科を選択した研修医の実習・教育および臨床各科から依頼された学術報告への協力、院内 カンファレンス参加も同時に行っている。これらの業務を常勤病理医2名と非常勤病理医6名で行った。 非常勤病理医は名古屋大学から2名、浜松医科大学から2名、藤田医科大学から1名、愛知医科大学から1名派遣された。

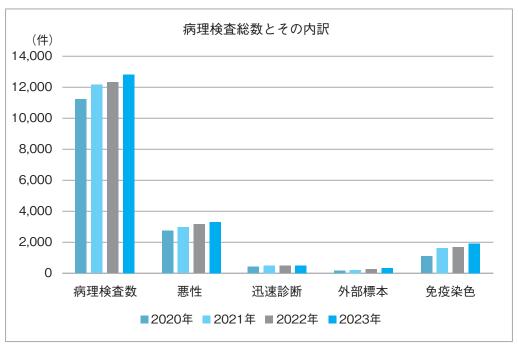
2023 年病理組織検査依頼件数は 12,795 件で、そのうち術中迅速診断は 585 件であった。細胞診検査の依頼件数は 8,081 件だった。病理解剖は 15 件で、定期的に CPC を開催し、臨床各科を交えて症例の診断・治療、病態・死因についての詳細な検討を行った。 CPC は研修医の教育の場としても重要で、1年目研修医が担当し症例の発表・報告を行った。提示症例は貴重例が多く、教育的効果は大きいと考える。さらに剖検診断結果は日本病理学会が刊行している日本病理剖検輯報に掲載され、広く医学に貢献している。

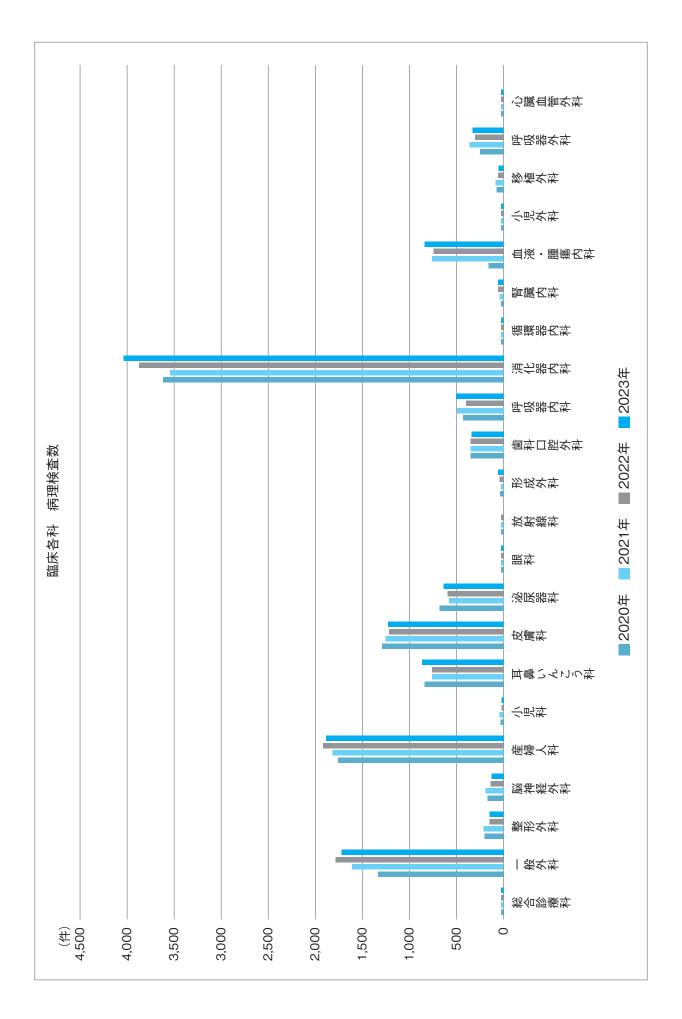
例年実施している6年次生臨床実習では浜松医科大学から3人の学生を受け入れた。

(部長 新井 義文)

2. 活動報告

(1) 活動実績





臨床検査科

1. 概要

2012年8月より臨床検査科が開設された。2014年度に日本臨床検査医学会 臨床検査管理医を取得している。安全で信頼性の高い臨床検査サービスを、検査室を利用する関係者に、迅速に提供し、診療の質の向上に貢献することを目的とし、質の高い臨床検査情報を提供するため、定期的に評価し、見直しを行い、継続的改善を行っている。

検体検査に基づいたパニック値は臨床側に直ちに報告されている。臨床側の要望で、2023 年 4 月からパニック値のカリウム上限を変更している。

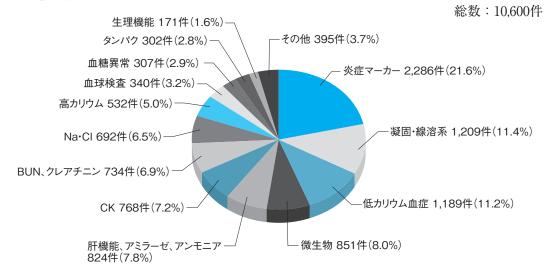
臨床検査の精度の維持・向上のため、内部精度管理、外部精度管理の充実を行っている。外部精度管理として、日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、愛知県臨床検査技師会の精度管理調査に参加している。

2019年3月15日付で、臨床検査室に特化した、品質と能力に関する国際規格である ISO15189 の認 定施設となった。2023年10月に、日本適合性認定協会による第3回定期サーベイランスがあり、適用 基準に適合し、認定の継続が承認された。

(副部長 出井 里佳)

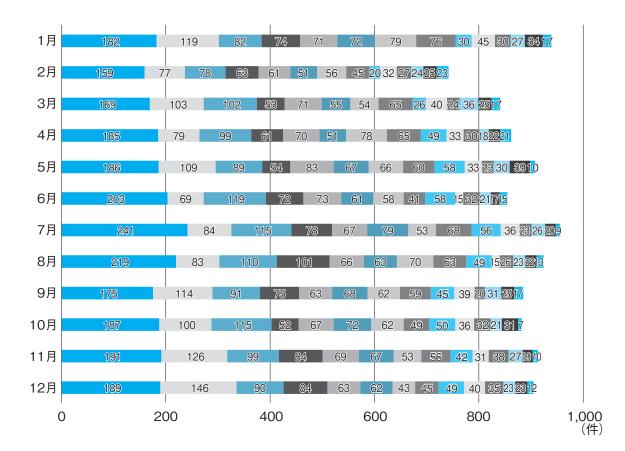
2. 活動報告

(1) パニック値頻度



(2) 月別パニック値報告





歯科口腔外科

1. 概要

当科は地域医療支援病院としての口腔外科の役割を果たすため、密な病診連携の下、豊橋市内外の医科や歯科から多くの紹介をいただきながら、顎口腔領域及び歯科領域の外科治療、ならびに周術期口腔機能管理を行っている。本年も口腔外科的疾患の各分野においてほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

顎顔面外傷においては、早期対応をモットーに関連各科との医療連携により質の高い医療を提供し、 早期治療・早期社会復帰を心掛けている。

口腔がん治療では EBM を重視し、根治と機能温存の両面から手術を中心に他科とのカンファレンスのもと、集学的治療を提供している。さらに個々の患者の状況に合わせ QOL の維持・向上を視野に入れた対応を行っている。

歯科的分野においては、以前にも増して院内患者の周術期等口腔機能管理の依頼件数が増加している。診療報酬改定でその適応範囲がさらに拡大されたこともあり、今後もさらなる増加が見込まれると予想される。2020年4月には入退院支援センター内に歯科衛生士による支援業務が加わり、より必要度の高い患者様へのきめ細かな対応ができるよう体制を整備している。周術期における口腔の合併症予防のためにも密でシームレスな医療連携を基本に、今後も進めていく予定である。

(第一部長 嘉悦 淳男)

2. 活動報告

(1) 患者状況

 年間外来患者数
 17,005人
 年間外来新患者数
 2,688人

 年間入院患者数
 2,228人
 年間入院新患者数
 566人

(2) 外来・入院症例数

①外来初診

疾 患 名	件数(件)
口腔管理	2,369
口腔歯の形態異常	1,255
一般歯科疾患	581
外傷	244
粘膜疾患	167
炎症感染症	131
良性腫瘍	105
顎関節疾患	101
嚢胞	77
顎顔面の形態異常	58
唾液腺疾患	49
神経疾患	34
悪性腫瘍	26
口腔機能疾患	24
唇顎口蓋裂	5
その他	1
計	5,227

②入院

疾患名	件数(件)
口腔歯の形態異常	370
一般歯科疾患	39
嚢胞	39
炎症感染症	29
良性腫瘍	25
悪性腫瘍	24
顎顔面の形態異常	18
唇顎口蓋裂	18
外傷	14
唾液腺疾患	9
粘膜疾患	5
神経疾患	1
その他	1
計	592

経営企画室

1. 概要

経営企画室は、2019年4月に組織横断的な経営方針の策定や経営改善策を企画、提案し、迅速に実施するため院長直轄の部署として設置された。副院長である室長をはじめ、4名の専従職員、8名の兼務職員、1名の顧問の計14名で構成している。

2023年度は、毎月開催している定例会において、経営状況や診療データを活用した分析等を行うとともに、コメディカルが主体の SMS(Smart Medical Service)勉強会を開催したほか、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた他病院への視察を再開するなど、経営改善に向けた取り組みを行った。

また、2022年3月に総務省から新たなガイドラインが示されたことを受け、「第3次豊橋市民病院経営強化プラン」を改訂し、「豊橋市民病院経営強化プラン」を策定した。

今後も、診療科別分析や新たな施設基準取得に向けて活動を継続し、スタッフの質を高めることで、 更なる経営改善の企画、提案、実施に向けて取り組んでいく。

(室長 若林 健一)

2. 活動報告

(1) 定例会議題

田	日 付	内容
第1回	4月6日	 病院目標の検討 経営企画室のこれまでとこれからについて
第2回	4月27日	① 経営企画室員の取組目標の共有 ② 病院目標の確定 ③ 豊橋市民病院経営強化プラン策定のスケジュールについて ④ 整形外科分析
第3回	5月25日	① 令和4年度 活動状況報告書について ② 西病棟3階の施設基準について ③ 視察先病院の選定
第4回	6月29日	① 整形外科分析説明後の報告 ② 誤嚥性肺炎について ③ 令和4年度 豊橋市民病院改革プラン報告書について
第5回	7月27日	① 令和5年4月~6月活動状況報告及び事業収支報告 ② 誤嚥性肺炎の請求状況の報告
第6回	8月31日	 耳鼻いんこう科分析 DPCベンチマーク分析 視察先の決定
第7回	9月28日	① 小児科分析 ② 視察の報告 ③ 豊橋市民病院経営強化プラン案について

回	日 付	内 容
第8回	10月26日	① 視察の報告 ② 経営企画室員の取組の中間報告
第9回	11月30日	① 令和5年 4月~9月活動状況報告及び事業収支報告 ② DPC特定病院群について
第 10 回	12月21日	 外来について 公立病院経営比較分析
第11回	1月25日	① 眼科分析 ② 診療報酬改定の情報共有
第 12 回	2月29日	① 令和5年 4月~12月活動状況報告及び事業収支報告 ② DPC特定病院群の維持の報告 ③ 肺炎地域連携パスについて
第 13 回	3月28日	経営企画室員の年度取組の報告

(2) SMS勉強会 (Smart Medical Service)

No.	開催日	部署名		
第1回	5月11日	医療情報課		
第2回	5月22日 5月29日	看護局		
第3回	(資料回覧)	中央臨床検査室		
第4回	12月8日	看護局		
第5回	1月24日	薬局		
第6回	1月25日	放射線技術室		
第7回	2月22日	栄養管理室		
第8回	3月1日	臨床工学室		
第9回	3月26日	リハビリテーション技術室		

医療安全管理室

1. 概要

医療安全管理室は、2005年4月、医療安全の推進を図るため院長直属の専門部署として設置された。 現在は、副院長である室長を筆頭に、6名の専従職員と、6名の兼務職員の計13名の組織となっている。 安全管理体制の構築、医療安全に関する教育・研修の実施、インシデント・アクシデント報告の分析・ 対策立案、対策の周知・対策実施後の評価、医療事故に関する原因究明、他施設との連携・相互チェックなどを行い、安全文化の醸成に努めている。

(室長 成瀬 賢伸) (文責 副室長 宇田 あゆみ)

2. 活動報告

2023年度は、医療安全重点目標として、『規則と手順を守った患者確認を行い、患者誤認を減らす』を目標に掲げた。患者誤認報告減少に向けて、『伝言メモ&復唱セルフチェック』を年3回行い、安全文化の醸成に向けて一人ひとりの意識の向上を目指した。相手にメモや復唱を促すことは難しいという結果であったが、回を重ねる度に評価に改善がみられる部署もあった。また、自らがメモを取り復唱することについては、半数位の部署でわずかに改善がみられた。医療安全推進週間には、『伝言の達人』を選出し、部署の医療安全推進活動のお手本としての活躍をお願いした。

また、コロナ禍を経て、3年ぶりに厚生労働省の医療安全推進週間のキャッチフレーズ『わかるまで聞こう話そう伝えよう』に基づき、安全な医療の提供に向けての病院職員の意思表明と共に、患者さんへのメッセージを伝えるためのポケットティッシュ配布を行った。外来で直接患者さんと触れ合う活動は久しぶりであったが、患者さんにも医療安全の取り組みに参画していただくよう声をかけることは非常に重要であると感じた。

このような取り組みを実施したが、本年度の患者誤認報告件数は127件で前年度と比較し2.4%増となり、前年度比30%減の目標は達成できなかった。正しいタイミングと正しい方法での患者確認行動ができていない時にインシデントは発生しており、これらは患者参画により防げる事例も多い。患者誤認は信頼を大きく損なうことに繋がる。患者さんに安心して安全に医療を受けていただくためにも、いつ何時でも、あたりまえのことをおろそかにせず実行できるように、今後も職員教育に努めていきたい。

(1) 院内安全ラウンド (20回実施)

回	日付	訪問部署
1	5月16日	東西2階・東3階
2	5月30日	西 3 階・東西 5 階
3	6月13日	東西6階・東7階
4	6月27日	西7階・東西8階
5	7月11日	東西9階・南
6	8月1日	病棟 4 階・NMC・手術センター
7	8月 8日	救急外来・血液浄化センター
8	8月22日	内科外来・外来1階・外来2階
9	9月 5日	放射線技術室・リハビリテーション技術室
10	9月19日	中央臨床検査室・薬局
11	10月10日	東西2階・東3階
12	10月24日	西 3 階・東西 5 階
13	11月14日	東西6階・東7階
14	11月28日	西7階・東西8階
15	12月12日	東西9階・南
16	12月26日	病棟 4 階・NMC・手術センター
17	1月16日	救急外来・血液浄化センター
18	1月30日	内科外来·外来1階·外来2階
19	2月6日	放射線技術室・リハビリテーション技術室
20	2月13日	中央臨床検査室・薬局

(2) 内部監査

日 時:2023年9月25日 13時30分~14時30分

監査項目:ドレーン・チューブ類の誤接続(誤認)防止対策の遵守状況確認

対象部署:全病棟(南病棟、新生児医療センターを除く)

(3) フォローアップ監査

日 時:2024年2月26日 13時30分~14時30分

監査項目:ドレーン・チューブ類の誤接続(誤認)防止対策の遵守状況確認

対象部署:東2階、西2階、西6階、東7階

(4) 医療安全推進週間

期 間:2023年11月19日~11月25日

取組内容:厚生労働省の今年度医療安全推進週間キャッチフレーズメッセージ『わかるまで聞こ

う話そう伝えよう』を入れたポケットティッシュを外来・病棟患者に配布した(合計

3,000個)。

(5) 医療安全地域連携相互チェック

日程	チェック対象病院	チェック実施病院
9月 4日	渥美病院	豊橋市民病院
10月2日	豊橋市民病院	渥美病院
12月15日	弥生病院	豊橋市民病院
12月18日	長屋病院	豊橋市民病院

(6) 医療安全管理たより(19通配信)

配信日	タイトル			
4月6日	患者間違い事例の発生率は 0.6			
4月10日	左右のある手術や観血的処置は同意書に部位明記を!			
4月20日	2023 年度医療安全重点目標			
4月24日	処方日数自動計算機能について			
5月2日	他院から届いた検査データが他患者のものだった!			
5月26日	造影検査のオーダ依頼時に eGFR の確認を!			
6月22日	気管内異物は吸引カテーテル?			
7月12日	輸血実施前の確認登録を忘れずに!			
8月21日	持参薬薬袋作成時の患者名間違いに注意!			
9月8日	希釈・溶解を目的とした注射オーダの方法			
9月19日	異食注意報発令中!			
10月18日	救急カートの喉頭鏡についてお知らせ			
10月19日	IC と ICU 略語が原因の家族誤認			
11月13日	電子カルテの身長・体重の入力間違いは危険です!			
11月28日	医療安全推進週間にご協力ありがとうございました			
12月15日	薬袋と薬包に載っているのは薬品名です			
1月31日	物品の使用方法を誤ると危険です!			
2月15日	採血時の患者確認について			
3月7日	注意: 患者間違い 持参薬鑑別依頼書と薬剤			

(7) Good Job通信 (10通配信)

配信日	対象者
4月7日	カメラ室(救急外来)看護師の Good Job
6月14日	内科外来看護師の Good Job
7月26日	薬剤師の Good Job
8月2日	2年目研修医(救急外来)の Good Job
10月18日	内科外来看護師の Good Job
10月26日	手術センター 2 年目看護師の Good Job
11月30日	2年目研修医(救急外来)の Good Job
12月18日	東病棟 2 階看護師の Good Job
1月9日	西病棟 7 階看護師、西病棟 9 階看護師の Good Job
1月26日	理学療法士の Good Job

(8) 医療安全に関する講習会

日 付	内容等	受講者数
5月23日 5月25日	リスクマネジメント講習会 院内の電気設備・ライフライン	114名
6月21日	リスクマネジメント講習会 「処方薬・麻薬」	67 名
6月28日	リスクマネジメント講習会 「注射薬・抗がん薬」	60 名
8月16日	第1回医療安全講習会 「チーム医療における安全と安心 -Googleから学ぶ 心理的安全性の重要性-」	1,439 名
9月13日 9月26日	リスクマネジメント講習会 「MRIに潜む危険性・医療放射線研修」	1,163 名
10月18日	リスクマネジメント講習会 「医療ガスの安全な取り扱い」	82 名
11月22日	リスクマネジメント講習会 「インスリン事故ゼロに向けて ~予防のために必要な知識~」	1,215 名
12月13日	リスクマネジメント講習会 「輸液ポンプ・シリンジポンプ」	40 名
1月26日 2月2日	第2回医療安全講習会 「今、当院で何が起きているか!?」	1,431 名

(9) その他の取り組み

- ① 身長・体重計の転倒防止手すり設置
- ② 浴室使用禁止札の設置
- ③ 成人用救急カート物品見直し
- ④ 術前休薬一覧表の改訂 (糖尿病薬を追加)
- ⑤ 小児救急バックの更新

診療記録管理室

1. 概要

診療記録管理室は、診療報酬の算定や施設基準等で必要となる記録の有無を定量的に点検する「量的 点検」と、診療行為に伴う記載内容に整合性が取れているかを点検する「質的点検」を主な業務として おり、「入院診療計画書」「入院時記録」「退院時サマリ」「手術記録」等に関する点検を行っている。

また、診療記録の質の向上を図るため、医師及び研修医の診療記録を対象に、独自の評価基準を用いて2段階で判定する診療記録監査を年3回実施するほか、疾病統計業務やDPC様式1点検業務、紙媒体・フィルム等管理業務も行っている。また2022年度から「診療記録 Letter」を発行して診療記録に関する情報の院内周知を図っている。

引き続き適切な診療記録を目指してスタッフ一同活動を推進させていく所存である。

(室長 若林 健一)

2. 活動報告

(1) 診療記録監査

(人)

令和5年度	医師	研修医
監査対象者数	75	39
目標水準以下(75%未満)	25	5

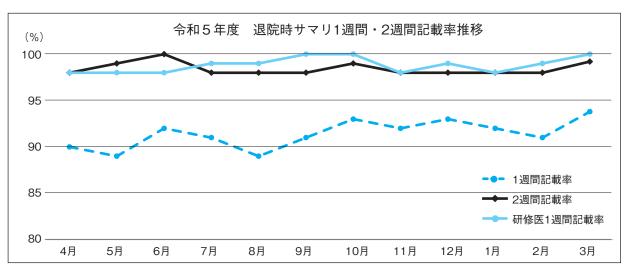
※目標水準を満たさなかった対象者には再監査を実施

(2) 診療記録監査重点項目「入院診療計画書監査」

(人)

令和5年度	医師	研修医
監査対象者数	71	39

(3) 退院時サマリ 記載率推移



臨床研究管理室

1. 概要

臨床研究管理室は、院内で実施する臨床研究に関する専門部署として2018年4月に設置された。

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の一部改正に伴う豊橋市民病院臨床研究標準業務手順書の改正により、研究責任者だけでなく研究分担者を含む全ての研究者に対し、研究に関する倫理並びに研究の実施に必要な知識及び技術に関する教育・研修を受けること、また、研究期間中も年に一回継続して教育・研修を受けることを必修とした。具体的には、e-Learning の ICRweb (ICR 臨床研究入門)の「臨床研究の基礎知識講座」、年度毎の「継続研修講座」の講義を活用して教育・研修を実施している。2023年度からは、研究申請の段階で研究者全員の受講状況を確認し、臨床研究管理室から研究責任者経由で受講・修了を依頼することにより、必ず研究実施許可前に研究者全員に教育・研修を実施することが可能となった。

引き続き研究者の研究申請を支援しつつ、教育・研修及び利益相反状況を含め、より適正な研究管理 に努めたい。

(室長 岩井 克成)

2. 活動報告

(1) 書類受付実績 (件)

	新規申請			変更申請			特定	非特定	≑L
	介入研究	観察研究	指針外	介入研究	観察研究	指針外	特定 臨床研究	臨床研究	計
令和3年度	0	55	2	6	60	1	22	_	146
令和4年度	1	70	1	5	62	0	19	4	162
令和5年度	1	59	5	0	44	0	19	1	129

(2) 審査委員会開催実績

(回)

名称	令和5年度	令和4年度	令和3年度
迅速審査会	12	12	12
臨床研究審査会	0	2	6

(3) 実施中の臨床研究

(件)

登録中	登録終了	観察終了	計
180	38	11	229

2024年3月31日時点

感染症管理センター

1. 概要

感染症管理センターは、医師・看護師・薬剤師・微生物検査技師・事務職員が共同し、患者と医療従事者の双方を医療関連感染から守る活動を行う院長直属の部門である。抗菌薬適正使用支援チーム (AST) と感染対策チーム (ICT) を有する。AST は近年問題となっている薬剤耐性菌 (AMR) 対策として、抗菌薬使用状況の定期的な監視と、血液培養陽性者を早期からモニタリングし広域抗菌薬の適正使用を支援している。ICT は、週1回定期的に院内巡回ラウンドを行い、院内感染対策事例把握、感染対策防止の実施状況の確認・指導を行っている。また当院では、年間7,000件以上の手術を行っているため、手術部位感染 (SSI) サーベイランスを実施し、手術部位感染発生率の改善に取り組んでいる。2023年の新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)は第9波・10波が押し寄せた。2022年と同じく1月と8月をピークとする波で、その1か月後ぐらいに COVID-19陽性入院患者がピークとなった。5月8日より感染症法上の位置づけが5類感染症に変更されたため十分な検査ができず院内感染が多く認められた。一方、県は新たな感染症パンデミック対応として感染症予防計画を策定した。当院も感染症対策連携協議会の参加施設として、2024年4月には10床の感染症病棟を新設し新興感染症の流行に対応する計画であり、当センターもその指導・運用に関わっていく。

(センター長 村松 幹司)

2. 活動報告

(1) 感染症発生動向調査

①全数報告 (件)

類型	疾患名	令和5年度	令和4年度	令和3年度
二類	結核	43	40	40
三類	腸管出血性大腸菌感染症	2	3	2
二類 	パラチフス	0	1	0
	E型肝炎	0	1	0
	つつが虫病	5	2	2
四類	デング熱	2	0	0
	日本紅斑熱	2	1	0
	レジオネラ症	1	5	2
	アメーバ赤痢	1	0	0
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3	1	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	2	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	0	0
	後天性免疫不全症候群	0	1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	1	0
五類	侵襲性肺炎球菌感染症	7	7	9
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る)	0	1	0
	梅毒	3	4	5
	播種性クリプトコックス症	0	1	2
	破傷風	2	0	1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	0	0
	麻しん	0	0	1

②小児科定点報告 (件)

	疾患名	令和5年度	令和4年度	令和3年度
	RSウイルス	161	85	126
	咽頭結膜熱	3	1	0
	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	76	33	24
	感染性胃腸炎	524	542	450
週報	水痘	3	1	7
四和	手足口病	2	12	1
	伝染性紅斑 突発性発疹	1	0	0
		1	1	7
	ヘルパンギーナ	10	4	4
	流行性耳下腺炎	0	0	0

③基幹定点報告 (件)

	疾患名	令和5年度	令和4年度	令和3年度
	細菌性髄膜炎	4	1	0
	無菌性髄膜炎	0	0	0
週報	マイコプラズマ肺炎	0	0	0
	クラミジア肺炎	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	2	1	1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	95	99	111
月報	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0

④インフルエンザ定点報告

(件)

	疾患名	令和5年度	令和4年度	令和3年度
週報	インフルエンザ	587	42	0
四 刑	インフルエンザにおける入院患者	143	4	0

⑤新型コロナウイルス感染症定点報告

(件)

	疾患名	令和5年度	令和4年度	令和3年度
週報	新型コロナウイルス感染症	1,237	2,512	565
四邦	新型コロナウイルス感染症における入院患者	619	819	409

⑥職員の感染曝露

(件)

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
針刺し・切創(EPI-Net A)	64	79	48
皮膚・粘膜汚染(EPI-Net B)	4	11	7
院内結核曝露	8	5	1

⑦職員健康外来 (件)

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
延べ受診者数	52	32	33

(2) 活動報告

抗菌薬適正使用支援チーム(AST)会議	
令和5年度	毎週1回
	令和5年度 49回開催

院内感染対策チーム(ICT)会議	
令和5年度	毎週1回 - 185 (5) (5) (5) (5) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8
	令和5年度 50回開催

院内感染対策講習会	
8月17日	令和5年度第1回 第1部:ICT活動からわかってきたこと 第2部:抗菌薬の適正使用について
2月15日	令和5年度第2回 大切さを知ろう!血液培養 - 抗菌薬の適正使用に向けて - これ以上広げない!薬剤耐性菌 - 身近に潜んでいた悪夢の耐性 菌 -

感染対策向上加算における相互訪問評価	
9月 7日	感染対策向上加算における相互訪問評価【訪問】
10月12日	感染対策向上加算における相互訪問評価【受審】

医療関連感染対策合同カンファレンス		
5月18日	第45回 医療関連感染対策合同カンファレンス	
8月17日	第46回 医療関連感染対策合同カンファレンス	
11月16日	第47回 医療関連感染対策合同カンファレンス	
2月15日	第48回 医療関連感染対策合同カンファレンス	

感染対策向上加算2・3・外来感染対策向上加算施設における訪問指導					
4月19日	1月24日	3月1日	3月5日		

シミュレーション研修センター

1. 概要

2016年10月に開設されたシミュレーション研修センターの2023年度年間利用実績は、スキルスラボ 636件、セミナー室1,071件であった。目的別としては医師対象の主なものは各診療科勉強会223件、ICLS11件、ICLS指導者養成ワークショップ1件、CVC4件、J-CIMELSベーシックコース1件、J-CIMELSベーシック・インストラクターコース1件があった。看護師やコメディカル対象の主なものとして、看護師補助者研修45件、NCPR10件、BLS10件等が行われた。

セミナー室はインターネット、プロジェクター、スクリーンが完備されていることから、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2023年度はオンライン会議やセミナーの会場としても多く活用された。

今後も、医師のみならず看護師やその他コメディカルの勉強する場として、より一層の運営の改善と 設備の充実を目指す所存である。

(センター長 冨田 崇仁)

卒後臨床研修センター

1. 概要

2023 年度は NPO 法人卒後臨床研修評価機構の臨床研修評価更新のため書面調査が行われた結果、認定基準を満たすことができ認定期間が 2025 年までとなった。

採用関係では、5月に開催されたマイナビレジデントフェアに出展、7月には院内説明会を開催するなど、積極的に採用活動を行った。臨床研修マッチングで小児科・産婦人科プログラム(1名)と歯科プログラム(1名)で定員を割ってしまったが、ただちに二次募集を行い、どちらも定員を満たすことができた。

2024年度は、2023年度に開始した地域プログラムの地域研修(東三河北部医療圏にて地域医療研修を12週間行う)が始まる。また、自治医科大学から初めて研修医を受け入れることになっている。

採用関係では、5月にマイナビレジデントフェア出展、7月に院内病院説明会開催、2月にレジナビフェア出展など、学生と直接接触できる機会を有効活用するとともに、SNSでの情報発信を今まで以上に積極的に行っていく。

また、新たな試みとして、豊橋市消防本部の協力のもと、救急自動車同乗研修を予定している。

(センター長 岩井 克成)

2. 活動報告

(1) 定期委員会

2023 年 7 月~ 2024 年 3 月研修管理委員会全 3 回2023 年 6 月~ 2024 年 2 月研修委員会全 3 回2023 年 5 月~ 2023 年 11 月研修医ミーティング全 4 回

(2) 行事

2023 年 4 月 3 日~ 11 日 初期臨床研修医オリエンテーション

2023 年 4 月~ 10 月 救急医学講座

2023 年 5 月 6 日マイナビ RESIDENT FESTIVAL 合同説明会 参加2023 年 7 月 2 日医学生向け 病院説明会 (院内) 参加者 32 人

2023年8月3日・4日・19日 2024年度採用初期臨床研修医採用試験

受験者数医科 37 人歯科 0 人マッチング数医科 17 人(空席 1 人)歯科 0 人(空席 1 人)

2023年10月27日 2024年度採用初期臨床研修医採用試験<二次募集>

 受験者数
 医科 2 人

 採用者数
 医科 1 人

2023 年 11 月 13 日 2024 年度採用初期臨床研修医採用試験<二次募集>

 受験者数
 歯科1人

 採用者数
 歯科1人

2024年2月25日 民間医局レジナビフェア 2024名古屋 参加

2024年3月22日 臨床研修修了式

専門医研修センター

1. 概要

2017年度に後期臨床研修センターが発足し、各種申請等の準備を行い、2018年度の新専門医制度開始に合わせて専門医研修センターに発展した。当院は基本19領域のうち、内科、外科、小児科、産婦人科の4領域で基幹施設として認定を受けており、その他の領域では連携施設となっている。

当センターは、新専門医制度での専門研修がスムーズに進むように基幹の4領域の各科と連携を取りながら、指導者による多職種評価や、内科では J-OSLER(専攻医登録評価システム)、外科では NCD 登録・研修実績管理システム、小児科では臨床研修手帳、産婦人科では研修管理システムなどの評価ツールにおいて、専攻医の進捗状況を把握しつつ専門医取得の手助けを行っている。

また、日本専門医機構認定共通講習を開催し、院内開催の医療倫理・感染対策・医療安全の必修講習でも受講証明書を発行し単位取得を可能としている。

各基幹プログラムでは、様々な病院と連携することで、高次機能病院での重症疾患・超急性期疾患・ 稀少疾患以外にも、地域病院での急性期・慢性期医療および患者の生活に根差した地域医療・社会の中 の医療を経験でき、多彩で偏りのない充実した研修が可能となっている。

外科・産婦人科領域においては、特定の地域や診療科において従事する医師を確保する観点から愛知県地域枠医師派遣先医療機関である施設を 2023 年度に新たに追加し、内科領域では 2024 年度以降から西知多総合病院を追加可能とした。これにより地域医療に貢献する地域枠医師の選択肢を増やすことができ、地域枠医師からのより一層の当院プログラム選択にもつながる。

またリクルート情報検索サイトへ各基幹プログラム概要を新たに掲載し、内科・外科領域では全国で初の試みである専門研修専用のWeb説明会にトップバッターで参加した。今後は研修医のみならず学生も初期研修から後期研修を見据えた採用活動に力を入れていきたい。

(センター長 岩井 克成)

2. 活動報告

(1) 定期委員会

2023 年 4 月~ 2024 年 3 月 内科専門研修プログラム管理委員会 全 2 回

外科専門研修プログラム管理委員会 全1回

小児科専門研修プログラム管理委員会 全2回

産婦人科専門研修プログラム管理委員会 全1回

(2) 行事

2023 年 7 月 28 日~ 11 月 14 日 2023 年 11 月 22 · 29 日 2024 年度 4 月採用専攻医(専門研修プログラム)募集 2024 年度採用専攻医採用試験 (人)

	受験者数	採用者数
内科	6	6
外科	4	4
小児科	3	3
産婦人科	2	2

2023年11月18日

JMECC 開催 受講者数6人

救急外来センター

1. 概要

当院救命救急センターは、東三河の1次から3次までのあらゆる救急患者に対応している。またヘリポートを併設しているため、救急車だけでなく東三河全域より、ドクターヘリで重症救急患者を受け入れているのが特徴である。

2023 年度の全受診患者は 25,894 人で、そのうち救急車は 7,743 台(全国 30 位以内)、全受診者のうち入院患者は 7,712 人(29.8%)であった。

救急外来センターでは、医学生、研修医、地域の救急救命士等に対して毎朝勉強会を行い、また月例の ICLS コース(突然の心停止に対して直ちに行う処置)を開催しており、院内医療スタッフ、地域救急隊員ともに、質の向上を目指している。

2023年度は新型コロナウイルス感染症の影響は減少し、重症救急患者の受け入れは変わらず続け、救急車の応需率は昨年度の96.4%から本年度95.3%でありこれまでと変わらなかった。

(センター長 平松 和洋)

2. 活動報告

(1) 年齢区分別救急外来受診患者数

그사 나를 하	15 歳	未満	15 歳以上	65 歳未満	65 歳	以上	⇒L (L)
診療科	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	計(人)
総合診療科	0	0.0	189	53.8	162	46.2	351
呼吸器内科	1	0.1	527	31.1	1,164	68.8	1,692
消化器内科	9	0.3	1,273	42.2	1,736	57.5	3,018
循環器内科	0	0.0	299	27.0	808	73.0	1,107
腎臓内科	0	0.0	88	29.5	210	70.5	298
糖尿病·内分泌内科	0	0.0	96	39.7	146	60.3	242
脳神経内科	1	0.1	563	37.5	937	62.4	1,501
血液・腫瘍内科	0	0.0	71	18.3	316	81.7	387
一般外科	39	4.0	443	45.5	491	50.5	973
救急科	623	19.5	1,567	49.0	1,008	31.5	3,198
小児外科	17	100.0	0	0.0	0	0.0	17
乳腺外科	0	0.0	0	0.0	1	100.0	1
呼吸器外科	4	1.9	105	51.0	97	47.1	206
心臓血管外科	0	0.0	8	15.4	44	84.6	52
移植外科	0	0.0	22	84.6	4	15.4	26
整形外科	264	11.3	1,160	49.5	921	39.3	2,345
リウマチ科	0	0.0	1	16.7	5	83.3	6
脊椎外科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
形成外科	30	46.2	23	35.4	12	18.5	65
脳神経外科	386	24.3	522	32.9	680	42.8	1,588
小児科	3,945	93.8	259	6.2	1	0.0	4,205
産婦人科	7	0.8	848	91.0	77	8.3	932
耳鼻いんこう科	165	14.2	603	51.8	396	34.0	1,164
眼科	43	16.0	148	55.2	77	28.7	268
放射線科	0	0.0	0	0.0	2	100.0	2
皮膚科	96	12.8	406	54.0	250	33.2	752
泌尿器科	19	1.5	492	39.0	750	59.5	1,261
歯科口腔外科	53	23.2	109	47.8	66	28.9	228
こころのケア科	1	11.1	7	77.8	1	11.1	9
計	5,703	22.0	9,829	38.0	10,362	40.0	25,894

救急入院センター

1. 概要

救急入院センターは 2013 年度より設置され、センター長 冨田崇仁(循環器内科兼任)、副センター長 中島基晶(麻酔科兼任)、青葉太郎(一般外科兼任)で運営し、現在に至っている。当センターは ICU に隣接し、ICU 適応以外の夜間・休日の救急入院患者の受け皿として機能している。基本的に各科主治医が患者の診療を行い、センターメンバーは主に本センターの管理・運営を主体として活動している。実働病床は 2013 年以来、継続して 12 床で運営してきている。2023 年 4 月~2024 年 3 月までの各月の推移は以下の表のごとくである。病床利用率は、新型コロナウイルス感染症の減少もあり 64.8%であった。特定救命救急病床加算算定件数においては、2022 年度には 883 件であったのに対し、2023 年度は 821 件とわずかに減少した。今年度も引き続き入院数増加に努めていく。

例年どおり本センターの当直体制はセンターのメンバーだけでなく、各科医師にも委託して行い、 夜間入院患者の救急管理に当たってきたが、2023年度は特に大きな問題なく経過した。

(センター長 冨田 崇仁)

2. 活動報告

(1) 年齢別受診患者数

診療科	内	科	外	科	心臓」 呼吸器		脳神絲	圣外科	70	D他	Ė	†
区分	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)
80歳以上	204	20.7	177	23.6	66	19.3	182	23.2	83	15.3	712	20.9
70~79歳	321	32.6	252	33.6	167	48.8	237	30.2	158	29.2	1,135	33.3
60~69歳	195	19.8	217	28.9	66	19.3	138	17.6	82	15.1	698	20.5
50~59歳	95	9.6	38	5.1	22	6.4	122	15.6	81	14.9	358	10.5
40~49歳	68	6.9	31	4.1	12	3.5	57	7.3	66	12.2	234	6.9
30~39歳	50	5.1	20	2.7	0	0.0	20	2.6	16	3.0	106	3.1
20~29歳	47	4.8	6	0.8	1	0.3	8	1.0	15	2.8	77	2.3
10~19歳	5	0.5	7	0.9	8	2.3	19	2.4	11	2.0	50	1.5
0~9歳	0	0.0	3	0.4	0	0.0	1	0.1	30	5.5	34	1.0
計	985	100	751	100	342	100	784	100	542	100	3,404	100

(2) 病床利用率

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
営業日数 A(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
病床数 B (床)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
日数×病床数 C(A×B)	360	372	360	372	372	360	372	360	372	372	348	372	4,392

救急ベッド (12 床)

	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日 あたり
	在室人数 D (人)	146	138	121	137	129	117	143	157	141	182	156	203	1,770	4.8
令和 3年度	利用率 D/C (%)	40.6	37.1	33.6	36.8	34.7	32.5	38.4	43.6	37.9	48.9	44.8	54.6	40.3	_
3年度	特定入院料算定 件数 E (件)	60	103	83	89	86	73	54	76	82	111	87	114	1,018	2.8
	特定入院料算定率 E/D (%)	41.1	74.6	68.6	65.0	66.7	62.4	37.8	48.4	58.2	61.0	55.8	56.2	57.5	_
	在室人数 D (人)	136	138	115	149	117	109	130	116	169	152	122	168	1,621	4.4
令和	利用率 D/C (%)	37.8	37.1	31.9	40.1	31.5	30.3	34.9	32.2	45.4	40.9	35.1	45.2	36.9	_
4年度	特定入院料算定 件数 E (件)	114	86	55	70	70	52	79	43	105	70	58	81	883	2.4
	特定入院料算定率 E/D (%)	83.8	62.3	47.8	47.0	59.8	47.7	60.8	37.1	62.1	46.1	47.5	48.2	54.5	_
	在室人数 D (人)	134	143	131	127	124	99	143	143	120	145	112	108	1,529	4.2
令和 5年度	利用率 D/C (%)	37.2	38.4	36.4	34.1	33.3	27.5	38.4	39.7	32.3	39.0	32.2	29.0	34.8	_
5年度	特定入院料算定 件数 E (件)	53	75	44	48	43	60	82	101	84	106	63	62	821	2.2
	特定入院料算定率 E/D (%)	39.6	52.4	33.6	37.8	34.7	60.6	57.3	70.6	70.0	73.1	56.3	57.4	53.7	-

集中治療センター

1. 概要

当院は、東三河地域の急性期病院として位置付けられている。その中でも、集中治療センターは最重症患者を診ることのできる設備を有しており、地域における「最後の砦」といえる部署である。日本集中治療医学会認定集中治療専門医研修施設認定を得て、より一層の内容充実を心掛け日々の臨床を行っている。認定看護師や特定看護師の育成にも力をいれ、質の高い医療を提供できるよう取り組みを続けていく。

(センター長 中山 雅人)

2. 活動報告

(1) 入院患者の主病名分類

大 分 類	件
感染症および寄生虫症 (A00-B99)	23
新生物 (C00-D48)	542
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構障害 (D50-D89)	14
内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	26
精神および行動の障害 (F00-F99)	1
神経系の疾患 (G00-G99)	52
眼および付属器の疾患 (H00-H59)	0
耳および付属器の疾患 (H60-H95)	0
循環器系の疾患(I00-I99)	465
呼吸器系の疾患(J00-J99)	77
消化器系の疾患(K00-K93)	116
皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	1
筋骨格系および結合組織の疾患(M00-M99)	24
腎尿路生殖器系の疾患(N00-N99)	21
妊娠、分娩および産褥(O00-O99)	7
周産期に発生した病態 (P00-P96)	0
先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	13
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	0
損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	150
傷病および死亡の外因 (V01-Y98)	0
健康状態に影響をおよぼす要因および保険サービスの利用(Z00-Z99)	0
特殊目的用コード (U00-U99)	14
計	1,546

総合周産期母子医療センター(母体・胎児部門)

1. 概要

当院は東三河唯一の総合周産期母子医療センターとして妊娠中の母体・胎児の診断・管理・治療を行っている。少子化の影響で分娩数は減少傾向であったが、新型コロナウイルス感染症のために制限していた里帰り分娩の受け入れ再開に伴い分娩数は昨年度増加し本年度も同程度を維持した。多胎および1,000 g未満、1,500 g未満の超低出生体重児、極低出生体重児の出生数は約倍増した。母体・産褥搬送の受け入れ数は例年度並みの水準であった。本年度の受け入れ不可症例は3件(うち1件は翌日受け入れ)と県内他地域と比較すると低い水準ではあるが、これらの症例は東三河外への搬送を余儀なくされる。近隣施設へも早めの相談、搬送依頼をいただくなど連携を深めて全例応需を目指す。

産後ケアプランは新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後も家族の面会制限等が継続し、病床の空きがない状態が続き本年度も受け入れ数は低い水準に留まった。早産・低出生体重児で分娩された 褥婦は母児同室など育児習得ができないまま退院となってしまうため、短期間でも導入し支援を行った。

(センター長 岡田 真由美)

総合周産期母子医療センター(新生児部門)

1. 概要

新生児医療センターは、NICU12 床を擁し、東三河唯一の総合周産期母子医療センター(新生児部門)に指定され、新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。

当院は、地域中核災害拠点病院に指定されており、産婦人科とともに広域災害訓練に参加するなど、 周産期における災害対策にも取り組んでいる。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重 要な役割と考え、周産期医療に携わる医師、助産師、救急隊員等を対象に新生児蘇生法講習会や周産期 センター報告会・講演会を開催している。

(センター長 村松 幹司)

総合生殖医療センター

1. 概要

2023年度も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、男女カップルのいずれかが感染したために 延期となった症例も散見されたが、業務を無事継続できた。

当院で体外受精などの生殖補助医療(ART)がスタートしたのは1996年6月であり、2023年は26 年目を迎えた。2007 年 12 月タイムラプスインキュベーター (TLI) の世界初全例導入開始後も様々な 最新医療機器と共に High Quality ART に取り組んできた。2018年には、胚画像情報を中心に 74項目 の特性を人工知能(AI)的に分析して良好胚選択を行う最新型 TLI を導入、2019年には2台目も配備 が完了して AI-ART に完全移行できた。タイムラプス実施件数は国内屈指 4,000 件を超え、2022 年 4 月の生殖補助医療への保険適用拡大に併用可能な先進医療の承認を得た。また、着床不全や流産(不育 症を含む)において我が国で特に欠如している男性の加齢や肥満や喫煙に対する取り組みとして、精子 DNA 断片化検査(ハロースパーム法)や、先進医療への承認を得た超高倍率精子観察による顕微授精 (IMSI) にも精力的に取り組んできた。まだまだ玉石混交も多いとされる検査・治療の中で、当院では 特に「見える化」に重点を置き、有効性の高い最新の医療技術を取り入れ、難治性症例に役立てている。 (センター長 安藤 寿夫)

リハビリテーションセンター

1. 概要

リハビリテーションセンターは、診療部門、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚療法部門で構成され、脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、心大血管疾患、がん患者へのリハビリに対応している。これら疾患別リハビリに加え、病棟専従の療法士による入院患者の日常生活活動の維持・向上を目的としたリハビリ・ICU 入室患者に対する早期からのリハビリ介入も行っている。また、多職種と連携した各種のチーム医療にも積極的に参加している。

診療部門では、診察、リハビリ処方を行う。

理学療法部門では、疾患や手術により低下した日常生活上の基本的動作能力の回復を目指した運動療法を行う。また筋電図、筋力測定、心肺運動負荷試験等の身体機能を評価する。

作業療法部門では、生活における動作の獲得、家事動作や職業への復帰目的の訓練・援助、上肢の機能および高次脳機能の評価・訓練を行う。

言語聴覚療法部門では、脳の疾患や外傷、あるいは発声器官の障害により生じた失語症や構音障害、言語発達の遅れや口唇口蓋裂の小児に対する言語療法を行う。また、摂食・嚥下障害の機能回復目的の訓練・指導も行っている。

(センター長 山内 健一)

2. 活動報告

(1) 利用状況

区 分	令和5年度	令和4年度	令和3年度
延患者数(人)	105,635	105,805	101,255
1日平均(人)	434.7	435.4	418.4
外来開院日数	243日	243日	242日

※病院事業収支及び活動状況 (報告)

血液浄化センター

1. 概要

当センターでは、末期腎不全に対する血液透析導入、維持透析患者の入院中の透析管理、急性腎不全に対する急性血液浄化を中心に診療を行っている。腹膜透析治療にも力を入れており、2023年は臨床工学技士を中心に腹膜透析診療のシステム構築を行っている。腎代替療法の選択についても血液浄化センターが関わり、血液透析の見学や腹膜透析機器の体験などを通して納得して治療を受けていただけるように説明を行っている。

透析以外にも、血漿交換・免疫吸着といったアフェレーシスも行っている。近年は肝炎・神経疾患・膠原病・血液疾患など多様な病態に応じるため、技術的により分化・発展を遂げており、適宜更新を行っている。

これら業務において腎臓内科のみでは遂行できず、移植外科・臨床工学技士・看護師からも多大な支援をいただき、運営することができている。

(センター長 渡邊 智治)

予防医療センター

1. 概要

予防医療センターでは、おもに消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、眼科、口腔外科など各科の専門医のもと、一般的な人間ドック(二日ドック、日帰りドック)を精度高く行い、糖尿病、脂質代謝異常などの生活習慣病やがんなどの悪性腫瘍の早期発見・早期介入に努めている。脳ドック、女性ドック(乳がん、子宮がん)、肺がん検診はそれぞれ脳神経外科、外科、産婦人科、呼吸器内科・放射線科の専門医と連携しておこなっている。さらに PET-CT 検診が放射線科専門医の協力を得て開始され、がんの早期発見環境がより整備された。

また、就学、進学、海外留学・海外出張、免許取得、施設入所時の健康診断、被爆者検診、企業の定期健診、有機溶剤などの健康診断など、さまざまな健康診断を各科と連携しながらおこなっている。

さらに予防医療として、インフルエンザワクチン、B型肝炎ワクチン、破傷風ワクチンをはじめとする各種ワクチンの接種を実施している。

(センター長 内藤 岳人)

2. 活動報告

(1) コース別受診者数

コース名	受診者数 (人)
二日ドック	69
日帰り人間ドック	2,279
脳ドック	327
肺がん検診	14
胃がん検診	20
女性の健康ドック	36
PET-CT検診	22
個 人 健 康 診 断	141
予 防 接 種	476
全国健康保険協会生活習慣病予防健診 (旧 政府管掌生活習慣病予防健診)	1,366
原爆被爆者健診	40
企業団体健診(注1)	470

注1:企業団体契約、その他を含む。

(2) 受診対象者の内訳

①二日ドック

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼 底	69	4	1	0
胸部X線	69	3	0	0
胃 部 X 線	9	2	1	1
胃カメラ	59	5	2	2
腹部エコー	68	5	2	0
安静時心電図	69	4	1	0
負荷心電図	57	1	0	0
便 潜 血	69	3	1	1

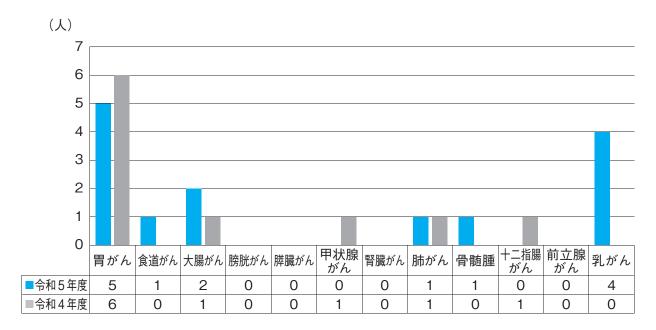
②日帰りドック

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼 底	2,229	151	58	9
胸 部 X 線	2,272	37	9	1
胃 部 X 線	1,234	56	18	2
胃カメラ	945	40	19	10
腹部エコー	2,133	125	39	3
安静時心電図	2,279	75	38	4
便 潜 血	2,240	102	34	16

③生活習慣病予防健診

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼 底	55	2	1	0
胸 部 X 線	1,328	28	6	2
胃部X線	991	48	17	3
胃カメラ	213	9	2	0
腹部エコー	63	7	2	0
安静時心電図	1,334	46	16	1
便 潜 血	1,307	62	14	7

(3) 悪性新生物発見数



(4) メタボリック判定実施者

/		\
(人)

区 分	令和5年度	令和4年度
①基準該当	793	763
②予備軍該当	531	511
③非該当	2,356	2,349

輸血・細胞治療センター

1. 概要

輸血・細胞治療センターでは、年6回の輸血療法委員会の開催、年2回の輸血療法院内監査の実施を 行い、院内の輸血療法が安全かつ適切に運用されるよう管理している。

2022年は、病院機能評価受審の結果「S」と評価された。「輸血療法同意書」の変更、「宗教上輸血拒否に対する方針」について運用マニュアルを変更した。また、2023年1月より新鮮凍結血漿、濃厚血小板製剤の分割も開始した。それにより血液製剤をより安全かつ適正に保管出来るようになった。2023年2月RBC搬送装置が購入され3台体制となり臨床の意向に添えるようになった。輸血療法実施規約の改定も徐々に進めている。2024年度中の完成を目標としている。

今後も院内の輸血療法が安全かつ適正に行われるよう管理していく。

(センター長 倉橋 信悟)

2. 活動報告

(1) 定期委員会

輸血療法委員会開催(2か月毎予定)

* 6 回実施

(2) 輸血療法院内監査

輸血療法院内監査実施

*1回実施

臨時 輸血療法院内監査実施

*未実施

(3) センター業務実績

①輸血関連検査件数

検査項目	総件数(件)	前年比(%)
血液型	15,204	1.00
不規則抗体スクリーニング	12,432	1.01
交差適合試験	5,610	0.94

②血液製剤使用状況

製剤種	総単位数(単位)	前年比(%)
赤血球液 (RBC)	11,055	0.94
新鮮凍結血漿 (FFP)	4,065	0.93
濃厚血小板(PC)	18,020	1.04

③アルブミン (ALB) 製剤使用状況

製剤種	総本数(本数)	前年比(%)
ALB 25% 50mL	1,506	0.94
ALB 5% 250mL	919	0.86

* ALB 使用単位数:14,121 単位

* ALB/RBC=1.04 管理料 I 算定基準:2未満

④製剤廃棄率

製剤種	廃棄率(%)	前年比(%)
赤血球液 (RBC)	0.17	0.37
新鮮凍結血漿 (FFP)	0.50	0.51
濃厚血小板(PC)	0.44	0.85

⑤副作用集計報告

製剤種	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球(RBC)	41	38
新鮮凍結血漿 (FFP)	40	13
濃厚血小板(PC)	46	40

ゲノム診療センター

1. 概要

本センター発足の第一目的であるがん遺伝子パネル検査は、検査依頼がさらに増加し 2023 年度は 69 件の検査を行った。少数例ではあるが他院からの検査依頼も受け入れたが、検体不良で解析不能の症例 割合が多く、検体取り扱いを含めた情報提供が必要と考えられた。これまで手術検体が提出可能な外科 系の診療科が中心であったが、治療に難渋する膵臓、胆管癌の症例の生検検体からの依頼も増加した。

コンパニオン診断を含め遺伝子検査が普及する中、生殖細胞系列の変異が疑われたり、確定診断されたりする症例も増加している。患者やその家族を含めた遺伝カウンセリングの需要も増加している。業務は増加の一途をたどっており診療体制の充実が望まれる。

周産期分野における母体血を用いた出生前遺伝学的検査(NIPT: non-invasive prenatal genetic testing)は新規認証制度が始まり、年齢問わず不安を抱える方に検査が行えるようになった。昨年度は70人の妊婦に対して検査を行った。

(センター長 岡田 真由美)

外来治療センター

1. 概要

2023 年度の年間利用者の延べ数は、12,767 人(うち、がん治療 10,918 人)で、2022 年度の 12,302 人(同 10,482 人)と同様に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響下でも減少は見られない。がんに関する治療数はやや増加し、がん以外の治療数は横ばいである。1日の平均利用者数も 2023 年度は前年度と比べて増加した。

外来治療センターで扱うレジメン数は、2023年度には369と若干の減少となった(前年度は376)。 各科に使用しなくなったレジメンの削除を依頼することで、新規治療を導入しても取り扱いレジメン数 は削減であった。新規レジメンは、治療時間が従来長時間にわたるものが多いことから、当センターの 混雑状況は相変わらずである。従来は入院で施行していた白金製剤含有レジメンは、他施設では外来に 移行しつつあるが、当院ではキャパシティ不足により移行できていない。各科に現状に合わせたレジメ ンを運用していただくことで、当センターの最大限の運用を続けている。

増加する患者数・扱うレジメン数に対応する人員は、医師1名、看護師12名/日、常駐薬剤師3名/日、事務2名である。2022年度より、医師が月-木曜日に常駐することで、より安全・かつスムースな運営が可能となった。以上の体制で、治療レジメンに応じたスケジュールの組み立て、など各スタッフの努力により、安全に治療を遂行している。

(センター長 藤井 正宏)

2. 活動報告

(1) 治療実績 月別集計表

<u>≡</u> 1	₩ <u></u>	5.3	9.2	23.3	21.5	7.(29.1	22.0	22.0	21.0	3.1	3.2	3.0		2.7
年	(分/、	2 125.3	9 127.6			0 120.7					5 118.1	3 123.2	.5 119.0		5 122.7
日 岩田	¥ ₹	49.2	53.9	48.2	53.8	52.0	52.4	53.6	53.8	54.1	53.5	55.3	51.5		52.6
4 <u>1</u>	(A+B)	984	1,078	1,060	1,075	1,144	1,048	1,125	1,075	1,081	1,017	1,051	1,029	12,767	154.1 1,063.9
	1111111	130	173	130	161	161	146	172	148	164	155	156	153	1,849	154.1
(B)	その他	2	-	27	2	23	П		-	7	П	0	2	17	1.4
	皮膚、	က	က	2	4	2	က	က	2	က	က	П	က	32	2.7
がん以外の治療	11774	92	89	77	82	98	80	96	06	92	96	98	91	1,041	86.8
がん」	整形「	1	0	-	0	_	0		0		П	2	-	6	0.8
	内科	48	80	48	73	70	62	71	55	99	54	29	56	750	62.5
	その他	217	226	236	236	258	212	229	213	212	203	224	227	2,693	224.4
	前立腺	6	12	10	10	∞	10	10	9	9	9	10	rc	102	8.5
		54	52	61	72	43	46	41	72	47	49	72	4	599	49.9
	胆膵	93	97	94	107	111	104	101	121	106	110	109	110	1,263	105.3
	垂	135	145	148	147	198	167	182	168	168	135	143	162	1,898	158.2
	血液	122	133	127	135	121	114	123	113	86	11	102	104	1,403	116.9
	大腸	110	125	127	110	138	123	125	130	120	128	134	109	1,479	123.3
M (A)	乳腺	114	115	127	115	106	126	142	122	160	120	119	115	1,481	
トる治療	初回	84	84	78	107	80	73	86	65	75	92	74	71	965	80.4 123.4
がんに関する治療	1111111	854	905	930	914	983	905	953	927	917	862	895	876	10,918	8.606
25	その他	14	12	13	14	21	15	12	Ξ	6	10	12	14	157	13.1
	小児	0		0	0	_	П	2		2	0	П	2	11	6.0
	婦	78	88	92	06	101	92	62	70	89	92	62	92	973	81.1
	1 曹	49	46	49	56	49	20	57	51	45	4	72	46	596	49.7
	泌尿	99	09	99	53	54	48	57	53	99	46	55	29	663	55.3
	外科	297	310	320	291	297	298	325	316	335	311	307	279	3,686	307.2
	内科(360	388	390	410	460	414	421	425	402	375	387	400	4,832	402.7
-	x 	473	505	514	503	528	480	513	503	532	498	510	483	6,042	503.5
В	眠	511	573	546	572	616	268	612	572	549	519	541	546	6,725 (65.6 560.4 503.5 402.7
平均	年,	66.3	65.3	65.7	65.1	65.8	65.7	65.3	66.3	65.4	65.2	65.3	66.1		9:29
	H H	4月	5月	6月	7月	8月	6月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	行	平均

手術センター

1. 概要

手術センターは、一人一人の患者さんに最良の手術が行われるよう各診療科・麻酔科医・病棟及び手術センターの看護師が連携を図っている。当センターは、地域や患者のニーズに応えるべく以下の特徴及び設備を整えている。

また、超緊急枠を設け、全科の超緊急手術に対応できるようにしている。新型コロナウイルス感染症 陽性及び擬陽性の患者の手術や臓器移植手術にも対応できるようにしている。

- ① 高度先進医療の施行
 - a内視鏡下手術:腹腔鏡、胸腔鏡、膀胱鏡、関節鏡、耳鼻科内視鏡、神経内視鏡
 - bロボット支援下手術:外科、産婦人科、泌尿器科、呼吸器外科
 - c 大動脈瘤に対するステント留置術
 - d O-arm 透視下に行う脊椎等の整形外科手術
 - e不妊症に対する産婦人科手術
 - f 移植手術: 腎移植、副甲状腺移植
 - g 顕微鏡下手術:脳神経外科、耳鼻いんこう科、眼科、整形外科
 - hナビゲーション支援下手術:脳神経外科、耳鼻いんこう科
 - i 脳死臓器提供手術
- ② 総合周産期母子医療センターの要望に応じ、手術決定後30分以内に娩出する超緊急手術に対応
- ③ 心臓病、肺疾患、肝疾患、腎疾患等重い合併症を有するハイリスク患者手術に対応
- ④ 研修機関病院として、研修医、医学生、看護学生、救命救急士等の見学や実習
- ⑤ 手術診療科 22 (一般外科、小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、移植外科、整形外科、 脊椎外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、産婦人科、産婦人科 (生殖医療)、 耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科、循環器内科、 脳神経内科、血液・腫瘍内科、腎臓内科、救急科)
- ⑥ 手術室 16 (バイオクリーン・ルーム1室、採卵室1室、ハイブリット手術室1室、 ダヴィンチ手術室1室、内視鏡手術室1室)
- ⑦ 空気清浄度
 - a クラス 100 (1 室):整形外科で使用
 - b クラス 1000 (1室):呼吸器外科、心臓血管外科で使用
 - c クラス 10000 (14 室)
- ⑧ スタッフ 看護師 57 名(2 交代制で、夜勤者 2 名、待機 2 名体制)

また、2020 年 10 月より手術支援ロボットシステム(ダヴィンチ)を 1 台増設し、2 台体制となった。 2023 年度の主な実績としては、ロボット支援下手術を計 460 例、ハイブリッド手術を 47 例施行した。 手術件数は、8,059 件(2022 年度 7,520 件)と増加し、新型コロナウイルス感染症の影響から回復してきた。

(センター長 深谷 昌秀)

2. 活動報告

(1) 手術件数

診療科	件数(件)
一般外科	1,475
呼吸器外科	247
心臓・血管外科	117
小児外科	93
移植外科	52
整形外科	1,390
リウマチ科	14
形成外科	42
脳神経外科	297
産婦人科	1,457
うち、生殖医療	207
耳鼻いんこう科	554
皮膚科	88
泌尿器科	534
眼科	1,060
歯科口腔外科	534
腎臓内科	95
血液・腫瘍内科	4
その他	6
計	8,059

麻酔別	件数(件)
全身麻酔	3,946
静脈麻酔	124
腰椎麻酔	1,267
局所麻酔	1,915
伝達麻酔	605
無麻酔	202
その他	0
計	8,059
(うち緊急手術)	1,040
割合	12.9%

(2) 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

診療科及び術式	件数(件)
一般外科	655
うち、ロボット支援下直腸悪性腫瘍手術	28
うち、ロボット支援下胃悪性腫瘍手術	24
うち、ロボット支援下腹腔鏡下結腸悪性腫瘍手術	7
うち、ロボット支援下胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	2
呼吸器外科	226
うち、ロボット支援下肺悪性腫瘍手術	46
小児外科	46
整形外科	79
リウマチ科	0
産婦人科	523
うち、ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	48
うち、ロボット支援下腟式子宮全摘出手術	173
うち、ロボット支援下仙骨膣固定術	37
泌尿器科	136
うち、ロボット支援下前立腺悪性腫瘍手術	47
うち、ロボット支援下腎悪性腫瘍手術	32
うち、ロボット支援下腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術	5
うち、ロボット支援下膀胱悪性腫瘍手術	8
うち、ロボット支援下腎盂形成手術	3
その他	3
\$\frac{1}{4}	1,668

□唇□蓋裂センター

1. 概要

当センターは口唇口蓋裂を含む口腔の先天性疾患、顎発育異常等に対する治療を担当している。豊橋市内外の産婦人科、小児科ならびに院内の産婦人科、小児科から多くの患者を紹介いただいており、歯科矯正専門医からの紹介も多い。

口唇口蓋裂は長期の治療期間を要するため、出生してから成人するまでそれぞれの成長発育段階における様々な病態に合わせた治療を行っている。当センターでは出生直後より小児科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科をはじめ関連他科の協力を仰ぎながら治療を行っている。また院内はもとより、市中の医科歯科関連の医療施設と密接に連携を保ちながら、円滑に治療が進むよう当センターが中核となってその対応を行っている。一次症例だけでなく、他院で治療を受けた二次症例でも積極的に対応しており、外来初診症例数や入院症例数は、ともにほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

(センター長 嘉悦 淳男)

2. 活動報告

(1) 外来初診症例数

	疾患名			
	唇(顎)裂	1		
 唇裂・口蓋裂	口蓋裂	0		
日金衣・口盒衣	唇顎口蓋裂	4		
	その他の唇裂口蓋裂	0		
顎変形症	下顎前突症	10		
强多 <i>心</i> 症	その他の顎変形症	10		
その他の先天性	38			
	63			

(2) 入院手術症例数

手術名	症例数(件)
唇裂手術 (含再形成)	6
口蓋裂手術 (含再形成)	7
口唇外鼻修正術	3
上顎骨形成術	5
下顎骨形成術	8
計	29

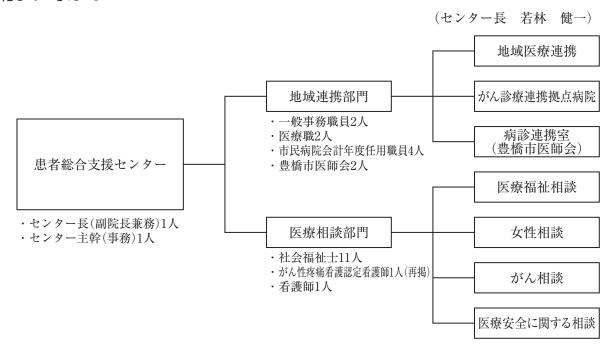
患者総合支援センター

1. 概要

患者総合支援センターは、「地域連携部門」と「医療相談部門」で構成されている。「地域連携部門」は他院からの紹介受け入れと当院から他院への紹介などを通じて患者に効率的で質のよい医療の提供に努めている。「医療相談部門」はワンストップ相談窓口として患者が抱える様々な課題に対して寄り添いながら課題解決の支援を行っている。

地域の医療機関や介護事業者との連携強化を図るため、施設訪問や各種会議を通じて地域の状況・要望の把握に努める一方で、研修会の開催を通じて相互の理解と地域全体での医療提供体制の整備向上に取り組んでいる。

今後も患者が安心して治療を受けられ、地域で快適な生活を送っていただけることを目指して活動を 強化していきたい。



2. 活動報告

(1) 地域連携部門

① 地域医療支援委員会

第1回 2023年 5月25日開催 第2回 2023年 8月17日開催 第3回 2023年11月 9日開催 第4回 2024年 2月22日開催

② 地域連携登録医登録者数

624人(2024年3月31日現在)

- ③ 豊橋市医師会·豊橋市民病院病診連携協議会
 - (ア) 病診連携協議会 第89回病診連携協議会 2023年6月1日開催
 - (イ) MCRフォーラム第51回MCRフォーラム 2023年5月31日開催第52回MCRフォーラム 2023年11月29日開催
 - (ウ) 病院・転床施設連携懇談会 第27回病院・転床施設連携懇談会 2023年6月1日開催
- ④ 紹介・逆紹介実績
 - (ア) 紹介・逆紹介率

紹介率	逆紹介率
84.5%	88.8%

(イ) 病診連携室取扱実績

内		訳	Į.					件数(件)
	医		科	市	Î	1	内	10,775
			17	市	î	?	外	3,353
	歯		科	市	î	l	内	1,229
	西		17	市	î	?	外	197
病診連携室経由の受診予約数	保	健 所	保質	建セ	ン	タ・	_	282
	そ		0)		,	他	90
	キ	ヤ	٥	/	セ		ル	△ 623
			葦	†				15,303
	時	間	外	(再	掲)	942
	申		ž	乙		i	数	2,800
		有	床	診	療	j	所	16
病診連携室経由の転院先状況	内	病					院	1,574
	訳	牛	ヤ	ン	セ		ル	1,209
		転	院	予	約		中	1

(2) 医療相談部門

① 医療福祉相談件数 39,822件 *入退院支援センターの実績件数も含む。 病気やケガ等で生活上の課題を抱えた患者が安心して医療を受けられるよう、経済的なこ と、在宅での療養や介護、転院先の選定などについて、地域の医療・福祉・介護等の関係機関 と連携して、社会福祉士や看護師が支援を行っています。

② がん相談件数 1.099件

地域がん診療連携拠点病院指定を受けている当院は、がん相談支援センターを設置、国のが ん専門相談員研修を修了した相談員ががんに関する情報提供や療養生活、就労、がんゲノム、 セカンドオピニオン等に関する相談支援を行っています。

- ③ 女性相談件数 97件 女性特有の悩みや受診先について女性看護職(助産師、看護師)が対応しています。
- ④ 医療安全に関する相談件数 13件

入退院支援センター

1. 概要

入退院支援センターでは、予定入院の患者への入院前説明と、退院調整看護師が病棟ごとに担当している退院調整を統合し、患者が安心して入院治療を受け、退院後も地域で安心して生活するための支援を行っている。緊急入院患者への入院前説明も行うように取り組んでおり、急な入院に対する患者や家族の不安の軽減に努めた。退院支援では、MSW(医療ソーシャルワーカー)と退院調整看護師がそれぞれ1人ずつ各病棟を担当し、医療的な課題と社会的な側面に対して柔軟に介入している。また、新型コロナウイルス感染症も5類感染症となり家族の面会の際には積極的に介入している。地域の多職種においても退院前カンファレンスに参加を促し、開催数も前年度212件から本年度354件と開催数を増やしている。また、本年度は退院後の患者の聞き取り調査をしており退院支援の評価に活かした。今後は病棟看護師や外来看護師にフィードバックし退院後もより良く過ごせるよう院内外の多職種と連携していきたいと考える。

入院支援、退院支援の業務は以下のとおりである。

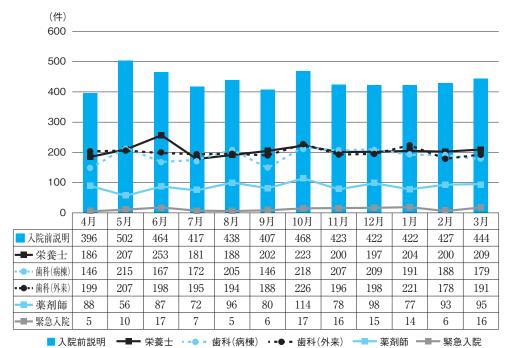
- ① 入院や手術に対して抱えている不安を少しでも軽減し、安心して入院・手術が受けられるように 援助する
- ② リスクのある患者をスクリーニングして安全に手術が受けられるようにする
- ③ 退院困難要因のある入院患者に早期から介入し、その人らしい暮らしに戻れるように支援する
- ④ 院内外多職種との連携を図り、速やかな退院支援を展開する
- ⑤ 退院前訪問、退院後訪問の実施、訪問看護ステーションなど院外多職種との連携を図る

(センター長 間瀬 有奈)

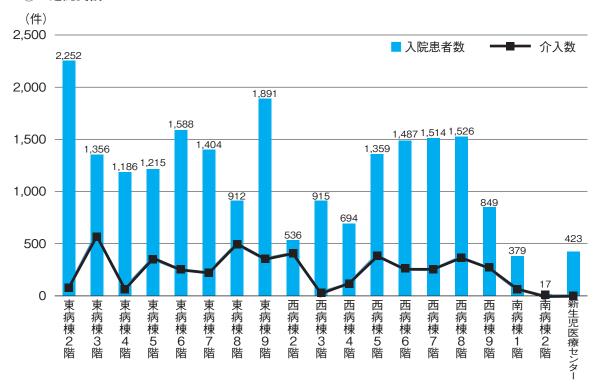
(文責 副センター長 伊藤 惠子)

2. 活動報告

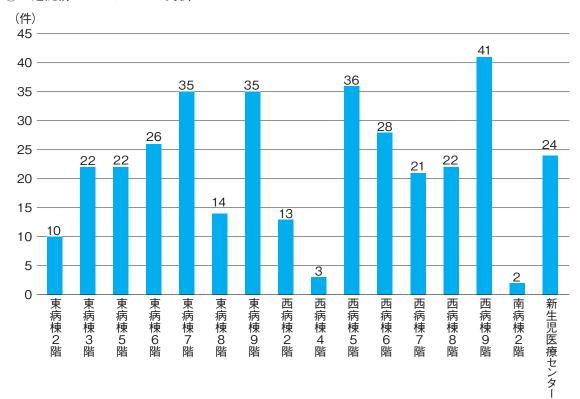
- (1) 令和5年度 入退院支援センター年間実績
 - ① 入院支援



② 退院支援



③ 退院前カンファレンス実績



一次脳卒中センター

1. 概要

地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24 時間 365 日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療救急医が患者搬入後、可及的速やかに診療(rt-PA 静注療法や脳血管内治療含む)を開始できる施設が地域医療に必要とされるため、一般社団法人日本脳卒中学会の PSC(Primary Stroke Center)として申請を行い、認定された。

これは、2016年に日本脳卒中学会と日本循環器学会が共同で作成した「脳卒中と循環器病克服5ヵ年計画」において充実した医療体制の構築を目的として、一定の施設要件を満たした医療機関を認定するものである。

毎週月曜日夕方、多職種による症例カンファレンスを行っている。毎週2~3例を取り上げて診断・ 治療・今後の方針等について検討している。

(センター長 岩井 克成)

診療技術局

1. 概要

診療技術局には、放射線技術室、中央臨床検査室、リハビリテーション技術室、臨床工学室、栄養管理室の5部門(7職種)があり、医療関係の国家資格を有した約200名の職員によって構成されている。病院事業(診療・経営の質の向上)への貢献はもちろんのこと、医療技術職の価値向上と職種の垣根を越え、共通の方針、計画、施策の立案などを行い、効率的な運営に努めている。病院の方針の浸透と現場の意見からのボトムアップ、医療技術職の横断的意思疎通の促進がさらなる活性化につながると考えている。

本年度の研修活動としては、「高校生職場見学会」については台風の影響を受け当日中止を余儀なくされたが、年度後半には感染予防に留意し集合的な院内研修会を再開することができた。

東三河地域における当院の役割は、様々な勉強会や研修会を積極的に開催し、地域医療に貢献することである。また、メディカルスタッフの医療レベルが現在の医療レベルに直結することと考え、業務を遂行したいと考えている。

(局長 森嶋 直人)

放射線技術室

1. 概要

医師の働き方改革に伴うタスクシフト/シェアをどのように具体化するかを考えた一年であった。

医師の働き方改革に伴う労働環境の改善、医療従事者の人手不足により他局からの業務要請など、数年前には考えられなかった事態になっている。このような中で、デジタル活用による業務プロセスの効率化を図ることで、病院内の事務作業の効率化を推進し、さらに、スタッフの余力時間を確保することで、本来の業務に専念できるのではないかと考えている。このようなことから、診療放射線技師の業務の一部に導入することで、撮影業務の更なる効率化や安全に寄与するのではないかと考える。

業務拡大を安全に推進することと、診療放射線技師ができることを模索する一年になった。

(室長 島田 秀樹)

「在籍技師が取得している認定資格等」

認定資格名称	認定団体及び学会	認定資格名称	認定団体及び学会
第1種放射線取扱主任者	原子力規制委員会	医学物理士	医学物理士認定機構
放射線管理士	日本放射線技師会	放射線治療専門放射線 技師	日本放射線治療専門放 射線技師認定機構
放射線機器管理士	日本放射線技師会	放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構
医療情報技師	日本医療情報学会	核医学専門技師	日本核医学専門技師認 定機構
医療画像情報精度管理士	日本診療放射線技師会	核医学専門技術者	日本核医学技術学会
診療情報管理士	四病院団体協議会	検診マンモグラフィ撮 影認定診療放射線技師	日本乳がん検診精度管 理中央機構
医療安全管理者	日本病院会	乳がん検診超音波検査 実施技師	日本乳がん検診精度管 理中央機構
臨床実習指導教員	日本診療放射線技師会	超音波検査士(健診)	日本超音波医学会
X線作業主任者	安全衛生技術試験協会· 厚生労働省	超音波検査士(体表臓器)	日本超音波医学会
γ 線透過写真撮影作業 主任者	安全衛生技術試験協会· 厚生労働省	超音波検査士(消化器)	日本超音波医学会
X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認 定機構	救急撮影認定技師	日本救急撮影技師認定 機構
血管撮影・インターベンション専門診療放射 線技師	日本血管撮影・インター ベンション専門診療放 射線技師認定機構	放射線被ばく相談員	日本放射線技師会
磁気共鳴専門技術者	日本磁気共鳴専門技術 者認定機構	小腸カプセル内視鏡読 影支援技師	日本カプセル内視鏡学会

2. 活動報告

(1) 放射線技術室実績

(件)

당시		人和『左座	(計) 公和 4 左座
区分	司五·李⊅	令和5年度	令和4年度
	頭部	1,023	1,717
	胸部	75,920	71,665
	腹部	13,164	12,964
一般撮影	四肢	41,663	40,628
	椎体	16,576	15,161
	計	148,346	142,135
	骨塩量測定	2,473	2,347
	ポータブル	29,198	30,646
	単純	13,626	12,810
エコー室	造影	183	127
	計	13,809	12,937
	·	<u> </u>	
	単純	29,708	28,292
СТ	造影	19,106	18,827
	計	48,814	47,119
		-,-	
	単純	11,675	11,498
MRI	造影	4,884	4,859
1,111	計	16,559	16,357
	HI	10,000	10,001
	心臓	723	801
	頭頸部	300	320
	胸部	120	100
血管撮影	腹部	172	173
	四肢	43	56
	計	1,358	1,450
	Н	1,000	1,100
	UGI (胃)	2,436	2,525
	CG (大腸)	52	<u> </u>
TV	透視下内視鏡	1,635	
1 V			1,508
	透視下検査・治療	1,824	1,740
	計	5,947	5,827
	HE W OPPOR	201	200
	核医学 SPECT	631	632
	核医学静態	204	175
RI	核医学動態	22	33
	核医学全身	302	331
	PET/CT	1,188	1,115
	計	2,347	2,286
	体外照射	10,809	11,273
	定位照射	585	520
放射線治療	腔内照射	59	86
J.人为7 //水 (口7)东	IMRT	4,501	3,483
	全身照射	53	38
	計	16,007	15,400

(2) 2023年度 豊橋市民病院放射線技術研修会

	演題名	演者名	年月日
第1回	初心者向けアンギオ装置の線量測定	平岩 誠也	2023/7/5
第2回	NEMA ボディファントムの作り方のコツ教えます	加藤 豊大	2023/8/3
第3回	マンモグラフィーと乳腺エコーの比較	山田 友紀	2023/9/8
第4回	基礎から始める CT Angiography 会得への道	盛田 健人	2023/10/12
第5回	小児領域の DR 検査における被ばく低減の取り組み	伊藤 惠望	2023/11/10
第6回	当院における脳定位照射の治療計画	谷口 裕輝	2023/12/14
第7回	MRI の SNR 測定法の実践	小野 孝明	2024/1/11
第8回	ストレス撮影法を勉強しよう	山本 弘樹	2024/2/8

中央臨床検査室

1. 概要

2024年に向けた医師の働き方改革を進めるタスクシフト/シェアの推進により、中央臨床検査室で活かせる業務として、糖尿病検査の一部である持続皮下グルコース検査が軌道に乗りタスクシフト/シェアの業務が一歩ずつ拡充してきた。また、がんゲノム医療の浸透によって、多くの検査が依頼されるようになり、我々が出来る範囲で対応した年度となった。新型コロナウイルス感染症は5類となったが、検査は今まで通り検体採取、コロナ検査への対応を行い、臨床支援に携わっている。

「ISO15189:臨床検査における国際規格」については、2023年10月に第3回サーベランス審査が実施され無事に承認された。このことから検査室の品質保証が継続的に維持され、質の高い検査結果を提供できる体制の状況である。今後ISO15189に至っては、新たな改定が提示され、内容の変更を迅速に取り組んで行き、より一層、検査業務の品質保証や病院運営に寄与していきたいと考えている。

(室長 内田 一豊)

「在籍技師が取得している認定資格」

認定資格名称	認定団体及び学会	認定資格名称	認定団体及び学会		
認定血液検査技師	日本検査血液学会	体外受精コーディネーター	日本不妊カウンセリング学会		
骨髄検査技師	日本検査血液学会	認定臨床エンブリオロジスト	日本臨床エンブリオロジ スト学会		
認定サイトメトリー技術者	日本サイトメトリー技術者 認定協議会	生殖補助医療胚培養士	日本卵子学会		
認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士 認定機構		
感染制御認定臨床微生 物検査技師	日本臨床微生物学会	栄養サポートチーム専門 療法士	日本臨床栄養代謝学会		
認定輸血検査技師	認定輸血検査技師制度 協議会	遺伝子分析科学認定士	日本臨床検査医学会		
認定病理検査技師	日本臨床衛生検査技師会	緊急臨床検査士	日本臨床検査医学会		
細胞検査士	日本臨床細胞学会	細胞治療認定管理師	細胞治療認定管理師制 度協議会		
超音波検査士	日本超音波医学会	POCT 測定認定士	日本臨床検査医学会		
認定心電検査技師	日本心電学会	二級臨床検査士	日本臨床検査医学会		
ソノグラファー	日本リウマチ学会	診療情報管理士	日本病院会		
専門技師(脳波分野)	日本臨床神経生理学会				

2. 活動報告

(1) 検査実施件数

(件)

区 分	令和5年度	令和4年度	令和3年度
院内検査実施件数	6,258,326	6,067,262	6,061,650
委託検査件数	133,577	133,410	138,033
検査判断料件数	468,630	456,976	441,231
輸血管理料1	2,801	2,833	2,927
外来迅速検体検査加算件数	283,005	276,185	270,760
病理診断管理加算	14,740	14,087	14,765
検体検査管理料加算 I 件数	119,762	123,167	117,561
入院時初回加算件数	13,266	12,863	12,682
時間外緊急院内検査加算件数	12,353	10,472	10,345
採血加算件数	114,800	112,529	110,025

(2) 検査判断料件数

(件)

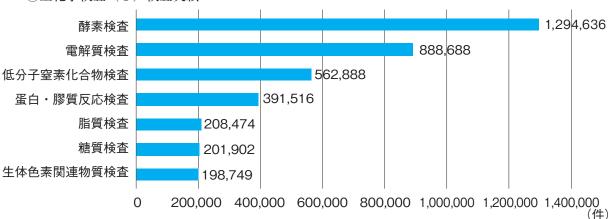
区分		令和5年度	令和4年度	令和3年度
尿・糞便等検査判断料	外来	25,480	23,356	21,665
冰 ,英快守快宜刊剧科	入院	5,554	5,291	5,332
血液学的検査判断料	外来	106,410	102,050	99,542
皿似于印烟生刊例件	入院	17,857	17,180	16,782
生化学的検査(I)判断料	外来	106,677	102,224	99,551
生化子的快生(1) 刊剧科	入院	18,441	17,617	17,192
生化学的検査(Ⅱ)判断料	外来	34,605	31,683	29,309
生化子的恢生(II) 刊剧科 	入院	6,603	6,199	6,348
免疫学的検査判断料	外来	84,204	84,277	79,903
光发子的恢宜刊例件	入院	17,608	17,216	16,273
微生物学的検査判断料	外来	14,077	20,145	18,529
	入院	7,710	6,851	6,817
病理学的検査判断料	外来	1,828	2,277	2,496
州连子的快宜刊 例件	入院	26	32	40
呼吸機能検査等判断料	外来	4,585	4,332	4,060
时级城能恢复等刊剧科 	入院	595	495	552
脳波検査判断料	外来	912	938	984
10000000000000000000000000000000000000	入院	721	718	813
神経・筋検査判断料	外来	374	411	391
个甲花主。	入院	153	138	142
야마 호해 글人 NrC 기의	外来	5,451	5,289	5,565
組織診断料	入院	5,015	4,662	4,705
細胞診断料	外来	2,586	2,578	2,855
	入院	1,158	1,017	1,385

(3) 部門別実績 (件)

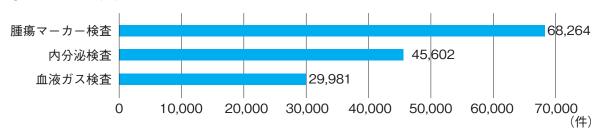
部門	令和5年度	令和4年度	令和3年度
尿・糞便等検査	126,713	121,649	126,666
血液学的検査	1,012,116	977,768	994,911
生化学的検査	4,413,001	4,252,284	4,243,878
免疫学的検査	474,623	493,123	460,336
微生物学的検査	101,100	88,793	92,663
輸血関連検査	49,785	49,785	54,719
生理機能学的検査	56,124	58,948	61,912
病理学的検査	24,685	24,264	25,829
生殖医療学的検査	498	648	736

(4) 生物化学分析検査

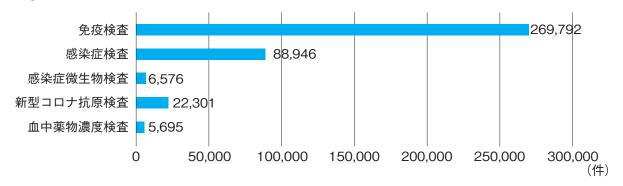
①生化学検査(I)検査実績



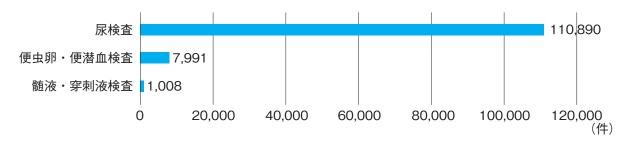
②生化学検査(Ⅱ)・血液ガス検査実績



③免疫学的·薬物検査実績



④一般検査実績



⑤ 患者検査説明業務実績

(件)

区	分	令和5年度	令和4年度	令和3年度
患者検査	説明業務	565	651	876

患者説明業務とは、蓄尿、糖負荷検査(OGTT)、生理検査などの検査方法を患者に対して説明する業務である。

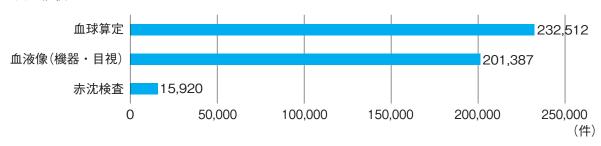
●説明検査項目

尿検査など: 蓄尿・酸性蓄尿・糖負荷検査 OGTT・クレアチニンクリアランス・早朝尿

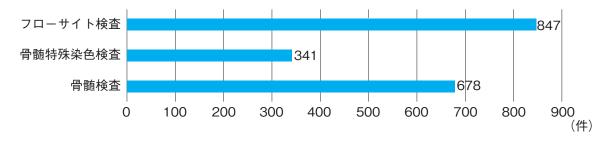
生理検査:超音波検査・ホルター心電図・トレッドミル・24時間血圧測定・負荷サーモグラフィー・吸入誘発試験・脳波・聴性脳幹反応・終夜睡眠ポリグラフィー

⑥血液学的検査 検査実績

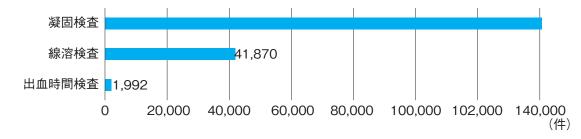
(ア)血液検査



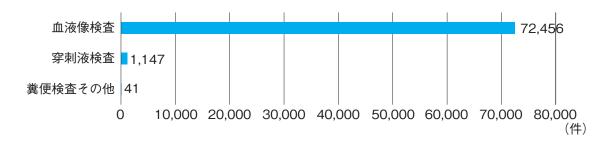
(イ)骨髄検査



(ウ)凝固・線溶検査



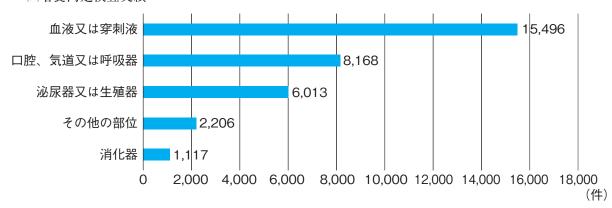
⑦顕微鏡検査 検査実績



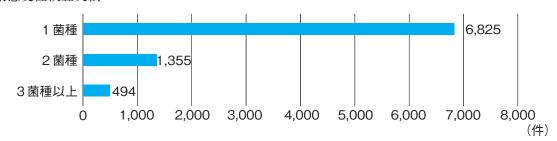
(5) 微生物・感染制御検査

①一般細菌

(ア)培養同定検査実績

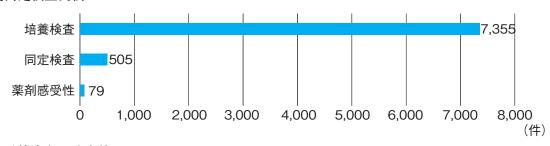


(イ)薬剤感受性検査実績

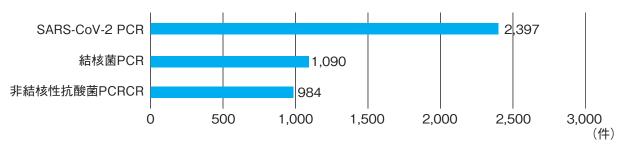


②抗酸菌

(ア)培養同定検査実績

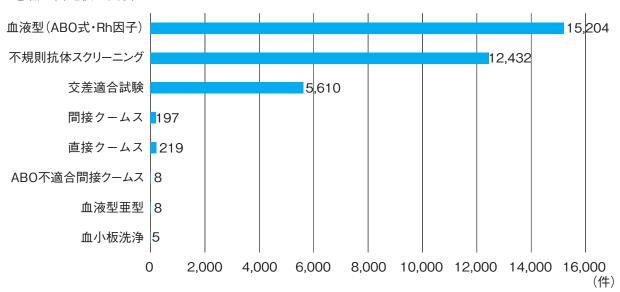


(イ)遺伝子検査(PCR)実績

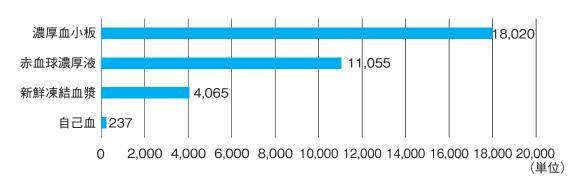


(6) 輸血移植・救命救急検査

①輸血関連検査実績



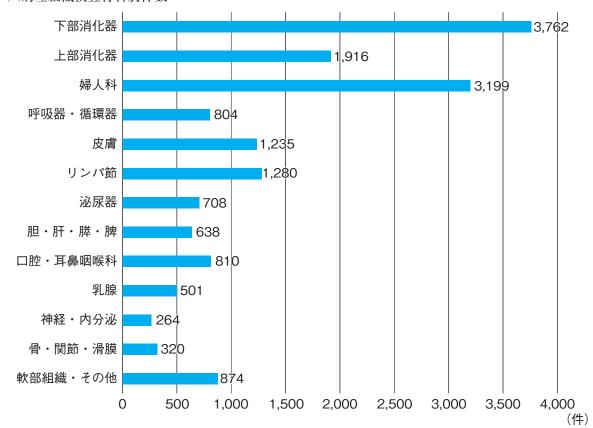
②血液製剤使用状況



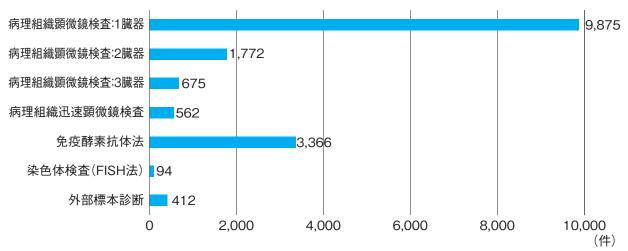
(7) 病理・細胞形態検査

①病理学的・細胞診検査実績

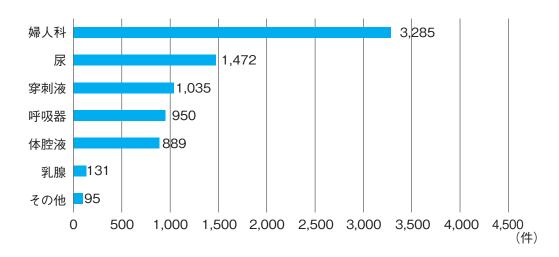
(ア)病理組織検査材料別件数



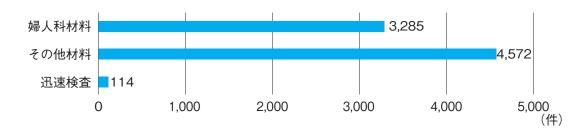
(イ)病理組織検査件数



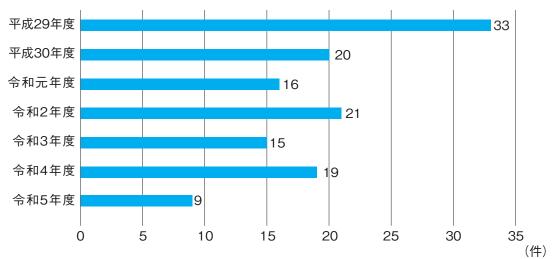
(ウ)細胞診検査材料別件数



(工)細胞診検査件数



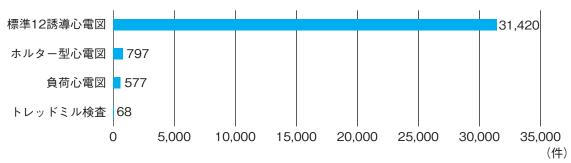
②病理解剖件数



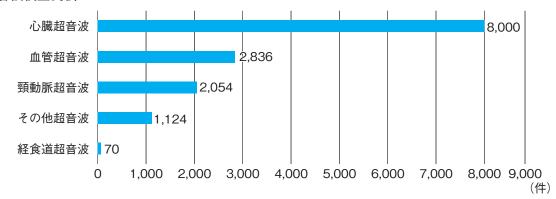
(8) 生理機能・生殖医療検査

①生理機能・画像検査 検査実績

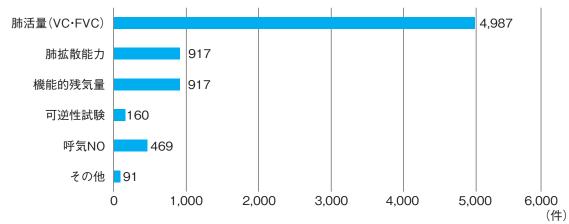
(ア)心電図検査実績



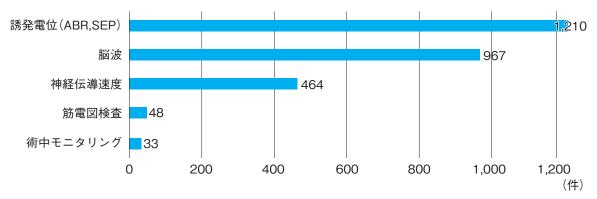
(イ)超音波検査実績



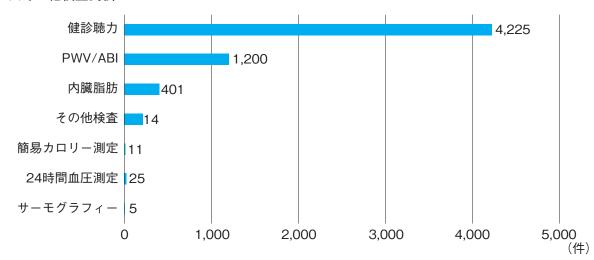
(ウ)肺機能検査実績



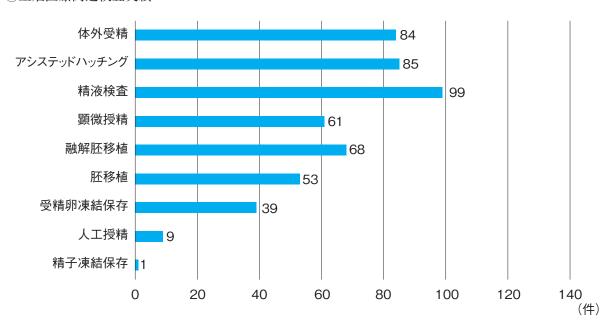
(エ)脳・神経検査実績



(オ)その他検査実績



②生殖医療関連検査実績



リハビリテーション技術室

1. 概要

リハビリテーション技術室は理学療法 1・2 部門、病棟部門、作業療法部門、言語療法部門より構成される。運動器・脳血管・呼吸・心大血管・がん患者を対象に総合的にリハビリテーションが実施できるよう施設基準を有している。2018 年 3 月からは ADL 維持向上等体制加算を取得し、2020 年 3 月から病棟を増やし東病棟 5 階と東・西病棟 6 階の 3 病棟で療法士による病棟専従化を行っている。一方、早期リハビリテーションとして 2019 年 5 月からチームの一員として特定集中治療室での早期離床・リハビリテーション加算に関する業務の一端を担い、2022 年 9 月から理学療法士を専従配置している。さらに栄養、呼吸、褥瘡、認知症、排尿ケア、嚥下、緩和等のチーム医療にも積極的に参加している。

1987年より開始した地域病院間のリハビリテーション連絡会は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属する施設で構成され、各機能別施設における専門分野からの情報提供や症例検討を行っている。病診や病病連携一体のシステムは、27施設を数え、リハビリテーション分野からの市民サービスの充実を図っている。

2023 年度も新型コロナウイルス感染症陽性患者に対するリハビリテーションを積極的に行っており、 感染症対応病院におけるリハビリテーション機能を果たしている。

(室長 森嶋 直人)

2. 活動報告

(1) 外来入院別単位数

延べ患者件数は118,925件、その内訳として理学療法70,112件、作業療法29,700件、言語療法19,113件であった。

(件)

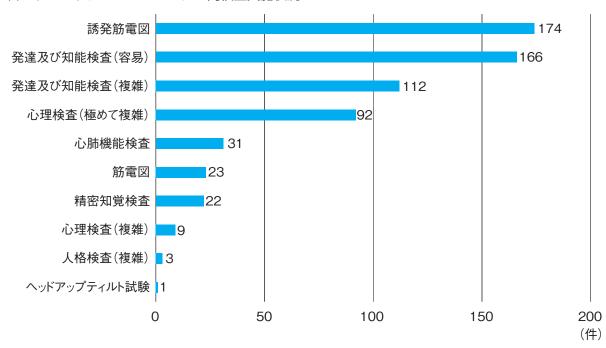
内 容	入外	令和5年度	令和4年度	令和3年度
理学療法	入院	66,088	67,471	67,980
生子原伝	外来	4,024	3,333	4,155
作業療法	入院	27,710	24,589	24,785
TF未炼伍 	外来	1,990	2,492	3,083
言語療法	入院	17,876	18,710	15,282
日	外来	1,237	1,190	1,234
小計	入院	111,674	110,770	108,047
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	外来	7,251	7,015	8,472
合	計	118,925	117,785	116,519

(2) 疾患別件数

大分類疾患		代表的小分類疾患	
①脳疾患	1,206 件	ア)脳梗塞	515 件
		イ)脳出血	185 件
		ウ)くも膜下出血	39 件
		エ)小脳出血・小脳梗塞	41 件
		オ)頭部外傷	77 件
		カ)パーキンソン病	10 件
		キ) その他	339 件
②脳性麻痺	4件		
③発達障害	177 件		
④脊髄疾患	148 件	ア)脊髄損傷	27 件
		イ)脊髄症	121 件
⑤神経疾患	199 件	ア)顔面神経麻痺	82 件
		イ) 多発神経炎	40 件
		ウ)変性疾患	46 件
		エ) その他	31 件
⑥先天性異常	2 件		
⑦骨疾患	502 件	ア)上肢骨折	19 件
		イ)下肢骨折	334 件
		ウ)脊椎骨折	40 件
		エ)脊椎症	26 件
		オ)脊柱靱帯骨化	0件
		カ)無腐性壊死	7件
		キ)椎間板疾患	49 件
		ク)その他	27 件
8関節疾患	203 件	ア)変形性関節症	135 件
		イ)膝内障	33 件
		ウ)肩関節疾患	6件
		エ)筋腱断裂	1件
		オ)その他	28 件
9関節リウマチ	11 件		
⑩切断	6 件		
①手の外傷	31 件		
迎筋疾患	20 件		
⑬循環器疾患	529 件	ア)心筋梗塞	77 件
		イ)心不全	326 件
		ウ)狭心症	15 件
		エ) その他循環器疾患	111 件
④呼吸器疾患	1,042 件	ア)肺炎	306 件
		イ)誤嚥性肺炎	288 件
		ウ)間質性肺炎	124 件
		エ) COPD	80 件
		オ) その他呼吸器疾患	244 件

大分類疾患		代表的小分類疾患	
15腫瘍	1,043 件	ア)頭頸部	62 件
		イ)甲状腺	2件
		ウ)食道	45 件
		エ)胃	33 件
		オ)大腸	48 件
		カ)肝臓	19 件
		キ)胆道系	26 件
		ク) 膵臓	38 件
		ケ) 肺	231 件
		コ) 骨	18 件
		サ)乳腺	135 件
		シ)婦人科	15 件
		ス)泌尿器	39 件
		セ) 脳腫瘍	83 件
		ソ)小児腫瘍	1件
		タ)造血器	226 件
		チ) その他の腫瘍	22 件
16その他	1,293 件		

(3) リハビリテーションセンター内検査実施状況



臨床工学室

1. 概要

臨床工学室は病院理念と基本方針に基づき、市民の財産である院内の医療機器を安全且つ良好な状態で臨床提供を行い、公共性と経済性を考慮し効率的な運用を行っている。

生命維持管理装置を用いた手術、治療支援並びにそれに付帯する一切の医療安全業務に携ることが使命である。人員は正規職員25名、パート職員3名、事務職員1名で、医療機器管理部門、血液浄化センター部門、手術センター部門、2023年4月からは新規部門として不整脈・心血管治療部門の4部門体制としている。

医療機器管理部門では、医療機器安全管理責任者の下に医療機器の保守管理計画、研修計画及び研修 実施記録管理、更新・増設・廃棄業務支援を行っている。地域医療連携においては主治医を中心に、在 宅で医療機器を使用する患者・家族への操作指導や退院後のフォローも行っている。多職種間の密な連 携協力や計画的な研修・カンファレンスを行いながら、患者の安全・安心を第一に考えた医療技術の提 供と診療支援に努めている。

血液浄化センター部門では、一般的な血液透析から特殊血液浄化全般までを臨床工学技士と看護師で協働して対応している。基幹病院として、近隣病院より手術目的で紹介される患者の受け入れや、より 重篤な透析患者の入院透析を中心に対応している。近年では在宅自己腹膜透析の指導・管理に力を入れ、 遠隔管理も行っている。

院内で使用する生命維持管理装置といった高度医療機器の多くは手術センターで主に使用されている。そのため手術センター部門にも臨床工学技士を常駐配置し、医師のサポート、医療機器の適正使用に貢献している。ハイブリッド手術室では動脈瘤に対してのステント留置治療のサポートや埋込型デバイスのサポートも行っている。埋込型デバイスについては近年では遠隔モニタリングを活用した患者安全管理にも力を入れている。

不整脈・心血管治療部門では、各種頻脈性不整脈に対して心臓アブレーション治療を実施しているが、 臨床工学技士は心内心電図解析装置や 3D マッピング装置、プログラム刺激装置の準備から操作を行い、 不整脈治療を支えるチームの一員として良質な医療が提供できるように努めている。

また、2021年からは厚生労働省から臨床工学技士の業務範囲追加による法令の改正によって、臨床工学技士の行える業務が拡大され医師の働き方改革を進めるためのタスクシフトに貢献できるように取り組んでいる。

(室長 後藤 成利)

「在籍技士が取得している認定資格等」

認定資格名称	認定団体及び学会	認定資格名称	認定団体及び学会
臨床ME専門認定士	日本生体医工学会 日本医療機器学会	透析技術認定士	日本透析医学会 4学会透析療法合同専門 委員会認定資格
体外循環技術認定士	日本人工臟器学会 日本体外循環技術医学会 日本心臟血管外科学会他 日本心臟血管外科学会	呼吸療法認定士	日本呼吸器学会 日本麻酔科学会 日本胸部外科学会
第1種ME技術者	日本生体医工学会	特定高圧ガス取扱主任者	高圧ガス保安協会
第2種ME技術者	日本生体医工学会	第一種衛生管理者免許	厚生労働大臣指定安全 衛生技術試験協会
院内移植コーディネータ	愛知県 愛知腎臓財団	医療安全認定コーチ: MCCS	国際医療リスクマネー ジメント学会
医療安全管理者	日本病院会	認定血液浄化関連臨床 工学技士	日本臨床工学技士会
認定集中治療関連臨床 工学技士	日本臨床工学技士会	認定医療機器管理関連 臨床工学技士	日本臨床工学技士会
集中治療専門臨床工学 技士	日本集中治療医学会	手術室関連専門臨床工 学技士	日本臨床工学技士会
埋め込み型心臓デバイ ス認定士	日本不整脈心電学会	腎代替療法 専門指導士	日本腎代替療法 医療専門職推進協会
日本腹膜透析医学会 指導臨床工学技士	日本腹膜透析医学会	臨床工学技士 臨床実習指導者	日本臨床工学技士会

2. 活動報告

(1) 治療手術業務件数 緊急血液浄化・血液成分分離・末梢血幹細胞採取数

(件または回)

区分			(件または四)
内訳	令和5年度	令和4年度	令和3年度
血液浄化療法(HD、HDF、HF、ECU	M、PE は血液浄化セ		<u></u> を除く)
症例件数合計	118	101	95
血液浄化回数合計	315	233	242
HD件数 (SLEDを含む)	87	84	75
HD回数	251	197	210
HDF件数	1	1	1
HDF回数	1	2	2
HF件数	0	0	0
HF回数	0	0	0
ECUM件数(単独)	9	8	9
ECUM回数	11	8	16
CHD件数	1	0	2
CHD回数	1	0	2
小児CHD件数	0	0	0
小児CHD回数	0	0	0
CHDF件数	16	5	4
CHDF回数	43	17	5
CHF件数	0	0	0
CHF回数	0	0	0
PE件数(HD+PEを含む)	4	3	4
PE回数	8	9	7
小児PE件数	0	0	0
小児PE回数	0	0	0
CPE件数	0	0	0
CPE回数	0	0	0
DFPP件数	3	1	4
DFPP回数	4	1	43
免疫吸着件数	0	0	0
免疫吸着回数	0	0	0
LDL吸着件数	0	1	0
LDL吸着回数	0	2	0
薬物吸着件数	0	0	0
薬物吸着回数	0	0	0
ET吸着件数	0	0	0
ET吸着回数	0	0	0
G-CAP件数	3	4	8
G-CAP回数	50	18	62

区分 内訳	令和5年度	令和4年度	令和3年度					
末梢血幹細胞採取・骨髄移植関連								
症例件数合計	27	24	17					
施行回数合計	31	30	21					
PBSC成人件数	17	17	10					
PBSC成人回数	21	23	12					
PBSC小児件数	0	0	0					
PBSC小児回数	0	0	0					
健常人 ドナーPBSCH件数	4	2	2					
健常人 ドナーPBSCH回数	4	2	4					
健常人 ドナーリンパ球採取件数	0	2	0					
健常人 ドナーリンパ球採取回数	0	2	0					
骨髄濃縮件数	6	3	5					
骨髄濃縮回数	6	3	5					
顆粒球採取件数	0	0	0					
顆粒球採取回数	0	0	0					
白血球採取件数	0	0	0					
白血球採取回数	0	0	0					
その他								
腹水濾過濃縮再静注業務症例数	18	19	18					
腹水濾過濃縮再静注業務回数	28	51	27					

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
人工心肺装置業務(開心術)	11110112	1717 2 1/2	F 14 3 1 12
成人人工心肺症例数	32	27	24
Off Pump CABG 手術立会い症例		0	1
小児人工心肺症例数	0	0	0
	計 32	27	25
 補助人工心肺装置管理業務	32	21	20
V-A ECMO 症例数	7	1	5
.		4	<u> </u>
V-V ECMO 症例数	1 2L	0	0
	子华士授类教	4	5
	手術支援業務		
自己血回収業装置操作(人工心肺と		0	0
心臓血管外科	1	2	3
整形外科	6	9	3
	計 7	11	6
Navigation 手術支援			
脳神経外科	58	56	71
耳鼻いんこう科 エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エ	38	40	13
	計 96	96	84
ダヴィンチ手術支援		1	
泌尿器科ダヴィンチ症例数	47	38	33
(前立腺全摘除)		00	
泌尿器科ダヴィンチ症例数 (腎尿管全摘除)	5	1	-
泌尿器科ダヴィンチ症例数 (腎部分切除)	25	19	17
泌尿器科ダヴィンチ症例数 (腎全摘切除)	7	_	_
泌尿器科ダヴィンチ症例数 (膀胱全摘除)	8	8	9
※尿器科ダヴィンチ症例数 (腎盂形成)	4	_	_
婦人科ダヴィンチ症例数 (子宮全摘出)	221	179	188
婦人科ダヴィンチ症例数 (仙骨膣固定術)	37	34	38
外科ダヴィンチ症例数 (胃切除)	24	17	13
外科ダヴィンチ症例数 (結腸切除)	6	6	-
外科ダヴィンチ症例数 (大腸切除)	29	2	5
外科ダヴィンチ症例数 (食道切除)	2	_	_
呼吸器外科ダヴィンチ症例数 (肺切除)	44	7	13
呼吸器外科ダヴィンチ症例数 (縦隔腫瘍切除)	4	5	5
	計 463	316	321
	100	010	021

区分	令和5年度	令和4年度	令和3年度				
内視鏡手術等支援							
婦人科	223	232	220				
呼吸器外科	191	191	212				
一般外科	542	606	557				
泌尿器科	55	61	87				
小児外科	41	40	57				
整形外科	47	58	41				
脳神経外科	4	4	4				
計	1,103	1,192	1,178				
眼科手術補助 (装置セッティング)							
白内障手術装置	695	544	325				
硝子体手術装置	338	179	69				
計	1,033	723	394				
臓器移植支援							
生体腎移植術腎還流	3	3	4				
献腎移植術腎還流	1	3	0				
計	4	6	4				
ステントグラフト挿入術支援							
心臓血管外科 EVER	21	20	31				
心臓血管外科 TEVAR	5	3	3				
計	26	23	34				

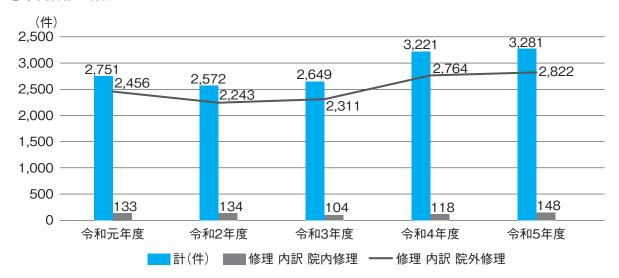
(3) 医療機器管理、修理件数

(件または回)

循環器 device 対応支援			
PM·CRT·ICD 新規植込 立会い	39	50	38
PM·CRT·ICD 電池交換 立会い	10	18	16
PM・CRT・ICD リード交換等 立会い	0	2	1
PM·CRT·ICD 設定術中/CT/MRI対応	90	92	186
ICM 新規植込 立会い	4	9	9
PM・CRT・ICD・ICM遠隔モニタリング件数	245	227	206
計	388	398	456
呼吸療法関連業務			
成人用 人工呼吸器回路組立件数	945	772	794
新生児用 人工呼吸器回路組立件数	320	286	297
計	1,265	1,058	1,091
NOガス使用症例数	7	9	2
N2ガス使用症例数	0	0	0
計	7	9	2

(4) 医療機器修理件数

①年度別修理件数



②2023年度修理処理件数内訳

				修理 内訳		
部署名	修理件数	修理件数 院内修理	院外修理	修理分類別		
		阮內修理	元グト修建	新品交換	異常なし	修理不能
内科外来 (総合、消化器、循環器、 呼吸器・アレルギー、 血液・腫瘍、腎臓)	19	0	14	5	-	_
小児科外来	11	1	7	3	_	_
外科外来 (一般、小児、肛門、移植、 呼吸器、心臓·血管、麻酔)	15	3	10	2	_	_
整形外科	15	0	15	_	_	_
皮膚科	10	0	10	_	_	_
泌尿器科	18	1	15	2	_	_
産婦人科	21	0	18	3	_	_
耳鼻いんこう科	38	1	36	1	_	_
眼科外来	24	0	23	1	_	_
脳神経外科	2	0	2	_	_	_
歯科口腔外科外来	3	0	2	1	_	_
外来治療センター	16	2	13	_	1	_
予防医療センター	2	0	1	1	_	_
患者総合支援センター	0	0	0	_	_	_
入退院支援センター	5	0	0	5	_	_
感染症管理センター	9	0	5	4	_	_
総合案内	31	19	5	7	_	_
東病棟2階	77	3	58	16	_	_
西病棟2階	85	10	64	11	_	_
東病棟3階	83	4	71	8	_	_
西病棟3階	85	3	63	18	1	_

				修理 内訳		
部署名	修理件数	吃中 好冊 吃 用 修理分類別				
		院内修理	院外修理	新品交換	異常なし	修理不能
総合周産期病棟 (4階病棟)	112	2	81	27	2	_
東病棟5階	55	5	43	7	_	_
西病棟5階	60	8	40	12	_	_
東病棟6階	81	5	61	15	_	_
西病棟6階	41	3	33	5	_	_
東病棟7階	77	5	57	15	_	_
西病棟7階	64	7	44	11	2	_
東病棟8階	65	2	55	8	_	_
西病棟8階	116	9	90	13	2	2
東病棟9階	51	8	38	5	_	_
西病棟9階	81	6	52	19	1	3
南病棟	39	6	29	3	_	1
放射線技術室	227	1	225	1	_	_
放射線治療室	5	0	1	4	_	_
救命救急センター 画像検査 (看護局)	115	6	93	16	_	_
中央臨床検査室	87	0	83	4	_	_
薬局	24	21	2	_	1	_
臨床工学室 (CE)	169	1	163	5	_	_
血液浄化センター	7	0	7	_	_	_
新生児医療センター (NMC)	92	4	73	10	5	_
中央滅菌材料室	93	0	93	_	_	_
リハビリテーションセンター	28	0	28	_	_	_
栄養管理室	2	0	2	_	_	_
医局	3	0	3	_	_	_
看護局	31	0	30	_	_	1
管理課 (庶務担当)	3	0	3	_	_	_
医事課	9	1	6	2	_	_
医療情報課	16	0	13	2	_	1
医療安全管理室	1	0	1	_	_	_
手術センター	957	1	940	14	2	_
発熱外来	1	0	1	_	_	_
計	3,281	148	2,822	286	17	8

(5) 臨床工学室が管理する医療機器台数

*各科で購入されているが、保守点検を臨床工学室が行っている機器を含む

管理機器名称	管理台数(台)
人工心肺装置	1
人工心肺用遠心ポンプコントローラー	1
心筋保護液供給装置	1
人工心肺用ヒータークーラーユニット	2
自己血回収装置	2
遠心ポンプ式補助循環装置 (PCPS)	2
IABP	3
成人・小児用人工呼吸器	25
新生児用人工呼吸器	14
在宅用 人工呼吸器 (レンタル機含む)	50
成人用 NIPPV	10
小児・新生児用 NIPPV	11
可搬型人工呼吸器(パラパック)	2
MRI 対応型人工呼吸器	1
多人数用血液透析患者監視装置	17
手術ナビゲーションシステム	3
個人用血液透析患者監視装置	4
個人用 RO 装置	3
持続的血液ろ過透析装置	3
血漿交換装置	1
腹水濾過濃縮装置	1
除細動装置	18
AED 細松牡果	25
AED 解析装置 閉鎖式保育器(多機能型 4 台含む)	1 19
開放式保育器(インファントウォマー)	19
搬送用保育器	4
輸液ポンプ	299
輸注ポンプ	298
経腸ポンプ	44
医薬品注入コントローラー(滴下式)	20
PCA ポンプ(麻酔用)	9
6 連式シリンジポンプユニット	3
セントラルモニター	30
ベッドサイドモニター	180
無線式送信機台数	203
携带型受信機	8
心電計	25
血液成分分離装置	1
全身麻酔器	16
低圧持続吸引器	33
連続心拍出力計	13
体外式ペースメーカ(DDD 式を含む)	10
ネブライザーヒーター	60
手術支援ロボットシステム(ダヴィンチ X,Xi)	2
計	1,490

(6) 2023年度 人工呼吸器稼働台数および平均装着日数 (マスクを除く)

①診療科別

症例数 延べ稼働 平均装着 診療科名 (件) 回数(日) 日数(日) 一般外科 84 544 6.5 脳神経外科 381 5.9 65 76 心臟血管外科 36 2.1 呼吸器外科 17 4 4.3 循環器内科 53 344 6.5 呼吸器内科 250 7.4 34 消化器内科 22 126 5.7 脳神経内科 15 220 14.7 7 血液・腫瘍内科 24 3.4 腎臟内科 5 11 2.2 糖尿病·内分泌内科 4 7 1.8 整形外科 22 203 9.2 リウマチ科 1 2 2.0 泌尿器科 4 12 3.0 産婦人科 0 0 形成外科 0 0 _ 皮膚科 1 31 31.0 耳鼻いんこう科 28 118 4.2 7 歯科口腔外科 18 2.6 小児科 66 355 5.4 2 移植外科 4 2.0 総合診療科 0 0 _ 救急科 12 11 1.1 計 471 2,755 5.8 454 2,723 6.0 前年度

※転科を含む

②病棟別

© 713 17K733			
病棟名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着日数(日)
南病棟1階	4	27	6.8
南病棟2階	0	0	_
西病棟2階	21	223	10.6
東病棟2階	56	320	5.7
西病棟3階/ICU	352	1,336	3.8
東病棟3階	12	110	9.2
西病棟4階	0	0	_
東病棟4階	0	0	_
西病棟5階	6	143	23.8
東病棟5階	6	154	25.7
西病棟6階	5	51	10.2
東病棟6階	7	38	5.4
西病棟7階	9	93	10.3
東病棟7階	7	28	4.0
西病棟8階	1	1	1.0
東病棟8階	10	114	11.4
西病棟9階	2	2	1.0
東病棟 9 階	7	173	24.7
救急外来	109	121	1.1
計	614	2,934	4.8
前年度	608	2,876	4.7

^{*}西病棟3階から病棟転床された症例を含む

^{*}在宅人工呼吸療法中で入院した症例も含む

病棟別 人工呼吸器稼働(日常点検)台数の報告

日計算	1 日平均使用	0.07	0	0.61	0.88	3.66	0.30	0	0	0.39	0.42	0.14	0.10	0.25	0.08	0	0.31	0.01	0.47	0.33	8.04	4	《小比) 《児較日		3.6	3.3	
年間3651	漆石 製数	27	0	223	320	1336	110	0	0	143	154	51	38	93	28	1	114	2	173	121	2934	Ħ	世(田) (田)	752	646	106	ĵ
	1 日平 均使用 台数	0	0	0.71	1.87	2.23	0	0	0	0.26	0	0	0.03	0	0	0	0	0	1.77	0.16	7.03	种	海数(生)	210	178	32	3.6
3月	延縁台ベ動数	0	0	22	28	69	0	0	0	8	0	0	П	0	0	0	0	0	22	2	218	H	(田) 田(田)	26	94	3	4.8
	1 均 位 分 数 分	0.28	0	0.10	0.28	3.86	0.17	0	0	0.48	0.21	0	0.03	0	0	0	0	0	0.07	0.24	5.72	3	点 数 (年)	23	22	1	4
2月	延稼台ベ動数	∞	0	3	8	112	5	0	0	14	9	0	П	0	0	0	0	0	2	7	166	月	(H) (H) (H)		3.7	3.4	4.1
	1 均 均 台数 台数	0.29	0	0	0.55	5.61	76.0	0	0	0	0.23	0	0	0.16	0.13	0	0	0	0	0.39	8.32	2	点数(中) (年)	830	699	161	
1月	延縁合べ動数	6	0	0	17	174	30	0	0	0	7	0	0	5	4	0	0	0	0	12	258	1月	(H) (H) (H)	229	182	47	3.6
_	1 均 均 合 数	0	0	0.48	0.74	3.32	89.0	0	0	0	90.0	0	0	1.00	90.0	0	0.35	0	0	0.29	7.00		超数件	28	52	9	
12月	延縁合べ動数	0	0	15	23	103	21	0	0	0	2	0	0	31	2	0	11	0	0	6	217	12月	(田) (田) (田)	12	[] 11)	2.7
_	1日平均使用 台数	0	0	0.90	1.73	3.73	0:30	0	0	0	29.0	0	0	0.30	0	0.03	09.0	0	0	0.47	8.73		点数(<u></u>)) 81	7 71	3 10	
11月	延縁合べ動数	0	0	27	25	112	6	0	0	0	20	0	0	6	0	1	18	0	0	14	262	11月	(田) (田)	93 20	1 17	2	4.2
-	1 均 均 位 分数	0	0	1.39	0.71	3.87	90.0	0	0	0.39	0.81	0.48	0.23	0	0	0	0	0.03	0	0.42	8.39		まる (年) (年)	92	23 81	3 1	
10月	延縁合べ動数	0	0	43	22	120	2	0	0	12	25	15	7	0	0	0	0	П	0	13	260	10月	通 (田) (田)	48 2	$40 \mid 2$	8	2.5
	1 均使用 台数	0.23	0	0.77	0.83	2.67	0.23	0	0	1.00	1.00	0	0	0.03	0.30	0	0.53	0	0	0.30	7:90		世 日 1数数数 日)(件)	18 4	16 4	2	
9月	延修合べ動数	7	0	23	22	80	7	0	0	30	30	0	0	П	6	0	16	0	0	6	237	9月	<u>—</u>	50	40	10	3.2
	1 日平 均使用 台数	0.10	0	0.65	0.48	3.68	0.39	0	0	1.00	1.00	0	0.03	0.32	0	0	0.45	0	0	0.39	8.49		世用 1数 数 日) (件)	12	11		
8月	延稼合べ動数	က	0	20	15	114	12	0	0	31	31	0	П	10	0	0	14	0	0	12	263	8月	<u>Ф</u> ш	99	39	17	4.5
	1 均使用 台数	0	0	1.23	0.26	3.42	0	0	0	1.00	1.00	0.42	0	0.61	90.0	0	0.32	0.03	0	0.19	8.55		(田) (田) (世)	22	16	9	
7月	延縁合べ動数	0	0	38	8	106	0	0	0	31	31	13	0	19	2	0	10	П	0	9	265	7月	游 (本) (干)	28	43	15	5.3
	1 均使用 台数	0	0	0.40	0.53	4.73	0	0	0	0.57	0.07	0.43	0	0	0.07	0	0.10	0	0.20	0.27	7.37		(H) (田) (田)	18	12	9	
6月	延稼合べ動数	0	0	12	91	142	0	0	0	17	2	13	0	0	2	0	3	0	9	8	221	任9	(字) (字)	95	62	33	3.9
	1 均 付 分 数 分	0	0	0.23	1.32	3.84	0.58	0	0	0	0	0.19	0.03	0.39	0.29	0	0.87	0	1.35	0.45	9.54		(田) (田)	21	13	8	
5月	延稼合べ動数	0	0	7	41	119	18	0	0	0	0	9	П	12	6	0	27	0	42	14	296	5月	(本) (本)	74	29	7	3.8
_	1日平 均使用 台数	0	0	0.43	1.17	2.83	0.20	0	0	0	0	0.13	06:0	0.20	0	0	0.50	0	2.27	0.40	9.03		(田) (田)	14	10	4	
4月	延稼台《動数	0	0	13	35	85	9	0	0	0	0	4	27	9	0	0	15	0	89	12	271	4月	点 数 (年)	74	63	11	2.5
	海棟	南病棟 1 階	南病棟 2 階	西病棟 2 階	東病棟 2 階	ICU	東病棟 3階	西病棟 4 階	東病棟 4 階	西病棟 5 階	東病棟5階	西病棟 6 階	東病棟6階	西病棟 7 階	東病棟 7 階	西病棟 8 階	東病棟 8 階	西病棟 9 階	東病棟 9 階	救急外来	合計/日平均台数	マスク式		総数	(内訳)成人	(内訳)小児	平均装着 日数(日)

栄養管理室

1. 概要

栄養管理室では、患者の病状や嚥下状態などに合わせた常食、やわらか食、糖尿食など38分類の食種を用意しており、食事の味や内容について、医師と管理栄養士が検食で確認して改善に努めている。また、選択メニューや行事食などバリエーション豊かな食事や、食事療法を行うための食事を提供することでQOLの向上に努めている。家庭においても栄養管理や食事療法が行えるよう、栄養指導や糖尿病教室などを通して患者の支援をしている。

入退院支援センターに管理栄養士を配置し、入院前に食事摂取状況などの確認を行い、入院時から患者の病状に応じた食事の提供や栄養指導ができるようにしている。

入院患者の栄養状態の評価について、看護師とともに栄養管理計画書を作成し、担当医師が確認している。また、栄養状態が悪い患者に対して、管理栄養士が栄養サポートチーム(NST)の専従者となり、医師、看護師、薬剤師など、複数の医療職種とともに NST 回診を行い、栄養状態改善の提案を行うことで治療に貢献している。

他にも褥瘡対策チーム、呼吸療法ケアチームなど、チーム医療の一員としても活動している。

(室長 森嶋 直人)

(文責 室長補佐 藤田 克宣)

「取得している認定資格等」

資格	認定団体
栄養サポートチーム専門療法士	日本臨床栄養代謝学会

2. 活動報告

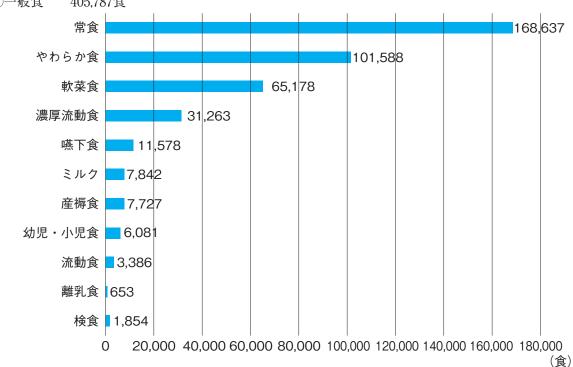
(1) 活動実績

区分				令和5年度	令和4年度	令和3年度
	一般食			405,787	367,049	366,213
			加算食	114,496	122,803	123,638
食種及び食数	特別食		非加算食	2,514	3,284	3,503
			小計(食)	117,010	126,087	127,141
	合	合計(針		522,797	493,136	493,354
	実施日数(日)		366	365	365
			常食	55,323	46,935	51,999
		般	軟菜食	20,617	19,912	19,626
		食	小計(人)	75,940	66,847	71,625
1起4日.) —			糖尿食	10,332	11,415	10,919
選択メニュー	実施食種	14	心臓食	6,524	6,938	6,694
		治療食	肝臓食	229	228	323
		筤	すい臓B食	1,627	1,040	1,032
			小計(人)	18,712	19,621	18,968
			合計(人)	94,652	86,468	90,593
	•					-
	外来患者栄養	食事	指導	911	1,462	1,262
	糖尿病透析予	防管	理	88	101	115
公关	入院患者栄養	食事	指導	3,275	3,036	2,717
栄養食事指導	小	計 (1	件)	4,274	4,599	4,094
	糖尿病教室			53	103	115
	合	計 (1	件)	4,327	4,702	4,209
NI C M # W	栄養管理計画	書 (件)	24,260	22,789	23,029
NST業務	栄養サポート	チー	ム加算(件)	1,407	1,470	1,337
	•					
NST定期教育	実施回数(回)			4	4	4
講演会	参加者(人)			266	147	137
	400点(件)			380	394	392
早期栄養介入管 理加算	250 点(件)			683	616	
·/4H2T		合計		1,063	1,010	392

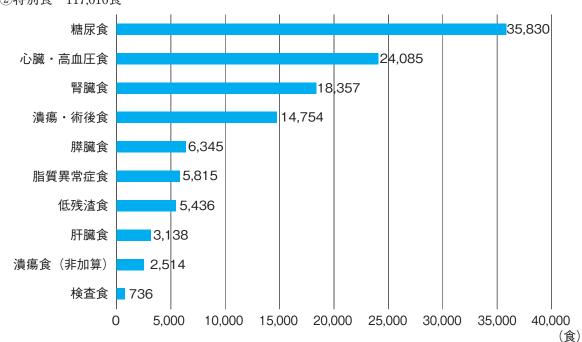
- ・2021年10月から算定開始(ICU入室後、48時間以内に経腸栄養等開始で400点/日)
- ・2022年4月診療報酬改定(ICU入室後、48時間以内に経腸栄養開始で400点/日・それ以外250点/日)

(2) 食種詳細





②特別食 117,010食



薬局

1. 概要

薬局は薬の専門家として、薬物治療および医療安全に貢献することを目標に各部局と連携し業務を行っている。

セントラル業務として、調剤・麻薬、注射、管理、製剤・注射調製、医薬品情報の5グループからなる基本組織と治験管理センターを設けている。

薬局外での業務としては、各病棟、手術室サテライト薬局、外来治療センターに薬剤師を常駐させている。

病棟では、薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務を行い、服薬指導や副作用発現のチェック、他の医療職への情報提供などを実施し、薬物療法における有効性・安全性の向上に貢献している。手術室サテライト薬局では、麻薬、筋弛緩薬などの薬品供給・管理に加え、麻酔薬や麻酔準備薬のセットを行い、医師・看護師の負担の軽減に役立っている。また、整形外科と連携し、本年度より二次性骨折予防継続管理料の算定が始まった。

外来治療センターではがん患者の薬剤指導や副作用管理を実施しているが、一昨年度より連携充実加算の算定を開始した。情報提供書・トレーシングレポートを保険薬局と相互にやり取りし、連携して外来がん化学療法の質の向上に努めている。また一方で、乳がんの外来内服治療患者に対する薬剤師外来(診察前面談)も実績を積み重ね、医師より評価されているが、マンパワー不足で対象薬を増やすことが出来ない状況である。今後人員を確保し広げていくべき業務と考えている。

薬剤師の専門資格の取得を積極的に奨励している。がん専門薬剤師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、栄養サポートチーム専門療法士、日本糖尿病療養指導士、スポーツファーマシストなどの資格を取得し、様々なチーム医療に寄与している。

(局長 白井 景)

2. 活動報告

(1) 患者数及び処方箋枚数

区	<u></u> 分	年度	令和5年度(対	付前年度)	1日平均	令和4年度(対	対前年度)	1日平均	令和3年度(対	讨前年度)	1日平均
	患	者数(人)	464,850	99.4%	1,913	467,424	100.8%	1,924	463,923	105.1%	1,917
 外	院	処方箋枚数(枚)	50,211	101.5%	207	49,469	105.5%	204	46,898	104.0%	194
		平均投薬日数(日)	15.4	102.0%		15.1	101.1%		14.9	94.9%	
	内	注射処方箋枚数(枚)	34,612	101.3%	142	34,184	128.0%	141	26,712	127.2%	110
来	院	処方箋枚数(枚)	153,629	101.0%	632	152,033	103.3%	626	147,110	101.2%	608
	外	平均投薬日数(日)	32.4	100.8%		32.1	100.7%		31.9	95.8%	
,	患	者数(人)	244,719	105.6%	669	231,808	100.9%	635	229,795	99.1%	630
入	処	方箋枚数(枚)	107,583	104.8%	294	102,628	97.1%	281	105,678	100.5%	290
院	平均	均投薬日数(日)	5.8	100.4%		5.8	101.8%		5.7	87.7%	
	注	时処方箋枚数(枚)	133,089	103.7%	364	128,284	103.0%	351	124,543	101.4%	341
	備	考	外来日 入院日		43日 66日	外来日 入院日		43日 65日	外来日 入院日		42日 65日

(2) 薬剤管理指導実績

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
薬剤管理指導件数(件)	19,846	19,293	19,998
麻薬加算件数(件)	461	452	461

(3) 無菌製剤処理料実績

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
無菌製剤処理料件数(件)	16,487	15,862	15,723

(4) 外来及び入院の科別処方箋枚数

		外来		入	院
科 名	処方箋ᡮ	女数(枚)	全処方箋枚数に 対する科別比率	処方箋枚数	全処方箋枚数に 対する科別比率
	院内	院 外	(%)	(枚)	刈りる行列比率 (%)
総合診療科	908	2,479	1.7	769	0.7
一般外科	3,546	8,631	6.0	10,760	10.0
整形外科	2,005	7,163	4.5	9,419	8.8
脳神経外科	214	2,621	1.4	6,625	6.2
産婦人科	1,894	6,982	4.4	8,536	7.9
小児科	2,796	10,552	6.5	4,193	3.9
耳鼻いんこう科	1,321	8,496	4.8	5,692	5.3
皮膚科	2,520	12,920	7.6	2,840	2.6
泌尿器科	1,482	8,287	4.8	3,873	3.6
眼科	895	8,217	4.5	1,566	1.5
放射線科	28	457	0.2	0	_
こころのケア科	1,481	1	0.7	0	_
形成外科	110	222	0.2	8	0.0
歯科口腔外科	521	3,905	2.2	1,066	1.0
リハビリテーション科	1	4	0.0	0	_
麻酔科	12	0	0.0	0	_
救急科	10,767	38	5.3	652	0.6
呼吸器内科	1,660	12,366	6.9	12,104	11.3
消化器内科	5,479	15,270	10.2	7,668	7.1
循環器内科	1,981	11,190	6.5	5,862	5.4
アレルギー内科	0	0	_	0	_
腎臓内科	910	5,499	3.1	3,571	3.3
糖尿病・内分泌内科	3,245	10,173	6.6	2,238	2.1
脳神経内科	519	6,057	3.2	6,498	6.0
血液・腫瘍内科	3,756	4,708	4.2	11,131	10.3
小児外科	16	321	0.2	76	0.1
移植外科	44	682	0.4	294	0.3
リウマチ科	1,610	4,949	3.2	207	0.2
脊椎外科	0	0	_	0	_
呼吸器外科	412	418	0.4	863	0.8
心臓血管外科	89	1,021	0.5	1,072	1.0
合 計	50,222	153,629	100	107,583	100
П П	203	,851	100	107,000	100

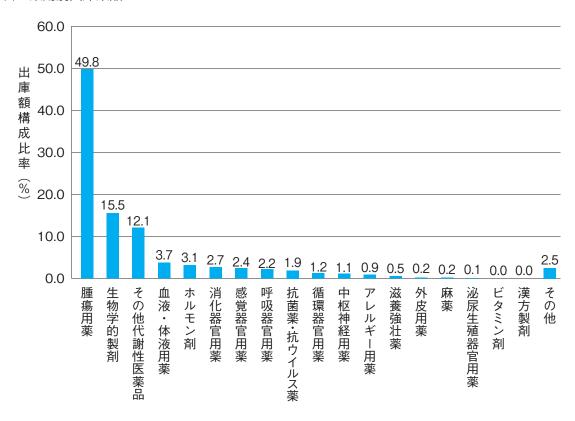
処方箋枚数:外来の肛門科は一般外科、臨床検査科は総合診療科、心臓血管・呼吸器外科は呼吸器外 科に含む。

入院の膠原病内科は糖尿病・内分泌内科に含む。

(5) 抗がん薬及び TPN 調製本数

	区 分	令和5年度	令和4年度	令和3年度
抗がん薬(本)	入 院	7,017	6,833	6,991
がかん栄 (平)	外 来	19,364	18,324	16,243
TPN (本)	入 院	1,114	927	859

(6) 薬効別出庫薬品



(7) 院内特殊製剤 (一部抜粋)

剤形	製 剤 名 (出庫単位)	適応症等	主な使用科	製剤量
坐剤・ 腟坐剤	リファンピシン坐薬450mg	結核治療薬(イレウス等で内服困 難時)	呼吸器内科	9本
	3%亜硝酸ナトリウム注(50mL)	シアン中毒の解毒	_	0本
	眼科用アバスチン注	加齢黄斑性症、血管新生緑内障	眼科	0本
	10%安息香酸ナトリウム注 (50mL)	高アンモニア血症	小児科	0本
	0.606%グルタルアルデヒド液 (52mL)	胸部外科手術による心膜固定	心臟血管外科	6本
注射剤	0.625% グルタルアルデヒド液 (48mL)	胸部外科手術による心膜固定	心臟血管外科	9本
工物用	10% フェノールグリセリン注射 液(2mL)	難治性の会陰部痛、腰部の痛み	一般外科	0本
	滅菌墨汁(5mL)	内視鏡的点墨法	消化器内科	182本
	2%滅菌パテントブルー注(5mL)	悪性リンパ腫のリンパ管染色	皮膚科	9本
	眼科用マイトマイシン液(5mL)	繊維柱帯切除術(トラベクレクトミー)、小シャーレ中で MQA を細かく切って MMC 液に浸し、これを強膜弁下に正確に 3 分間留置	眼科	16本
	0.05M EDTA-Na 点眼液(5mL)	带状角膜変性	眼科	2本
	4% キシロカイン点眼液 (2.5mL)	眼科領域における表面麻酔	眼科	527本
	4% キシロカイン点眼液(5mL)	眼科領域における表面麻酔	眼科	309本
	4% キシロカインシリンジ点眼 (2.5mL)	O P室で使用のキシロカイン点眼液 4 % 20mL の代替薬	眼科	297本
	グリセリン点眼液(5mL)	緑内障患者の角膜浮腫の改善	眼科	15本
	0.02% クロルヘキシジン点眼液 (5mL)	アカントアメーバ角膜炎	眼科	5本
	10 倍希釈自己血清点眼液(5mL)	重度の角膜上皮障害	眼科	0本
	5%食塩点眼液(5mL)	角膜浮腫 (高張点眼液)	眼科	95本
点眼剤	生理食塩点眼液(5mL)	涙液分泌減少症、HD AraC 施行 時の洗眼	眼科	326本
	2%セフタジジム点眼液	細菌性眼内炎、もしくは細菌性が 疑われる眼内炎患者の治療	眼科	30本
	0.5% デノシン点眼液 (5mL)	サイトメガロウイルス角膜内皮炎	眼科	43本
	バンコマイシン点眼液(5mL)	MRSA 陽性患者への眼科感染症	眼科	57本
	0.125% ピロカルピン液(4mL)	瞳孔緊張症	眼科	19本
	1% ブイフェンド点眼液 (5mL)	角膜真菌症	眼科	8本
	プリビナ点眼液(5mL)	重症筋無力症患者の眼瞼下垂に対する対症療法や添付文書通りの適応	眼科	110本
	0.5% 硫酸アトロピン点眼液 (5mL)	診断または治療を目的とする散瞳 と調節麻痺	眼科	19本
	0.25mg/mL ブリリアントブルー G 点眼液 (5mL)	黄斑円孔、黄斑前膜等に対するガラス体手術での内鏡膜剥離時の染色	眼科	120本

剤形	製 剤 名 (出庫単位)	適応症等	主な使用科	製剤量
F= 1111 -5e1	2.5% 滅菌フルオレセイン Na 液 (20mL)	眼圧検査・検査時にベノキシール点 眼液に調製後1回1~2滴点眼する	眼科	13本
点眼剤	0.2% フルコナゾール点眼液 (5mL)	角膜真菌症、アカントアメーバ	_	10本
中田和	5%安息香酸液	保存剤	小児科	1,300mL
内用剤	セレン内服液(10μg/mL)	セレン欠乏症	小児科	9,600mL
	液状フェノール	足の陥入爪	皮膚科・ 形成外科	30mL
	SAD液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	6,400mL
	0.05%キシロカインB液	鼻の中の吸引をする際、器具挿入 の痛みを止める	耳鼻いんこう 科	4,000mL
	0.05%滅菌クロルヘキシジング ルコン酸塩青液	手術部位の消毒	手術室のみ	11,100mL
	鼓膜麻酔薬	鼓膜麻酔	耳鼻いんこう 科	40mL
	1.5%酢酸液	内視鏡観察時胃内散布 (腫瘍との 境界を明確にするため)	消化器内科	0mL
	3%酢酸液	コルポスコピー下で行う子宮頚部 の組織検査(癌検査用)	産婦人科	6,200mL
	耳水	耳垢栓塞の軟化・1日1~2回点耳	耳鼻いんこう 科	65mL
	80%トリクロロ酢酸	焼灼作用によるアレルギー性鼻炎 滅菌綿棒にて鼻腔内下鼻用介に塗布	耳鼻いんこう 科	50mL
外用剤	複方ルゴール液	咽頭カタル	_	400mL
グト州 利	2%滅菌硝酸銀	粘膜の殺菌 or 収れん	小児科	170mL
	5%滅菌硝酸銀	肉芽の焼灼	外科	60mL
	10%滅菌硝酸銀	鼻出血症・口内炎への塗布	耳鼻いんこう 科	70mL
	2%滅菌HPC液	肉芽組織の清浄化と形成促進剤	血液・腫瘍内 科等	1,500mL
	1%滅菌トルイジンブルー液	内視鏡下の食道がんの精査 1回2~3mL使用する。(色素散布法)	消化器内科	0mL
	0.02%滅菌ボスミン液	外傷・鼻・抜歯後など局所出血	耳鼻いんこう 科等	44,600mL
	1%滅菌ピオクタニン青液	消毒・手術野の線引き	手術室、 その他	680mL
	0.05%滅菌ヒビテングルコネート液	皮膚の創傷部位の消毒、手術室の 消毒	眼科	1,700mL
	0.05%滅菌ヒビテングルコネート青液	手術部位の消毒	手術室のみ	3,900mL
	1%ヨウ素ヨウ化カリウム液	カメラ室における検査薬	消化器内科	9,100mL
	5%スコポラミン軟膏	神経変性疾患患者に対する唾液分 泌抑制効果	脳神経内科	56g
邮 高划	40%尿素軟膏	爪白癬の角質除去	形成外科	20g
軟膏剤	5%ヒドロキノン軟膏	メラニン色素の破壊・生成抑制	形成外科等	260g
	Mohs氏ペースト	Mohs surgeryにおける組織の固定	一般外科等	1,100g

(8) 医薬品情報室への問い合わせ状況

東品名 7%
その他 33%
用法・用量 17%
配合変化 7%
成分・単位 1%
薬理作用 1%
使用期限 2%
在庫 2%
体内動態 3%
中毒 3%

└ 相互作用 5%

総件数:792件

(9) 医薬品情報提供

1 回
* H
12 回
12 回
0 件
41 件
107 件
20 件
32 件
22 件

溶解後の安定性 4%-

(10) 持参薬鑑別

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
薬剤鑑別件数 (件)	13,642	13,044	12,824

(11) 治験実施数(令和5年度)

治験/製造販売後	相	件 数	予定症例数	実施症例数
	ph I / II	2	5	5
治験(件)	ph II	4	6	4
	ph II	20	51	29
	ピボタル	2	13	10

(12) 副作用報告

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
厚生労働省報告件数(件)	6	9	12
プレアボイド報告件数(件)	625	596	760

(13) 年間麻薬使用量

乗 品 名	**** 日	令和 5	5年度	令和4年度		令和3年度	
世ルヒネ塩酸塩注0mg(本) 1.290	集 前 石 	院内	院外	院内	院外	院内	院 外
世ルビネ塩酸塩注200mg(本) 26 - 133 - 136 - 7	ペチジン塩酸塩注(本)	0	_	0	_	1	_
モルヒネ塩酸塩注200mg(本) 9.713 - 10.733 - 10.112 - フェンタニル注0.1mg(本) 9.713 - 10.733 - 10.112 - フェンタニル注0.5mg(本) 6.371 - 7.336 - 6.726 - アルチバ静注用2mg(策) 2.997 - 3.137 - 3.157 - アルチバ静注用2mg(策) 2.722 - 2.734 - 2.701 - ケタラール静注用200mg(叛) 436 - 551 - 560 - 804 - 704 - 804 - 8	モルヒネ塩酸塩注10mg(本)	1,290	_	1,009	_	1,215	_
フェンタニル注0.1mg(本) 9.713 ― 10.733 ― 10.112 ― フェンタニル注0.5mg(本) 6.371 ― 7.336 ― 6.726 ― アルチバ静注用2mg(散) 2.997 ― 3.137 ― 3.157 ― アルチバ静注用2mg(散) 2.997 ― 3.137 ― 3.157 ― 7ルチバ静注用3mg(散) 2.722 ― 2.734 ― 2.701 ― ケタラル静注用20mg(振) 436 ― 551 ― 560 ― オキファスト10mg(本) 463 ― 704 ― 804 ― オキファスト50mg(本) 829 ― 409 ― 948 ― 7レベン注100mgシリンジ(本) ― ― ― 163 ― 111 ― 1 ― 111 ― 1 ― 1 ― 1 ― 1 ― 1 ―	モルヒネ塩酸塩注50mg(本)	280	_	281	_	352	_
フェンタニル注0.5mg(本) 6.371 - 7.336 - 6.726 - 7ルチバ静注用2mg(瓶) 2.997 - 3.137 - 3.157 - 7ルチバ静注用5mg(瓶) 2.722 - 2.734 - 2.701 - 7ケクラール静注用5mg(瓶) 436 - 551 - 560 - 4キファスト10mg(本) 463 - 704 - 804 - 4キファスト50mg(本) 463 - 704 - 804 - 7レベノン注100mgシリンジ(本) 77 - 1セルと本塩酸塩注100mgシリンジ(本) 78 - 163 - 11111 - 1111 - 11111 - 11111 - 11111 - 11111 -	モルヒネ塩酸塩注200mg(本)	26	_	133	_	136	_
アルチバ静注用2mg(瓶) 2.997 - 3.137 - 3.157 - アルチバ静注用5mg(瓶) 2.722 - 2.734 - 2.701 - クタラール静注用200mg(瓶) 436 - 551 - 560 - ネキファスト10mg(本) 463 - 704 - 804 - ネキファスト50mg(本) 829 - 409 - 948 - 7レベノン注100mgシリンジ(本) 77 - モルヒネ塩酸塩注100mgシリンジ(本) 78 - 163 - 111 - ナルベイン注20mg(本) 516 - 296 - 106 -	フェンタニル注0.1mg(本)	9,713	_	10,733	_	10,112	_
アルチバ静注用5mg(瓶) 2.722 - 2.734 - 2.701 - ケタラール静注用200mg(瓶) 436 - 551 - 560 - オキファスト10mg(本) 463 - 704 - 804 - オキファスト50mg(本) 829 - 409 - 948 - ブレベノン注100mgシリンジ(本) 77 - モルヒネ塩酸塩注100mgシリンジ(本) 78 - 163 - 111 - ナルベイン注20mg(本) 516 - 296 - 106 - ナルベイン注20mg(本) 20 - 12 - 7 - 7 - MSコンチン錠10mg(錠) 2.766 2.965 3.540 2.965 2.914 1.856 MSコンチン錠30mg(錠) 298 1.639 501 1.639 1.421 2.792 モルベス網粒2%10mg(包) - 16 118 16 720 664 716 モルベス網粒2%10mg(包) - 16 118 16 720 664 716 18 16 720 664 716 18 16 720 664 716 18 16 720 664 716 18 17 16 720 664 716 72 18 72 16	フェンタニル注0.5mg(本)	6,371	_	7,336	_	6,726	_
ケタラール静注用200mg(瓶) 436 - 551 - 560 - オキファスト10mg(本) 463 - 704 - 804 - オキファスト50mg(本) 829 - 409 - 948 - プレベノン注100mgシリンジ(本) - - - - 77 - モルヒネ塩酸塩注100mgシリンジ(本) 78 - 163 - 111 - ナルペイン注20mg(本) 516 - 296 - 106 - ナルペイン注20mg(本) 20 - 12 - 7 - MSコンチン錠10mg(鍵) 2.766 2.965 3.540 2.965 2.914 1.856 MSコンチン錠30mg(鍵) 298 1.639 501 1.639 1.421 2.792 モルベス細粒6%30mg(鍵) - - - - - 1.564 716 モルベス細粒6%30mg(型) - 16 118 16 720 664 モルベス細粒6%30mg(錠) 556 420 470 420 - - モルドネ磁酸塩が耐物液が熱間が発力30mg(錠) 556 420 <	アルチバ静注用2mg(瓶)	2,997	_	3,137	_	3,157	_
オキファスト10mg(本) 463 - 704 - 804 - オキファスト50mg(本) 829 - 409 - 948 - ブレベノン注100mgシリンジ(本) 77 - - モルヒネ塩酸塩注100mgシリンジ(本) 78 - 163 - 111 - ナルベイン注2mg(本) 516 - 296 - 106 - ナルベイン注20mg(本) 20 - 12 - 7 - MSコンチン錠30mg(錠) 298 1,639 501 1,639 1,421 2792 モルベス細粒2%10mg(起) 1,564 716 モルベス細粒2%10mg(包) - 16 118 16 720 664 モルベス細粒6%30mg(包) - 16 118 16 720 664 モルとネ磁度塩水和物核が顕射分包30mg(包) 1,550 3,052 3,349 3,052 918 400 モルとネ磁度塩水和物核放翻数分包30mg(包) 556 420 470 420 - モルと本庭性塩塩水和物核放翻数分包30mg(包) 1,709 2,332 3,947 3,290 3,060 オブン内服液5mg(包) 1,709 2,329 2,331 2,329 3,438 3,696 オキシンドン核放	アルチバ静注用5mg(瓶)	2,722	_	2,734	_	2,701	_
オキファスト50mg(本) 829 - 409 - 948 - プレペノン注100mgシリンジ(本) - - - - 77 - モルヒネ塩酸塩注100mgシリンジ(本) 78 - 163 - 111 - ナルベイン注2mg(本) 516 - 296 - 106 - サルベイン注20mg(本) 20 - 12 - 7 - MSコンチン錠30mg(錠) 298 1.639 501 1.639 1.421 2.792 モルベス細粒2%10mg(起) - - - - - 1.564 716 モルベス細粒6%30mg(包) - 16 118 16 720 664 モルと水ա酸塩水和物除放離粒分包30mg(包) 1.550 3.052 3.349 3.052 918 400 モルヒネ塩酸塩鉱10mg(錠) 1.550 3.052 3.349 3.052 918 400 モルヒネ塩酸塩鉱10mg(錠) 556 420 470 420 - - モルヒネ塩酸塩鉱10mg(錠) 500 80 852 80 827 1.614 オブリト腺液が気頭(気) 1.709 2	ケタラール静注用200mg(瓶)	436	_	551	_	560	_
プレベノン注100mgシリンジ(木) 163 - 177 - 17 - 17 - 17 - 18 - 163 - 111 - 1 - 18 - 163 - 111 - 1 - 18 - 163 - 111 - 1 - 18 - 163 - 111 - 1 - 18 - 164 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 1	オキファスト10mg(本)	463	_	704	_	804	_
モルヒネ塩酸塩注100mgシリンジ (本) 78 - 163 - 111 - ナルベイン注2mg(本) 516 - 296 - 106 - ナルベイン注20mg(本) 20 - 12 - 7 - MSコンチン錠10mg(錠) 2,766 2,965 3,540 2,965 2,914 1,856 MSコンチン錠30mg(錠) 298 1,639 501 1,639 1,421 2,792 モルペス細粒2%10mg(錠) - - - - 1,564 716 モルペス細粒6%30mg(包) - - 16 118 16 720 664 モルとネ硫酸塩水和物除放棚粒分包10mg(包) 1,550 3,052 3,349 3,052 918 400 モルとネ硫酸塩水和物除放棚粒分包30mg(包) 556 420 470 420 - - モルとネ塩酸塩質10mg(錠) 500 80 852 80 827 1,614 オプソ内服液5mg(包) 2,332 3,947 3,264 3,947 3,290 3,060 オキシコドン溶放放錠10mg(気) 1,709 2,329 2,331 2,329 3,438 3,696 <td< td=""><td>オキファスト50mg(本)</td><td>829</td><td>_</td><td>409</td><td>_</td><td>948</td><td>_</td></td<>	オキファスト50mg(本)	829	_	409	_	948	_
ナルベイン注2mg(本) 516 - 296 - 106 - ナルベイン注20mg(本) 20 - 12 - 7 - MSコンチン錠10mg(錠) 2,766 2,965 3,540 2,965 2,914 1,856 MSコンチン錠30mg(錠) 298 1,639 501 1,639 1,421 2,792 モルベス細粒2%10mg(包) - - - - - 1,564 716 モルベス細粒6%30mg(包) - 16 118 16 720 664 モルベス細粒6%30mg(包) - 16 118 16 720 664 モルベス細粒6%30mg(包) 1,550 3,052 3349 3,052 918 400 モルビネ硫酸塩水和物体放細粒分包30mg(包) 1,550 3,052 3349 3,052 918 400 モルビネ塩酸塩錠10mg(錠) 500 80 852 80 827 1,614 オプソ内服液至の機算 2,332 3,947 3,244 3,947 3,290 3,060 オプソ内服液至の機算 1,709 2,329 2,331 2,329 3,438 3,696 オキシコドン徐放錠	プレペノン注100mgシリンジ(本)	_	_	_	_	77	_
ナルベイン注20mg(本) 20 - 12 - 7 - MSコンチン錠10mg(錠) 2.766 2.965 3.540 2.965 2.914 1.856 MSコンチン錠30mg(錠) 298 1,639 501 1.639 1.421 2.792 モルベス細粒2%10mg(包) - - - - - 1.564 716 モルペス細粒6%30mg(包) - 16 118 16 720 664 モルと未確酸塩末和物除放細粒分包10mg(包) 1.550 3.052 3.349 3.052 918 400 モルヒネ塩酸塩漬10mg(錠) 556 420 470 420 - - モルヒネ塩酸塩錠10mg(錠) 500 80 852 80 827 1.614 オプソ内服液5mg(包) 2.332 3.947 3.264 3.947 3.290 3.060 オプソ内服液10mg(包) 1.709 2.329 2.331 2.329 3.438 3.696 オキシコドン徐放錠20mgNX(錠) 1.8224 48.436 17.018 48.436 28.578 39.164	モルヒネ塩酸塩注100mgシリンジ (本)	78	_	163	_	111	_
MSコンチン錠10mg(錠) 2,766 2,965 3,540 2,965 2,914 1,856 MSコンチン錠30mg(錠) 298 1,639 501 1,639 1,421 2,792 モルベス細粒2%10mg(包) 1,564 716 モルベス細粒2%10mg(包) - 16 118 16 720 664 モルベネ織粒6%30mg(包) 1,550 3,052 3,349 3,052 918 400 モルビネ硫酸塩水和物除放細粒分包10mg(包) 556 420 470 420 モルヒネ硫酸塩水和物除放細粒分包30mg(包) 556 420 470 420 モルヒネ塩酸塩錠10mg(錠) 500 80 852 80 827 1,614 オプソ内服液5mg(包) 1,709 2,332 3,947 3,264 3,947 3,290 3,060 オプソ内服液10mg(包) 1,709 2,329 2,331 2,329 3,438 3,696 オキシコドン徐放錠5mgNX(錠) 18,224 48,436 17,018 48,436 28,578 39,164 オキシコドン徐放錠20mgNX(錠) 4,763 6,219 3,985 6,219 4,437 4,662 オキシコドン徐放錠40mgNX(錠) 1,030 2,183 2,464 2,183 3,085 4,020 オキノーム散2,5mg(包) 4,414 7,702 4,060 7,702 4,645 6,277 オキノーム散5mg(包) 5,735 6,869 5,579 6,869 4,782 5,465 オキノーム散10mg(包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠100μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 60 0 35 0 145 0 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	ナルベイン注2mg(本)	516	_	296	_	106	_
MSコンチン錠30mg(錠)	ナルベイン注20mg(本)	20	_	12	_	7	_
モルベス細粒2%10mg(包) 1,564 716 モルベス細粒6%30mg(包) - 16 118 16 720 664 モルヒネ硫酸塩水和物徐放細粒分包10mg(包) 1,550 3,052 3,349 3,052 918 400 モルヒネ硫酸塩水和物徐放細粒分包30mg(包) 556 420 470 420 モルヒネ塩酸塩錠10mg(錠) 500 80 852 80 827 1,614 オプソ内服液5mg(包) 2,332 3,947 3,264 3,947 3,290 3,060 オプソ内服液10mg(包) 1,709 2,329 2,331 2,329 3,438 3,696 オキシコドン徐放錠5mgNX(錠) 18,224 48,436 17,018 48,436 28,578 39,164 オキシコドン徐放錠20mgNX(錠) 4,763 6,219 3,985 6,219 4,437 4,662 オキシコドン徐放錠40mgNX(錠) 1,030 2,183 2,464 2,183 3,085 4,020 オキノーム散2.5mg(包) 4,414 7,702 4,060 7,702 4,645 6,277 オキノーム散5mg(包) 5,735 6,869 5,579 6,869 4,782 5,465 オキノーム散10mg(包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠100μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 95 0 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 95 0 アプストラル舌下錠100μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アプストラル舌下錠200μg(錠) 60 0 35 0 145 0 アプストラル舌下錠200μg(錠) 30 0 10 0 30 0	MSコンチン錠10mg(錠)	2,766	2,965	3,540	2,965	2,914	1,856
モルベス細粒6%30mg(包) - 16 118 16 720 664 モルヒネ硫酸塩水和物除放細粒分包10mg(包) 1.550 3.052 3.349 3.052 918 400 モルヒネ硫酸塩水和物除放細粒分包30mg(包) 556 420 470 420 モルヒネ塩酸塩錠10mg(錠) 500 80 852 80 827 1.614 オプソ内服液5mg(包) 2.332 3.947 3.264 3.947 3.290 3.060 オプソ内服液10mg(包) 1.709 2.329 2.331 2.329 3.438 3.696 オキシコドン徐放錠5mgNX(錠) 18.224 48.436 17.018 48.436 28.578 39.164 オキシコドン徐放錠20mgNX(錠) 4.763 6.219 3.985 6.219 4.437 4.662 オキシコドン徐放錠40mgNX(錠) 1.030 2.183 2.464 2.183 3.085 4.020 オキノーム散2.5mg(包) 4.414 7.702 4.060 7.702 4.645 6.277 オキノーム散5mg(包) 5.735 6.869 5.579 6.869 4.782 5.465 オキノーム散10mg(包) 5.125 7.067 8.536 7.067 11.346 5.404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 95 0 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 95 0 アプストラル舌下錠100μg(錠) 841 120 207 120 152 20 アプストラル舌下錠200μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アプストラル舌下錠200μg(錠) 30 0 10 0 30 0	MSコンチン錠30mg(錠)	298	1,639	501	1,639	1,421	2,792
モルヒネ硫酸塩水和物徐放網粒分包10mg(包) 1.550 3.052 3.349 3.052 918 400 モルヒネ硫酸塩水和物徐放網粒分包30mg(包) 556 420 470 420 モルヒネ塩酸塩錠10mg(錠) 500 80 852 80 827 1.614 オブソ内服液5mg(包) 2.332 3.947 3.264 3.947 3.290 3.060 オプソ内服液10mg(包) 1.709 2.329 2.331 2.329 3.438 3.696 オキシコドン徐放錠5mgNX(錠) 18.224 48.436 17.018 48.436 28.578 39.164 オキシコドン徐放錠20mgNX(錠) 4.763 6.219 3.985 6.219 4.437 4.662 オキシコドン徐放錠40mgNX(錠) 1.030 2.183 2.464 2.183 3.085 4.020 オキノーム散2.5mg(包) 4.414 7.702 4.060 7.702 4.645 6.277 オキノーム散5mg(包) 5.735 6.869 5.579 6.869 4.782 5.465 オキノーム散10mg(包) 5.125 7.067 8.536 7.067 11.346 5.404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 95 0 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 125 220 アプストラル舌下錠100μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アプストラル舌下錠200μg(錠) 30 0 10 0 30 0 9 9ペンタ錠25mg(錠) 1.347 1.008 997 1.008 2.596 1.228	モルペス細粒2%10mg(包)	_	_	_	_	1,564	716
モルヒネ硫酸塩水和物除放網粒分包30mg(包) 556 420 470 420	モルペス細粒6%30mg(包)	_	16	118	16	720	664
モルヒネ塩酸塩錠10mg(錠) 500 80 852 80 827 1,614 オプソ内服液5mg(包) 2,332 3,947 3,264 3,947 3,290 3,060 オプソ内服液10mg(包) 1,709 2,329 2,331 2,329 3,438 3,696 オキシコドン徐放錠5mgNX(錠) 18,224 48,436 17,018 48,436 28,578 39,164 オキシコドン徐放錠20mgNX(錠) 4,763 6,219 3,985 6,219 4,437 4,662 オキシコドン徐放錠40mgNX(錠) 1,030 2,183 2,464 2,183 3,085 4,020 オキノーム散2.5mg(包) 4,414 7,702 4,060 7,702 4,645 6,277 オキノーム散5mg(包) 5,735 6,869 5,579 6,869 4,782 5,465 オキノーム散10mg(包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠100μg(錠) 95 0 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 125 220 アブストラル舌下錠100μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 60 0 35 0 145 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 30 0 10 0 30 0	モルヒネ硫酸塩水和物徐放細粒分包10mg(包)	1,550	3,052	3,349	3,052	918	400
オプソ内服液5mg(包) 2,332 3,947 3,264 3,947 3,290 3,060 オプソ内服液10mg(包) 1,709 2,329 2,331 2,329 3,438 3,696 オキシコドン徐放錠5mgNX(錠) 18,224 48,436 17,018 48,436 28,578 39,164 オキシコドン徐放錠20mgNX(錠) 4,763 6,219 3,985 6,219 4,437 4,662 オキシコドン徐放錠40mgNX(錠) 1,030 2,183 2,464 2,183 3,085 4,020 オキノーム散2.5mg(包) 4,414 7,702 4,060 7,702 4,645 6,277 オキノーム散5mg(包) 5,735 6,869 5,579 6,869 4,782 5,465 オキノーム散10mg(包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠100μg(錠) 95 0 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 125 220 アブストラル舌下錠200μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 60 0 35 0 145 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 30 0 10 0 30 0	モルヒネ硫酸塩水和物徐放細粒分包30mg(包)	556	420	470	420	_	_
オプソ内服液10mg(包) 1,709 2,329 2,331 2,329 3,438 3,696 オキシコドン徐放錠5mgNX(錠) 18,224 48,436 17,018 48,436 28,578 39,164 オキシコドン徐放錠20mgNX(錠) 4,763 6,219 3,985 6,219 4,437 4,662 オキシコドン徐放錠40mgNX(錠) 1,030 2,183 2,464 2,183 3,085 4,020 オキノーム散2.5mg(包) 4,414 7,702 4,060 7,702 4,645 6,277 オキノーム散5mg(包) 5,735 6,869 5,579 6,869 4,782 5,465 オキノーム散10mg(包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) ー ー ー 69 40 イーフェンバッカル錠100μg(錠) ー ー ー 95 0 イーフェンバッカル錠200μg(錠) ー ー ー 125 220 アブストラル舌下錠100μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 60 0 35 0 145 0 アブストラル舌下錠400μg(錠) 30 0 10 0 30 0 9ペンタ錠25mg(錠) 1,347 1,008 997 1,008 2,596 1,228	モルヒネ塩酸塩錠10mg(錠)	500	80	852	80	827	1,614
オキシコドン徐放錠5mgNX(錠) 18,224 48,436 17,018 48,436 28,578 39,164 オキシコドン徐放錠20mgNX(錠) 4,763 6,219 3,985 6,219 4,437 4,662 オキシコドン徐放錠40mgNX(錠) 1,030 2,183 2,464 2,183 3,085 4,020 オキノーム散2.5mg(包) 4,414 7,702 4,060 7,702 4,645 6,277 オキノーム散5mg(包) 5,735 6,869 5,579 6,869 4,782 5,465 オキノーム散10mg(包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) - - - - 69 40 イーフェンバッカル錠100μg(錠) - - - - 95 0 イーフェンバッカル錠200μg(錠) - - - - 125 220 アブストラル舌下錠100μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠400μg(錠) 30 0 10 0 30 0 タペンタ錠25mg(錠) 1,347 1,008 997 1,008 2,596 1,228 </td <td>オプソ内服液5mg(包)</td> <td>2,332</td> <td>3,947</td> <td>3,264</td> <td>3,947</td> <td>3,290</td> <td>3,060</td>	オプソ内服液5mg(包)	2,332	3,947	3,264	3,947	3,290	3,060
オキシコドン徐放錠20mgNX(錠) 4,763 6,219 3,985 6,219 4,437 4,662 オキシコドン徐放錠40mgNX(錠) 1,030 2,183 2,464 2,183 3,085 4,020 オキノーム散2.5mg(包) 4,414 7,702 4,060 7,702 4,645 6,277 オキノーム散5mg(包) 5,735 6,869 5,579 6,869 4,782 5,465 オキノーム散10mg(包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) 69 40 イーフェンバッカル錠100μg(錠) 95 0 イーフェンバッカル錠200μg(錠) 125 220 アブストラル舌下錠100μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 60 0 35 0 145 0 アブストラル舌下錠400μg(錠) 30 0 10 0 30 0	オプソ内服液10mg(包)	1,709	2,329	2,331	2,329	3,438	3,696
オキシコドン徐放錠40mgNX(錠) 1,030 2,183 2,464 2,183 3,085 4,020 オキノーム散2.5mg(包) 4,414 7,702 4,060 7,702 4,645 6,277 オキノーム散5mg(包) 5,735 6,869 5,579 6,869 4,782 5,465 オキノーム散10mg(包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) $ -$ 69 40 イーフェンバッカル錠100μg(錠) $ -$ 95 0 イーフェンバッカル錠200μg(錠) $ -$ 125 220 アブストラル舌下錠100μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 60 0 35 0 145 0 アブストラル舌下錠400μg(錠) 30 0 10 0 30 0 9ペンタ錠25mg(錠) 1,347 1,008 997 1,008 2,596 1,228	オキシコドン徐放錠5mgNX(錠)	18,224	48,436	17,018	48,436	28,578	39,164
オキノーム散2.5mg(包) 4,414 7,702 4,060 7,702 4,645 6,277 オキノーム散5mg(包) 5,735 6,869 5,579 6,869 4,782 5,465 オキノーム散10mg(包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) $ -$ 69 40 イーフェンバッカル錠100μg(錠) $ -$ 95 0 $-$ 7ブストラル舌下錠100μg(錠) $ -$ 125 220 アブストラル舌下錠100μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 60 0 35 0 145 0 $-$ アブストラル舌下錠400μg(錠) 30 0 10 0 30 0 $-$ 9ペンタ錠25mg(錠) 1,347 1,008 997 1,008 2,596 1,228	オキシコドン徐放錠20mgNX(錠)	4,763	6,219	3,985	6,219	4,437	4,662
オキノーム散5mg(包) 5,735 6,869 5,579 6,869 4,782 5,465 オキノーム散10mg(包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠50μg(錠) $ -$ 69 40 イーフェンバッカル錠100μg(錠) $ -$ 95 0 イーフェンバッカル錠200μg(錠) $ -$ 125 220 アブストラル舌下錠100μg(錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠200μg(錠) 60 0 35 0 145 0 アブストラル舌下錠400μg(錠) 30 0 10 0 30 0 9ペンタ錠25mg(錠) 1,347 1,008 997 1,008 2,596 1,228	オキシコドン徐放錠40mgNX(錠)	1,030	2,183	2,464	2,183	3,085	4,020
オキノーム散 $10 mg$ (包) 5,125 7,067 8,536 7,067 11,346 5,404 イーフェンバッカル錠 $50 \mu g$ (錠) $ -$ 69 40 イーフェンバッカル錠 $100 \mu g$ (錠) $ -$ 95 0 1 40 イーフェンバッカル錠 $100 \mu g$ (錠) $ -$ 125 220 アブストラル舌下錠 $100 \mu g$ (錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠 $100 \mu g$ (錠) 60 0 35 0 145 0 アブストラル舌下錠 $100 \mu g$ (錠) 30 0 10 0 30 0 10 9ペンタ錠 $100 \mu g$ (錠) 1,347 1,008 997 1,008 2,596 1,228	オキノーム散2.5mg(包)	4,414	7,702	4,060	7,702	4,645	6,277
イーフェンバッカル錠50μg(錠)	オキノーム散5mg(包)	5,735	6,869	5,579	6,869	4,782	5,465
イーフェンバッカル錠 $100\mu g$ (錠)	オキノーム散10mg(包)	5,125	7,067	8,536	7,067	11,346	5,404
イーフェンバッカル錠200μg(錠)	イーフェンバッカル錠50μg(錠)	_	_	_	_	69	40
アブストラル舌下錠 $100\mu g$ (錠) 841 120 207 120 152 0 アブストラル舌下錠 $200\mu g$ (錠) 60 0 35 0 145 0 アブストラル舌下錠 $400\mu g$ (錠) 30 0 10 0 30 0 9 ペンタ錠 $25mg$ (錠) 1,347 1,008 997 1,008 2,596 1,228	イーフェンバッカル錠100μg(錠)	_	_	_	_	95	0
アブストラル舌下錠200μg(錠) 60 0 35 0 145 0 アブストラル舌下錠400μg(錠) 30 0 10 0 30 0 ρ ペンタ錠25mg(錠) 1,347 1,008 997 1,008 2,596 1,228	イーフェンバッカル錠200μg(錠)	_	_	_	_	125	220
アブストラル舌下錠 400 μg(錠) 30 0 10 0 30 0 9 ペンタ錠 25 mg(錠) 1,347 1,008 997 1,008 2,596 1,228	アブストラル舌下錠100μg(錠)	841	120	207	120	152	0
タペンタ錠25mg(錠) 1,347 1,008 997 1,008 2,596 1,228	アブストラル舌下錠200μg(錠)	60	0	35	0	145	0
	アブストラル舌下錠400μg(錠)	30	0	10	0	30	0
タペンタ錠100mg(錠) 108 354 160 354 893 36	タペンタ錠25mg(錠)	1,347	1,008	997	1,008	2,596	1,228
	タペンタ錠100mg(錠)	108	354	160	354	893	36

薬 品 名	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	院内	院 外	院内	院 外	院内	院 外
メサペイン錠5mg(錠)	3,274	2,955	252	0	415	0
メサペイン錠10mg(錠)	4,000	4,212	380	0	947	0
ナルサス錠2mg(錠)	3,928	3,677	2,560	1,585	950	701
ナルサス錠6mg(錠)	7,526	7,150	2,225	1,764	276	371
ナルラピド錠1mg(錠)	185	20	2,398	746	751	380
ナルラピド錠2mg(錠)	20	0	4,306	1,280	994	300
アンペック坐薬10mg(本)	74	0	74	0	183	0
アンペック坐薬30mg(本)	10	0	10	0	10	0
フェントステープ0.5mg(枚)	490	521	623	764	872	1,129
フェントステープ1mg(枚)	1,375	921	1,416	1,446	2,183	1,493
フェントステープ2mg(枚)	1,464	1,311	1,287	1,854	3,225	2,005
フェントステープ6mg(枚)	322	141	209	111	368	240
アヘンチンキ(mL)	277.4	4,240.1	669.8	4,482.5	1,703.3	5,368.5
1%塩酸モルヒネ液(mL)	174	0	83	28	54.2	28
10%塩酸コカイン液(mL)	_	_	_	_	3.0	0

^{*}年度の設定は麻薬関係法令上、令和4年10月1日~令和5年9月30日までとする。

看護局

1. 概要

今年度は看護の本質を考え、成果を出すということを目的に看護活動をした。まず看護の本質を各所属において考え、実際に行っている事とのすり合わせを行い実践することで成果を出した。各部署での看護目標は達成できている。これらの活動のプロセスが最も重要であり、これからの看護に生きていくと考える。各委員会の活動や各科の活動も同じく目標に向け達成できた。ほとんどの主任がクリニカルラダーIVを取得し、看護スタッフはラダー認定を受けている。看護研究においても院内発表に止まらず、院外での発表もあり少しずつではあるが成果は出ている。今後もしっかりと本質をとらえ、病院の組織として考え活動することで、看護のレベルを上げていきたい。

(看護局長 間瀬 有奈)

2. 看護局の状況

(1) 職員の動向

職員数 985人 助産師 39人 看護師 845人 准看護師 6人 介護福祉士 14人 看護補助者 65人 助手 12人 保育士 2人 歯科衛生士 2人 ルフト・メディカルケア派遣業務委託病棟看護補助者 14人 退職者 72人 (定年退職者 5人含む)

(2) 看護師確保対策

①採用試験

2023年度新規採用試験 4回実施(新卒57人 既卒1人)2023年度中途採用試験 9回実施(11人)

②ガイダンス (6回実施 392人参加)

日 程	開 催 名	参加人数
2023年8月5日	豊橋創造大学 看護協会業界研究会 (於:豊橋創造大学)	54人
2023年9月8日	聖隷クリストファー大学 キャリアセミナー (於:聖隷クリストファー大学)	160人
2024年1月14日	ナース専科対面合同説明会 (於:名古屋国際会議場 1号館)	18人
2024年2月10日	マイナビ看護学生就職セミナー「MEGA」 (於:ポートメッセなごや 第3展示館)	29人
2024年2月23日	ナース専科オンライン合同説明会 (於:当院第8会議室)	74人
2024年3月23日	豊橋市民病院就職ガイダンス (於:当院講堂)	57人

③インターンシップ (2回実施 64人)

開催期間	研 修 名	参加人数
2023年8月7日~8月25日	夏のインターンシップ研修	39人
2024年3月7日~3月22日	春のインターンシップ研修	25人

- ④施設見学 21人 (新人9人、他12人)
- ⑤学校訪問 14校(4月17日、20日、21日、24日)
- ⑥看護師等再就職チャレンジ支援研修 開催なし
- ⑦看護体験

高校生看護体験 自開催 夏 61人(2023年8月7日 28人、8月16日 33人) 春 29人(2024年3月21日)

中学生職場体験 8人

- ⑧出前講座 開催なし
- ⑨育児休業中職員向けに「ぶっちゃけママトーク」開催 13人

(3) 介護福祉士確保対策

①採用試験

2023年度新規採用試験 1回実施(新卒2人 既卒3人)

- ②病院見学会 3人
- ③学校訪問 5校(4月17日、4月20日、5月15日)

(4) 看護補助者確保対策

- ①直接雇用 採用面接 8人
- ②委託雇用 採用面接 6人

(5) 認定看護師

①認定看護師数(36人)

感染管理(4) 救急看護(1) 皮膚・排泄ケア(3) がん化学療法看護(3)

がん性疼痛看護(2) 緩和ケア(1) 集中治療ケア(1) クリティカルケア(2)

新生児集中ケア (1) 摂食・嚥下障害看護 (1) 脳卒中リハビリ看護 (1)

認知症看護(2) 訪問看護(3) 透析看護(1) 手術看護(1) 看護管理(3)

糖尿病看護(1) 小児救急看護(1) がん放射線療法看護(1) 乳がん看護(1)

心不全看護(1) 呼吸器疾患看護(1)

- ②2023年度 認定看護師活動実績(資料1)
- (6) 特定行為研修修了看護師 特定行為研修修了者数 (10人)

(7) 教育活動

- ①クリニカルラダー認定者数 レベル I 52 (625) 人 レベル II 34 (334) 人 レベル II 21 (102) 人 レベル IV 13 (87) 人
- ②2023年度 研修受講状況 (資料2)
- ③介護福祉士ラダー認定者数 レベル I 10人
- ④病棟看護補助者研修 3回 151人参加

(8) その他

医療安全管理者養成研修修了者 12人 専任看護教員養成講習会修了者 15人 愛知DMAT隊員養成研修修了者 4人 災害派遣医療チーム研修修了者 (日本DMAT隊員) 8人 愛知県看護協会災害支援ナース登録者 (2023年度まで) 17人 日本DMATインストラクター 2人

(資料1) 2023年度 認定看護師活動実績

【感染管理】

1) 実践

- ① 医療関連感染サーベイランス:耐性菌・ウイルス、CLABSI、CAUTI、VAP、SSI
- ② 職業感染予防対策の推進:抗体価測定、ワクチン接種事業、他
- ③ 職員健康外来の開催と診療介助:受診者数32人
- ④ 院内感染対策委員会の運営:1回/月
- ⑤ 院内感染対策チーム (ICT) 活動: 感染対策カンファレンス・院内ラウンド1回/週
- ⑥ 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) 活動:患者カンファレンス1回/週
- (7) 感染防止対策地域連携会議(合同カンファレンス):4回/年
- ⑧ 感染防止対策相互訪問評価(加算1施設との連携):1回/年
- ⑨ 感染対策訪問指導:4施設/年
- ⑩ 感染リンクスタッフの創設、運営:リンクスタッフ会3回/年
- ① 第4回エンディングサポート講座 寸劇「おじいさんの気持ち」
- ② 各種マニュアルの改訂

2) 指導

- ① 新規採用者オリエンテーション:講義×1 (医師)
- ② 新人基礎看護技術研修:講義&演習
- ③ 薬学生への感染対策:講義、院内ラウンド(計3回)
- ④ 中途採用者オリエンテーション:講義(計3回)
- ⑤ 豊橋市立看護専門学校 看護第1・2科:講義(計30時間)
- ⑥ 豊橋准看護学校:講義(2クラス計10時間)
- (7) 院内感染対策講習会:講義(計2回)
- ⑧ 救急医学講座(初期研修医指導):1回
- ⑨ 外部委託業者 (清掃業者) への感染対策指導:講義・実践2回

3) 相談

COVID-19感染対策、感染症診療についてなど

年間相談件数:10件/日(約2000件/年)

【皮膚・排泄ケア】

1) 実践

- ① 褥瘡ラウンド (週1回:350件)
- ② 褥瘡フォローアップ回診(週1回:407件)
- ③ 褥瘡ハイリスク患者のリスクアセスメント・予防計画書立案・ラウンド・評価
- ④ 院内エアマットレス需要調査・レンタルマットレス導入拡大
- (5) ストーマ外来でのケア(週3回:498件)うち病棟看護師におけるストーマ外来(102件)
- ⑥ 特定行為としての壊死組織の除去:8名(延べ65件)
- ⑦ 退院後訪問(6件)
- ⑧ 看護外来 (4件)

2) 指導

- ① 褥瘡対策委員会・チームによる全職員対象の勉強会2回
- ② 褥瘡対策委員会・チームによる病棟別の勉強会:西病棟2階5回(同内容各2回)、東病棟3階1回
- ③ 褥瘡ラウンドを通して、褥瘡予防・褥瘡ケアについてスタッフへ指導
- ④ 基礎看護技術演習:「褥瘡ケア、安楽な体位の工夫」講義・演習
- ⑤ 介護福祉士のための認定看護師研修「アハ!ワーク」:「褥瘡ケア」講義・演習
- ⑥ 認定看護師グループ活動

急性期:グループメンバーでの部署ラウンド2件 生活習慣病:グループメンバーでの部署ラウンド7件

- ⑦ ストーマラダー教育 I・Ⅱ・Ⅲ:受講者数 I 15名、Ⅲ 21名、Ⅲ 14名(ラダー I は病棟看護師、Ⅱ・Ⅲは皮膚・排泄ケア認定看護師が行う。)
- 3) 相談

年間相談件数:70件

【がん性疼痛看護】

- 1) 実践
- ① 緩和ケアチームラウンド (1,205件)
- ② 緩和ケア外来 (331件)
- ③ 看護外来(48件)
- ④ がん患者指導管理イにおいてのIC同席(13件)
- ⑤ がん患者指導管理口における心理的支援(8件)
- ⑥ がん相談支援センターにおけるがん相談対応(176件)
- ⑦ 他部署多職種カンファレンスの参加(4回)
- ⑧ 他部署の退院前カンファレンスの参加(2回)
- ⑨ 外来IC同席:がん患者指導管理以外(10件)
- ⑩ 心理的支援:がん患者指導管理以外(19件)
- ① 外来治療センター緩和ケアカンファレンス参加(1回/月)
- ② がん患者サロンの開催(1回/月)
- ③ 臨床倫理カンファレンス参加 (3回)
- (4) 第4回エンディングサポート講座 寸劇「おじいさんの気持ち」
- 2) 指導
- ① フレッシュ研修「緩和ケアにおける医療用麻薬の使用方法」
- ② 緩和ケア・看護臨床倫理リンクナース会「患者が気持ちを表出できる環境作りのための視点・コミュニケーション方法について」講義・演習
- ③ 認定看護師がんグループ活動 「生活のしやすさに関する質問票」についての病棟ラウンド 2部署
- ④ 高校生一日看護体験研修「がんについてのお話」
- 3) 相談

年間相談件数:100件以上(緩和ケアチーム専従看護師およびがん相談支援センター相談員として)

【緩和ケア】

- 1) 実践
- ① 緩和ケアチームラウンド (1,205件/年)
- ② 消化器内科病棟がん患者の全人的ケア、家族ケア、意思決定支援、心理的ケア、多職種カンファレンス開催
- ③ がん患者指導管理イにおいてのIC同席(5件)
- ④ がん患者指導管理口における心理的支援(5件)
- 2) 指導
- ① 緩和ケア・看護臨床倫理リンクナース会「患者が気持ちを表出できる環境作りのための視点・コミュニケーション方法について」講義・演習
- ② 病棟勉強会「アドバンス・ケア・プランニングについて知っておこう」
- ③ 認定看護師グループ活動 「生活のしやすさに関する質問票」についての病棟ラウンド 1件
- 3) 相談

年間相談件数: 2件

【脳卒中リハビリテーション看護】

- 1) 実践
- ① 看護外来68件(全27名)
- ② 脳卒中相談窓口・動画視聴の活用
- ③ 脳卒中再発予防パンフレット第3版修正
- ④ 脳神経内科・外科外来との連携強化(脳卒中再発予防指導の開始)
- ⑤ 脳梗塞・脳出血クリニカルパスの作成
- 2) 指導
- ① 東病棟9階 実践チーム「脳卒中患者の尿路感染・誤嚥性肺炎予防」
- ② 介護福祉士アハワーク「脳卒中患者のケア」
- ③ 院内向け「脳卒中相談窓口・動画視聴の説明会」
- ④ ハートセンター「初めての脳神経外科看護」
- ⑤ 東病棟9階「院内発症時の対応・RRSの活用」
- ⑥ 豊橋市立看護専門学校 看護第1科2年 脳神経看護援助論 I (計10時間)
- ⑦ 豊橋市立看護専門学校 看護第2科2年 脳神経看護援助論Ⅱ (計8時間)
- 3) 相談

年間相談件数:10件

【糖尿病看護】

- 1) 実践
- ① 内糖尿病関連インシデント分析・対策支援
- ② 糖尿病対策委員会・サポートチーム会の運営
- ③ 糖尿病対応難渋患者への看護介入
- ④ 看護外来での看護介入3件

- 2) 指導
- ① 新人基礎看護技術研修「血糖測定、インスリン自己注射」講義・演習
- ② 豊橋市立看護専門学校「内分泌・代謝疾患の看護」 看護第1科10時間、看護第2科7時間
- ③ 医療安全リスクマネジメント講習会「インスリン関連インシデント対策」
- 3) 相談
- ① インスリン手技獲得困難2件
- ② 血糖測定手技獲得困難1件
- ③ 1型糖尿病患者支援1件

年間相談件数:4件

【小児救急看護】

- 1) 実践
- ① 看護外来(育児相談·病名告知相談)
- ② 医療的ケア児の気道管理支援 (6件)
- ③ 内服困難児の支援
- 2) 指導
- ① 小児一次救命処置(東病棟2階)
- ② 小児のフィジカルアセスメント (東病棟2階)
- ③ 医療的ケア児支援者研修講師 「医療的ケア児のケアで注意すること~呼吸~」
- ④ 豊橋准看護学校講師「小児看護」
- 3) 相談
- ① 小児の予定外抜管の予防とAラインの固定について (ICU)

年間相談件数:1件

【救急看護】

- 1) 実践
- ① BLS運営とコース質保全
- ② BLSインストラクター育成
- ③ 手術センター災害訓練企画運営
- ④ 学会発表(日本災害医学会)
- 2) 指導
- ① シミュレーション運営に関するスタッフ教育とコアスタッフ育成
- ② メディカルラリー運営補助
- 3) 相談
- ① 手術センター部署シミュレーション(急変対応)実践、サポート依頼(企画から) 年間相談件数:1件

【認知症看護】

- 1) 実践
- ① 認知症や加齢により心身の安寧が得られていない患者に対する症状マネジメント
- ② 高齢者のせん妄患者に対する症状マネジメント
- ③ 高齢患者、認知症のある患者、せん妄のある患者へ介護福祉士と協働しアクティビティケアを 実施
- ④ 認知症サポートチームラウンド(週1回及び適宜臨時 350例)
- ⑤ 愛知県医師会主催「認知症対応病院ピアレビュー」参加
- ⑥ 愛知県認知症グループホーム連絡協議会主催「RUN伴豊橋 2023」参加
- ⑦ 第4回エンディングサポート講座 寸劇「おじいさんの気持ち」
- ⑧ 看護外来30件
- 2) 指導
- ① 豊橋市立看護専門学校 看護1科講義:老年看護援助論Ⅲ (10時間)
- ② 認定看護師グループ活動
 - ・急性期:院内研修向け動画作成
 - ・生活習慣病:グループラウンド2件
- ③ 訪問看護学習会「地域で支える認知症ケア」
- ④ 認知症対策委員会主催勉強会
 - ・「認知症患者が眠れない・落ち着かない時の対応と薬物療法について」
 - ・「事例を通して認知症患者の理解を深めよう」
 - ・「ユマニチュードについて」
- 3) 相談
- ① せん妄、BPSDの対応、薬物療法の相談

年間相談件数:50件

【摂食・嚥下障害看護】

- 1) 実践
- ① 摂食・嚥下障害カンファレンスの実施(毎週金曜日164件/年)
- ② 摂食・嚥下障害ラウンド カンファレンス実施患者に適宜 (毎週金曜日 12件/年)
- 2) 指導
- ① 新人基礎看護技術研修「食事介助」講義·演習
- ② 介護福祉士研修「間接訓練」講義
- 3) 相談
- ① 経口摂取困難事例への対応

年間相談件数:1件

【がん化学療法看護】

- 1) 実践
- ① 閉鎖式輸液セットの導入 (院内全体)
- ② ジーラスタボディーポッド導入
- ③ 第4回エンディングサポート講座 寸劇「おじいさんの気持ち」
- ④ がん患者サロン「ひまわり」のミニ講座「皮膚ケアについて」
- ⑤ 看護外来:9件

2) 指導

- ① フレッシュ研修「がん看護・抗がん剤の取り扱い 意思決定支援」講義・演習
- ② フレッシュ研修「ケアの倫理|
- ③ 豊橋准看護学校「造血器疾患患者の看護」講義
- ④ 抗がん薬用閉鎖式輸液セット説明会
- ⑤ インフューザーポンプのトラブル時の対応
- ⑥ フェスゴ皮下注の投与管理と副作用について(外来治療センター)
- 3) 相談
- ① インフューザーポンプを装着する患者の生活上の注意点とトラブル時の対応 (西病棟6階)
- ② リブタヨ®の投与管理と副作用の対処(病棟4階)
- ③ CVポート穿刺の手順と血管外漏出の予防(西病棟5階)

年間相談件数:3件

【手術看護】

- 1) 実践
- ① 手術センター褥瘡ハイリスク患者のアセスメントと看護
- 2) 指導
- ① 臨床での周術期看護実践指導
- ② ESDの体位確保
- ③ 豊橋市立看護専門学校 看護第1科 成人看護援助論 I
- ④ 豊橋市立看護専門学校 看護第2科 成人看護援助論Ⅱ
- ⑤ 豊橋准看護学校 臨床看護概論 I
- 3) 相談
- ① 画像検査室のESDの体位確保と鎮静について

年間相談件数:1件

【訪問看護】

- 1) 実践
- ① 退院前訪問:7件
- ② 退院後訪問:24件
- ③ 看護外来:23件
- 2) 指導
- ① 令和5年度訪問看護認定看護師教育課程「多機関・多職種連携マネジメント演習」講師
- ② 愛知県ナースセンター訪問看護職員養成講習会「在宅ケアシステム論」講師
- ③ ラダー研修 I 「退院支援」講師
- ④ 褥瘡対策委員会・チームによる全職員対象の勉強会 「退院に向けての支援」講師
- ⑤ 「医療と生活をつなぐ」リンクナース会 介護保険の説明 講師
- ⑥ 豊橋市立看護専門学校 看護第1科2年生講義「地域と暮らしⅡ」2時間 講師
- ⑦ フレッシュ研修「入退院支援」ファシリテーター
- ⑧ 東三河看護セミナー「看護をつなごう看看連携のいろいろ」講師
- ⑨ 訪問看護学習会 急性期病院の入退院支援~事例を振り返りつなぐ支援を考える~

3) 相談

① 認定看護師研修生からの訪問看護師との連携内容についての相談 年間相談件数:1件

【集中ケア】

- 1) 実践
- ① 院内迅速対応チーム活動 (RRT) マニュアル作成、症例検討 (病棟でのカンファレンスに参加)
- ② ICU退室後訪問
- ③ 一般病棟(病棟4階、東病棟2階、NMC、手術センターは除く) ラウンド(438件/年)
- ④ 特定行為実践(648回/年)
- ⑤ 倫理カンファレンスの参加(1回/年)、意思決定支援への介入・サポート
- ⑥ 看護外来(3件/年) 脳神経内科外来と協働し、人工呼吸器が必要となりそうな患者を中心にACPや気管切開、人工呼吸器などの相談
- ⑦ 呼吸サポートチーム活動 (RST)
- 2) 指導
- ① 院内迅速対応チーム (RRT) の出動メンバーへの指導 (ER/ICU)
- ② 呼吸サポートチーム (RST) ミニレクチャー「吸引のコツ」
- ③ 人工呼吸器に不慣れな病棟への安全管理と看護ケアの指導(東西病棟9階・東西病棟6階・東西 病棟5階・東病棟3階)
- ④ フレッシュ研修「CE研修(人工呼吸器)」講義・演習
- ⑤ ラダーレベルⅡ研修「フィジカルアセスメントⅡ」講義・演習
- ⑥ 「呼吸フィジカルアセスメント」・「鎮静薬と鎮静深度測定」勉強会(ER)
- ⑦ 「閉鎖式吸引カテーテルの使用方法」勉強会(東病棟9階・東西病棟5階)
- ⑧ 「ICU加算について」「ICUラダーの導入について」「小児の受け入れ方法と看護ケア」勉強会(ICU)
- ⑨ 「挿管チューブの固定方法と口腔ケアについて」勉強会(東病棟9階)
- ⑩ 日本看護協会「災害支援ナース研修」講師・演習
- ① 日本看護学会協議会「呼吸プロジェクト」ポスター作製・動画作成と配信
- ⑫ 愛知県臨床工学技士協会「PICSセミナー」講師
- ③ 東海大学「特定行為シンポジウム」講演・演習
- ④ Fisher&Paykel HEALTHCARE株式会社「呼吸回数について」講演
- 15 みんなの呼吸器Respica「ARDS看護ケア」執筆
- 3) 相談
- (16) 人工呼吸器管理中に関連したもの(挿管チューブの管理、体位調整、設定内容など)
- ① 急変対応の振り返り(コードブルーの振り返り、病棟での予期せぬ状態悪化の振り返り)
- ® NPPVや気管切開について (ALS患者への介入)
- 19 酸素デバイスの選択
- ② 特定行為に関連したもの(気切カニューレの管理方法、人工呼吸離脱など)

年間相談件数:32件

【新生児集中ケア】

- 1) 実践
- ① 看護外来:24件(育児相談、療養環境調整等)
- 2) 指導
- ① 子どもの皮膚を守るDPAPの装着 (新生児医療センター)
- ② 豊橋市立看護専門学校 看護第1科2年生 小児看護学:未熟児看護について(全3時間)
- ③ 豊川市地域自立支援協議会医療的ケア部会「病院から地域へつなぐバトン」講師
- 3) 相談
- ① 早産児の授乳支援・育児相談
- ② 疾患新生児の退院後の育児相談
- ③ 多発奇形児の呼吸管理について

年間相談件数:5件

【がん放射線療法看護】

- 1) 実践
- ① 放射線治療室で有害事象を最小限にするための予防的ケア指導と心理的支援
- ② 婦人科・放射線科合同カンファレンス(1回/月)
- ③ 第4回エンディングサポート講座 寸劇「おじいさんの気持ち」
- ④ 看護外来:2件
- 2) 指導
- ① 「婦人科疾患腔内照射と放射線治療看護」の勉強会(東病棟9階)
- ② 認定看護師がんグループ活動「生活のしやすさに関する質問票」の病棟ラウンド(2部署)
- 3) 相談

年間相談件数:8件

【心不全看護】

- 1) 実践
- ① 心不全多職種カンファレンスのファシリテート(毎週金曜日)
- ② 心不全看護外来 40件/年
- ③ 心不全患者の電話モニタリング 2名 (3件/年)
- 2) 指導
- ① 豊橋心不全地域連携の会のメンバーとして介護支援専門員研修会での講義
- ② 豊橋心不全地域連携の会のメンバーとして介護支援専門員茶話会への参加
- ③ 豊橋市内の訪問看護ステーションへ向けたオンライン勉強会
- ④ 内科外来 心不全についての勉強会 2件/年
- ⑤ 豊橋市立看護専門学校 看護第2科2年「成人看護援助論 I (循環器看護) 」
- 3) 相談
- ① 在宅に繋いだ心不全患者の相談(訪問看護師) 2件/年
- ② 内科外来より心不全患者の対応について 2件/年
- ③ 病棟4階より周産期心筋症の患者の看護について
- ④ 西病棟7階より心嚢ドレーンの管理について

年間相談件数:6件

【クリティカルケア看護】

- 1) 実践
- ① 病棟における看護実践を通じて看護の質の向上に努めた
- ② 呼吸サポートチーム活動 (RST) 人工呼吸器装着患者の早期呼吸器離脱を目指した活動
- ③ 一般病棟での急変を振り返り、看護師にフィードバックを行った
- ④ 倫理カンファレンス調整と意思決定支援
- ⑤ 人工呼吸器マニュアルの作成
- 2) 指導
- ① ラダーレベル Ⅱ 研修「フィジカルアセスメントⅢ | 講義
- ② フレッシュ研修「フィジカルアセスメント I 」講義
- ③ RSTミニレクチャー「口腔・鼻腔吸引のコツ」 (6月)
- ④ RST講習会「人工呼吸器・気管切開術管理マニュアル」(1月)
- ⑤ 西病棟3階 認定急性期グループ講義「VAP予防の口腔ケア」
- ⑥ 南病棟「急変振り返り」講義
- ⑦ 豊橋市立看護専門学校 看護第1科2年「成人看護援助論 I 」 (計10時間)
- 3) 相談

年間相談件数:1件

【呼吸器疾患看護】

- 1) 実践
- ① 自部署における看護実践・勉強会を通じて看護の質の向上に努めた
- ② 呼吸サポートチーム活動 (RST)人工呼吸器装着患者の早期呼吸器離脱を目指した活動
- 2) 指導
- ① 豊橋市立看護専門学校 看護第1科2年「成人看護援助論Ⅱ (呼吸器看護)」 (全10時間)
- ② 豊橋准看護学校 1年「成人看護学 呼吸器疾患の看護 第3章 患者の看護 (呼吸器看護)」(全 8時間)
- ③ 基礎看護技術研修 呼吸・循環のアセスメントの講義
- ④ フレッシュCE研修② 人工呼吸器 NPPVマスクフィッティングの実技指導
- ⑤ RSTミニレクチャー「口腔・鼻腔吸引のコツ」
- ⑦ 東西7階病棟勉強会 「酸素療法」「体位ドレナージ」「血液ガス分析」「栄養管理」 「NHF |
- 3) 相談

年間相談件数:8件

【乳がん看護】

- 1) 実践
- ① 医療相談、外来治療センター、病棟との情報共有や連携
- ② がん患者指導管理料イ(40件)
- ③ 他部署の退院前カンファレンス参加(2件)
- ④ がん患者サロンへの参加(1回)
- ⑤ 乳がん術後パンフレット第2版修正
- ⑥ 青竹へ「乳がん自己検診について」掲載
- ⑦ 第4回エンディングサポート講座 寸劇「おじいさんの気持ち」
- 2) 指導
- ① 西病棟5階でのスタッフ向け勉強会開催(月に2回) 「乳がんについて」「乳がんの治療の流れ」「乳がんの周術期看護」
- ② がん患者サロンミニ講座「乳がんの自己検診について」
- ③ 認定看護師がんグループ活動、生活のしやすさに関する病棟ラウンド(1件)
- 3) 相談
- ① 術式選択、術後の下着について、治療選択の相談 年間相談件数:19件

(資料2) 2023年度 研修受講状況

	日付	研修名	延参加人数	内容
	4/10 4/11 4/12 4/13	情報研修	61名	・電子カルテの操作方法
	4/4 4/17 4/18 4/19 4/20 4/21 5/2	基礎看護技術研修(7日間)	455名	 ・感染対策 中央滅菌材料室見学 ・呼吸循環のアセスメント 酸素 吸引 ・経管栄養 ・食生活を考える(NST 嚥下障害に対する看護) ・皮下、筋肉内注射 ・吸引、検査 ・血糖測定 インスリン注射 バイタルサイン測定 ・採血 ・膀胱留置カテーテル ・点滴静脈内注射 ・重症度、医療・看護必要度、外傷性の止血
	5/1	安楽な体位 身体拘束	63名	・褥瘡の基礎知識 体位変換演習・身体拘束具の体験
	5/15	CE 研修①	63名	・輸液ポンプと輸注ポンプの取り扱い
	5/31	新人降り返り研修	57名	・日勤の流れに沿って、降り返り・リアリティショックの軽減
	6/2 7/7 9/1 10/6	BLS 研修	61名	・気道確保、胸骨圧迫などの蘇生方法 ・AED(自動体外式除細動器)の使用方法
フレッシ	6/14	看護記録 リフレッシュ①	56名	・看護記録の書き方・夜勤体験研修振り返り・アロマオイルにてハンドマッサージ
ノユ	6/26	医療安全	59名	・確実な確認・実施を行うための知識と方法 ・正しい与薬を行うための知識と方法
	7/6 7/27	消防研修 災害時の初期対応	65名	・院内消防設備の講義と消火用散水栓・消火器の取扱い ・災害時の初動訓練、エアーストレッチャー体験 ・水消火器訓練
	8/9	輸血・緩和 リフレッシュ研修①	60名	・輸血看護 麻薬の取り扱い 緩和ケア ・院内探訪
	9/11	フィジカルアセスメントI 急変時の対応	58名	・シナリオシミュレータを用いた心肺蘇生のロールプレイ ・胸骨圧迫法とAEDの操作 ・救急カート内の物品の使用方法、気管内挿管の介助
	10/20 10/23 10/24	シミュレーション研修	61名	・多重課題のシミュレーション ・優先順位の考え方と対応
	11/8	入退院支援研修	58名	・入退院支援のプロセス ・入退院支援センター見学
	12/4	CE 研修②	58名	・人工呼吸器の取り扱いと看護
	1/22	看護過程の展開	58名	・看護過程の基本的な考え方
	2/19	がん看護 抗がん剤の取り扱い 意思決定支援	59名	・抗がん剤の安全な取り扱いについて・抗がん剤の副作用に対する看護・がん患者の心理と意思決定支援のためのかかわり方
	3/5	プリセプターシップ ケアの倫理	57名	・一年の振り返りと次年度への課題 ・日常ケアの中にある看護倫理について

	6/19 7/14	退院支援I	60名	・退院支援の基礎知識 ・退院支援に向けた看護ケア
レベル	7/3 9/4	フィジカルアセスメントⅡ	59名	・生命維持の基本とショックおよび急変時の対応 ・患者の変化を予測した情報収集と判断
I	10/4 11/13	看護ケアのマネジメント	56名	・看護ケアと看護サービス・看護ケアのマネジメントの実際
	6/12	リーダーシップ	60名	・リーダーシップに必要な能力と理論
	8/30	退院支援Ⅱ	47名	・退院支援とチーム医療、多職種連携
レベル	9/6	人材育成	53名	・人材育成に必要な能力・人材育成の手法
II	11/20	看護理論	34名	・看護の主要概念 ・自己の看護観の明確化と論文作成
	9/13 10/16	フィジカルアセスメントⅢ	70名	・患者の症状と状況からの意図的な情報収集、判断と対応
	7/24 コンフリクトマネジメント		40名	・コンフリクトとは・コンフリクトのプロセス・コンフリクトにどの世に対処するのか
レベルⅢ	7/10 8/28 8/7 9/25	問題解決アプローチ	74名	・問題抽出の手法 ・問題解決策立案に向けてのプロセス
	6/23 7/25 10/30 3/12	「なぜ?」から始まる看 護研究	104名	・看護研究とは・研究計画書の書き方と文献検討・研究発表
	6/21 12/11	SWOT 分析	30名	・SWOT分析の手法の理解
レベル N	8/21 9/20	コンピテンシー	26名	・コンピテンシーとは・コンピテンシー・モデルを使用して看護管理場面を 振り返る
実地指導者	6/5 8/14 10/11 3/8	実地指導者研修	38名 39名 41名 38名	・実地指導者の役割認識と効果的な指導 ・新人が育つ環境作りについて ・効果的な指導について ・新人看護職員の現状と育成について ・実地指導者の役割と必要な能力 ・当院における新人看護職員の教育体制 ・看護技術の指導と評価

各レベル	コマ数	延べ人数
フレッシュ	30 コマ	1,408名
レベル I	6 コマ	175名
レベルⅡ	6 コマ	264名
レベルⅢ	9コマ	218名
レベルIV	4コマ	56名
実地指導者	4コマ	156名
合計	59 コマ	2,277名

事務局

1. 概要

事務局は、管理課・医療情報課・医事課の3課で構成され、管理課は、医療スタッフの採用や給与・福利厚生、予算・決算、施設の維持管理、物品購入などに関する業務、医療情報課は、システム開発や管理・運用、セキュリティ対策などに関する業務、医事課は、入院外来に関する医療事務のほか、保険診療に係る請求・収納事務、地域の医療機関との連携推進、がん相談を含む医療福祉相談に関する業務などを行っている。

2023年度は、人事院勧告や物価高騰などによる費用の増加があったが、施設基準の積極的な取得などによる収益の確保や、共同購入やベンチマーク分析の活用などによる費用の節減に努めた結果、14年連続となる経常収支の黒字となった。

主な事業としては、今後の新興感染症の流行に備え、全室に陰圧装置を設置した10床の個室及び診察室やエックス線撮影室を備えた感染症病棟を整備し、院内感染リスクの低減を図り、より安全で安心な医療を提供できる体制を整えたほか、高度急性期機能の更なる充実を図るため、ICUの高機能化及び病床再編に向けた基本設計及び実施設計に着手した。

(局長 河合 博文)

2. 活動報告

(1) 収益的収入及び支出

			令和5年度			令和4年度			令和3年度		
		区分	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)
		入 院 収 益	19,361,029,019	56.9	52.8	18,213,752,535	56.5	49.6	17,606,927,309	56.4	46.7
	医業	外 来 収 益	13,384,009,043	39.3	36.5	12,706,379,044	39.5	34.6	12,174,929,583	39.0	32.3
	医業収益	その他医業収益	1,278,989,409	3.8	3.5	1,289,433,832	4.0	3.5	1,434,805,560	4.6	3.8
		小 計	34,024,027,471	100.0	92.9	32,209,565,411	100.0	87.7	31,216,662,452	100.0	82.8
		受 取 利 息	11,300,491	0.0	0.0	7,096,327	0.0	0.0	6,983,689	0.0	0.0
収		他会計負担金	659,292,191	1.9	1.8	760,293,163	2.4	2.1	778,606,405	2.5	2.1
1	医	他会計補助金	0	_	_	0	_	-	407,000	0.0	0.0
益	医業外収	国庫補助金	24,997,000	0.1	0.1	25,403,000	0.1	0.1	111,234,000	0.4	0.3
的	収	県 補 助 金	529,789,200	1.6	1.4	2,388,585,000	7.4	6.5	4,193,981,500	13.4	11.1
収	益	長期前受金戻入	509,809,721	1.5	1.4	567,279,645	1.8	1.5	560,622,743	1.8	1.5
入		その他医業外収益	209,228,160	0.6	0.6	235,080,545	0.7	0.6	235,462,997	0.8	0.6
		小 計	1,944,416,763	5.7	5.3	3,983,737,680	12.4	10.9	5,887,298,334	18.9	15.6
		固定資産売却益	67,050,877	0.2	0.2	43,254,188	0.1	0.1	127,839,500	0.4	0.3
	特別	長期前受金戻入	483,279,270	1.4	1.3	475,581,213	1.5	1.3	466,640,079	1.5	1.2
	利益	その他特別利益	121,384,882	0.4	0.3	0	_	-	0	_	-
		小 計	671,715,029	2.0	1.8	518,835,401	1.6	1.4	594,479,579	1.9	1.6
		計	36,640,159,263	107.8	100.0	36,712,138,492	114.0	100.0	37,698,440,365	120.8	100.0
		給 与 費	13,897,150,091	40.8	39.7	13,570,654,679	42.1	39.5	13,353,672,340	42.8	40.4
		材 料 費	13,055,792,713	38.4	37.3	12,177,963,025	37.8	35.5	11,555,413,399	37.0	34.9
	医	経 費	4,772,308,655	14.0	13.6	4,805,038,331	14.9	14.0	4,357,558,334	14.0	13.2
	医業費用	減価償却費	1,820,211,704	5.3	5.2	2,387,300,017	7.4	7.0	2,427,471,741	7.8	7.3
	角	資産減耗費	41,247,744	0.1	0.1	61,707,085	0.2	0.2	39,647,236	0.1	0.1
収		研究研修費	107,458,914	0.3	0.3	97,738,344	0.3	0.3	76,915,346	0.2	0.2
益		小 計	33,694,169,821	99.0	96.3	33,100,401,481	102.8	96.5	31,810,678,396	101.9	96.2
1		支 払 利 息	143,665,761	0.4	0.4	200,391,016	0.6	0.6	256,756,063	0.8	0.8
的一	医	保 育 費	48,520,392	0.1	0.1	42,849,202	0.1	0.1	50,977,038	0.2	0.2
支出	医業外費	貸 倒 引 当金 繰 入 額	21,088,800	0.1	0.1	14,828,000	0.0	0.0	15,656,000	0.1	0.0
	角	雑 損 失	1,088,727,755	3.2	3.1	914,619,123	2.8	2.7	935,956,351	3.0	2.8
		小 計	1,302,002,708	3.8	3.7	1,172,687,341	3.6	3.4	1,259,345,452	4.0	3.8
	特別損失	過 年 度 損 益 修 正 損	0	-	-	43,773,000	0.1	0.1	0	_	_
	失	小 計	0	_	_	43,773,000	0.1	0.1	0	_	_
		計	34,996,172,529	102.8	100.0	34,316,861,822	106.5	100.0	33,070,023,848	105.9	100.0
当生	当年度純利益(△純損失)		1,643,986,734	_	_	2,395,276,670	_	-	4,628,416,517	_	_
		E繰越利益剰余金 燥 越 欠 損 金)	1,267,744,126	-	_	1,267,467,456	_	_	1,267,050,939	_	_
-		他未処分利益金 変 動 額	2,204,546,476	_	_	1,532,000,000	_	_	410,000,000	_	_
当 ³ (2	年度:	未処分利益剰余金	5,116,277,336	_	_	5,194,744,126	_	-	6,305,467,456	-	-

※各項目は表示単位未満を四捨五入で処理しているため、合計と内訳の数値が一致しない場合がある。

(2) 行為別入院収益・外来収益

	区分			令和5年度				
		<u> </u>		金額 (円)	前年度比(%)	構成比(%)		
	投 薬	収	入	153,809,329	118.6	0.8		
	注射	収	入	584,165,048	106.5	3.0		
	処置及び	ド手 術 4	又入	5,154,238,915	105.9	26.6		
入	検 査	収	入	288,515,040	82.5	1.5		
院収	放 射	線 収	入	38,745,501	88.7	0.2		
益	入	院	料	12,328,694,294	107.2	63.7		
	給 食	収	入	350,817,159	107.8	1.8		
	そ	Ø)	他	462,043,733	103.1	2.4		
		計		19,361,029,019	106.3	100.0		
	初	診	料	109,822,417	88.2	0.8		
	再	診	料	983,467,381	98.1	7.3		
	投 薬	収	入	1,484,414,182	104.5	11.1		
外	注 射	収	入	6,699,256,146	110.1	50.1		
来収	処置及び	手 術 4	又入	371,039,320	98.6	2.8		
益	検 査	収	入	2,077,021,152	99.7	15.5		
	放 射	線収	入	1,305,472,310	103.2	9.8		
	7	Ø	他	353,516,135	101.3	2.6		
		計		13,384,009,043	105.3	100.0		

(円)

	区 分	令和5年度	増 減	令和4年度	増 減	令和3年度	増 減
	企 業 債	1,144,000,000	832,100,000	311,900,000	211,000,000	100,900,000	100,900,000
	他会計出資金	_	_	_	△21,560,000	21,560,000	3,560,000
	他会計負担金	1,352,191,543	△73,021,538	1,425,213,081	37,576,302	1,387,636,779	36,204,886
	国 庫 補 助 金	-	_	-	_	-	△14,846,000
資本	県 補 助 金	_	△8,074,000	8,074,000	△48,290,500	56,364,500	△76,749,210
的	固定資産売却代金	16,049,900	13,304,088	2,745,812	△698,582,577	701,328,389	701,328,389
収入	投 資 回 収 金	4,644,000	△2,312,000	6,956,000	△3,660,000	10,616,000	2,196,000
	損益勘定留保資金	_	△700,113,418	700,113,418	△1,407,648,527	2,107,761,945	254,305,690
	減債積立金取崩額	2,204,546,476	672,546,476	1,532,000,000	1,122,000,000	410,000,000	△187,000,000
	消費税及び地方消費税 資本的収支調整額	4,950,057	2,062,013	2,888,044	△902,866	3,790,910	376,261
	計	4,726,381,976	736,491,621	3,989,890,355	△810,068,168	4,799,958,523	820,276,016
	施設改良費	1,431,533,300	794,246,000	637,287,300	56,552,200	580,735,100	253,276,100
資	資 産 購 入 費	1,045,999,143	100,924,096	945,075,047	△211,692,265	1,156,767,312	△195,699,028
本的	長期貸付金	24,659,600	△628,400	25,288,000	1,708,000	23,580,000	△5,176,000
支	投資有価証券		_	_	△713,285,190	713,285,190	713,285,190
出	企業債償還金	2,224,189,933	△158,050,075	2,382,240,008	56,649,087	2,325,590,921	54,589,754
	計	4,726,381,976	736,491,621	3,989,890,355	△810,068,168	4,799,958,523	820,276,016

(4) 貸借対照表 (2024年3月31日)

		資 産	の部	3	
					(単位:円)
1 固	定 資 産				
(1) 才					
イ	土 地		6,359,046,101		
口	建物	21,149,679,593			
	減価償却累計額	$\triangle 10,574,536,543$	10,575,143,050		
ハ	附 属 設 備	17,823,533,359			
	減価償却累計額	△12,774,421,437	5,049,111,922		
	構 築 物	1,596,961,937	,		
	減価償却累計額	△ 884,648,749	•		
ホ	器械備品	12,577,637,324			
	減価償却累計額	△ 9,642,661,060	2,934,976,264		
^	車 両	16,836,813			
	減価償却累計額	△ 13,196,402	3,640,411		
 	放射性同位元素	17,946,000			
	減価償却累計額	<u>△ 9,690,840</u>	8,255,160		
チ	リース資産	807,890,365			
	減価償却累計額	△ 198,278,221	609,612,144		
	有形固定資産合計			26,252,098,240	
(2) 無					
イ	電 話 加 入 権		7,041,831		
口	ソフトウェア		5,700,000		
71	ソフトウェア仮勘定		85,971,000		
=	その他無形固定資産		10,541,476		
	無形固定資産合計			109,254,307	
(3)	投資その他の資産				
イ	投資有価証券		809,935,246		
口	長 期 貸 付 金	101,415,600			
	貸 倒 引 当 金	<u>△ 74,784,800</u>	26,630,800		
ハ	出 資 金		500,000		
=	破産更生債権等	117,896,053	}		
	貸倒引当金	<u>△ 117,896,053</u>	0		
	投資その他の資産合計			837,066,046	
	固定資産合計				27,198,418,593

2 流 動 資 産 (1) 現 金 預 金 12,033,506,570 (2) 未 収 金 5,807,282,013 貸 倒 引 当 金 19,244,188 5,788,037,825 (3) 貯 蔵 品 36,880,302 払 金 1,201,626 (4)前 流 動 資 産 合 計 17,859,626,323 資 産 合 計 45,058,044,916

負 債 の 部

負 3 固 定 債 債 (1) 企 業 建設改良費等の財源に 充てるための企業債 6,690,820,983 業 企 債 合 6,690,820,983 (2)IJ ス 債 務 582,829,622 (3) 引 当 金 イ退職給付引当金 5,259,292,944 引 当 金 合 5,259,292,944 計 固 定 負債 合 計 12,532,943,549 動 負 4 流 債 (1)企 業 債 建設改良費等の財源に 充てるための企業債 2,171,009,611 業 合 企 債 計 2,171,009,611 (2) 1) 債 ス 務 87,743,736 (3) 引 当 金 イ賞 与 当 引 金 685,076,292 口法定福利費引当金 127,616,652 引 当 金 合 計 812,692,944 (4)払 未 金 3,080,133,655 費消 未地 払 消 方 び (5) 6.292,900 税 (6) 預 ŋ 金 110,301,546 流 動 負 債 合 計 6,268,174,392 5 繰 延収 益 (1) 長 期 前受 イ受贈財産評価額 19,831,970 収益化累計 △ <u>14,059,279</u> 額 5,772,691 口補 助 金 1,314,004,203 収 益化累計額 △ 954,438,316 359,565,887 ハ負 担 金 20,441,002,101 3,786,860,128 益化累計額 $\triangle 16,654,141,973$ 収 長期前受金合計 4,152,198,706 延収益合 計 4,152,198,706 負 債 合 計 22,953,316,647

資本の部

6 資 11,773,502,341 本 金 7 剰 余 (1) 資 本 剰 余 イ受贈財産評価額 258,564,805 口負 担 137,930,263 資本剰余金合計 396,495,068 (2) 利 益 剰 余 金 イ 減 立 4,818,453,524 債 積 口当年度未処分利益剰余金 5,116,277,336 利益剰余金合計 9,934,730,860 剰 余 金 合 計 10,331,225,928 資 本 合 計 22,104,728,269 負 債 資 本 合 45,058,044,916 計

(5) 主な経営財務分析

区 分	算 式	令和5年度	令和4年度	令和3年度
平 均 在 院 日 数 1.(施設基準上の算定) (日)	在 院 患 者 数 1/2(新入院患者数+退院患者数)	10.4	10.8	11.0
病 床 利 用 率 2.(一 般 病 床) (%)	入院患者数 許可病床数×100	85.3	77.7	78.4
入院患者1人1日 3.当 たり収入額 (円)	入院収益額 入院患者延数	79,115	78,567	76,620
外来患者1人1日 4.当 た り 収 入 額 (円)	外来収益額 外来患者延数	28,821	27,184	26,257
5. 剖 検 率 (%)	解 剖 数 ×100 院内死亡患者数	1.3	2.3	2.2
6. 100 床 当 た り 職 員 数 (人)	職 員 数 (年度末) 許可病床数 (年度末)	163.6	162.0	160.8
7. 100 床 当 た り 医 師 数 (人)	医師数(年度末) 許可病床数(年度末)×100	28.6	28.8	29.0
100床 当 た り 8.看 護 師 数 (人)	看 護 師 (年度末) 許可病床数 (年度末)	95.5	95.3	94.9
100床当たり器械備品額 9.(年度末) (千円)	器械備品額(減価償却累計額控除額) 許 可 病 床 数×100	366,872	373,330	430,200
10. 人 件 費 率 (%)		40.8	42.1	42.8
11. 流 動 比 率 (%)	流動資産 流動負債	284.9	282.4	230.4
12. 総 資 本 利 益 率 (%)	当 年 度 純 利 益 1/2(期首総資産+期末総資産)×100	3.7	5.5	11.1

(6) 医師事務作業補助者

①従事者数

ドクタークラーク 26 人 外来クラーク 25 人

②ドクタークラーク実績

(ア)	書類作成補助業務	16,501 枚
	通院入院診断書	6,396 枚
	特定疾患診断書(新規)	266 枚
	特定疾患診断書(更新)	1,550 枚
	介護保険主治医意見書	1,507 枚
	自賠責保険診断書	1,194 枚
	傷病手当金請求書	2,577 枚
	労災休業給付申請書	418 枚
	生活保護医療要否意見書	981 枚
	B型C型肝炎患者医療給付事業 受給者票認定に係わる診断書	37 枚
	出産一時金支給申請書	24 枚
	出産手当金支給申請書	112 枚
	訪問看護指示書	542 枚
	障害認定医師意見書	48 枚
	自立支援	114 枚
	結核定期病状調査報告書	54 枚
	小児慢性特定疾病(新規)	32 枚
	小児慢性特定疾病(更新)	255 枚
	障害年金診断書	147 枚
	身体障害者診断書(脳神経内科・脳神経外科・整形外科・小児科)	134 枚
	特別児童扶養手当認定診断書	30 枚
	受診状況等証明書	80 枚
	特別障害者手当認定診断書	3枚

- (イ) 他院紹介·学会用 CD 作成補助業務
- (ウ) 薬品別市販後調査票作成支援業務
- (工) 症例登録支援業務

NCD 症例登録(一般外科)

乳癌初回追跡調査 (乳腺外科)

NCD 症例登録(心臓血管外科/先天性心臓外科、血管外科)

ステントグラフトフォローアップ調査(心臓血管外科)

- NCD 症例登録(心臓血管外科/成人心臓外科)
- NCD 症例登録(移植外科)
- NCD 症例登録(泌尿器科)
- NCD 症例登録(循環器内科)
- NCD 症例登録(呼吸器外科)
- NCD 症例登録(形成外科)
- NCD 症例登録 (産婦人科 ロボット支援手術)

NCD 症例登録(消化器内科 膵癌登録・非手術症例)

IND 症例登録(脳神経外科)

JOANR 症例登録(整形外科)

ISSR 症例登録(脊椎外科)

JSIS 症例登録(脊椎外科)

POME 症例登録(泌尿器科)

PROMISE Study 症例登録(呼吸器内科)

臓器がん登録(産婦人科)

臓器がん登録 3年・5年予後登録 (産婦人科)

日本外傷データバンク (救急科)

日本不整脈心電学会 カテーテルアブレーション全国症例登録研究 [J-AB] 症例登録 (循環器内科)

成人白血病治療共同機構(JALSG)(CS-17)症例登録(血液・腫瘍内科)

日本血液学会 血液疾患登録 (JSH) (血液・腫瘍内科)

日本血液学会 MM-15 事業症例登録(血液・腫瘍内科)

日本血液学会 J-SKI 事業症例登録(血液・腫瘍内科)

日本造血細胞移植データーセンター(TRUMP2)症例登録(血液・腫瘍内科)

日本人移植登録システム JARTRE-W 症例登録(移植外科)

周産期医療センターネットワークデータベースハイリスク児のデータ登録 (小児科)

周産期医療センターネットワークデータベースハイリスク児予後登録 (小児科)

(オ) データ抽出支援業務

脊椎外科 (手術・入院患者一覧)

呼吸器外科 (手術患者一覧)

心臟血管外科 (手術予定患者一覧)

消化器内科 (内視鏡検査)

消化器内科(RFA)

産婦人科 (助産録分娩件数)

小児科 (小児救急重篤疾患登録調査)

小児科 (川崎病全国調査)

整形外科 (学会用)

整形外科(地域連携パス会議用)

歯科口腔外科 (外傷)

歯科口腔外科 (口腔)

泌尿器科 (手術患者一覧)

救急科 (救急外来説明書有無)

リウマチ科 (関節リウマチ患者のデータ集積登録)

他 個人単位の抽出依頼も対応

(カ) 感染症サーベランス業務

コロナ検査実施データベース (感染症管理センター)

HER-SYS 登録支援業務 (感染症管理センター)

- (キ) 院内がん登録支援業務
- (ク) 学術業績管理業務
- (ケ) 手術映像記録抽出業務

VI 研究・業績

~解説~

① 医局

- (1) 2023年1月1日~2023年12月31日の研究・業績を掲載しています。
- ② 診療技術局・薬局・看護局・事務局
 - (1) 2023年4月1日~2024年3月31日の研究・業績を掲載しています。

学会発表及び研究会発表

- ・当院の職員が筆頭演者の場合は、筆頭演者の氏名のみ掲載しています。
- ・当院の職員が共同演者の場合は、共同演者の氏名に合わせて(共同)と掲載しています。

論文・著書

- ・当院の職員が筆頭著者の場合は、筆頭著者の氏名のみ掲載しています。
- ・当院の職員が共同著者の場合は、筆頭著者及び当院の関係した職員すべての氏名を掲載し、筆頭 著者に下線を引いています。

学会発表 (医局)

(呼吸器内科・アレルギー内科)

- 1 牧野 靖 (共同), COVID-19 後遺症における呼吸困難の危険因子に関する考察, 第63回日本呼吸器学会 学術講演会, 東京都, 2023/4/28
- 2 牧野 靖, 当院におけるアミカシン硫酸炎吸入用製剤導入経験について, 第123回日本呼吸器学会東海地方会, 名古屋市, 2023/6/3
- 3 佐野 開人, 肺小細胞癌の傍腫瘍症候群による辺縁系脳炎で痙攣群発を起こした一例, 第123回日本呼吸器学会東海地方会, 名古屋市, 2023/6/3
- 4 大原 康, ADA高値を示し、診断に苦慮した悪性リンパ腫の一例, 第123回日本呼吸器学会東海地方会, 名古屋市, 2023/6/4
- 5 牧野 靖, 外来パスを用いたアミカシン硫酸塩吸入用製剤導入経験について, 第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 富山市, 2023/11/9
- 6 | 纐纈 晴貴, 難治性漏出性胸水より血管免疫芽球T細胞性リンパ腫と診断した1例, 第124回日本呼吸器学会東海地方会, 浜松市, 2023/11/12
- 7 福井 保太, ILDとの鑑別を要した転移性肺腫瘍の診断にクライオ生検が有効であった1例, 第66回日本 呼吸器内視鏡学会中部支部会, 名古屋市, 2023/12/23

(消化器内科)

- 章 か木 博貴, 悪性肝門部領域胆管狭窄に対するEUS-guided biliary drainageの位置づけ,第109回日本消化器病学会総会. 長崎市、2023/4/8
- 2 鈴木 博貴, 膵実質エコー輝度と膵癌発症の関連性についての検討, 日本超音波医学会第96回学術集会, さいたま市, 2023/5/29
- 3 佐野 暢彦, 2度の肝生検で肝reactive lymphoid hyperplasiaと診断した一例, 日本消化器病学会東海支部第138回例会, 名古屋市, 2023/6/17
- 4 足立 賢吾, 5-FU投与により高アンモニア血症となり意識障害をきたした一例, 日本消化器病学会東海支部第138回例会, 名古屋市, 2023/6/17
- 5 | 鈴木 博貴, 当院における悪性遠位胆管閉塞に対するテーパー型胆管ステントの臨床成績, 第54回日本 膵臓学会大会, 福岡市, 2023/7/22
- 6 牧野 成彦, 腹部超音波検査で診断された肝外門脈瘤の一例, 日本超音波医学会第44回中部地方会, 岐阜市, 2023/9/10
- 7 佐藤 宏樹, 膵漿液性嚢胞性腫瘍との鑑別が困難であった膵神経内分泌腫瘍の1例, 日本超音波医学会第 44回中部地方会, 岐阜市, 2023/9/10
- 8 社本 賢昭, Inside stent留置中に仮性動脈瘤による胆道出血を来した1例, 第59回日本胆道学会学術集会, 札幌市, 2023/9/14
- 9 | 社本 賢昭, ALBI 2bの進行肝細胞癌におけるアテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法の有効性, JDDW 2023 KOBE, 神戸市(WEB), 2023/11/3
- 10 小池 剛, 高齢者における大腸ESDの治療成績および予後因子の検討, JDDW 2023 KOBE, 神戸市 (WEB), 2023/11/3
- 社本 賢昭, 肝細胞癌に対する経橈骨動脈的肝動脈化学塞栓術の臨床的有用性, 日本消化器病学会東海支部第139回例会, 岐阜市, 2023/11/18
- 12 田中 佑典, 分子標的薬が継続困難となった膵神経内分泌腫瘍に対しソマトスタチンアナログが有効であった1例, 日本消化器病学会東海支部第139回例会, 岐阜市, 2023/11/18
- 13 牧野 成彦, 膵管ガイドワイヤー法における新規ガイドワイヤーの位置づけ, 第66回日本消化器内視鏡 学会東海支部例会, 名古屋市, 2023/12/2
- | 佐久間 | 智大, 続発性慢性偽性腸閉塞症に対して経皮内視鏡的結腸瘻造設術を施行した1例, 第66回日本 | 消化器内視鏡学会東海支部例会, 名古屋市, 2023/12/2

(循環器内科)

- 1 辻村 充誉,繰り返す心膜炎を契機に診断に至った家族性地中海熱の1例,第249回日本内科学会東海地方会,名古屋市(WEB),2023/2/19
- 2 深谷 兼次, 高血圧治療におけるサクビトリルバルサルタンとアジルサルタンの比較, 第161回日本循環 器学会東海地方会, 名古屋市, 2023/6/3

(腎臓内科)

- 吉田 有美香, 急性妊娠脂肪肝により妊娠一過性尿崩症を呈した一例, 第249回日本内科学会東海地方会, 名古屋市, 2023/2/19
- 2 大原 康,トンネル感染を契機に急性発症した非結核性抗酸菌性腹膜炎,第68回日本透析医学会学術集会総会,神戸市,2023/6/16
- 3 伊崎 智彦, IgG4関連疾患疑いとして治療中に腎生検でキャッスルマン病と確定診断した一例, 第68回日本透析医学会学術集会総会, 神戸市, 2023/6/17

(糖尿病・内分泌内科)

- 1 浅井 秀康, 糖尿病合併双胎妊娠を機に診断されたCushing病の1例, 日本内科学会第249回東海地方会, 名古屋市, 2023/2/19
- 2 山守 育雄, 副腎皮質機能低下症と紛らわしいコルチゾール結合グロブリン(CBG)減少症の2例, 第96回日本内分泌学会学術総会, 名古屋市, 2023/6/2
- 3 岡嵜 裕子, 白川 晶, 井出 天翔, 榊原 康喜, 萩本 繁, 子宮頸癌甲状腺転移による破壊性甲状腺炎が 疑われた1例, 第251回日本内科学会東海地方会, 名古屋市, 2023/10/15
- 4 榊原 康喜, 巨大右副腎腫瘍破裂による死亡が疑われたが副腎に有意な病理所見を認めなかった1例, 第 251回日本内科学会東海地方会, 名古屋市, 2023/10/15

(脳神経内科)

- 1 佐野 開人, Guillain-Barre症候群と診断されたが、精査にて硬膜外膿瘍による重度不全麻痺と発覚した1例, 第251回日本内科学会東海地方会, 名古屋市, 2023/10/15
- 2 加藤 優弥, 坂道歩行困難で発症した球脊髄性筋萎縮症(SBMA)の1剖検例, 第167回日本神経学会東海 北陸地方会, 福井市, 2023/11/18

(血液・腫瘍内科)

- 1 井本 直人, 幹細胞移植前処置中に重度精神障害により前処置中断を要した2例, 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋市, 2023/2/12
- 2 川口 拓哉, 当院における再発難治DLBCLにおけるPBR療法と他のサルベージ療法との比較, 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡市, 2023/3/17
- 3 | 倉橋 信悟, B細胞性急性リンパ芽球性白血病とT細胞性急性リンパ芽球性リンパ腫にて発症した8p11 | 骨髄増殖症候群の一例, 第12回日本血液学会東海地方会, 名古屋市, 2023/5/21
- 4 | 纐纈 晴貴, 高度肝障害を伴ったびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対しR-GCD療法を施行し改善した 1例, 第250回日本内科学会東海地方会, 桑名市, 2023/6/25
- 5 内田 直樹, エミシズマブを用いた高齢者後天性血友病Aの3例, 第85回日本血液学会学術集会, 東京都, 2023/10/13
- 6 井本 直人, Tirabrutinibの少量短期間投与を行った高齢者マクログロブリン血症の2例, 第85回日本血液学会学術集会, 東京都, 2023/10/14
- 7 伊藤 理恵, 急性骨髄性白血病の寛解導入療法におけるカテーテル関連血流感染症の検討, 第85回日本 血液学会学術集会, 東京都, 2023/10/14
- 8 渡邉 実紀, 多発性骨髄腫に対するR2-ISSの実臨床での有用性について単施設における後方視的観察研究, 第85回日本血液学会学術集会, 東京都, 2023/10/15

(一般外科・小児外科)

- 1 水谷 文光也, 単形性上皮向性腸管Tリンパ腫の1例, 第59回愛知臨床外科学会, 名古屋市, 2023/2/11
- 2 加藤 ・ 暁俊, 腹腔鏡下で修復した腎臓脱出を伴う成人Bochdalek孔ヘルニアの一例, 第59回愛知臨床外科 学会, 名古屋市, 2023/2/11
- 3 折原 薫也, 腹膜播種巣の検索により発症したラテックスによる術中アナフィラキシーショックの一例, 第59回愛知臨床外科学会, 名古屋市, 2023/2/11
- 中根 有登, 術前診断し単孔式腹腔鏡補助下に切除しえたMeckel憩室出血の1例, 第303回東海外科学会, 名古屋市, 2023/4/2
- 5 石川 凛太郎, 胆石性膵炎、腹腔鏡下胆嚢摘出後に発生した腹腔内デスモイド腫瘍の一例, 第303回東海外科学会, 名古屋市, 2023/4/2
- 6 仙石 浩康, 腹腔鏡下で整復した成人Morgagni孔ヘルニアの一例, 第303回東海外科学会, 名古屋市, 2023/4/2
- 7 | 平松 和洋, 副腎原発仮性のう胞の一切除例, 第35回日本内分泌外科学会総会, 松本市, 2023/6/16
- 8 藤井 正宏, withコロナ時代のがん患者サロンへのあり方の検討, 第31回日本乳癌学会学術総会, 横浜市, 2023/6/29
- 9 | 鶴田 成昭, がん性心タンポナーデに対して心嚢ドレナージ術・心膜癒着術を施行した1例, 第31回日本 |乳癌学会学術総会, 横浜市, 2023/6/29
- 10 深谷 昌秀, 頚部食道腺癌の1例, 第77回日本食道学会学術集会, 大阪市, 2023/6/30
- | 古山 | 剛広, 術前治療により癌腫成分が消失した食道癌肉腫の一例, 第77回日本食道学会学術集会, 大阪 | 市, 2023/6/30
- 12 下山 咲, 術後7年目に全身転移をきたし急速な転機をたどった悪性腺筋上皮腫の1例, 第31回日本乳癌 学会学術総会, 横浜市, 2023/7/1
- | 青葉 太郎, 当院でのロボット支援手術の現状 The current status of Robotic Surgery (da Vinci) in our hospital, 第78回日本消化器外科学会総会, 函館市, 2023/7/12
- | 有元 | 淳記, 原発巣有症状症例を含めた切除不能同時性肝転移を伴う大腸癌の治療成績, 第78回日本消化器外科学会総会, 函館市, 2023/7/12
- 15 中根 有登, 術後早期に側方リンパ節転移を生じた下部直腸粘膜内癌の1例, 第78回日本消化器外科学会 総会, 函館市, 2023/7/12
- | 西野 真史, IPNBと術前診断し根治切除を施行した3例 Three cases of preoperatively diagnosed IPNB who underwent radical resection, 第78回日本消化器外科学会総会, 函館市, 2023/7/13
- 平松 和洋, 十二指腸GIST8例の検討 A study of 8 cases of duodenal GIST, 第78回日本消化器外科学会総会, 函館市, 2023/7/14
- 18 古山 剛広, インスリノーマに対し腫瘤核出術を施行した1例, 第60回愛知臨床外科学会, 名古屋市, 2023/7/17
- 19 畑佐 美咲, 外傷性左横隔膜損傷に対して腹腔鏡下横隔膜縫合術を施行した1例, 第60回愛知臨床外科学会, 名古屋市, 2023/7/17
- 20 水谷 文光也, 大腿深動脈の分枝から発生した巨大真性動脈瘤の1例, 第60回愛知臨床外科学会, 名古屋市, 2023/7/17
- 中島 悠, Unintended vascular-associated adverse events and intraoperative blood loss in major hepatectomy: A single-center review of 1116 patients using the ClassIntra system, 9th Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato -Pancreato -Biliary Association, バンガロール, 2023/9/29
- 22 | 浅井 一, 腫瘍破裂を契機に発見され緊急左上腹部内臓全摘を施行した胃GISTの1例, 第304回東海外科 学会, 岐阜市, 2023/10/1
- 23 仙石 浩康, 複数の小腸腫瘍切除行を行い、化学療法を継続しえた縦隔原発セミノーマの小腸転移穿孔の1例, 第304回東海外科学会, 岐阜市, 2023/10/1
- 24 吉田 有美香, 切除しえた悪性黒色腫の空腸転移の1例, 第15回日本Acute Care Surgery学会学術集会, 浦安市, 2023/10/6
- 25 折原 薫也, 血液疾患による好中球減少をきたした患者に対して緊急手術を施行した3例, 第15回日本 Acute Care Surgery学会学術集会, 浦安市, 2023/10/7
- 26 |鶴田 成昭, 当院における人工肛門閉鎖術後合併症の検討, JDDW 2023 KOBE, 神戸市, 2023/11/2-5

- 27 | 有元 淳記, 当院における脾彎曲部結腸癌手術 IMV背側から開始する内側授動と膵尾側からのアプローチ, 第78回日本大腸肛門病学会学術集会, 熊本市, 2023/11/11
- 28 中島 京佑, 内反した膀胱に小腸が嵌頓した内ヘルニアの1例, 第85回日本臨床外科学会総会, 岡山市, 2023/11/18
- 29 平松 和洋, Organ retractorを用いたロボット支援下胃全摘の食道-空腸 Functional End to End再建の経験, 第36回日本内視鏡外科学会総会, 横浜市, 2023/12/9
- 90 中根 有登, 術前診断し得ず腹腔鏡下に切除した肛門・直腸近傍 cellular angiofibroma (CAF) の1例, 第36回日本内視鏡外科学会総会, 横浜市, 2023/12/9

(呼吸器外科)

- 野亦 悠史, Bentall術後の大動脈解離に肺動脈出血を併発した転落胸部外傷の1例, 第40回日本呼吸器外科学会学術集会, 新潟市, 2023/7/13
- 2 橋本 久実子, 右上葉切除術における術後肺瘻について Fissureless techniqueと従来法の比較検討, 第 40回日本呼吸器外科学会学術集会, 新潟市, 2023/7/14
- 3 橋本 久実子, クロスアームテクニックを使用した単孔式完全ロボット支援下右上葉切除術, 第76回日本胸部外科学会定期学術集会, 仙台市, 2023/10/19

(移植外科)

- 長坂 隆治, PKD原疾患の献腎移植後にFabry病と診断され酵素補充療法中の1例, 第56回日本臨床腎移植学会, 東京都, 2023/2/11
- 2 長坂 隆治(共同), 献腎移植後、萎縮膀胱・神経因性膀胱のため膀胱瘻を留置した1例, 第56回日本臨床 腎移植学会, 東京都, 2023/2/11
- 3 長坂 隆治, 当院での副甲状腺手術症例の変遷について, 第43回東三医学会, 豊橋市, 2023/3/4
- 4 長坂 隆治, 当院における続発性副甲状腺機能亢進症手術症例の推移について, 第68回日本透析医学会 学術集会・総会, 神戸市, 2023/6/18
- 5 長坂 隆治, 副甲状腺の術中同定検索法に関する検討, 第26回東海ROD研究会, 名古屋市, 2023/8/5
- 6 長坂 隆治, 献腎移植登録継続外来のあり方について(移植後早期死亡例を経験して), 第59回日本移植 学会総会, 京都市, 2023/9/23
- 7 長坂 隆治(共同), 生体部分膵腎同時移植生着例からみた長期管理における諸問題について, 第59回日本移植学会総会, 京都市, 2023/9/23
- 8 長坂 隆治(共同), 当院での献腎移植を受けた患者から待機中の方々へお伝えしたい事, 第59回日本移植学会総会, 京都市, 2023/9/23

(整形外科)

- 1 | 竹本 元大,人工股関節全置換術術後の関節の知覚に関係する因子の検討,第53回日本人工関節学会, 横浜市,2023/2/17
- 2 柴田 隆太郎, 高齢者の橈骨遠位端骨折に伴う尺骨遠位端骨折に対する治療法の比較 多施設(TRON グループ)によるレトロスペクティブ研究 , 第66回日本手外科学会学術集会, 東京都, 2023/4/21
- 藤田 護, Combination of bone transplantation and chondral repair for large traumatic osteochondral defect of the knee joint, 22nd European Congress of Trauma and Emergency Surgery, スロベニア, 2023/5/7-9
- 4 柴田 隆太郎, 高齢者橈骨遠位端骨折に伴う尺骨遠位端骨折に対する鋼線固定手術と尺骨頭切除術の比較 多施設後ろ向き研究(TRON study) , 第96回日本整形外科学会学術総会, 横浜市, 2023/5/11
- 5 竹本 元大, 術前の大きな骨盤射角は、人工股関節全置換術後の自覚的脚長差に影響を与える, 第96回日本整形外科学会学術総会, 横浜市, 2023/5/13
- 柴田 隆太郎, Comparison of Three Treatment Options for Distal Ulna Fractures Associated with Volar Locking Fixation for Distal Radius Fractures in Older Women: A Multicenter Retrospective Study, 13th Congress of the Asia Pacific Federation of Societies for Surgery of the Hand, シンガポール, 2023/5/31-6/1

- 7 柴田 隆太郎, 寛骨臼後壁骨折に対するvariable angle locking mesh/box plateを使用したspring locking plate固定法, 第49回日本骨折治療学会学術集会, 静岡市, 2023/6/30
- 8 三矢 未来, 膝蓋骨粉砕骨折に対する鉄十字(Eisernes Kreuz)法とTBW法とひまわり法の比較, 第49回日本骨折治療学会学術集会, 静岡市, 2023/6/30
- 9 福岡 大史, マスギャザリングイベントと周辺医療機関の救急外来の関係, 第26回日本臨床救急医学会 総会・学術集会, 東京都, 2023/7/28
- 柴田 隆太郎, Comparison of Three Treatment Options for Distal Ulna Fractures Associated with Volar Locking Fixation for Distal Radius Fractures in Older Women: A Multicenter Retrospective Study, 13th Congress of the Asia Pacific Federation of Societies for Surger, 第6回世界外傷学会, 東京都, 2023/8/10
- 藤田 護, Arthrodesis with femoral head allograft for the treatment of ankle joint, APASTB 2023, 福 岡市, 2023/8/19
- 12 福岡 大史, TFNA cement augmentation systemを使用した、大腿骨転子部骨折の治療成績, 第141回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 神戸市, 2023/10/6
- 三矢 聡, Trochanteric figure 8 cabling(TFEC)とcerclage cabling(CC)と髄内釘で固定した大腿骨転子部偽関節の1例,第141回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会,神戸市,2023/10/6
- 14 | 竹本 元大, 後方アプローチを用いた寛骨臼骨折に対するケーブル固定の長期成績, 第141回中部日本整 形外科災害外科学会・学術集会, 神戸市, 2023/10/6
- | 三矢 未来, 膝蓋骨粉砕骨折に対する鉄十字(Eisernes Kreuz)法と従来のTBW(tension band wiring) | 法との比較, 第141回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 神戸市, 2023/10/7
- | 桑原 悠太郎, 皮膚欠損を伴う重度手部外傷の治療成績, 第50回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 名古屋市, 2023/12/7

(リウマチ科)

- 1 | 斉藤 祐樹, 実臨床における重症骨粗鬆症に対するゾレドロン酸の治療効果の検討, 第67回日本リウマ チ学会総会・学術集会, 福岡市, 2023/4/25
- 2 | 斉藤 祐樹, 脊椎MRIで異常信号領域を有する診断と治療に苦慮した3例, 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡市, 2023/4/25
- 3 平野 裕司, 2022ACR/EULAR新寛解基準(Boolean 2.0)採用後に新規に寛解と分類される関節リウマチ患者の特徴, 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡市, 2023/4/26
- 4 平野 裕司, 関節リウマチ患者におけるCOVID-19ワクチン接種率・有害事象・非接種理由の調査, 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡市, 2023/4/26
- 5 平野 裕司, 実臨床における関節リウマチに対するアバタセプト長期治療成績 投与開始後5年以上 経過例での検討 - , 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡市, 2023/4/26
- 6 平野 裕司, 関節リウマチ患者の骨粗鬆症に対するデノスマブ長期治療成績 治療開始後5年以上経過例での前治療別の検討-, 第96回日本整形外科学会学術総会, 横浜市, 2023/5/13
- 平野 裕司, Characteristics of Rheumatoid Arthritis Patients Who Achieve Remission After 2022 American College of Rheumatology / European Alliance of Association for Rheumatology Revised Remission Criteria Application, EULAR 2023, ミラノ, 2023/5/31
- 8 平野 裕司, Romosozumab as a Treatment after Bisphosphonate or for Osteoporosis with T-score≤ -2.5 in Clinical Practice, EULAR 2023, ミラノ, 2023/5/31
- 平野 裕司, Vaccination Rate, Adverse Reactions, and Reasons for Nonvaccination of COVID-19 Vaccine in Patients with Rheumatoid Arthritis in a Japanese Real-world Clinical Practice, EULAR 2023, ミラノ, 2023/5/31
- 10 平野 裕司, 初診リウマチ性多発筋痛症患者における骨粗鬆症罹患と骨粗鬆症治療介入の調査, 第25回日本骨粗鬆症学会, 名古屋市, 2023/9/29
- 平野 裕司, 実臨床における骨粗鬆症に対するロモソズマブ治療成績 骨密度Tスコア 2.5以下例と ビスホスホネート製剤からの変更例に着目して - , 第25回日本骨粗鬆症学会, 名古屋市, 2023/10/1
- 12 平野 裕司, RAに対するTNF阻害剤ゴリムマブ、IL-6阻害剤トシリズマブ、T細胞調整剤アバタセプトの投与継続率 開始後5年以上経過例での検討-,第38回日本臨床リウマチ学会,北九州市,2023/11/18
- 13 平野 裕司, 実臨床における関節リウマチに対するサリルマブ治療成績 投与開始後1年以上経過例での検討, 第38回日本臨床リウマチ学会, 北九州市, 2023/11/18

- 14 | 斉藤 祐樹, ゾレドロン酸治療における重症骨粗鬆症と非重症骨粗鬆症の臨床成績と比較, 第38回日本 臨床リウマチ学会, 北九州市, 2023/11/18
- | 伊藤 大貴, 大腿骨病変を呈するSAPHO症候群2例の長期経過, 第38回日本臨床リウマチ学会, 北九州市, 2023/11/18
- 16 | 斎藤 雄馬, 関節リウマチに対するウパダシチニブの使用状況と短期治療成績, 第38回日本臨床リウマチ会, 北九州市, 2023/11/19

(脊椎外科)

- 1 井上 太郎, 頚椎損傷に対する後方固定術後症状悪化例の検討, 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 札幌市, 2023/4/14
- 2 井上 太郎, 高齢頚髄損傷患者の入院中転帰 完全麻痺の生命予後は不良である , 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 札幌市, 2023/4/14
- 3 井上 太郎, 頚椎骨折後方固定術後神経症状悪化例の頻度とその特徴, 第98回東海脊椎脊髄病研究会学術集会, 名古屋市, 2023/6/10
- 伊藤 大貴, 進行性の麻痺を呈し外科的治療を要した頚椎硬膜外膿瘍の2例, 第58回日本脊髄障害医学会, さいたま市, 2023/11/17
- 5 井上 太郎, 特発性脊髄硬膜外血腫の治療経験 保存加療と手術加療の比較検討, 第58回日本脊髄障害 医学会, さいたま市, 2023/11/17
- 6 伊藤 大貴, 進行性の麻痺を呈し外科的治療を要し良好な転帰を辿った頚椎硬膜外膿瘍の2例, 第99回東 海脊椎脊髄病研究会学術集会, 名古屋市, 2023/11/25

(脳神経外科)

- 1 雄山 博文, 当院における特発性正常圧水頭症の治療成績, 第24回日本正常圧水頭症学会学術集会, 北見市, 2023/2/18
- 2 雄山 博文, 脳血管攣縮期での手術直後、広範な脳梗塞を生じた、高度動脈硬化病変を合併した、クモ 膜下出血の1例, STROKE 2023, 横浜市, 2023/3/16
- 3 | 大塚 | 崇史, 産褥期の出血性脳卒中2症例, STROKE 2023, 横浜市, 2023/3/18
- 4 平山 顕吾, 脳小脳転移, 脳浮腫により致命的な経過をたどった縦隔原発胚細胞腫瘍の一例, 第103回日本脳神経外科学会中部支部学術集会, 松本市, 2023/4/8
- 5 若林 健一, 内視鏡下経鼻手術を施行した頭蓋底部骨巨細胞種の1例, 第30回一般社団法人日本神経内視 鏡学会, 名古屋市, 2023/11/16
- 6 大塚 崇史, 小型破裂脳動脈瘤の脳血管内治療, 第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 京都市, 2023/11/23

(小児科)

- 1 伊藤 剛,成人で発症した小脳髄芽腫の一例,第82回東海小児がん研究会,名古屋市(WEB),2023/2/18
- 2 | 笠置 俊希, ネフローゼ症候群に合併した循環不全を伴う肺血栓塞栓症に対して、血栓溶解療法と直接 経口凝固薬 (DOAC) を用いた14歳男児の1例, 第58回日本小児腎臓病学会学術集会, 高槻市, 2023/6/30
- 3 大下 裕法, 周産期低酸素障害によるDNAメチレーション変化と成人期肺高血圧 ラット肺高血圧モデルを用いた検討-, 第59回日本小児循環器学会総会・学術集会, 横浜市, 2023/7/6
- 4 熊澤 大輝, 新生児卵巣嚢腫24例の検討, 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会, 名古屋市(WEB), 2023/7/11
- 5 熊澤 大輝,長年栄養剤の一つとして摂取していたプロテインサプリメント商品の変更により甲状腺機能亢進症状を来した重症心身障害者の一例,第58回中部日本小児科学会,名古屋市,2023/8/20
- Takahiro Sugiura, The Neonatal Cardio-Pulmonary Resuscitation (NCPR) Project, The 22nd Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies, 東京都, 2023/10/8
- 7 中根 茂晴, 当院における胎便性腸閉塞の検討と治療プロトコルの作成, 第67回日本新生児成育医学会・学術集会, 横浜市, 2023/11/3
- 8 戸川 貴夫, 小児遺伝性胆汁うっ滞疾患の遺伝学的解析と他施設前向きレジストリ(CIRCLe)の取り組み, 第157回日本小児科学会 静岡地方会, 静岡市, 2023/11/26

(産婦人科・女性内視鏡外科)

- 1 諸井 條太郎, ロボット支援下子宮全摘術における膣パイプの操作について ~ロボット手術では子宮マニピュレータは不要である~, 第11回日本婦人科ロボット手術学会, 弘前市, 2023/1/28
- 2 | 梅村 康太(共同), 先ずモノマネより始めよ, 第11回日本婦人科ロボット手術学会, 弘前市, 2023/1/29
- 3 梅村 康太, ロボット支援下手術のTipsとPitfall, 第11回日本婦人科ロボット手術学会, 弘前市, 2023/1/29
- 4 河合 要介, ロボット支援手術教育としてのプロクタリング活動の実際 -15施設のべ32回の経験より-,第11回日本婦人科ロボット手術学会, 弘前市, 2023/1/29
- 5 河合 要介, 婦人科ロボット支援手術プロクター(良性・悪性)としてのプロクタリング活動の実際 -15 施設のべ32回の経験より-,第15回日本ロボット外科学会学術集会,名古屋市,2023/2/2
- 6 河合 要介, 当院における進行卵巣癌患者に対するHRD検査の現状, 第75回日本産科婦人科学会学術講演会, 東京都(WEB), 2023/5/13
- 7 梅村 康太, ロボット支援下子宮全摘術の標準化と若手教育について, 第75回日本産科婦人科学会学術 講演会, 東京都(WEB), 2023/5/14
- 8 古井 憲作, 当院における安全に1日3件のロボット支援下手術を行う工夫について, 第75回日本産科婦人科学会学術講演会, 東京都(WEB), 2023/5/14
- 9 諸井 條太郎, ATRX遺伝子変異保因者である母体の管理経験, 第75回日本産科婦人科学会学術講演会, 東京都(WEB), 2023/5/14
- 10 岡田 真由美, 子宮体部・卵巣重複癌の経過観察中に腎癌、大腸癌、乳癌を発症した症例, 第29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, 高知市, 2023/6/16-17
- 河合 要介, 十全大補湯の化学療法による貧血改善効果および抗腫瘍効果, 第73回日本東洋医学会学術 総会, 福岡市(WEB), 2023/6/16-18
- 12 岡田 真由美, 重複癌の経過中に異時性に3つの新たな癌を発症した症例を経験して, 第47回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 松本市, 2023/7/7
- | 古井 憲作, 羊水検査で5p-症候群と診断されたが妊娠中に適切な情報提供がなされなかった症例, 第47 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 松本市, 2023/7/7
- 15 小梶 正人, 急性妊娠脂肪肝に引き続き一過性尿崩症を呈した一例, 第59回日本周産期・新生児医学会 学術集会, 名古屋市, 2023/7/10
- 16 古井 憲作, 妊娠中にカンジタ絨毛膜炎を疑いミカファンギンを使用し著効した1例, 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会, 名古屋市, 2023/7/10
- | 嶋谷 拓真, MSI-High, TMB-Highを有する卵巣癌に対しpembrolizmabが奏功した一例, 第65回日本 | 婦人科腫瘍学会学術講演会, 松江市, 2023/7/15
- 18 古井 憲作,ペグフィルグラスチム使用後に大動脈炎を発症した3症例,第65回日本婦人科腫瘍学会学術 講演会,松江市,2023/7/15
- 19 河合 要介, 当院における進行卵巣癌患者に対するHRD検査の現状, 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 松江市, 2023/7/15
- 20 諸井 條太郎, 卵巣腫瘍破裂で初診となった混合型胚細胞腫瘍の一例, 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 松江市, 2023/7/15
- 21 山田 友梨花, 当施設における進行・再発卵巣癌・腹膜癌に対するニラパリブの使用経験, 第65回日本 婦人科腫瘍学会学術講演会, 松江市, 2023/7/15
- 22 菅沼 寛明, GnRHアンタゴニスト投与にて縮小した子宮肉腫の二例, JSAWI. org 第24回シンポジウム, 淡路市(WEB), 2023/9/1-2
- 23 岡田 真由美, 卵巣線維腫の術前診断で腹腔鏡下に手術を行い術後明細胞腺癌と診断された症例①, JSAWI. org 第24回シンポジウム, 淡路市(WEB), 2023/9/1-2
- 24 河合 要介, 巨大子宮筋腫に対するロボット支援下腹腔鏡下子宮全摘術, 第63回日本産科婦人科内視鏡 学会学術講演会, 大津市, 2023/9/14
- 25 古井 憲作, 子宮体癌に対するロボット支援下傍大動脈リンパ節郭清術、開腹術との比較検討, 第63回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 大津市, 2023/9/14
- 26 梅村 康太, ロボット支援下手術による骨盤リンパ節郭清の注意点とセンチネルリンパ節生検 について, 第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 大津市, 2023/9/15

- 27 山田 友梨花, 婦人科悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節同定・生検 ~テクネフチン酸キットの保 険適応を受けて~, 第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 大津市, 2023/9/15
- 28 古井 憲作,子宮脱の症状改善に対してロボット支援下仙骨腟固定術の有用性について検討,第38回日本女性医学学会学術集会,徳島市(WEB),2023/12/2
- 29 梅村 周平, 腹腔鏡下広汎子宮頸部摘出術から生殖補助医療・周産期管理までを自施設で完結させ2回 妊娠・分娩に至った症例, 第38回日本女性医学学会学術集会, 徳島市(WEB), 2023/12/2
- 30 冨田 斐月香, 当院における多職種連携チームによるプレネイタルビジットの導入, 第38回日本女性医 学学会学術集会, 徳島市(WEB), 2023/12/3
- 31 岡田 真由美,子宮体癌・卵巣癌の重複癌の長期経過中に異時性に3つの新たな癌を発症した症例を経験して,第38回日本女性医学学会学術集会,徳島市(WEB),2023/12/2-3
- 32 梅村 康太, 子宮体癌に対するロボット支援下傍大動脈リンパ節郭清術, 第36回日本内視鏡外科学会総会, 横浜市, 2023/12/9

(産婦人科(生殖医療))

- 3 鈴木 邦昭, 初回タイムラプス胚培養で疑った男女生殖器感染症の治療に難渋した一例, 第26回日本IVF 学会学術集会, 大阪市, 2023/11/3
- 2 古井 憲作, 精子DNA断片化率の高い長期不妊症例に対しIMSにより妊娠・出産に至った一例, 第68回日本生殖医学会学術講演会・総会, 金沢市, 2023/11/9
- 3 安藤 寿夫, 当院における精子DNA断片化検査のARTへの活用, 第68回日本生殖医学会学術講演会・総会, 金沢市, 2023/11/9

(耳鼻いんこう科)

- 1 小澤 泰次郎, 高齢者における甲状腺癌レンバチニブ使用経験, 第32回日本頭頸部外科学会総会ならび に学術講演会, 金沢市, 2023/1/20
- 2 小澤 泰次郎, 頭蓋底手術後再発に対して再度頭蓋底手術を行った篩骨洞癌の一例, 第47回日本頭頸部 癌学会総会・学術講演会, 大阪市, 2023/6/16
- 3 菊地 世界, 片側の顔面浮腫で発症した伝染性単核症の1例, 第85回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 東京都, 2023/6/24
- 4 薗田 拓弥, 下顎打撲後に頸部皮下血腫の増大によって窒息に至り気道確保を要した1例, 第85回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 東京都, 2023/6/24
- 5 山口 慎人, 嗅神経芽細胞腫に対し内視鏡下経鼻前頭蓋底手術を行った4例, 第35回日本頭蓋底外科学会, 東京都, 2023/7/7

(皮膚科)

- 宮崎 朗, Whole-exome sequencing reveals a retinitis pigmentosa-causative PRPH2 variant as a secondary finding in a patient with pseudoxanthoma elasticum, ISID 2023, 東京都, 2023/5/10-13
- 2 | 須貝 達朗, 当科におけるポリヘキサニド・ベタイン溶液を用いた局所療法の使用経験, 第122回日本皮 | 膚科学会総会, 横浜市, 2023/6/1
- 3 宮崎 朗, 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症を契機に発症した後天性反応性穿孔性膠原線維症の1例, 第 122回日本皮膚科学会総会, 横浜市, 2023/6/1-4
- 4 野田 絵織, 粉瘤/外毛根鞘性嚢腫から発生した有棘細胞癌の2例, 第122回日本皮膚科学会総会, 横浜市, 2023/6/1-4
- 5 須貝 達朗, 皮膚科救急医の選択:この急患。どうしますか?,第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床 学術大会,札幌市,2023/6/18
- 6 神谷 怜志, Avacopan単剤治療により皮膚症状が改善した顕微鏡的多発血管炎の1例, 第75回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 宜野湾市, 2023/9/17
- 7 野田 絵織, 左腋窩に生じた乳房外パジェット病の1例, 第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 京都市, 2023/10/28

- 8 神谷 怜志, 電撃性紫斑病を合併したESBL生産Citrobacter freundii complexによる壊死性筋膜炎の一例, 第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 富山市, 2023/11/9
- 9 加藤 怜志, 壊死性筋膜炎を呈したESBL生産Citrobacter freundii complexによる菌血症の1例, 第87回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京都, 2023/11/18
- 10 須貝 達朗, 壊疽性膿皮症患者に生じた急性下肢虚血の1例, 第4回日本フットケア・足病医学会年次学 術集会, 宜野湾市, 2023/12/22

(泌尿器科)

- 1 山本 晃之, 豊橋市民病院で前立腺癌に対して遺伝子パネル検査を施行した13例の報告, 第20回日本臨 床腫瘍学会学術集会,福岡市, 2023/3/17
- 2 Akiyuki Yamamoto, How do the Cribriform component and IDC-P affect prognosis in patients with metastatic prostate cancer?, 第110回日本泌尿器科学会総会, 神戸市, 2023/4/21
- 3 本多 健一郎, 当院におけるロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術(RAPN)の治療成績, 第73回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良市, 2023/10/13
- 大見 貴尚, ERASとeRARCの術後成績における有効性の検討, 第73回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良市, 2023/10/14
- 5 松井 宏考, 当院における尿路上皮癌に対するアベルマブ維持療法に関する検討, 第73回日本泌尿器科 学会中部総会, 奈良市, 2023/10/14
- 6 金澤 秀幸, 当院における尿路上皮癌に対するエンホルツマブベドチンの初期投与経験, 第73回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良市, 2023/10/14
- 7 山本 晃之, 転移性去勢抵抗性前立腺癌患者におけるCribriform componentと薬剤の反応性の検討, 第61回日本癌治療学会学術集会, 横浜市, 2023/10/19
- 8 山本 晃之, 縦隔原発Seminoma(Germinoma)小腸転移の1例, 日本泌尿器腫瘍学会第9回学術集会, 横浜市, 2023/10/22

(麻酔科(ペインクリニック))

- 1 稲生 光春, 超音波ガイド下鎖骨上アプローチについて:中心静脈カテーテル挿入留置, 第51回日本歯 科麻酔学会総会・学術集会, 長崎市, 2023/10/8
- 2 | 齊藤 公紹, O型RH(-)患者に胸郭出口症候群(Thoracic Outlet Syndrome: TOS)の手術を全身麻酔下に行った一例,日本臨床麻酔学会第43回大会,宮崎市,2023/12/8
- 3 大林 史明, 開口障害・全く口があかなくても経口挿管はできる: 顔面多発骨折患者に対する臼歯後方 挿管, 日本臨床麻酔学会第43回大会, 宮崎市, 2023/12/8

(病理診断科)

1 新井 義文, 卵巣線維腫の術前診断で腹腔鏡下に手術を行い術後明細胞腺癌と診断された症例②, JSAWI. org 第24回シンポジウム, 淡路市(WEB), 2023/9/1-2

(歯科口腔外科)

- 足立 潤哉, 重症歯性感染症による意識消失にて交通事故を引き起こした1例, 4学会合同学術大会(第43 回日本歯科薬物療法学会・第33回日本口腔内科学会・第32回日本口腔感染症学会・第36回日本口腔診 断学会), 宇都宮市, 2023/9/24
- 2 松岡 路子, 口底, 中下咽頭, 食道に生じた3重複癌の一例, 第68回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 大阪市, 2023/11/11

(救急科)

| 斗野 敦士, Vascular Access Teamによる中心静脈カテーテル集約化の活動報告, 第38回日本臨床栄養 |代謝学会学術集会, 神戸市, 2023/5/10

研究会発表 (医局)

(循環器内科)

- 1 成瀬 賢伸, Live Demonstration 石灰化, 第30回東海ライブ研究会, 豊橋市(WEB), 2023/2/4
- 2 深谷 兼次, 最適な心不全治療を届けるために, Heart Failure Discussion Meeting For Cardiologists in Aichi, 豊橋市(WEB), 2023/4/20
- 3 深谷 兼次, 実際、心不全においてSGLT2阻害剤はどのように使われているか? ~傾向と対策~, 東三河病院循環器内科医の会, 豊橋市(WEB), 2023/5/30
- | 成瀬 | 賢伸,維持透析症例の左前下行枝近位部病変, 43rd PICASSO Seminar in Nagoya, 名古屋市, 2023/7/8
- 5 成瀬 賢伸, 心血管疾患イベントを阻止するための資質管理, 東三河心疾患を考える会 心血管疾患イベント, 豊橋市(WEB), 2023/10/20
- 6 深谷 兼次, 心不全パンデミック時代に考える心原性脳塞栓症予防法, 循環器病 他科連携勉強会, 豊橋市(WEB), 2023/11/1
- 7 成瀬 賢伸, Live Demonstration, CPAC 2023, WEB, 2023/11/25
- 8 深谷 兼次, 抗凝固療法 出血合併症との境界線を検討してみる, 循環器内科 心臓血管外科 Topics Web, 豊橋市(WEB), 2023/11/30
- 9 成瀬 賢伸, DVT症例, 44th PICASSO in Nagoya, WEB, 2023/12/9

(脳神経内科)

日本 1 日井 克成, 抗てんかん薬ミニレビュー, 第34回東三河神経病理カンファランスCPC≪WEB研究会≫, WEB, 2023/2/7

(腎臓内科)

1 | 森 希, 血尿と急性腎障害を来したAHLアミロイドーシスの1例, 名古屋腎病理研究会, 名古屋市, 2023/7/16

(一般外科・小児外科)

1 石川 凛太郎, 頚胸部食道癌, 下咽頭癌の重複癌に対して腹腔鏡下下咽頭喉頭食道全摘を行った1例, 第43回東三学友会, 豊橋市, 2023/3/11

(整形外科)

1 福岡 大史, TFNA cement augmentation systemを使用した、大腿骨転子部骨折の治療成績, 第17回東海股関節外科研究会, 名古屋市, 2023/6/3

(リウマチ科)

- 1 | 斉藤 祐樹, 脊椎MRIで異常信号領域を有する診断治療に苦慮した3例, 三河脊椎関節炎フォーラム2023, 豊橋市(WEB), 2023/1/28
- 2 | 斉藤 祐樹, 実臨床における重症骨粗鬆症に対するゾレドロン酸の治療効果の検討, 第63回東三河リウマチ研究会, 豊橋市(WEB), 2023/3/11
- 3 平野 裕司, 初診リウマチ性多発筋痛症患者における骨粗鬆症罹患および治療の介入の調査, 第17回三河骨粗鬆症研究会, 豊橋市(WEB), 2023/4/8
- 4 | 斉藤 祐樹, 不安定型脆弱性骨盤骨折における臨床成績の比較, 第17回三河骨粗鬆症研究会, 豊橋市 (WEB), 2023/4/8
- 5 平野 裕司, EULAR 2023レポート 新しい治療指針と私の研究発表 , 第64回東三河リウマチ研究会, 豊橋市(WEB), 2023/10/7

- 6 斎藤 雄馬, 当院におけるSAPHO症候群の症例検討, 第64回東三河リウマチ研究会, 豊橋市(WEB), 2023/10/7
- 7 | 斎藤 雄馬, 当院におけるエタネルセプトバイオシミラーの使用状況, 第10回愛知DMARDs研究会, 名 古屋市, 2023/10/14
- 8 平野 裕司, 骨粗鬆症に対するロモソズマブの有効性と解析, 第18回三河骨粗鬆症研究会, 安城市 (WEB), 2023/11/25

(小児科)

大下 裕法, 周産期低酸素による血管平滑筋DNAメチル化と肺高血圧, 第59回日本小児循環器学会総会・学術集会 第26回日本小児心血管分子医学研究会, 横浜市, 2023/7/6

(産婦人科・女性内視鏡外科)

- 1 諸井 條太郎, デュアルコンソールによるロボット支援下手術の教育効果について Dual-console robotic surgery for gynecological surgical training, 第4回次世代婦人科MIS研究会, 浜松市, 2023/3/18
- 2 山田 友梨花,子宮体癌に対するロボット支援下傍大動脈リンパ節郭清の11症例の検討,第23回東海産婦人科内視鏡手術研究会学術講演会,名古屋市,2023/10/28
- 3 梅村 周平, 子宮頸癌 I B1期に対して腹腔鏡下広汎子宮頸部摘出術後に2回妊娠・分娩した1例, 第23回 東海産婦人科内視鏡手術研究会学術講演会, 名古屋市, 2023/10/28
- 4 諸井 條太郎, 修練医の立場から考える腹腔鏡手術とロボット手術, 第23回東海産婦人科内視鏡手術研究会学術講演会, 名古屋市, 2023/10/28
- 菅沼 寛明, 術前子宮筋腫の診断でGnRHアンタゴニスト投与にて縮小し、ロボット支援下腹腔鏡下子 5 宮全摘術後に低異形度子宮内膜間質肉腫(Low-grade endometrial storomal sarcoma, LG-ESS)と診断 された一例, 第23回東海産婦人科内視鏡手術研究会学術講演会, 名古屋市, 2023/10/28
- 6 古井 達人, 早期子宮体癌に対してセンチネルリンパ節ナビゲーション手術を施行した6例, 第23回東海 産婦人科内視鏡手術研究会学術講演会, 名古屋市, 2023/10/28
- 7 冨田 斐月香, 帝王切開瘢痕部症候群に対し腹腔鏡下瘢痕部修復術後に妊娠した症例の検討, 第23回東海産婦人科内視鏡手術研究会学術講演会, 名古屋市, 2023/10/28

座長・司会 (医局)

(呼吸器内科・アレルギー内科)

1 安井 裕智, リンパ増殖性疾患・他, 第123回日本呼吸器学会東海地方会, 名古屋市, 2023/6/4

(消化器内科)

- 1 山田 雅弘, 講演1 潰瘍性大腸炎に対する基本治療を見直す, 炎症性腸疾患研究会, WEB, 2023/2/9
- 2 山田 雅弘, ディスカッション 外来で診る軽~中等症の潰瘍性大腸炎の実際, 炎症性腸疾患研究会, WEB, 2023/2/9
- 3 松原 浩, 基調講演 膵癌診療における最新の取り組みと展開, Pancreatic Cancer Web Conference, WEB, 2023/2/17
- 4 | 松原 浩, パネルディスカッション, Pancreatic Cancer Web Conference, WEB, 2023/2/17
- 5 山田 雅弘, 座長, IBD Management Seminar in 東三河~JAK 阻害薬を考える会~, 豊橋市, 2023/3/8
- 6 山田 雅弘, 一般演題・ディスカッション, 東三河IBD医療連携を考える会, WEB, 2023/3/15
- 7 内藤 岳人, 講演1·講演2, HCC Expart Web Seminar, WEB, 2023/3/20
- 8 | 松原 浩, 胆膵疾患・その他, 日本超音波医学会第96回学術集会, さいたま市, 2023/5/29
- 9 | 松原 浩, 特別講演 | 膵癌診療と臨床研究, 第51回MCRフォーラム, 豊橋市(WEB), 2023/5/31
- 10 山田 雅弘, 特別講演座長・パネルディスカッション司会, 三河IBD研究会 ~カログラ錠発売1周年記念講演会~, 安城市(WEB), 2023/7/20
- 11 山田 雅弘, 座長, Ulcerative Colitis Web Seminar in 東三河, 豊橋市(WEB), 2023/9/7
- 12 | 松原 浩, デジタルポスター31 胆管炎(症例:2), 第59回日本胆道学会学術集会, 札幌市, 2023/9/14
- 13 山田 雅弘, ディスカッション UC治療における2nd/3rd Bioを考える, Ulcerative Colitis Web Seminar ~Rethinking on Simponi~, 豊橋市(WEB), 2023/10/18
- 14 内藤 岳人, 総合司会, Mikawa HCC Clinical Conference, 豊橋市(WEB), 2023/10/20
- 15 山田 雅弘, 炎症性疾患関連, 東三河消化器フォーラム, WEB, 2023/11/30
- 16 内藤 岳人, B型・C型肝炎診療の課題と展望, 東三河消化器フォーラム, WEB, 2023/11/30
- 17 | 松原 浩, 名大のERCP関連手技の現状, 東三河消化器フォーラム, WEB, 2023/11/30
- 18 松原 浩. 一般演題 I, 第52回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会, 名古屋市, 2023/12/9
- 19 松原 浩, 膵癌集学的治療のToplcs, MIKAWA Pancreatic Cancer Web Seminar 2023, WEB, 2023/12/13
- 21 山田 雅弘, 司会, IBDの診断と治療を考える会 in 三河2023, 安城市(WEB), 2023/12/14
- 21 松原 浩, 当院における遺伝子パネル検査の取り組みと工夫 ~治療に繋がりやすい癌種の特徴、院内データを踏まえて~, がんゲノムセミナー in 三河, WEB, 2023/12/14

(循環器内科)

- 在藤 文明, 当院におけるサクビトリルバルサルタンの使用経験からの考察, 高血圧 Expert Meeting, 豊橋市(WEB), 2023/4/11
- 2 佐藤 文明, 本当に苦労した重症例 ~侵襲的治療はどこまで行うべきか?~, 東三河病院循環器内科 医の会, 豊橋市(WEB), 2023/5/30
- 3 冨田 崇仁, 高齢・超高齢心房細動のマネジメント ~ANAFIE + ELDERCARE AFから見えてきた もの~, 豊橋内科医会研修会, 豊橋市(WEB), 2023/6/7
- 4 成瀬 賢伸, 当院における心臓血管外科治療,東三河心不全医療連携フォーラム, 豊橋市(WEB), 2023/6/7
- 5 成瀬 賢伸, ランチョンセミナー5 ENVISAGE-TAVI試験を中心としたTAVI後AFの治療ストラテジー, 第49回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会, 名古屋市, 2023/11/11

- 6 成瀬 賢伸, 知っておきたい慢性肺血栓塞栓症とCTRPH 急性肺血栓塞栓症のその後 , 第9回東三河PHカンファレンス, 豊橋市(WEB), 2023/11/17
- 7 佐藤 文明, 当院の大動脈診療, 循環器内科 心臓血管外科 Topics Web, 豊橋市(WEB), 2023/11/30

(脳神経内科)

- 2 岩井 克成, 講演1 抗C5抗体薬により軽微症状を達成した発症時抗AChR抗体と抗MuSK抗体の両陽性であった後期発症重症筋無力症の1例, Mikawa神経免疫MGセミナー, 名古屋市, 2023/1/20
- 2 岩井 克成, ディスカッション ウェアリングオフの至適治療について考える, パーキンソン病治療のこれからを考える会, 名古屋市(WEB), 2023/2/28
- 3 | 岩井 克成, 講演 I、講演 II, ハッピーフェイスセミナー in 三河, WEB, 2023/3/2
- 4 岩井 克成, クリニカルクエッション MS治療時のクリニカルクエッション, Innovative Therapeutic Strategies for MS ~MS Web Seminar 2023~, WEB, 2023/3/22
- 5 岩井 克成, 特別講演 ステロイド治療を行う医師に必要なステロイド性骨粗鬆症管理の基本的知識, GIO Seminar in 東三河, 豊橋市(WEB), 2023/6/23
- 6 | 岩井 克成, 症例検討, 生物学的製剤の安全対策セミナー in 東三河, 豊橋市(WEB), 2023/8/4
- 7 岩井 克成, 講演 II 長期にわたり認知機能を改善し、維持するための認知症診療のコツ, 東三学術講演会, 豊橋市(WEB), 2023/9/20
- 8 岩井 克成, 特別講演2 神経生理の観点からみるMGの診断, 神経生理×神経免疫エキスパートMGセミナー in Aichi, 名古屋市(WEB), 2023/9/21
- 9 岩井 克成, 講演 I 新時代を迎えた片頭痛治療 ~患者の治療満足度を高めるために~, AGORA 2023 Migraine & Epilepsy Part1, WEB, 2023/11/16
- 10 横井 孝政, 講演1 当院におけるNMOSDの治療の現状と課題 〜ユブリズナ実臨床下での有用性も含めて〜, NMOSD WEB SEMINAR IN MIKAWA, 岡崎市(WEB), 2023/12/7
- | 岩井 克成, 講演2 QOL向上を目指したNMOSD治療 ~新ガイドラインとバイオ製剤について~, NMOSD WEB SEMINAR IN MIKAWA, 岡崎市(WEB), 2023/12/7
- 12 岩井 克成, 講演 I、講演 II, 第5回NIN研究会, 名古屋市(WEB), 2023/12/8

(血液・腫瘍内科)

1 伊藤 理恵, 血液3, 第250回日本内科学会東海地方会, 桑名市, 2023/6/25

(一般外科・小児外科)

- 1 中島 悠. 小腸(Ⅱ). 第59回愛知臨床外科学会. 名古屋市. 2023/2/11
- 2 藤井 正宏, ポスター98 心理的社会的支援(患者支援活動・患者会・家族支援), 第31回日本乳癌学会学術総会, 横浜市, 2023/6/29
- 3 | 深谷 | 昌秀, 食道・胃, 第60回愛知臨床外科学会, 名古屋市, 2023/7/17

(移植外科)

- 1 長坂 隆治, 第13回副甲状腺機能亢進症に対するPTx研究会学術集会 大会長, 豊橋市, 2023/9/15
- 長坂 隆治, イブニングセミナー もしかして僕らってCKD-MBDをすげー勘違いしてたんじゃね?, 第 13回副甲状腺機能亢進症に対するPTx研究会学術集会, 豊橋市, 2023/9/15
- 3 長坂 隆治, ケーススタディ・ワークショップ, 第13回副甲状腺機能亢進症に対するPTx研究会学術集会, 豊橋市, 2023/9/16
- 4 長坂 隆治, 統計報告, 第13回副甲状腺機能亢進症に対するPTx研究会学術集会, 豊橋市, 2023/9/16

(整形外科)

1 福岡 大史, 工業用品中毒, 第45回日本中毒学会総会・学術集会, さいたま市, 2023/7/14

(リウマチ科)

- 1 | 平野 | 裕司, 治療目的・目標からみた骨粗鬆症の治療戦略, 東海骨粗鬆症Webセミナー, WEB, 2023/1/11
- 2 | 平野 裕司, JAK阻害薬の関節エコー所見改善効果について, RA診療を考える会 in 愛知, WEB, 2023/1/14
- 3 平野 裕司, IL-6阻害薬の関節エコー所見改善効果について, 第3回RA SUPREME研究会, 浜松市 (WEB), 2023/1/21
- 4 平野 裕司, 末梢性・体軸性SpAの診断と治療Up Date, 三河脊椎関節炎フォーラム2023, 豊橋市(WEB), 2023/1/28
- 平野 裕司, MTXの使い方をご存じですか? ~フェーズ1を再考するとともに皮下注射剤メトジェク トの意義を知る~,メトトレキサート皮下注 新発売記念 インターネットライブセミナー in 中日本, WEB, 2023/2/15
- 6 平野 裕司, 25年間における名古屋での関節リウマチの治療の軌跡を振り返って ~フィルゴチニブの 位置づけについて~, リウマチ診療セミナー in 名古屋, 名古屋市(WEB), 2023/3/8
- 7 平野 裕司, 女性関節リウマチ診療におけるライフイベントを考慮した治療戦略, 関節リウマチ Expert seminar, WEB, 2023/3/10
- 8 平野 裕司, 関節リウマチの薬物治療と手術治療の実際 ~当院のサリルマブ使用効果と手外科手術を中心に~, 第63回東三河リウマチ研究会, 豊橋市(WEB), 2023/3/11
- 9 平野 裕司, プレシニア世代から考えておくべきra治療戦略, RA Biologics Expert Seminar in Tokai ~プレシニア世代の診療課題を考える~, 名古屋市(WEB), 2023/3/22
- 10 | 平野 裕司, ディスカッション, Psoriasis Seminar In Toyohashi, WEB, 2023/4/11
- 平野 裕司, 血友病性関節症診療の現状と課題 ~リハビリテーションを含む~, Tsurumai Orthopedics & Hemophilia Conference, 名古屋市(WEB), 2023/4/15
- 12 平野 裕司, ワークショップ55 JAK阻害薬-4, 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡市, 2023/4/25
- | 平野 | 裕司, トシリズマブによる関節リウマチの治療戦略, 第96回日本整形外科学会学術総会, 横浜市, 2023/5/11
- 平野 裕司, 関節リウマチにおけるシニアの診療課題を考える, RA Expert Seminar, 浜松市(WEB), 2023/7/8
- | 平野 | 裕司, メドジェクト皮下注の今後の展望, メドジェクト皮下注インターネットライブセミナー in 三河, WEB, 2023/7/27
- 16 平野 裕司, 骨粗鬆症治療の基本と課題, 東海骨粗鬆症Webセミナー, WEB, 2023/8/1
- 17 平野 裕司, ディスカッション, RA Clinical Web seminar, 豊橋市, 2023/8/26
- 18 平野 裕司, TNF阻害薬を深く考えてみる, HUMIRA Internet Live Seminar, WEB, 2023/9/22
- 19 平野 裕司, certolizumab pegol その特性と位置付け, Tokai RA expert seminar ~RA診療の変遷と 未来~, 名古屋市(WEB), 2023/9/23
- 20 平野 裕司, RA治療の基本となるDMARDs療法, 第10回愛知DMARDs研究会, 名古屋市, 2023/10/14
- 平野 裕司, 患者の長期的QOLを最大限にすることを考慮したBaricitinibの役割, Arthritis Total Management Webinar, WEB, 2023/10/26
- 22 平野 裕司, JAK阻害薬の関節エコー所見改善効果について, 関節リウマチ診療セミナー in 京都・愛知, WEB, 2023/11/10
- 23 | 平野 裕司, ロコモティブシンドロームとRA, RA regional exchange WEB seminar, WEB, 2023/12/14
- 24 平野 裕司, 関節リウマチにおける患者の治療満足度, 関節リウマチ Expert seminar, WEB, 2023/12/16

(脊椎外科)

1 井上 太郎, 腰椎1, 第58回日本脊髄障害医学会, さいたま市, 2023/11/17

(脳神経外科)

者林 健一, 講演Ⅱ てんかん治療の最新の話題, AGORA 2023 Migraine & Epilepsy Part1, WEB, 2023/11/16

(小児科)

- 杉浦 崇浩, NCPRからのメッセージ ~それぞれのアナザーストーリーズ~, 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会, 名古屋市, 2023/7/10
- 2 杉浦 崇浩, 新生児蘇生法の未来の可能性 みらいのカタチ-, 第67回日本新生児成育医学会・学術 集会, 横浜市, 2023/11/3

(産婦人科・女性内視鏡外科)

- 河合 要介, 実診療における卵巣癌治療でのニラパリブの位置づけ, Ovarian Cancer Web seminar in 三河, WEB, 2023/2/28
- 2 岡田 真由美, 子宮頸がん検診とHPVワクチンに関する最近の話題, 愛知県産婦人科医会第2回学術研修会(三河地区), 豊橋市, 2023/4/18
- 3 梅村 康太, 一般講演・特別講演 子宮内膜症に対して行う治療の実際, 第10回三河地区産婦人科フォーラム, WEB, 2023/5/27
- 4 岡田 真由美, 一般演題(ポスター)合併症妊娠 その他(5), 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会, 名古屋市, 2023/7/11
- 5 権村 康太, ポスター・ロボット手術・MIS. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 松江市, 2023/7/14
- 6 梅村 康太, 座長, 子宮頸癌セミナー ~免疫療法と外科治療 from 豊橋~, WEB, 2023/7/25
- 7 | 梅村 康太, 一般口演26 ロボット3, 第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 大津市, 2023/9/15
- 8 岡田 真由美, 本音のがんゲノム医療 当院での現状とトピックス , Clinical Gynecologic Cancer Seminar in MIKAWA, 安城市(WEB), 2023/9/21
- 9 梅村 康太, 特別講演 婦人科内視鏡手術 the long and winding road, 第23回東海産婦人科内視鏡手術研究会学術講演会, 名古屋市, 2023/10/28

(産婦人科(生殖医療))

1 安藤 寿夫, 特別講演1, 第26回日本IVF学会学術集会, 大阪市, 2023/11/3

講 演(医局)

(総合診療科)

- 1 福垣 大輔, 福祉職・医療職のためのACP入門パート2 このまちにACPを根づかせよう, 豊橋市医師会・在宅医療研修会, 豊橋市, 2023/8/5
- 2 稲垣 大輔,緩和ケアについて,豊橋市民病院がん患者サロン「ひまわり」,豊橋市(WEB),2023/9/21
- 3 福垣 大輔, 共同意思決定とACP① 共同意思決定とACP②, 豊橋市民病院がん患者サロン「ひまわり」, 豊橋市(WEB), 2023/9/21
- 4 稲垣 大輔. 緩和ケアと人生会議(ACP)のこれから. 豊橋・生と死を考える会. 豊橋市. 2023/10/14
- 5 | 稲垣 大輔, 日本の超高齢社会と地域包括ケア, 東三河救急科講習, 豊橋市, 2023/10/17
- 6 稲垣 大輔, 人生会議 アドバンス・ケア・プランニング(ACP), エンディングサポート講座, 豊橋市, 2023/11/19
- 7 福垣 大輔, ACPの基本と市民病院での取り組み, 地域包括支援センター職員資質向上研修, WEB, 2023/12/11

(消化器内科)

- 1 内藤 岳人, BCLC-Bに対する治療戦略, HCC Seminar in Mikawa, WEB, 2023/2/9
- 2 | 服部 峻, 外来で診る軽~中等症の潰瘍性大腸炎の実際, 炎症性腸疾患研究会, WEB, 2023/2/9
- 3 内藤 岳人, 免疫複合療法を施行した肝細胞癌を振り返りLEN-TACE療法の適応を考える, LEN-TACE Academy in 三河, WEB, 2023/2/13
- 服部 峻, Treat to Targetに沿ったIBD診療, IBD Management Seminar in 東三河 ~JAK 阻害薬を考える会~. 豊橋市, 2023/3/8
- 5 服部 峻, IBDにおける地域医療連携を円滑に進めるために, 東三河IBD医療連携を考える会, WEB, 2023/3/15
- 6 | 松原 浩, 膵がんについて, 豊橋市民病院健康教室, 豊橋市, 2023/3/18
- 7 | 服部 峻, 初発のクローン病診察 ~Step-upかTop-downか~, 第2回炎症性腸疾患の診療アプローチ, WEB, 2023/3/23
- 8 服部 峻, 症例Discussion,Golimumab Real World Experience in Tokai, WEB, 2023/5/20
- 9 服部 峻, パネルディスカッション, 三河IBD研究会 ~カログラ錠発売1周年記念講演会~, 安城市 (WEB), 2023/7/20
- 10 服部 峻, 潰瘍性大腸炎の診断と治療, 豊橋内科医会研修会, 豊橋市(WEB), 2023/8/24
- 11 山田 雅弘, 潰瘍性大腸炎の地域連携パスに向けて, 豊橋内科医会研修会, 豊橋市(WEB), 2023/8/24
- 12 服部 峻, 当院のUC治療について~ゴリムマブ有用性を再考する~, Ulcerative Colitis Web Seminar in 東三河, 豊橋市(WEB), 2023/9/7
- 13 内藤 岳人, 当院における肝性脳症の診断・治療 ~改訂ガイドラインを踏まえた治療戦略~, 第2回愛知県肝性脳症研究会, 名古屋市(WEB), 2023/9/8
- | 鈴木 博貴, EUS-HGS後のre-interventionを考える ~HGSは留置だけがすべてじゃない~, 第59回日本胆道学会学術集会, 札幌市, 2023/9/14
- | 服部 | 峻, 炎症性腸疾患の治療 ~治療の実態と考え方~, 東三河IBD地域連携講演会, 豊橋市, 2023/11/18

(循環器内科)

1 佐藤 文明, 基調講演 心不全と貧血 ~HIF-PH阻害剤への期待~, 循環器疾患から考える腎性貧血 in 東三河, 豊橋市(WEB), 2023/1/31

(腎臓内科)

- 1 渡邊 智治, HIF-PH阻害薬の登場を踏まえた今後の腎性貧血の診断と治療, 東三学術講演会, 豊橋市, 2023/1/18
- 2 渡邊 智治, 長期的臓器障害抑制を見据えたループス腎炎の治療戦略, 東三学膠原病セミナー, 豊橋市, 2023/3/9
- 3 渡邊 智治, CKD診療におけるカリウム管理, 東三学術講演会, 豊橋市, 2023/4/5
- 4 渡邊 智治, 腎性貧血の診断と治療の実際, 第4回東三河腎性貧血治療の未来を考える会, 豊橋市, 2023/5/9
- 5 渡邊 智治, 豊橋市・豊橋市民病院における糖尿病・透析予防の現状, 東三学術講演会, 豊橋市, 2023/5/17
- 6 | 渡邊 智治, 新しい高血圧治療戦略を考える, ARNI Renal Web Seminar, 豊橋市, 2023/9/7
- 7 渡邊 智治, 病診連携におけるCKD管理の重要性と透析治療の現状, 腎と地域連携を考える会, 豊橋市, 2023/9/21
- 8 複邊 智治, 豊橋市でのCKD診療と腎性貧血治療について, CKDセミナー2023 In 安城, 安城市, 2023/11/8
- 9 渡邊 智治, 腎臓内科医が考える高尿酸血症について, 東三河高尿酸血症治療カンファレンス, 豊橋市, 2023/12/18

(脳神経内科)

- 1 岩井 克成. これからのgMG治療について考える. Mikawa神経免役MGセミナー. 名古屋市. 2023/1/20
- 2 横井 孝政, 当院でのサフィナミドの使用状況からみた考察, Parkinson's Disease Web Seminar in 三河 (第三報), WEB, 2023/6/13
- 3 岩井 克成, 総合討論 医療圏で考えるこれからのgMG診療, 座談会企画 医療圏で考えるこれからのgMG診療 in Aichi, WEB, 2023/12/1

(移植外科)

- 1 長坂 隆治, ウイルス感染症を考える Part 2 2, 2023年移植セミナー, 豊橋市, 2023/4/16
- 2 長坂 隆治,移植医療の現況について,2023年移植セミナー,豊橋市,2023/4/16

(整形外科)

1 藤田 護, 骨軟骨欠損を伴った大腿骨開放骨折に対して骨移植術と自家培養軟骨移植術を行った1例, 第 25回救急整形外傷シンポジウム(EOTS), 那覇市, 2023/3/17

(リウマチ科)

- 平野 裕司, 実臨床における関節リウマチの寛解について, RA Expert Seminar ~基礎研究とエビデンスを実臨床にどう活かすか~, WEB, 2023/2/10
- 2 平野 裕司, 抗TNF療法の過去と未来 新規抗TNF製剤オゾラリズマブ登場! -, Taisho RAフォーラム in 三河, 安城市, 2023/2/11
- 3 平野 裕司, 実臨床観察研究からみる関節リウマチの骨粗鬆症診療 Toyohashi RA Database (TRAD)から-, BONE RESEARCH FORUM in OSAKA, 大阪市, 2023/2/24
- 4 平野 裕司, 関節リウマチのIL-6阻害療法の新展開 サリルマブはトシリズマブに追いつけたか? , SAR IL-6 RA Classic, 北九州市, 2023/3/3
- 9 平野 裕司, Difficult to treat RAにおけるウパダシチニブのモノセラピーの可能性,高齢化時代における RA診療を考える会, 名古屋市(WEB), 2023/3/4
- 6 平野 裕司, 内科医、整形外科医、皆で共有したい骨粗鬆症診療の最新情報, 東三河膠原病セミナー 2023, WEB, 2023/3/9

- 7 平野 裕司, 関節リウマチ薬物治療における抗TNF製剤の過去と未来 ナノボディのオゾラリズマブへの期待 , Rheumatoid Arthritis Web Seminar, WEB, 2023/3/15
- 8 平野 裕司, 実臨床観察研究からみる関節リウマチ診療 Toyohashi RA Database(TRAD)紹介 , RINVOQ Digital Platform From MIYAZAKI, WEB, 2023/3/24
- 9 平野 裕司, 骨太の骨粗鬆症診療を目指して -よりよい初期薬物療法と逐次薬物療法とは?-, 骨太 meeting 2023, WEB, 2023/3/29
- 10 平野 裕司, 何もわからずにメトトレキサートと抗TNF製剤を使っていたあの頃 積み重なった知見と新たな展開-,メトトレキサート皮下注インターネットライブセミナー in 東海, WEB, 2023/4/12
- 平野 裕司, リウマチ医に必要な骨粗鬆症診療の基本, JCR2023 アニュアルコースレクチャー, 福岡市, 2023/4/23
- 12 平野 裕司. 関節リウマチ診断セミナー2023, BONE, WEB, 2023/5/15
- 平野 裕司, 新規抗TNF製剤でナノボディのオゾラリズマブを知ろう!, リウマチWEBセミナー, WEB, 2023/6/27
- 平野 裕司, 実臨床観察研究から考える関節リウマチ診療 Difficult to treat RA、EULAR2023報告、JAK阻害剤-, リンヴォックRAインターネットライブセミナー, WEB, 2023/7/20
- 平野 裕司, 整形外科リウマチ医から見た乾癬性関節炎診療2023, 東三河PsA WEB Seminar, WEB, 2023/7/21
- 16 平野 裕司, 実臨床観察研究からみる関節リウマチ診療 Toyohashi TA Database(TRAD)紹介、EULAR2023、サリルマブ成績など-, Rheumatology Update Seminar, WEB, 2023/7/28
- 平野 裕司,合併症を考慮した関節リウマチの薬物治療,RA-ILD Expert web Seminar 〜関節リウマチに伴う呼吸器疾患を中心に〜,WEB,2023/8/2
- 18 平野 裕司, リウマチ医に必要な骨粗鬆症診療の基本, JCR2023全国中央教育研修会 東京大会, 東京都 (WEB), 2023/8/20
- 19 平野 裕司, 実臨床観察研究から考える関節リウマチ診療 EULAR2023レポートに触れて-, 関節リウマチ診療セミナー in 京都・愛知, WEB, 2023/8/23
- 平野 裕司,整形外科リウマチ医による関節リウマチの実臨床観察研究 当科におけるトシリズマブ 20 長期成績と若手整形外科リウマチ医の教育に触れて , 第52回日本リウマチの外科学会, 新潟市, 2023/9/2
- 21 平野 裕司, 血友病性関節症の関節病変と骨粗鬆症, 愛知県血友病診療連携を考える会, WEB, 2023/9/8
- 22 平野 裕司, 安定・安全・安価な関節リウマチの薬物治療を目指して2023, 第66回九州リウマチ学会, 北 九州市(WEB), 2023/9/16
- 23 平野 裕司, 関節リウマチの骨粗鬆症管理マニュアル, 関節リウマチと骨粗鬆症セミナー, WEB, 2023/9/28
- 平野 裕司, 新しい標準的骨粗鬆症診療 New Normal of Osteoporosis Treatment , 第7回三河OLS 研究会, 安城市, 2023/10/28
- 25 平野 裕司, 実臨床観察研究から考える関節リウマチ診療 TNF阻害剤の意義を再考しましょう! -, 関節リウマチセミナー, 一宮市(WEB), 2023/11/15
- 26 平野 裕司, ランチョンセミナー9 今後の日本に必要な関節リウマチ薬物治療とは? Best Use of Tocilizumab in Japan of the future , 第38回日本臨床リウマチ学会, 北九州市, 2023/11/19
- 27 平野 裕司, リウマチ医による骨粗鬆症診療エッセンシャル, 令和5年東海・北陸地区リウマチの治療とケア教育研修会, 名古屋市(WEB), 2023/11/26
- 28 平野 裕司, 整形外科医が行う関節リウマチ診療マニュアル -IL-6阻害剤サリルマブの適正使用を含めて-,ケブザラWeb講演会, WEB, 2023/11/27
- 29 平野 裕司, 関節リウマチにおける抗TNF療法の過去と未来 -ナノボディのオゾラリズマブへの期待-, 愛知県病院薬剤師会東三河支部学術講演会, WEB, 2023/11/28
- 30 平野 裕司, リウマチ医に必要な骨粗鬆症診療の基本, JCR2023 全国中央教育研修会大阪大会, 大阪市 (WEB), 2023/12/3
- 31 平野 裕司, 整形外科リウマチ医による関節リウマチの実臨床観察研究 オゾラリズマブの経験と若手誠意系外科リウマチ医の教育に触れて , リウマチイーグルセミナー, WEB, 2023/12/7
- 32 平野 裕司, 関節リウマチのIL-6阻害療法の新展開 サリルマブのメリットを考える-, 静岡IL-6研究会, 静岡市, 2023/12/9
- | 平野 | 裕司, 安全性から考える関節リウマチ薬物治療における生物学的製剤・JAK阻害剤の選択方法, RA regional exchange WEB seminar, WEB, 2023/12/14

平野 裕司, グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症に対する初期対応と逐次療法戦略 - ゾレドロン酸 の役割を考える - , Asahi Bone Metabolism Academy ~続発性骨粗鬆症による骨折を防ぐ~, WEB, 2023/12/21

(小児科)

- 1 杉浦 崇浩, NCPR どうする どうなる JRC 蘇生ガイドライン 2025, 第26回日本臨床救急医学会 総会・学術集会, 東京都, 2023/7/28
- 2 井上 武、食物アレルギーの理解と学校における対応、食物アレルギー実技研修会、豊橋市、2023/8/1
- 3 井上 武 食物アレルギーの理解と学校における対応 食物アレルギー実技研修会 豊川市 2023/8/3
- 4 井上 武, 食物アレルギーの理解と学校における対応, 食物アレルギー実技研修会, 豊橋市, 2023/8/18
- 5 杉浦 崇浩, Late preterm児への人工呼吸における声門上気道デバイス, 日本新生児成育医学会第26回教育セミナー, 沼津市, 2023/8/20
- 6 | 井上 武, 食物アレルギーの理解と学校における対応, 食物アレルギー実技研修会, 豊川市, 2023/8/22
- 7 田中 達之, 思春期遅発症, 名古屋市立大学小児科臨床集団会, 名古屋市, 2023/9/16
- 8 村松 幹司, こどもの病気, 豊橋市保育協会講演会, WEB, 2023/11/11
- 9 村松 幹司, 病院小児科医から見た内服薬, 豊橋市民病院薬薬連携研修会, WEB, 2023/11/16
- 戸川 泰子, 病院から地域へつなぐバトン 〜病院から見える医療的ケア児者の現状〜医療的ケア児 10 の就園・就学における問題点, 令和5年度豊川市地域自立支援協議会医療的ケア部会講演会, 豊橋市, 2023/11/22

(産婦人科・女性内視鏡外科)

- 1 嶋谷 拓真, 卵巣癌に対する化学療法とニラパリブの位置づけ, Ovarian Cancer Web seminar in 三河, WEB, 2023/2/28
- 2 河合 要介, 当院におけるレンバチニブ+ペムブロリズマブ併用療法の治療戦略 自験例からの考察 , Endometrial Cancer Semina, WEB, 2023/3/27
- 3 諸井 條太郎, 月経困難症や子宮内膜症症例から考える一般婦人科医のベストプラクティス, 第10回三 河地区産婦人科フォーラム, WEB, 2023/5/27
- 梅村 康太, 子宮頸癌に対する低侵襲手術 ~センチネルリンパ節生検と腹腔鏡下手術~, 子宮頸癌セミナー ~免疫療法と外科治療 from 豊橋~, WEB, 2023/7/25
- 5 諸井 條太郎, 当院における子宮頸癌に対するICI併用治療経験, 子宮頸癌セミナー 〜免疫療法と外科 治療 from 豊橋〜, WEB, 2023/7/25
- 6 諸井 條太郎, 仮想卵巣癌症例を用いた症例検討, Clinical Gynecologic Cancer Seminar in MIKAWA, 安城市(WEB), 2023/9/21
- 7 岡田 真由美, 豊橋市民病院におけるCGP検査の実際, がんゲノムセミナー in 三河, 豊橋市(WEB), 2023/12/14
- 8 諸井 條太郎, 卵巣癌再発維持療法の実際, Ovarian Cancer Seminar in MIKAWA, 名古屋市(WEB), 2023/12/21

(こころのケア科)

- 1 古水 克明, 認知症患者が眠れない・落ち着かない時の対応と薬物療法について, 令和5年度第1回認知症研修会, 豊橋市, 2023/6/29
- 2 古水 克明,メンタルヘルスに関する講話. Health up Seminar 健康講座, 豊橋市, 2023/9/14

(病理診断科)

1 新井 義文, 当院病理検査室における肺癌遺伝子検査の取り組み, 肺癌マルチプレックス検査の広がりを考える会, WEB, 2023/9/13

論文・著書(医局)

(呼吸器内科・アレルギー内科)

- Ryuya Edahiro, Tomoya Baba, Yasutaka Fukui, Mitsuru Odate, Shuko Mashimo, Yasushi Makino, Single-cell analyses and host genetics highlight the role of innate immune cell in COVID-19 severity, Nature Genetics, 2023;555(5): 753-767.
- 2 Hideki Terai, Yasushi Makino, Shuko Mashimo, Tatsuya Kaido, Comprehensive analysis of long COVID in a Japanese nationwide prospective cohort study, Respir Investig, 2023; 561 (6): 802-814.
- Mayuko Watase, Shuko Mashimo, Yasushi Makino, Tatsuya Kaido, Cough and sputum in long COVID are associated with severe acute COVID-19: a Japanese cohort study, Respir Res, 2023;524 (1): 283.

(消化器内科)

- Hiroshi Matsubara, Usefulness of contrast-enhanced ultrasonography for biliary tract disease, journal of Medical Ultrasonics, 2023; doi:10.1007/s10396-023-01338-3.
- Kunio Asonuma, Masahiro Yamada, Immunomodulators after the discontinuation of anti-tumor necrosis factor-alpha antibody treatment and relapse in ulcerative colitis: A multicenter cohort study, Journal of Gastroenterology and Hepatology, 2023; 39(1):66-73.
- 3 加納 佑一, IgG4関連リンパ節症の合併が疑われた好酸球性胆管炎の1例, 胆道, 2023; 37(4): 796-802.

(腎臓内科)

Keita Hattori, IgA nephropathy diagnosed as a result of acute exacerbation due to G-CSF administration, CEN Case Reports, 2023; 12(3):270-274.

(糖尿病・内分泌内科)

1 山守 育雄, 発症後20年以上を経過して基礎インスリンを離脱し得た急性発症1型糖尿病の1例, 糖尿病, 2023;66(9):686-690.

(脳神経内科)

- Yasunobu Nosaki, A Case Report of Neuro-Sweet Disease Spectrum Disorder Presenting as Encephalomeningitis without Cerebrospinal Fluid Pleocytosis, Internal Medicine, 2023;62(21):3261-3262.
- 2 Yasunobu Nosaki, Malignant Lymphoma Mimicking Atopic Myelitis: A Diagnostic Challenge, Internal Medicine, 2023; 62(5):807.

(血液・腫瘍内科)

1 <u>井本 直人</u>, Busulfanを含む造血幹細胞移植前処置中に生じた重度精神障害, 臨床血液, 2023; 64(11): 1415-1420.

(一般外科・小児外科)

- 1 届田 <u></u> 亘佑, 「イレウス」という用語の問題点 ICD10コードを用いた検討,日本腹部救急医学会雑誌, 2023; 43(1): 29-33.
- 2 石川 凛太郎, 頸胸部食道癌、下咽頭癌の重複癌に対して胸腔鏡下下咽頭喉頭食道全摘を行った1例, 東三医学会誌, 2023;(43):34-36.
- 3 <u>折原 薫也</u>, 腫瘍穿破による消化管出血で発症した退形成性膵管癌の1例, 日本消化器外科学会雑誌, 2023;56(6): 329-338.

(呼吸器外科)

- 1 <u>橋本 久実子</u>, まい・てくにっく 単孔式肺切除手術における創の位置と器具操作のコツ, 胸部外科, 2023:76(5):357.
- 2 <u>野亦 悠史</u>, 肺転移巣生検で診断し得た血清prostate-specific antigen正常前立腺癌の1例, 肺癌, 2023;63 (4):308-313.

(移植外科)

1 <u>長坂 隆治</u>, 当院での副甲状腺手術症例に対する診断・治療の変遷について, 東三医学会誌, 2023;(43): 47-50.

(整形外科)

- 1 <u>伊藤 大貴</u>, 壊死性筋膜炎における救急外来からのコンサルト先に関する予測因子の検討, 中部日本整 形外科災害外科学会雑誌, 2023;66(1):73-74.
- 3 三矢 未来, 膝蓋骨粉砕骨折に対する十字型のtension band wiringとcerclage wiringを組み合わせた鉄十字(Eisernes Kreuz)法, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌, 2023;66(3):411-412.
- 4 三矢 未来, 肩甲骨骨折に対する各種ロッキングプレートを使用した内固定法, 整形・災害外科, 2023; 66 (8): 965-971.
- Shinsuke Takeda, A nerve-to-implant distance as a novel predictor for lateral femoral cutaneous nerve injuries after anterior subcutaneous pelvic internal fixation, Nagoya Journal of Medical Science, 2023:85(3):569-578.
- 6 Hiroki Ito, A rare case of the axillary necrotizing fasciitis, Nagoya Journal of Medical Science, 2023;85 (3):619-625.

(リウマチ科)

Yoshiya Tanaka, Yuji Hirano, Management of chronic rheumatic diseases in women 18-45 years of age in Asia Pacific: insights from patient and clinician surveys, Rheumatol Int, 2023;43(4):721-733.

(脊椎外科)

- 1 <u>井上 太郎</u>, 特発性脊髄硬膜外血腫の治療経験 保存加療と手術加療の比較検討, Journal of Spine Research, 2023; 14(4):710-715.
- 2 <u>井上 太郎</u>, 骨傷を伴う高齢頸髄損傷患者の入院中転帰, Journal of Spine Research, 2023;14(4):727-732.

(小児科)

- 1 <u>杉浦 崇浩</u>, 新生児蘇生でPEEPをかけて人工呼吸を行う場合 流量膨張式バッグを使う, 周産期医学, 2023:53(1):6-7.
- 2 <u>杉浦 崇浩</u>, 新生児蘇生法(NCPR) との出会い, with NEO ビジュアルでつかむ赤ちゃんの呼吸 呼吸の評価、呼吸器疾患から換気モードまで, 2023; 36(1): 162.
- 3 <u>若野 泰宏</u>, 注意すべき赤ちゃんの呼吸器疾患 胎便吸引症候群 (MAS), with NEO ビジュアルでつかむ赤ちゃんの呼吸 呼吸の評価、呼吸器疾患から換気モードまで, 2023; 36(1): 49-55.
- 4 | 神谷 猛, 杉浦 崇浩, 村松 幹司, 小山 典久, 超低出生体重児のDubowitz神経学的評価と修正1歳6か 月時の新版K式発達検査の関係, 小児理学療法学, 2023; 1(1): 28-35.
- 5 | 杉浦 崇浩, NCPR関係 手技に出てくる数字, 周産期医学, 2023:53(9):1271-1275.
- Hana Milena Fujimoto, Novel SPEG variants in a neonate with severe dilated cardiomyopathy and relatively mild hypotonia, Human Genome Variation, 2023; doi:10.1038/s41439-023-00253-w.

- <u>Katherine M Berg</u>, Takahiro Sugiura, 2023 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations:
- 7 Summary from the Basic Life Support; Advanced Life Support; Pediatric Life Support; Neonatal Life Support; Education, Implementation, and Teams; and First Aid Task Forces, Circulation, 2023;148(24): 187-280.
- 8 <u>稲瀬 広樹</u>, 同胞の遺伝子診断に基づき胎児期よりビタミンB6の投与を行ったピリドキシン依存性てんかんの1例, 日本周産期・新生児医学会雑誌, 2023; 59(2): 261-265.

(産婦人科・女性内視鏡外科)

- 1 尾瀬 武志, 当院で経験した妊娠関連乳癌7症例の妊娠分娩管理、治療および予後,東海産科婦人科学会 雑誌, 2023; 59:131-135.
- 2 <u>窪川 芽衣</u>, 腎移植後の子宮腫瘍に対して腹腔鏡下子宮全摘術を行った2例, 東海産科婦人科学会雑誌, 2023:59:389-393.

(産婦人科(生殖医療))

1 安藤 寿夫, 生殖医療の必須知識2023, ページ非公開.

(耳鼻いんこう科)

- 1 <u>朝岡 龍博</u>, 耳後部腫脹を契機に診断できたランゲルハンス細胞組織球症例, 耳鼻咽喉科臨床, 2023;116 (2): 153-159.
- 2 山口 慎人, 【みみを診る 鑑別診断のポイントと治療戦略 】 急性の平衡障害, ENTONI, 2023;(284): 64-70.

(こころのケア科)

1 <u>明智 龍男</u>, 古水 克明, 精神科医になる人の気が知れないね,「こころ」や「精神」を医学する「精神 医学」とは何か?, 2023;10-13.

(歯科口腔外科)

- 1 Junya Adachi, Novel WNT10A variant in a Japanese case of nonsyndromic oligodontia, Human Genome Variation, 2023; doi: 10.1038/s41439-023-00230-3.
- 2 | 松岡 路子, 上顎歯肉に発生したdesmoplastic melanomaの1例, 日本口腔外科学会雑誌, 2023; 69(3): 164-170.
- 4 早川 佐里, 両側顎下部の疼痛を主訴とした巨細胞性動脈炎の1例, 愛知学院大学歯学会誌, 2023; 61(2): 42-46.

(救急科)

- 1 <u>| 斗野 敦土, Shared Decision Makingを</u>行い集中治療を施行した1例, 東三医学会誌, 2023;(43): 39-40.
- 2 <u>斗野 敦士</u>, PICC挿入後の静脈炎が原因と思われる筋炎に対し減張切開を行った1例, 学会誌JSPEN, 2023:5(44989):125-129.

学会発表(診療技術局・薬局・看護局・事務局)

(放射線技術室)

- 1 市川 肇, 最新型SPECT/CT装置における骨SPECT画像の最適化および調和化に関する検討, 第79回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜市, 2023/4/16
- 2 市川 肇, 新しい収集軌道(cardiac-centered circular: CCC orbit)を用いた心筋血流SPECTにおける再構成方法の最適化, 第33回日本心臓核医学会総会, 長崎市, 2023/6/24
- Hajime Ichikawa, Image quality evaluation of a new acquisition orbit (cardiac-centered circular orbit) in myocardial perfusion SPECT, Society of Nuclear Medicine & Molecular Imaging Annual Meeting 2023, Chicago, 2023/6/24
- Toyohiro Kato, Can whole-body dynamic 18F-FDG PET be used to objectively discriminate pathological from physiological uptake in the colorectal region?, Society of Nuclear Medicine & Molecular Imaging Annual Meeting 2023, Chicago, 2023/6/24
- 5 平岩 誠也, 大動脈解離に対する320列CTの160列へリカルスキャンの有用性, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/8/31
- Hajime Ichikawa, Usefulness of simplified respiratory motion freeze devise (IKI-TOMEHIRO -KUN) in myocardial perfusion SPECT, 36th Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine, Vienna, 2023/9/9
- 7 加藤 大貴, 体重不明患者の造影CT検査のための体重推定における重回帰分析と機械学習による予測 モデルの比較, 第51回日本放射線技術学会秋季学術大会, 名古屋市, 2023/10/27
- 8 市川 肇, 18F-FDG PET/CT における簡便な呼吸性移動抑制デバイスの有用性, 第51回日本放射線技術学会秋季学術大会, 名古屋市, 2023/10/29
- 9 市川 肇(共同), 小児腎ファントムを用いた99mTc-DMSA シンチグラフィの最適撮像時間の検討, 第43回日本核医学技術学会総会学術大会, 大阪市, 2023/11/16
- 10 加藤 豊大, 腫瘍バックグラウンド比が骨SPECT自動解析ソフトウエアの自動解析結果と視覚評価の検 出能の一致率に与える影響, 第43回日本核医学技術学会総会学術大会, 大阪市, 2023/11/16
- Hajime Ichikawa(共同), Evaluation of Short Acquisition Image with Automatic Quantification Package using Multi-CZT Scanner,11th Asian Society of Nuclear Medicine Technology, Osaka, 2023/11/18
- 12 加藤 豊大, 骨SPECT自動解析ソフトウェアにおける検出能スコアの自動評価パラメータの検証, 第15 回中部放射線医療技術学術大会, 福井市, 2023/11/25
- 13 谷口 裕輝, 脳定位放射線治療における原体照射とガントリー・リング2軸同時回転IMRTにおける線量 特性の比較, 第15回中部放射線医療技術学術大会, 福井市, 2023/11/25
- 日本 「伊藤 惠望, 乳幼児の膀胱造影におけるグリッドの有無による線量と検出能の評価, 第15回中部放射線 医療技術学術大会, 福井市, 2023/11/25

(中央臨床検査室)

1 武井 佑未, 血液培養からAggregatibacter actinomycetemcomitansを分離した一症例, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/9/30

(リハビリテーション技術室)

- 和 本嶋 直人,末梢性顔面神経麻痺に対するSunnybrook法評価について,第46回日本顔面神経学会,豊中市,2023/6/2
- 2 森嶋 直人,後遺症を呈する末梢性顔面神経麻痺における発症後6か月時点での障害類型化の試み,第46 回日本顔面神経学会,豊中市,2023/6/2
- 3 真田 将太, 当院におけるElectroneurographyの健側CMAP基準値の探索的研究, 第46回日本顔面神経 学会, 豊中市, 2023/6/2
- 森嶋 直人, COVID-19に対するリハビリテーション ADLに影響する因子について , 第61回全国 自治体病院学会, 札幌市, 2023/8/31
- 5 | 鈴木 一輝, 当院心臓リハビリテーション患者の外来移行に影響する因子の検討, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/8/31

- 6 内藤 善規, Characteristics of patients whofailed starting mobilization during hospitalization in the acute phase of intracerebral hemorrhage, 第21回日本神経理学療法学会学術大会, 横浜市, 2023/9/9
- 7 | 土屋 葵, 病棟専従を配備することの効果検証, 第39回東海北陸理学療法学術大会, 小松市, 2023/9/30
- 神谷 猛, 急性期総合病院のリハビリテーション職種が学会発表に関して感じる困難さと希望する支 8 援について, 日本理学療法管理学会・日本精神・心理領域理学療法研究会合同学術大会2023, 川越市, 2023/11/11
- 9 神谷 昌孝, 前立腺がん術後の尿失禁に対する複合バイオフィードバック療法の導入効果, 第9回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会 学術大会, 岡山市, 2023/11/25
- 10 森嶋 直人,後遺症を呈する末梢性顔面神経麻痺における終了時積分筋電図の特徴,第53回日本臨床神経生理学術大会,福岡市,2023/12/1
- 11 中西 哲也, 当院における集中治療室専従理学療法士の配置が与えた影響, 第51回日本集中治療医学会 学術集会, 札幌市, 2024/3/14

(臨床工学室)

| 廣瀬 楓介, タスクシフトの一環として 移植腎摘出術のために提供病院へ同行した症例, 第61回全国自 |治体病院学会, 札幌市, 2023/8/31

(栄養管理室)

1 中根 もえみ, 心不全患者に対する多職種連携の取り組みが、栄養指導件数の増加に繋がった事例の報告, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/9/1

(薬局)

- 1 森 章典, 眼科外来における流行性角結膜炎のアウトブレイクと院内感染対策チームによる介入, 第38 回環境感染学会総会・学術集会, 横浜市, 2023/7/21
- 2 橋本 雅子, 中西 慶子, 坂野 博紀, 倉橋 信悟(以上、共同), 新規レブメイト登録クリニックと連携 病院の情報共有と連携方法, 第33回日本医療薬学会年会, 仙台市, 2023/11/5
- 3 村上 仁志, 薬剤師外来の立ち上げと運用の現状について, 第33回日本医療薬学会年会, 仙台市, 2023/11/5
- 4 河村 泰男, 当院におけるロキサデュスタットによる血清 TSH、FT4 低下の実態調査, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/8/31-9/1
- 5 加藤 有耶香, 非結核性抗酸菌症(NTM)に対するアミカシン硫酸塩吸入用製剤(アリケイス®)の外来導入における薬剤師の関わり, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/8/31-9/1

(看護局)

- 福井 通仁, 2020年に発生した狂犬病(輸入感染症)患者の対応,第38回環境感染学会総会・学術集会, 横浜市, 2023/7/21
- 2 加藤 美樹, 特定行為がクリティカル領域の中で患者主体の意思決定支援に影響を与えた1例, 第45回日本呼吸療法医学会学術集会, 名古屋市, 2023/8/5
- 3 間瀬 有奈, 看護外来開設の経緯 〜生活を見据えた看護をつなぐために〜, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/8/31
- 4 真木 和香子, 看護外来における認定看護師活用の調整 ~生活を見据えた看護をつなぐために~, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/8/31
- 5 伊藤 惠子, 本人の「家で過ごしたい」気持ちを支えた妻への看護外来での関わり ~生活を見据えた看護をつなぐために~, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/8/31
- 6 長江 忍, 抗菌薬吸入療法の指導を通して感じた外来指導の課題と取り組み 外来パスの作成と導入 , 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/8/31
- 7 吉田 千代子, 急性期病院における看護師と介護福祉士の協働による看護の質の向上, 第61回全国自治 体病院学会, 札幌市, 2023/9/1

- 8 稲葉 郁帆, 急性期における介護福祉士の役割, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/9/1
- 9 中島 優衣, 新型コロナ専用病棟におけるグリーフケア, 第61回全国自治体病院学会, 札幌市, 2023/9/1
- 10 上村 恵子, 当院で献腎移植を受けた患者から待機中の方々へお伝えしたい事, 第59回日本移植学会総会, 京都市, 2023/9/23
- 渡津 恵美子(愛知県看護協会 看護師職能 I 委員会), 看護の専門性の発揮のために看護補助者との協 11 働およびタスクシフトを推進する上での現状と課題 - A県内における実態調査より - , 第54回日本看 護学会学術集会, 横浜市, 2023/11/8
- 12 石田 敬詞, 術後訪問の意識向上に向けた取り組みと患者に与える効果, 第63回日本手術看護学会東海地区大会, 名古屋市, 2023/11/11
- 13 杉浦 典代, 急性期病院における病棟看護師の退院支援に対する意識, 第39回愛知県看護学会, 名古屋市, 2023/12/12
- 14 丸地 まどか, COVID-19患者対応(第1波〜第7波)を経験した看護師の職務満足度調査の変化, 第39回 愛知県看護学会, 名古屋市, 2023/12/12
- 15 上村 恵子, 腎移植後5年間の塩分摂取状況から見えてきた傾向, 第57回日本臨床腎移植学会, 名古屋市, 2024/2/14
- 17 | 杉浦 淳平, 災害訓練を日常化するための試み, 第29回日本災害医学学会総会・学術集会, 京都市, 2024/2/22

(事務局)

1 原瀬 正敏(共同), 放射線検査項目マスタの実態調査とデータベース構築に関する研究, 第51回日本放射線技術学会秋季学術大会, 名古屋市, 2023/10/27

研究会発表(診療技術局・薬局・看護局・事務局)

(放射線技術室)

- 1 山本 弘樹, 発泡スチロールで工作しよう, 令和5年度 第1回東三河一般撮影研究会, 豊橋市, 2023/6/22
- 2 山本 明子, 当院における婦人科センチネルリンパ節シンチの画像出力の一例, 第114回東三河RI技術検討会, 豊橋市, 2023/6/28
- 3 市川 肇, 呼吸性移動抑制デバイスの有用性, 第60回三河・遠州核医学研究会, WEB, 2023/7/22
- 本 市川 肇, Usefulness of respiratory motion frozen device on oncologic PET/CT, 第19回 金沢核医学技术検討会, 金沢市, 2023/9/3
- 5 山本 弘樹, 豊橋市民病院における発泡スチロール製撮影補助具の紹介, 愛知県診療放射線技師会 2023年度第3回研修会, 豊橋市, 2023/12/3
- 6 川島 あゆみ, 頭頚部領域のCTA~体幹部CTA(アクセスルート評価)の同時撮影~, 第34回東三河CT研究会, 豊橋市, 2024/1/13
- 7 | 喜多 和真, MR Angiography〜当院のあれこれ〜,第 87回東三河RF研究会, 豊橋市, 2024/2/2

(中央臨床検査室)

- 2 宮野 拓也, 凍結標本作製におけるアーチファクトとその対策, 愛知県臨床検査技師会病理細胞検査研究班研究会, 名古屋市, 2023/5/20
- 2 | 神藤 駿, 脳波手引書解説① 脳波検査の実際, 愛知県臨床検査技師会病理細胞検査研究班研究会, 名古 屋市, 2023/10/21
- 3 皆元 裕子, 小児の関節エコー, 第9回三河関節エコー研究会, 名古屋市, 2023/12/10
- 4 皆元 裕子, 当院における関節エコーの検査について, Hemophilia Joint Meeting 2024, 豊橋市, 2024/1/18
- 5 小島 克枝, 外来採血室での医療安全への取り組み, 第40回東三河地区研究会, 豊橋市, 2024/1/28
- 6 森下 拓磨, 令和5年度愛臨技精度管理調查報告 免疫血清検查部門, 愛知県臨床検査技師会生物化学分析 検査研究班研究会, WEB, 2024/2/3
- 7 山本 優, 結核菌群 感受性・感染症と治療 , 愛知県臨床検査技師会微生物検査研究班研究会, 名古屋市, 2024/2/3

(リハビリテーション技術室)

- 和 森嶋 直人, 骨転移を有する患者に対するリハビリテーションの注意点, 骨転移チーム医療トータルケアセミナー, 豊橋市, 2024/1/19
- 2 | 鈴木 紅理, 呼吸苦が強く理学療法プログラムの立案に難渋した特発性間質性肺炎の1症例, 愛知県理学療法士会生涯学習部主催症例検討会, WEB, 2024/2/3
- 3 石原 凪彩, 脊髄損傷症例に対する食事動作への介入, 東三河支部冬季症例検討会, 豊橋市, 2024/2/10
- | 遠藤 帆咲姫, 重度の失調症状と姿勢制御に難渋した小脳梗塞の一症例, 東三河支部冬季症例検討会, 豊橋市, 2024/2/10
- 5 川崎 悠香, 意欲低下によりADL改善に難渋した症例のADL介入, 東三河支部冬季症例検討会, 豊橋市, 2024/2/10

(薬局)

原田 哲彦, 坂野 博紀(以上、共同), がん患者における病院薬剤師・保険薬局薬剤師へのニーズに 1 関するアンケート調査 ~中間解析報告~, 2023年度愛知県病院薬剤師会がん部会報告会, 名古屋市, 2024/2/18

(看護局)

- 1 南地 直幸, 救急外来センターにおける新人看護師教育について ~応援機能の活かした看護技術習得をめざして~, 第29回固定チームナーシング全国研究集会, 東京都, 2023/10/29
- 2 市川 礼子, 外来継続看護を目指した内科外来での記録の充実を図って, 固定チーム研究会第22回中部 地方会, 蒲郡市, 2023/12/2
- 3 山本 彩子, 新生児の発達段階に合わせた生活環境を作る, 固定チーム研究会第22回中部地方会, 蒲郡市, 2023/12/2
- 4 杉田 育美, 看護師主体で進めた退院支援 ~ 患者の希望する療養先を目指して~, 固定チーム研究会 第22回中部地方会, 蒲郡市, 2023/12/2
- 5 小野田 朱里, 患者の思いに寄り添った多職種カンファレンスを実施して, 固定チーム研究会第22回中 部地方会, 蒲郡市, 2023/12/2

座長・司会(診療技術局・薬局・看護局・事務局)

(放射線技術室)

- 1 市川 肇, 専門部講座 PET画像における補正の発展と進歩, 第79回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜市, 2023/4/16
- 2 市川 肇, 核医学検査における線量管理の勘所, 第79回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜市, 2023/4/16
- 3 加藤 豊大, 検査結果がおかしいぞ! 気付ける知識を身につける 技術編 臨床編, 第114回東三河RI技術検討会, WEB, 2023/6/28
- 4 | 磯部 晃, 総合司会, 第33回東三河CT研究会, 豊橋市, 2023/7/5
- 5 市川 肇, PET装置の最新技術を現場はどう活かすか?, 第60回三河・遠州核医学研究会, WEB, 2023/7/22
- 6 市川 肇, 一般研究発表演題プログラム, 第19回金沢核医学技術検討会, 金沢市, 2023/9/2
- 7 | 澤根 康裕, 放射線管理3, 第39回日本放射線技師会学術大会, 熊本市, 2023/9/29
- 8 市川 肇, エキスパートから学ぶ最先端の脳機能イメージングの研究方法論, 第51回日本放射線技術学会秋季学術大会, 名古屋市, 2023/10/28
- 9 市川 肇, 総合司会, 愛知県診療放射線技師会2023年度第3回研修会, 豊橋市, 2023/12/3
- 10 喜多 和真, 総合司会, 第82回MR研究会, 名古屋市, 2024/1/20
- 11 加藤 豊大, 一般演題, 第116回東三河RI技術検討会, 豊橋市, 2024/3/9
- 12 市川 肇, 特別講演, 第116回東三河RI技術検討会, 豊橋市, 2024/3/9
- 13 市川 肇, 一般研究発表演題プログラム, 第20回 金沢核医学技術検討会, 金沢市, 2024/3/16

(中央臨床検査室)

- 1 内田 一豊, WHO第5版に則ったリンパ腫、炎症性疾患の組織所見および細胞所見, 第64回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 名古屋市, 2023/6/10
- 2 山本 優, AMR感受性成績判定への対応, 2023東海エキスパートセミナー, 名古屋市, 2023/6/24
- 3 内田 一豊, 形態学, 第24回日本検査血液学会学術集会, 名古屋市, 2023/7/30
- 4 近藤 由香, 白血病, 第24回日本検査血液学会学術集会, 名古屋市, 2023/7/30
- 5 山本 優, 頻出菌を学びなおす 嫌気性菌 , 愛知県臨床検査技師会微生物検査研究班研究会, 名古屋市, 2023/9/2
- 6 森下 拓磨, 化学免疫の基礎と実践, 愛知県臨床検査技師会生物化学分析検査研究班基礎講座, 名古屋市, 2023/10/29
- 7 | 濱田 智博, チーム医療, 令和5年度日臨技中部圏支部医学検査学会(第61回), 金沢市, 2023/12/2

(リハビリテーション技術室)

- 1 森嶋 直人, 第13回顔面神経麻痺リハビリテーション技術講習会, 第46回日本顔面神経学会, 豊中市, 2023/6/1
- 2 神谷 猛, 脳障害児の対応,「新生児期から赤ちゃんの発達と家族を支援するリハビリテーション」研修 会, 豊橋市, 2023/8/26
- 3 内藤 善規, ポスター発表演題「生活期」, 第21回日本神経理学療法学会学術大会, 横浜市, 2023/9/10
- 4 中西 哲也, 症例発表「神経」, 東三河支部冬季症例検討会, 豊橋市, 2024/2/10
- 5 中西 哲也, 急性期病院における認知機能低下を防ぐための取り組み, 令和5年度在宅医療リハビリテーション推進研修会, 名古屋市, 2024/2/24
- 6 神谷 猛, GMFM, 日本小児理学療法学会研究支援セミナー, WEB, 2024/3/9

(薬局)

- 2 屋立 翼, 最近の血液がん診療について~多職種連携強化のために~, 愛知県病院薬剤師会東三河支部, 豊橋市, 2024/3/6
- 2 石川 英子, 豊橋市薬薬連携研修会, 第19回豊橋市薬薬連携研修会, 豊橋市, 2023/11/16
- 3 原田 哲彦, 豊橋市薬薬連携研修会, 第20回豊橋市薬薬連携研修会, 豊橋市, 2024/3/14

(看護局)

- 1 河合 恵理, チーム医療・チーム活動の工夫, 固定チーム研究会第22回中部地方会, 蒲郡市, 2023/12/2
- 2 | 菊地 直幸, 看護ケアの質向上, 固定チーム研究会第22回中部地方会, 蒲郡市, 2023/12/2

(事務局)

- 1 原瀬 正敏, 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6版 改訂解説, 第79回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜市, 2003/4/16
- 2 原瀬 正敏, RStudioを用いた線量データ分析, 日本放射線技術学会第33回PACS Specialistセミナー, 京都市, 2023/7/29
- 3 原瀬 正敏, 医療情報に必要な医療経営の視点, 日本放射線技術学会第4回医療情報Evening Webinar, WEB, 2023/8/23
- 4 原瀬 正敏, 知っておきたい標準規格の基礎 ~被ばく管理を中心に~, 日本放射線技術学会第15回 PACSベーシックセミナー, 福岡市, 2023/9/2
- 5 原瀬 正敏, 医療機器に必要なセキュリティー対応, 第39回日本診療放射線技師学術大会, 熊本市, 2023/9/3
- 6 原瀬 正敏, 医療情報(線量管理・セキュリティ), 第51回日本放射線技術学会秋季学術大会,名古屋市, 2023/10/29
- 7 原瀬 正敏, 特別企画 今後の中部地区の医療情報について, 第19回日本医療情報学会 中部支部会 第20回中部医療情報技師会研究会 第225回東海病院管理学研究会 < 3団体共同開催 > , 名古屋市, 2024/2/17

講演(診療技術局・薬局・看護局・事務局)

(放射線技術室)

- 1 加藤 豊大, 使ってみると超便利!当院の連続寝台移動型PET/CT装置の活用法, 第60回三河・遠州核医学研究会, WEB, 2023/7/22
- 2 加藤 豊大, SIMINDシミュレーション実験をやってみよう!, 第6回中部支部核医学研究会, 刈谷市, 2023/7/30
- 3 市川 肇, Big data を活用して 18F-FDG の適正投与量を推定できるか?, 金沢大学 令和4年度「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」, 金沢市, 2023/9/3
- 4 市川 肇, Radimetricsが拓く核医学における線量管理の未来, 第51回日本放射線技術学会 秋季学術大会, 名古屋市, 2023/10/27
- 5 加藤 豊大, 検査結果がおかしいぞ! 気付ける知識を身につける 臨床編, 第115回東三河RI技術検討会, WEB, 2023/11/1
- 6 島田 秀樹, 発泡スチロール溶断機の原理・加工法, 第3回愛知県診療放射線技師会研修会, 豊橋市, 2023/12/3
- 7 加藤 豊大, 論文投稿体験談2~英論文編~, 第7回中部支部核医学研究会, WEB, 2023/12/16
- 8 加藤 豊大, DMATの災害派遣経験、訓練について, 第3回日本放射線技術学会中部支部セミナー, 名古屋市, 2024/1/13
- 9 加藤 豊大, 検査結果がおかしいぞ! 気付ける知識を身につける 技術編, 第116回東三河RI技術検討会, 豊橋市, 2024/3/9
- 10 加藤 豊大, 使ってみると超便利! 当院の連続寝台移動型PET/CT装置の活用法!, 第86回豊橋がん診療フォーラム, 豊橋市, 2024/3/28

(中央臨床検査室)

- 1 牧原 汐里, 臨床検査値の見方について, 第160回NST定期教育講演会, 豊橋市, 2023/5/19
- 2 山本 優, Pros&Cons どうする?血液培養の夜間対応, 2023東海エキスパートセミナー, 名古屋市, 2023/6/24
- 3 | 榊原 沙知, 呼吸器(非腫瘍), 2023年度日本臨床細胞学会基礎講座, 名古屋市, 2023/7/23
- 4 内田 一豊, 固形癌の骨髄浸潤(ワークショップ), 第24回日本検査血液学会学術集会, 名古屋市, 2023/7/31
- 5 山本 優, 薬剤感受性検査を考える, 愛知県臨床検査技師会 微生物検査研究班基礎講座, 名古屋市, 2023/8/6
- 6 牧原 汐里, 肺高血圧と心エコー検査〜当院が行っている評価について〜, 第9回東三河PHカンファレンス, 豊橋市, 2023/11/17
- 7 山本 優, 生きた結果を返すために何ができるのか-DSの実践を目指して-, 令和5年度日臨技中部圏支部医学検査学会(第61回), 金沢市, 2023/12/3
- 8 濱田 智博, ピペットの使い方、ゲルの作り方、電気泳動の基礎, 愛知県臨床検査技師会 遺伝子・染 色体検査研究班基礎講座, WEB, 2024/1/13
- 9|内田 一豊, リンパ球の概論, 第4回シスメックス血液形態カンファランス, 名古屋市, 2024/1/17
- 10 近藤 由香, 骨髄像を見てみよう, 第23回静岡血液フォーラム, 静岡市, 2024/2/4
- 11 森下 拓磨, 令和5年度愛知県臨床検査精度管理調査報告 免疫血清検査部門, 令和5年度愛知県臨床検査精度管理調査報告会, 名古屋市, 2024/3/10
- 12 | 大崎 裕介, AmpCの実際の検査方法について, みかわん会, 岡崎市, 2024/3/15

(リハビリテーション技術室)

- 和 本嶋 直人, 顔面神経麻痺リハビリテーションの基礎, 第46回日本顔面神経学会 第13回顔面神経麻痺リハビリテーション技術講習会, 豊中市, 2023/6/1
- 2 森嶋 直人, 顔面神経麻痺のリハビリテーション認定指導士が果たす役割, 第72回全日本鍼灸学会シンポジウム, 神戸市, 2023/6/11
- 3 内藤 善規, 胃がん患者のADL状況, 第84回豊橋がん診療フォーラム, 豊橋市, 2023/9/21
- 4 内藤 善規, 褥瘡予防、治療に関わる取り組み報告 病棟専従の立場から , 2023年度ADL維持向上 等体制加算研修会, WEB, 2023/10/22
- 5 森嶋 直人, 忙しくてもできる! 気軽にできる臨床研究のすすめ, 2023年東三河ブロック研修会, 豊橋市, 2023/11/15
- 6 森嶋 直人, 診療技術局の機能と学術支援, 第3回岡崎市民病院医療技術局学術集会, 岡崎市, 2023/11/18
- 7 神谷 猛, NICUを卒業したお子さんの発達特徴, 第28回小児領域の地域リハビリテーション公開講座, WEB, 2024/1/21
- 8 二橋 喜太郎, 急性期病院における認知機能低下を防ぐための取り組み, 令和5年度在宅医療リハビリテーション推進研究会, WEB, 2024/2/24

(栄養管理室)

- 1 藤田 克宣, CKDと食事について, 豊橋市CKD市民公開講座, 豊橋市, 2023/7/8
- 2 藤田 克宣, 脳梗塞、高血圧性心不全を併存する、急性大動脈解離を発症した患者の経腸栄養による栄養管理について, 東三河地域連携栄養カンファレンス, 豊橋市, 2023/10/28

(薬局)

- 1 中神 博充, 当院の輸液製剤について, 第161回 NST定期教育講演会, 豊橋市, 2023/6/16
- 2 | 鈴木 利規, 麻薬の取扱いについて, リスクマネジメント講習会, 豊橋市, 2023/6/21
- 3 | 石川 千香子, 処方薬について, リスクマネジメント講習会, 豊橋市, 2023/6/21
- 4 森 優美, 注射薬について, リスクマネジメント講習会, 豊橋市, 2023/6/28
- 5 坂牧 佑一, 抗がん薬について, リスクマネジメント講習会, 豊橋市, 2023/6/28
- 6 親松 知美, 当院の川崎病の薬物治療と小児の内服サポート, 第19回豊橋市薬薬連携研修会, 豊橋市, 2023/11/16
- 7 村上 仁志, SOX + ニボルマブ 免疫関連有害事象への介入症例, 第20回豊橋市薬薬連携研修会, 豊橋市, 2024/3/14

(看護局)

- 上村 恵子, 〜気楽に減塩〜アイデアでおいしくCooking, 2023年移植セミナー, 2023年度第3回移植セミナー, 豊橋市, 2023/4/16
- 2 山口 三恵子, 三浦 敦子, 豊橋西高等学校1年進路ガイダンス「ジョブナビ」, 愛知県立豊橋西高等学校, 豊橋市, 023/6/19

(事務局)

- 1 伊藤 理恵, 福祉職・医療職のためのACP入門パート2 このまちにACPを根づかせよう, 豊橋市医師会・在宅医療研修会, 豊橋市, 2023/8/5
- 2 原瀬 正敏, 医療情報技師のバージョンアップ, 第1回上級医療情報技師WG研究会, 東京都, 2023/8/12
- 3 原瀬 正敏, 障害発生時の行動計画 IT-BCP として求められるもの, 日本放射線技術学会九州支部 第9回九州医療情報コミュニティ, 福岡市, 2023/9/3
- 4 原瀬 正敏, 医用画像情報部門における経営マネジメント, 2023年度日本医用画像情報専門技師会, 名古屋市, 2023/10/15
- 5 原瀬 正敏, 医療機器導入におけるセキュリティ対策, 第43回医療情報学連合大会, 神戸市, 2023/11/23

論文・著書(診療技術局・薬局・看護局・事務局)

(放射線技術室)

- 1 <u>市川 肇</u>, Japan DRLs2020におけるRadimetricsを利用した核医学部門の線量管理のポイント, バイエルケースレポート, 2023.
- Hajime Ichikawa, Comparison of the detectability of hot lesions on bone SPECT using six state-of-the-art SPECT/CT systems: A multicenter phantom study to optimize reconstruction parameters, Physics and Engineering Sciences in Medicine, 2023;46(2):839-849.
- Toyohiro Kato, A novel objective method for discriminating pathological and physiological colorectal uptake in the lower abdominal region using whole-body dynamic 18F-FDG-PET, Annals of Nuclear Medicine, 2023;37:561-571.
- 4 Hajime Ichikawa, 1st Place Technologist Best Cardiovascular Oral Abstract, Society of Nuclear Medicine & Molecular Imaging Annual Meeting 2023, 2023.
- 5 <u>西田 博</u>, 松原 浩, 木浦 伸行, 日本消化器がん検診学会用語集第 4 版(2023), 日本消化器がん検診学会編集委員会, 2023; 45-60.
- Takayuki Shibutani, Hajime Ichikawa, Detectability of cold tumors by xSPECT bone technology compared with hot tumors: a supine phantom study, Physical and Engineering Sciences in Medicine, 2023;46.
- 7 <u>奥田 保男</u>, 市川 肇, 放射性医薬品投与(核医学)における医療被ばくを評価するデータを電子的に記録するためのガイドライン, 日本放射線技術学会, 2024.

(中央臨床検査室)

1 内田 一豊, 固形癌の骨髄浸潤, 日本検査血液学会雑誌, 2024; 251(1): 173-179.

(リハビリテーション技術室)

- 1 森嶋 直人, リハビリテーション治療, 顔面神経麻痺診療ガイドライン2023年版, 2023.
- 2 <u>森嶋 直人</u>, 末梢性顔面神経麻痺に対するSunnybrook法評価について, FACIAL NERVE RESEARCH IAPAN, 2023: 43:9-10.
- 3 <u>森嶋 直人</u>,後遺症を呈する末梢性顔面神経麻痺における発症後6か月時点での障害類型化の試み, FACIAL NERVE RESEARCH JAPAN, 2023; 43:114-115.
- 4 <u>真田 将太</u>, 当院におけるElectroneurography の健側CMAP基準値の探索的研究, FACIAL NERVE RESEARCH JAPAN, 2023; 43: 233-234.

(薬局)

1 <u>町支 優和</u>, 免疫チェックポイント阻害薬専用の検査セット使用率および診療フローチャートを用いたコンサルテーション率に関する後方視的調査, 医療薬学, 2023; 49(11): 395-400.

(看護局)

- 1 <u>青木 真理</u>, 特集「知ってほしい」がきちんと伝わる! 透析患者さんこそ、熱中症にご注意を! , 透析ケア. 2023; 29(8):728-731.
- 2 | 加藤 美樹, 急性呼吸不全のフィジカルアセスメント, みんなの呼吸器Respica2023年冬季増刊号, 2023.

(事務局)

1 原瀬 正敏、放射線部門におけるサイバーセキュリティへの対応, IT Vision, 2024:(50):14-15.

VII 院内委員会の 活動記録

院内委員会の活動記録

委員会名	活動内容	令和5年度 開催回数
1 幹部会	・病院運営の基本方針に関すること ・経営状況の分析と経営戦略に関すること ・院内各委員会の審議結果及び付議された事項に関すること ・その他病院運営に関し必要と認めるもの	46
2 不正防止対策委員会	・不正行為が発生した場合の調査及び再発防止策の検討に関すること ・不正行為防止のための内部管理体制の整備及び啓発に関すること	未開催
3 運営会議	・病院運営の基本方針に関する協議 ・病院事業収支及び活動状況の報告に関する協議 ・院内各委員会の審議結果の報告に関する協議 ・その他病院運営に関し必要と認めるものの協議	12
4 倫理委員会	・体外受精に関すること ・臓器移植に関すること ・先進医療に関すること ・その他委員会が審査を必要と認める事項	6
5 臨床倫理検討委員会	・医療行為の実施において発生する倫理的問題に関すること	5
6 臨床研究審査会	以下に該当する臨床研究の審査 ・介入研究、侵襲を伴う(軽微な侵襲は除く)観察研究の審査 ・迅速審査会で審議し、臨床研究審査会による審査及び判断を要 するものとして臨床研究審査会の審査に付された研究の審査	未開催
6-1 迅速審査会	・「6 臨床研究審査会」の審査対象研究以外の臨床研究の審査 ・認定臨床研究審査会で審査・承認され、院長許可を得た特定臨 床研究の報告 等	12
7 臨床研究委員会	・臨床研究標準業務手順書に関すること ・臨床研究に携わる職員の教育及び研修に関すること ・臨床研究管理室に関すること ・その他委員長が必要と認めた事	未開催
8 業務改善委員会	・医師働き方改革の推進について ・宿日直業務の実態把握及び許可申請について ・医療勤務環境評価センターへの受審及び評価について ・勤怠管理の徹底について(ICカード、勤務計画 等) ・面接指導実施体制・運用について 等	5
8-1 医師事務作業軽減部会	・医師の事務作業の負担軽減を目的とする、医師事務作業支援計画の策定に関すること ・医師事務作業補助者の支援業務及び人工に関すること ・「豊橋市民病院医師事務作業補助者業務内規」の策定・修正に 関すること ・医師事務作業補助者の業務管理に関すること	2
9 接遇委員会	・令和6年度接遇目標について ・令和6年度接遇研修について	1
9-1 患者満足度調査検討会	・調査時期、対象、内容(項目)、方法に関すること ・報告書の内容、公表方法に関すること ・院内の委員会への提言に関すること ・その他、調査全般に関すること	3
10 災害対策検討委員会	・災害対策に関すること ・その他委員会が必要と認める事項	5
10-1 DMAT運営部会	・DMAT活動方針の策定及び実施に関すること ・その他部会が審議を必要とする事項	5
10-2 災害対応マニュアル検 討部会	・災害対応マニュアルに関すること ・その他部会長が必要と認めた事項	8
11 年報編集委員会	・病院年報の発行に関すること ・その他病院年報の発行に関し、委員長が必要と認めた事項	1

委員会名	活動内容	令和5年度 開催回数
12 広報紙編集委員会	・青竹の発行に関すること ・その他広報の推進に関し委員長が必要と認めた事項	4
13 院内感染対策委員会	・病原体サーベイランス報告 (MRSA・ESBL等)・感染症発生届・抗菌薬適正使用支援チーム (AST) 活動集計・院内感染 (アウトブレイク) 事例の対応 等	12
14 脳死判定委員会	・法的脳死判定基準に関すること ・法的脳死判定及び臓器移植に関する記録の保存 ・法的脳死判定等に係わる審査 等	未開催
15 救命救急委員会	・救命救急センターの運営に関すること ・地域の救急医療の現状把握、関係機関との調整に関すること ・救命救急センターの運用規程に関すること ・その他センターの運営に必要と認めた事項	3
15-1 BLS・ICLS部会	・運営改善について ・各局ごとの新規指導者育成の予定	1
15-2 院内迅速対応システム (RRS) 検討部会	・院内迅速対応システムの運用及び実施に関すること ・その他部会が審議を必要と認めた事項	5
16 集中治療室運営委員会	・西病棟3階の運営に関すること ・西病棟3階の現状把握、調整に関すること ・その他西病棟3階の運営に必要と認めた事項	2
17 診療材料選定委員会	・診療材料の購入について	4
18 手術センター運営委員会	・手術センターの運営について・定例報告・手術予定表について 等	12
19 医療器械・備品機種選定委員会	・医療器械・備品の選定、購入について	6
20 図書委員会	・図書の購入について	1
21 研修委員会	・研修医評価について ・研修内容について	3
22 研修管理委員会	・研修医評価、修了判定について ・研修プログラム見直しについて ・採用について	3
23 安全衛生委員会(労働安全)	・交通事故・違反対策について(交通安全講習会開催等) ・公務災害防止対策について(職場巡視及び対策勧告等) ・健康管理対策について(健康診断、ワクチン接種等) ・メンタルヘルス対策について(ストレスチェック等) ・長時間勤務対策について(対象者の報告、医師の働き方改革面 談スキーム等)	12
24 教育·研究委員会	・教育研修会等の企画・実行に対する助言と支援 ・職員の自主的な研究活動の育成 等	未開催
25 省エネルギー推進委員会	・省エネルギーの推進について・実績報告と今後の計画について	未開催
26 情報セキュリティ委員会	 ・情報セキュリティポリシーに関すること ・情報セキュリティアクシデント及びインシデントに関すること ・情報セキュリティ研修に関すること ・情報セキュリティの目標設定及び見直しに関すること ・業務継続計画(サイバー攻撃対応)に関すること ・その他情報セキュリティに関すること 	3
26-1 情報セキュリティ部会	・委員会が掌握する事項の具体的な調査及び検討 ・必要となる情報セキュリティ対策の実施 ・その他、情報セキュリティに関する具体的な事項	2 (書面開催 2)

委員会名	活動内容	令和5年度 開催回数
27 医療情報委員会	・病院総合情報システムに関すること・院内グループウェアに関すること・ホームページに関すること	未開催
28 診療記録管理委員会	・診療記録の質の向上と維持に関すること ・診療記録に係る院内規程等の整備に関すること ・診療記録に係る各種様式に関すること ・診療記録の管理・運用に関すること ・その他診療記録に関すること	5
29 がん診療委員会	・がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針に基づき、体系的で効率の良い、がん診療体制を確立し、質の高いがん診療の提供に関すること	1
29-1 がん登録部会	・がん登録実務者の業務に関すること ・がん登録情報の精度向上に関すること ・がん登録のデータの利活用に関すること ・がん登録情報の公表に関すること	未開催
29-2 教育部会	・がん教育に関しがん診療に携わる医療従事者の専門的な知識及び技能の向上に関すること・がんに関する普及啓発活動	1
29-3 化学療法部会	・化学療法の有効かつ適正な運用に関すること	6
29-4 緩和ケア・相談支援部会	・適切な緩和ケアの提供に関すること・がん相談支援体制の確立に関すること	3
29-5 がん地域連携パス部会	・地域連携パスに関すること	1
30 保険診療委員会・ DPCコーディング委員会	・保険診療等に対する研修に関すること ・保険診療等の知識向上の啓発活動	5
31 クリニカルパス委員会	・クリニカルパスの作成に関すること・クリニカルパスの啓発に関すること・クリニカルパスの評価に関すること・その他クリニカルパスに関すること	5
32 健康診断事業運営委員会	・受診者の健康診断に関すること	未開催
33 患者総合支援センター運営委員会	・患者総合支援センターの運営に関すること	未開催
34 虐待対策委員会	・虐待の予防に関すること ・虐待の早期発見等を図るための検討	2
34-1 成人虐待対策専門部会	・成人虐待に関すること	1
34-2 児童虐待対策専門部会	・児童虐待対策に関すること	1
35 退院調整検討委員会	・長期入院患者の退院調整に関すること ・空床の有効活用による効率的な病床利用の推進	2
36 呼吸療法運営委員会	・呼吸療法の有効かつ適切な診療に関すること	2
37 医療安全管理委員会	・医療安全対策の検討及び推進に関する事項の協議 ・職員に対する医療安全管理の教育と啓発事業に関する事項の協	12
37-1 リスクマネージメント部会	・城貝に刈りる医療女宝官理の教育と召光事業に関りる事項の励議等	14
38 医療機器安全管理委員会	・令和5年度 医療機器保守点検実施状況の報告 ・令和5年度 従事者に対する医療機器研修の実施報告 ・令和5年度 AED使用件数の報告 ・令和5年度 単回使用医療機器 再滅菌申請件数 ・令和5年度 PMDA報告事例 等	1
38-1 透析機器安全管理部会	・令和5年度 水質管理、細菌検査報告 ・透析機器管理報告 等	2
39 栄養管理委員会	・食事アンケート調査について・給食改善会議について・患者食約束食事箋の変更について・栄養指導について	2

委員会名	活動内容	令和5年度 開催回数
40 栄養サポートチーム運営委員会	・NST 活動について (NST定期教育講演会等)・栄養サポートチーム加算について・栄養管理計画書の作成について・NST認定教育施設のカリキュラムについて	2
41 褥瘡対策委員会	・褥瘡予防に関すること ・褥瘡の早期発見に関すること	2
42 薬事委員会	・採用薬品、試用薬品について審議 ・院外専用薬品について審議 ・後発医薬品への変更について審議 ・変更薬品について ・削除薬品について 等	8
43 治験審査委員会	・安全性、重篤な有害事象に関する報告・治験実施計画の変更、治験実施状況の報告・治験終了の報告、開発中止の報告・治験迅速審査の報告・製造販売後調査迅速審査の報告	8
44 輸血療法委員会	・輸血用血液の使用状況調査 ・症例検討を含む適正使用の推進 ・輸血療法に伴う事故や副反応の把握と対策 等	6
45 臨床検査連絡委員会	・検査実施状況等の定期報告 ・検査室事業の状況報告 ・新規検査事業や検査に係る変更点等の協議 等	1
46 剖検・CPC委員会	・病理解剖実施に関わること ・卒後研修(CPC)に関わること 等	1
47 放射線技術室連絡委員会	・診療放射線技師による静脈路を確保する行為について ・手術室における外科用イメージの補助について ・TV室検査枠について	1
48 リハビリテーションセンター 運営委員会	・病棟ADL維持向上等体制加算病棟拡充について ・リハビリテーションオーダー時の総合実施計画書入力状況につ いて	1
49 臨床工学室連絡委員会	・臨床工学室 実績報告について・令和5年度 医療機器更新状況について・令和6年度 医療機器予算要求について・令和6年度 新規業務報告について 等	1
50 放射線安全委員会	・管理状況報告書について ・予防規程変更について ・放射線障害の防止に関する業務の改善について	1
51 PET診療放射線安全管理委員会	・PET業務従事者の被ばくと安全管理について ・業務改善について	1
52 特定放射性同位元素防護委員会	・原子力規制庁立入検査について ・防護従事者の教育訓練について ・警察との合同訓練について ・特定放射性同位元素の防護に関する業務の改善について	1
53 医療ガス安全・管理委員会	・医療ガス設備保守点検について ・液化酸素ガスの保有数量について	1
54 豊橋市医師会・ 豊橋市民病院病診連携協議会	・医療機関の機能分担や相互連携に関すること ・地域医療の貢献に関すること	1
55 地域医療支援委員会	・東三河南部医療圏の医師、歯科医師及び薬剤師からの要請への 対応 ・地域医療に必要な支援に関すること	4
55-1 共同利用運営委員会	・地域医療連携に関する運営 ・組織等に必要な事項の協議	未開催

委員会名	活動内容	令和5年度 開催回数
55-2 地域医療従事者研修委員会	・地域医療の資質の向上を図るための生涯教育その他の研修に関すること ・地域医療の発展の貢献に関すること ・病院職員の資質の向上や勤務能率の増進に関すること ・病院の医療業務の円滑かつ支障ない教育のための検討	11
56 総合周産期母子医療センター 運営委員会	・センター活動状況報告 ・症例検討、報告	1
57 認知症対策委員会	・入院する認知症を伴う患者に適切な診療及びケアの検討	2
58 臓器提供運営委員会	・ドナー発生時における院内各部署及び院外関係機関との円滑な 連絡業務 ・ドナー管理と主治医に対する支援業務 ・臓器提供まで至らなかったドナー候補者の事後検証業務 等	4
59 ハラスメント防止対策委員会	・研修の実施について(医療職マネジメント研修(ラインによるケア編)・診療科部長向けマネジメント研修)・事案発生時における具体的対応について	2
60 糖尿病対策委員会	・通院・入院する糖尿病患者に対する診療及び看護技術の向上に 関すること	1
61 血液浄化センター運営委員会	・透析に関わる統計調査結果報告 ・臨床工学技士の業務範囲追加について ・在宅腹膜透析患者の自動腹膜灌流装置の設置確認について 等	1
62 施設基準管理委員会	・保険医療機関の施設基準の適切に管理する体制の構築のための 検討	2
63 ゲノム診療委員会	・効率的な高い質を最新のゲノム医療の運用に関すること ・運用に必要な諸問題についての検討	1
64 医療放射線管理委員会	・放射線診療のプロトコール管理及び被ばく線量管理について ・診療用放射線の安全利用のための研修について ・放射線の過剰被ばくその他の放射線診療に関する事例について ・頭部、体幹部領域における「高線量」検査調査について	1
65 シミュレーション研修センター 運営委員会	・センター内備品に係る次年度予算の精査 ・センターの管理、状況報告	2
68 病院機能向上委員会	・病院機能評価受審後の改善事項等への対応に関すること ・その他委員会の目的達成に必要な事項	2

編集後記

1991年、病院年報は1990年の実績報告として第1号が発刊されました。私が豊橋市民病院で研修医として働きだす前年です。編集長は当時の小児科部長で副院長だった恩師、故西村豊先生でした。とても懐かしく(今でいうエモい?)、また時の流れを感じます。

しかし、33年の時を経て、病院年報はさまざまな曲がり角を迎えています。今年は CD-ROM を 50 部、書籍を 50 部発刊します。料金・送料は、書籍の負担が圧倒的に大きくなります。完全 CD-ROM 化したいのですが、それでは他施設の方々がどこまで豊橋市民病院の業績に気を留め、どのような内容を興味深く読んでくれるのでしょうか。

今後、病院年報をどのように変えてゆくのか悩ましい限りです。

(年報編集委員長 村松 幹司)

編集委員

区 分	職名		氏	名	
委員長	副院長 兼小児科第一部長 兼総合周産期母子医療センター(新生児部門) センター長 兼感染症管理センター長 兼専門医研修センター副センター長	村	松	幹	司
編集委員	消化器内科第一部長 兼臨床研究管理室副室長	松	原		浩
編集委員	血液・腫瘍内科副部長 兼外来治療センター副センター長	井	本	直	人
編集委員	一般外科第三部長 兼救急入院センター副センター長 兼卒後臨床研修センター副センター長	青	葉	太	郎
編集委員	麻酔科第三部長 兼卒後臨床研修センター副センター長	中	田		純
編集委員	産婦人科第二部長 兼女性内視鏡外科部長 兼シミュレーション研修センター副センター長	梅	村	康	太
編集委員	放射線技術室主査	畑	井	麻里	!子
編集委員	中央臨床検査室室長補佐	近	藤	由	香
編集委員	薬局次長補佐	町	支	優	和
編集委員	看護局管理科長	三	浦	敦	子
編集委員	管理課主幹	宮	下	卓	也
編集委員	医療情報課主査	倉	知	弥	生
編集委員	医事課課長補佐	橋	本	俊	輔

事	務	局	医療情報課情報管理グループ	都	築	磨美子
事	務	局	医療情報課情報管理グループ	辻		早 智
事	務	局	医療情報課情報管理グループ	小	林	喜代美
事	務	局	医療情報課情報管理グループ	池	信	千 紗

豊橋市民愛市憲章

わたくしたち豊橋市民は

- 1. 心をあわせ美しい町をつくりましょう
- 1. よく働き豊かな町をつくりましょう
- 1. 愛情をもちあたたかい町をつくりましょう
- 1. きまりを守り明るい町をつくりましょう
- 1. 教養をたかめ文化の町をつくりましょう

病院年報 第33巻

令和6年(2024)年8月発刊

発 刊:豊橋市民病院

T 441-8570

豊橋市青竹町字八間西50番地

TEL (0532) 33-6111 (代表) FAX (0532) 33-6177

編 集:豊橋市民病院年報編集委員会

印 刷:有限会社 伊藤印刷



豊 橋 市 民 病 院

〒441-8570 豊橋市青竹町字八間西50番地 TEL〈0532〉33-6111 FAX〈0532〉33-6177 インターネットホームページ

https://www.municipal-hospital.toyohashi.aichi.jp